中 央 大 学 札 幌 支 部 支 部 史（平成）

	年	月	日	名　称	概　　要
1989 年	平成１	8	4	平成１年度支部定時総会の開催	当支部の総会並びに納涼パーティーは、８月４日午後６時より本学から土屋常任理事、学員会から小林副会長並びに長沼事務局長のご来賓をお迎えし、ホテルアーサー札幌において、会員８３名出席のもと開催されました。 日頃の世情の煩わしさから逃れて、この夜だけは旧友、先輩、後輩との再会の中、会場のあちこちで「お変わりございませんか」、「お元気でしたか」、「お久し振りです」、「初めてお会いします」等々の声が飛び交い、名刺交換を交え総会が始まった。 西原副幹事長（昭和３９年・商・札幌商工会議所）の司会で議事に入り、渡辺敏郎支部長（昭和１８年・法・渡辺法律事務所）の挨拶に続き、高田照市幹事長（昭和３９年・法・高田法律事務所）より昭和６３年度の事業報告並びに収支決算報告があり、全員異議なしで承認。続いて支部役員の改選を行い、渡辺支部長を再任した。その他の役員については支部長一任との意見が出され、全員異議なしで承認された。 当支部は、通算して本年で９１年目に当っており、それを記念して何か事業をしたいが、その際には会員各位のお力添えを頂きたい旨の渡辺支部長の挨拶に続いて、石林清名誉支部長（昭和２１年・法・㈱ちざき本社顧問）の乾杯の音頭で懇親会に入った。 ご来賓の土屋常任理事、小林副会長より本学の最近の状況、学員会の動き、両先生の懐かしき学生時代の数々のエピソードも披露されて会場の一同はしばらく時のたつのも忘れ、拍手と爆笑の渦が沸き起こりました。宴もたけなわの中、高木正明氏（昭和３２年・法・参議院議員）より国会報告、山田晃睦氏（昭和３２年・法・栗沢町長）の近況報告に続いて、本学父母連絡会札幌支部支部長の阿部貞夫氏からもご挨拶を頂いた。 また今回、総会の会場でお世話を頂いたホテルアーサー札幌の総支配人藤井昭司氏（昭和３５年・商）よりご利用についての謝辞が述べられました。 卒業後初参加の会員、数年ぶりに再会の会員等々、酒量も入って席の移動が始まり、卒業年次ごとの席では、グループ同士会話がはずみ納涼パーティーも最高潮に達しました。 最後は、恒例により会員が肩を寄せながら校歌の斉唱とエールで懐かしき学生時代を思い起こし、吉田功次郎氏（昭和２８年・法・北海道監査委員）の発声により声高らかに万歳三唱し、会員それぞれ思い出を残し、再会を約し、別れを惜しみながら散会いたしました。（昭和４５年・商・地崎道路（株）・永田誠記）
		12	5	支部年忘れの夕べ開催	当支部恒例の「年忘れのゆうべ」が１２月５日午後６時から札幌全日空ホテル（吉崎守三代表取締役・昭和２８年・商）において盛大に開催されました。 今回は, 夏の総会で提案のあった「若い層の力を取り入れては・・・」のご意見もあり、昭和３５年卒の「三十五会」からバトンタッチした昭和４５年卒の「白門４５緑風会」のメンバーが中心になり、ゲーム等の楽しいイベントの企画で会を盛り立てようと幹事が数回打合せを持った。 今年も札幌は雪が多かったものの、道路事情が良かったせいか定刻には、ほとんどの出席者（１６５名）が参集し、喜瀬浩氏（昭和４５年・法・札幌テレビ放送アナウンサー）の司会で副支部長大場実氏（昭和２８年・法・北海道酒類販売㈱常勤監査役）の挨拶があり、吉田功次郎氏（昭和２８年・法・北海道監査委員）の乾杯の音頭で、お楽しみの催しに入った。 今回は、メインイベントである北海道クラリネット協会（藤田賢司事務局長・昭和４５年・法）の１３名による「ディナーコンサート」で始まった。日頃生の音楽に接する機会の少ない会員諸氏も、なつかしい『ムーンライト・セレナーデ』他数曲の演奏にしばし耳を傾けていた。 続いて手馴れた司会（さすがプロ）のもとでゲームコーナーでは、①ビンゴゲーム（個人戦）、②十曲の曲名及び歌手当クイズ（テーブルごとの団体戦）、③檜森三男氏（昭和１９年・法）と全員が対戦するジャンケンゲーム、④裏ビンゴゲームへとどんどん進み、会員のご好意によるすばらしい賞品（例えば札幌全日空ホテルよりの「札幌～東京往復ペアー航空券」、また「本日の会費無料賞」）もあっという間になくなってしまった。 最後には、例年通りに校歌から惜別の歌へと応援団出の松岡善博氏（昭和４８年・商・佐藤建設工業㈱札幌営業所所長）のリードで全員合唱。そして石林清名誉支部長（昭和２１年・法・地崎工業㈱顧問）の結びの乾杯で、盛況のうちに無事終了した。 受付ロビーでは本学のテレフォンカードの販売コーナーも設けられ、帰途に着く会員もわれ先にと買い求める光景も見られた。（昭和４５年・法・藤田ほけんコンサルタント・ 藤田賢司記）
1990 年	2	7	29	中央大学父母連絡会札幌支部総会及び父母懇談会へ参加	在校生の父母で組織されている中央大学父母連絡会札幌支部の総会及び父母懇談会に当支部より西原副幹事長出席。
		8	3	平成 2 年度支部定時総会の開催	札幌グランドホテルにおいて午後６時より開催。当日は、学員会本部より小林進副会長、本学父母連絡会吉谷札幌支部長を迎え、会員１００名出席のもと開催された。前支部長（故渡辺敏郎）死去により空席になっている支部長の改選を行い、新支部長に堀北朋雄氏（昭和３０年・法・札幌商工会議所専務理事）を選出し出席者全員承認した。続いて平成１年度の事業報告並び収支決算報告等について審議し、全員異議なく承認した。その後懇親会に入り盛会のうち終了し散会した。（昭和３９年・商・札幌商工会議所･西原達之記）

		10	13	ツールド北海道出場の本校生の応援に参加	石狩湾を最終ラウンドとする「第５回ツールド北海道」に参加の本校生応援の為、父母連絡会札幌支部の植原副支部長他２０数名に当支部からは、西原副幹事長以下１０名参加。
		11	23	中央大学父母連絡会札幌支部「就職懇談会」へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「就職懇談会」に当支部より西原副幹事長出席。
		12	4	支部年忘れの夕べの開催	当支部「年忘れの夕べ」は１２月４日午後６時から札幌サンプラザ「高砂の間」において午後６時より会員１２０名出席のもと開催した。暖冬のせいで悪路の中にもかかわらず、この夜だけは、旧友、先輩、後輩との再会を楽しみに元気な姿を見せ、会場のいたる所でなつかしそうな挨拶が飛びかい、名刺交換も交えて始まりました。 懇親会は喜瀬浩氏（昭和４５年・法・札幌テレビ放送アナウンサー）の名司会で、和やかな雰囲気のうちに始まりました。 開会に先立ち、札幌サンプラザ館長菅昭二氏（昭和２８年・法）より会場利用のお礼の挨拶、また昨年に続いて幹事役をつとめた昭和４５年卒の「白門緑風会」の学員５名が紹介されました。堀北朋雄支部長（昭和３０年・法・札幌商工会議所専務理事）の挨拶、前支部長故渡辺敏郎先生（昭和１８年・法・渡辺法律事務所）のご冥福を祈り全員黙祷、続いて中央大学父母連絡会札幌支部吉谷支部長のご紹介、吉田功次郎副支部長（昭和２８年・法・（財）北海道勤労者信用基金協会理事長）の乾杯の音頭で懇親会に入りました。 昨年に続き「ディナーコンサート」は、サクソニアンズ（８名）のメンバーニよるスタンダードナンバーを中心に、５曲のムーディなサツクスによる演奏があり、会場は一段と盛り上がりました。 また、二宮喜治氏（昭和１７年・法・元日弁連副会長・元学員会協議員・二宮法律事務所）が秋の叙勲で勲三等旭日中綬賞の受賞がご披露され、会場は祝福の拍手でいっぱいでした。 恒例のゲームコーナーは、第一ラウンドとして、「ビンゴゲーム」で始まり、優勝者には札幌サンプラザの宿泊券がプレゼントされ、他に特別賞として勇内康伯氏（昭和３７年・法・日本水産㈱札幌支店）より「南極の氷」５キロ箱入りが１０箱分プレゼントもありました。第２ラウンドのテーブル対抗「曲当クイズ」は１５曲の名曲・歌手名をあてるクイズで、第１位～第３位までのテーブル全員に賞品が当ると聞いて、皆で協力しながら紙に答えを書いているチーム、若いバンケッター嬢に聞きながら、わいわい相談しているチーム等楽しいゲームでした。第三ラウンドの「酒当てクイズ」も甘口・辛口をテーブル代表が○×で解答するゲーム。 優勝はもちろん清酒で卓全員に賞品が当るという大盤振舞いでした。続いて第四ラウンドの最後のゲームは「裏ビンゴゲーム」。番号がそろうとはずれというビンゴの逆ゲーム。結果として残った会員がステージの上でジャンケンをして優勝を決めました。優勝者は本日の会費は無料という大サービスで、卓全員にこれまた賞品が当るという楽しいゲームでした。（昭和４５年・法・地崎道路（株）・永田誠記）
1991 年	3	7	26	中央大学父母連絡会札幌支部総会及び父母懇談会へ参加	当支部より堀北支部長、西原副幹事長出席
		8	6	平成 3 年度支部定時総会の開催	札幌グランドホテル３階「玉葉の間」において、午後６時より開催。当日は学員会本部より堂野会長、大学より水上総長付調査役、小樽支部の久田泰弘支部長を迎え堀北支部長以下同窓９１名出席のもと、「平成２年度事業報告並びに収支決算報告について」、「支部役員の改選」等について審議し、終了後懇親会を行った。
			5 ～6	「第 6 回ツールド北海道」へ応援参加	「第６回ツールド北海道」参加の本学選手を応援のため, 第５ステージ真駒内会場（５日）、第６ステージ石狩新港（６日）へ西原副幹事長参加。
		10	10	中央大学父母連絡会「就職懇談会」、函館・札幌、道北３支部合同へ参加	北専プラザにおいて開催の就職懇談会へ西原副幹事長出席。
		12	5	支部年忘れの夕べ開催	当支部恒例の「年忘れの夕べ」が１２月５日午後６時から札幌全日空ホテル２４階「白楊の間」において開催された。師走には珍しくあいにくの雨模様であつたが、１２６名の学員が元気な姿を見せ、大学の近況を紹介したビデオが流れる会場のあちこちで、「やあ！しばらく」、「変わりない？」の声が飛び、名刺を交換する姿も。 冒頭、堀北朋雄支部長（昭和３０年・法・札幌商工会議所専務理事）が、「学員会札幌支部の今後の一層の発展のため、より多くの若い学員諸氏が力を合わせ会の盛り上げを図って欲しい」と挨拶、続いて、この一年間に惜しくも鬼畜に入られた７名の学員のご冥福を祈って出席者全員が一分間の黙祷を行った。 その後、ご来賓としてご出席頂いた歴代の本学父母連絡会札幌支部の会長、初代の阿部貞夫氏、二代目の吉谷俊裕氏、現支部長の植原勝明氏からそれぞれご挨拶を頂き、寺島伸治支部理事長（昭和２９年・法・札幌総合情報センター㈱代表取締役）のご発声により開会。 懇親会は、昭和４５年卒の「白門４５緑風会」の企画で進められ、喜瀬浩氏（昭和４５年・法・札幌テレビ放送アナウンサー）の「ときめきワイド」な司会で会場は終始なごやかな雰囲気。 先ずは、札幌市内のサクソフォン大好き人達が結成の「大泉徹サクソフォン・カルテット」によるディナーコンサートで出席者一同ウットリ、しばし歓談の後、恒例の余興が行われた。 個人戦では、出席者全員が参加して「ビンゴゲーム」、堀北支部長との「ジャンケンゲーム」が行われ、入賞者には会場の札幌全日空ホテル代表取締役吉崎守三氏（昭和２８年・商）のご好

					意で札幌～東京往復ペアー航空割引券や札幌全日空ホテルの食事券など豪華景品ノプレゼントも。 　団体戦では、まず各テーブルの代表者による「ビール銘柄当てクイズ」。準決勝へ進出した四名のうち三名がビール会社に勤務する学員とあって「外れたら首」と一時会場も騒然。しかし、緊張のためか三名ともダウン。三名のその後の消息は。 　さらに、歌謡曲の一部分を聞いてその題名と歌手を当てる曲当てクイズ。例えば五名の演技者のうち四名に水を渡して、日本酒を飲む要領で飲んでもらい、本物を飲んだ演技者を当てる「本物は誰だ」など、時間のたつのも忘れて拍手と大爆笑。 最後は、松岡善博氏（昭和４８年・商・佐藤建設工業㈱札幌営業所所長）をリーダーとする若手学員を先導に、校歌。応援歌・惜別の歌の斉唱でそれぞれの学生時代を思い起こし、景山美智子さん（昭和５８年・文・国際書房）と佐藤美佳さん（昭和５８年・文・(有)サンキュー)二人のさわやかなリードで締めの「乾杯」。それぞれが再会を約し別れを惜しみながら散会した。(昭和４５年・経済・北海道電力（株)・石原聰記)
1992 年	4			理工学研究所設置	
		7	21	平成 4 年度支部定時総会の開催	当支部の総会は、７月２１日ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、ご来賓に学員会本部より野崎常任理事、小樽支部より久田泰弘支部長、父母連絡会札幌支部より植原支部長を迎え、堀北支部長以下学員９７名参集のもと開催されました。開会に先立ち、堀北朋雄支部長の挨拶、続いて、平成３年度事業報告並びに収支決算報告について審議し、出席者全員異議なく承認。終了後は懇親会を行った。
		8	29	中央大学父母連絡会札幌支部総会及び父母懇談会へ参加	在校生の父母で組織されている中央大学父母連絡会札幌支部総会及び父母懇談談会に、当支部より西原副幹事長出席。
		10	10	中央大学父母連絡会札幌支部「就職懇談会」へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「就職懇談会」に当支部より西原副幹事長出席。
		12	7	支部年末懇親会の開催	札幌在住の白門会員にはその開催が待たれる、年末白門札幌支部の忘年会が、学員１２２名出席のもと１２月７日午後６時より札幌全日空ホテル(昭和２８年・商・吉崎守三代表取締役)２４階「白楊の間」において開催した。会場は久し振りの再会に声を弾ませている学員で満席。当日は、札幌テレビ放送の売れっ子チーフアナウンサー喜瀬浩氏（昭和４５年・法）の総合司会で、まず西原達之副幹事長（昭和３９年・商・札幌商工会議所部長)、次いで堀北朋雄札幌支部長（昭和３０年・法・札幌商工会議所専務理事）の挨拶。続いて、４月に東京法務局長から札幌地方検察庁検事正に異動し、札幌市民となった中津川彰氏（昭和３３年・法）から検察の現状、特に学員の活躍ぶりー地方の検事正三人に一人は白門出身である事を披露すると会場から拍手の嵐。続いて本学父母連絡会植原勝明札幌支部長から大学やＯＢに期待する旨の挨拶。この後、お待ち兼ねのゲームービンゴゲームや曲当てクイズ、これは学員が思い思いに持参した数々の賞品（札幌～東京往復航空券や鉢植えの立派なシクラメン、サツチョン族用の洗剤など）が付くので、皆童心にかえり真剣そのもの。曲名当てゲームで、イントロが流れ、多くの人が首をひねっていると、入り口の近くに座っていた若手が「喜瀬アナウンサーの愛の二重奏」と叫ぶ。司会者の喜瀬氏、間髪を入れずに「正解、良く出来ました。私の歌もまんざらでないでしょう。正解者には豪華賞品を」には万雷の拍手が飛ぶ。その後の説明によると、司会者自らが女性アナウンサーとデュエットしている曲で、既にＣＤで売り出しているとの事。 　予定された２時間もあっという間に過ぎる。最後に全員起立で、校歌、応援歌、惜別の歌を合唱した。尚、総会は７月に開催。(昭和３３年・法・札幌地方検察庁検事正・中津川彰記)
1993 年				総合政策学部開設	総合政策学部(多摩キヤンパス)開設
	5	7	9	中央大学父母連絡会札幌支部総会及び父母懇談会へ参加	在校生の父母で組織されている中央大学父母連絡会札幌支部総会及び父母懇談談会に、当支部より西原副幹事長出席。
		8	26	平成 5 年度支部定時総会の開催	当支部定時総会は、８月２６日午後６時より京王プラザホテル札幌において、堀北朋雄支部長以下学員８１名出席のもと開催。当日は学員会本部より井上達雄副会長、市川本学父母連絡会札幌支部長をご来賓に迎えました。 開会に先立ち堀北支部長から挨拶、井上副会長からは、大学の現状と学員会の近況について報告があり、市川支部長からも挨拶を頂きました。続いて、議案の「平成４年度事業報告並びに収支決算報告について」審議し、出席者全員異議なく承認。終了後懇親会を行った。
		10	3	中央大学父母連絡会「就職懇談会」へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「就職懇談会」に当支部より西原副幹事長出席。
		12	2	支部年末懇親会の開催	支部恒例の「年忘れの夕べ」が午後６時より本学父母連絡会札幌支部より市川支部長を迎え、堀北支部長以下１１０名出席のもと、札幌全日空ホテル２３階「鳳の間」において行われ、参加した学員は、不況風吹く世相を吹き飛ばすごとく、底抜けに明るい雰囲気を楽しんだ。先ず、開催に先立ち、今年度中の物故者３名（佐野尚一氏、中野敬氏、古谷勲氏）に対し１分間の黙祷を行い、堀北明雄支部長より挨拶。続いて大場実副支部長の乾杯の音頭でスタート。支部の会合の常であるが、会場を埋めた学員は、互いの学生時代の懐かしい想い出話や近況報告に花が咲き、初対面同士も名刺交換しすぐ和やかな雰囲気に包まれるのが良いところだ。そして、絶妙のタイミングで、余興に入る。 　先ず手始めに、恒例のビンゴゲームがスタート。全日空東京・札幌往復５０％割引券を優勝商

					品に、各界でご活躍中の学員のご厚意による豪華商品の数々に否応なく会場は盛り上がる。息つく間も無く『曲当てクイズ』へ。 このゲームは、今年から幹事を務める、中大応援団ＯＢの松岡善博氏（昭和４８年・商・佐藤建設工業㈱札幌営業所）、戸澤眞氏（昭和５６年・理工・日之出屋商店㈱取締役総務部長）、黒田政弘氏（昭和５９年・商・東急建設㈱札幌支店）、田神俊之氏（昭和６０年・経済・㈱北海道拓殖銀行本部）の４名がウンウン唸りながら知恵を絞って企画した余興で、１５曲の曲名、歌手名の両方をテーブル毎に当てて貰おうというもの。 当初「簡単だ！」と高を括った学員もいたが、一曲目が流れるとあちこちで、「何の曲だろう？」と思案顔に。しまいに、女性バンケッターまで巻き込んで、曲を答えるテーブルも出る始末。老若男女が、演歌、ニューミュージック、ポップスの曲当てをする姿は、大変微笑ましくも有り、学員からも大好評を博した。優勝は１５曲中１４曲正解したグループで、極めてハイレベルの戦いであった。出題は種本を使った一般的な質問だったが、正解にクレームが付く一幕もあり、皆、童心に帰って一喜一憂した。 締めは全員参加のジャンケン大会で余興の部は終了。その際、優勝者からジャンケンの副賞として学員から集めた硬貨を、歳末助け合いに寄付したいとの申出があり、北條喜一氏（昭和３６年・法・札幌市東区役所福祉部長）を通じ、札幌市社会福祉協議会に募金する事となった。（昭和６０年・経済・㈱北海道拓殖銀行・田神　俊之記） こうして、「年忘れの夕べ」は、あっという間に閉会の時間を迎え、最後に平成になって卒業した若き学員が壇上に上がると、幹事の佐藤元応援団長の力強いエールを合図に、懐かしい校歌、応援歌、惜別の歌を全学員が肩に手を掛け合っての大合唱となり、閉会した。
1994 年	6	3	18	支部三役会議の開催	札幌商工会議所３階特別談話室において午後４時より、本部より長沼事務局長を迎え、堀北支部長、吉田副支部長、高田幹事長、西原副幹事長出席のもと開催しました。 議題は、本年６月札幌で本学本部が主催する評議員ゴルフ大会について審議しました。（開催日時　平成６月２７日(月)　場所　札幌国際カントリークラブ島松コース）
			27	第 5 回白門ゴルフ大会への参加	札幌国際カントリークラブ・島松コースにおいて学員会本部主催の第５回白門ゴルフ大会へ参加。当日は本部より井上達雄副会長以下２０名、旭川支部５名、函館支部４名、当支部より吉田副支部長、高田幹事長以下１１名が参加しました。プレイ終了後表彰式等を行い、交流を深めた。詳細は、学員時報平成６年７月２５日付に第３２２号に掲載。
		7	10	中央大学父母連絡会札幌支部総会及び父母懇談会へ参加	在校生の父母で組織されている中央大学父母連絡会札幌支部総会及び父母懇談会へ西原副幹事長出席。
			16	平成 6 年度地域支部連絡会会議へ参加	学員会本部主催の地域支部連絡協議会に当支部より高田幹事長出席。
		8	5	平成 6 年度支部定時総会の開催	ホテル札幌ガーデンパレスにおいて午後 6 時より、学員会本部より野村権之亮副会長、大学本部より石井秀之事務局長、父母連絡会札幌支部より坂井昭宏支部長を迎え開催。当日は吉田副支部長以下７０名出席のもと。「平成５年度事業報告並びに収支決算報告」等を審議、終了後懇親会を行った。
		10	10	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇談会へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「就職懇談会」に当支部より西原副幹事長が出席。 当日は午後１時より坂井支部長の挨拶、松本商学部長、益田就職副部長の講演に続いて、会社説明会が行われ、田神俊之氏（昭和６０年・経済・㈱北海道拓殖銀行広報部調査役）、田中剛氏（平成３年・商・㈱丸井今井）、長瀬千年氏（昭和４０年・法・㈱北海道新聞社千歳支局長、岡本興二氏（昭和３７年・経済・北海道放送㈱総合管理室次長）、池田公夫氏（昭和５４年・法・北海道電力㈱立地環境部主査）、高山裕史氏（昭和５１年・商・㈱北海道銀行東豊支店長）、北海道旅客鉄道㈱等より７名の参加。会社概要等の説明に続いて個人面談も実施された。
		12	1	支部年末懇親会の開催	札幌全日空ホテルにおいて午後６時から、父母連絡会札幌支部より坂井支部長を迎え、吉田副支部長以下１１７名出席のもと開催。冒頭、物故者に対する黙祷、吉田副支部長の挨拶に続いて懇親に入った。ビンゴゲーム、歌手当てクイズ等をテーブル対抗で行い懇親を深め、最後は例年通り全員で校歌・応援歌・惜別の歌等を合唱し終了。当日は全員参加のジャンケン大会を行い、集まった寄付金と支部からの協力金と併せて札幌市社会福祉協議会へ寄贈しました。
1995 年	7	1	30	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室において午後５時３０分より、吉田・大場両副両副支部長、高田幹事長、西原副幹事長出席のもと開催。尚、議題は支部役員選任・支部収支決算等について審議了承されました。
		7	6	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室Ｃにおいて午後１２時より、堀北支部長、吉田・大場副支部長、寺島理事長、高田幹事長、西原副幹事長出席のもと開催。議題は「支部役員の選任」、「平成６年事業報告書並びに支部収支決算」等について審議。
			9	中央大学父母連絡会札幌支部総会及び父母懇談会へ参加	北海道経済センター７階会議室において午後１時より開催の父母連絡会札幌支部の総会に当支部より西原副幹事長出席。尚、大学側より来賓として渥美東洋総合政策学部長が出席。新支部長には馬場正昭氏が選任された。
		8	2	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より、吉田・大場両副支部長、高田幹事長、西原副幹事長、大学本部より小塩節常任理事、吉岡稔総務部調査役出席のもと開催。小塩常任理事より教育研究振興資金寄付金への協力要請があった。

			2	平成７年度支部定時総会の開催	ホテル札幌ガーデンパレスにおいて午後６時より学員会本部から、飯塚久子副会長、大学本部より小塩節常任理事を迎え開催。当日は堀北支部長以下９３名出席のもと、「平成６年度事業報告並びに収支決算報告」等を審議。尚、「支部役員の選任について」は支部長一任となった。懇親会では来賓の小塩節常任理事より最近の本学の現況報告、飯塚久子副会長から教育研究振興資金寄付金募金状況の報告とその協力要請があった。
		9	17	ツールド北海道 95’参加の中央大学自転車競技部の応援参加	ツールド北海道９５’に参加の中大自転車競技部応援の為最終の第５ステージ（石狩湾新港２０周）に当支部より、西原副幹事長他出席。参加チームは、社会人・学生併せて２１チーム。尚、当日当支部より自転車競技部へ５万円を贈呈しました。
		10	4	支部三役会議の開催	北海道経済センター3 階特別会議室 C において午後１２時より、堀北支部長、吉田・大場・寺島副支部長、高田理事長、金井幹事長、西原副幹事長が出席議題は、「平成７年９月末事業報告並びに収支決算報告」、「中央大学教育研究振興資金寄付金」等の議題について審議し、当支部より１００万円の寄付をする事とした。
			7	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇談会へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「就職懇談会」に当支部より西原副幹事長が出席。当日は午後１時より馬場支部長の挨拶、松本商学部長、野口就職部副課長、西就職部担当のスピーチに続いて、児玉芳明氏（昭和３４年・法・㈱道新スポーツ代表取締役社長）、吉川尚登氏（昭和５５年・商・㈱北海道銀行札幌駅前支店長代理）、柴田龍氏（昭和５６年・理工・㈱北洋銀行融資第一部調査役）鈴木㈱丸井今井人事部マネージャー、佐々木北海道放送㈱人事部長が参加され、会社概要、求人状況等について説明があり終了後は個人面談も実施しました。
		12	7	支部年末懇親会の開催	札幌全日空ホテルにおいて午後６時から、父母連絡会札幌支部より馬場支部長を迎え、堀北支部長以下１２６名出席のもと開催。懇親会進行は村木靖雄氏（昭和４３年・商　村木公認会計士事務所所長）の司会により、冒頭堀北支部長の挨拶に続いて、児玉芳明氏（昭和３４年・法　道新スポーツ代表取締役社長）より「マスコミから見たこの一年」と題した講演があり終了後懇親会に入った。本年は例年行われていたゲームな等を中止し、当支部への新規入会者の自己紹介、会員の名刺交換等を行い、懇親を深め最後は全員で校歌、応援歌等を合唱し終了した。
1996 年	8			政策文化総合研究所設置	
		5	25	第 1 回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	オークドウッドカントリー倶楽部（早来町）において午後１時より開催。当日は吉田功次郎ゴルフ同好会会長以下４６名が参加。吉田会長の挨拶、石林肇（昭和４２年・経済）競技委員長の注意事項の説明後午後１時３０分アウト６組、イン６組に分かれてスタート。競技終了後懇親会を兼ね表彰式を行いわきあいあいの内に散会。
		7	7	中央大学父母連絡会札幌支部総会へ参加	北海道経済センター7 階会議室において午後 1 時より開催の父母連絡会札幌支部総会に当支部より西原副幹事長出席。尚、大学本部より大渕寛経済学部長並びに事務局が出席。事業報告、収支決算、役員改選が議題として審議。新支部長には、芹田稔氏が選任されました。
			22	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より、堀北支部長、吉田・大場・寺島副支部長、金井幹事長、西原副幹事長出席のもと開催。議題は「平成７年度事業報告、収支決算報告」等について審議。
		8	2	平成 8 年度支部定時総会の開催	京王プラザホテル札幌において午後６時から、学員会本部より佐藤和雄副会長、大学本部より澤島政夫常任理事を迎え開催。本年は第一部として、会社のＰ・Ｒ資料を配り、名刺交換を行った。続いて総会に移り、吉田副支部長以下１０２名出席のもと、「平成７年度事業報告並びに収支決算報告」等を審議。懇親会では来賓の佐藤和雄副会長より学員会本部の最近の動き、澤島政夫常任理事からは、本学の現況等についての報告があった。
		10	10	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇談会へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「就職懇談会」に当支部より西原副幹事長出席。当日は午後１時より芹田支部長の挨拶、海老沢喜一就職部課長、増田貴美子就職部副課長から「最新の就職状況について」の講演に続いて、廣川一彦氏（昭和４０年・法・㈱北海道新聞社社会部長）、檜森聖一氏（昭和４５年・法・㈱北海道拓殖銀行公務金融部長）、佐竹尚氏（昭和５８年・商・㈱北海道銀行花川支店長代理）、古西氏㈱丸井今井人事部人材開発室長、長沼北海道放送㈱人事部長、箱崎伊藤組土建㈱人事部長から会社概要、求人状況等について説明があり、終了後は個人面談も実施。
			15	白門経友会との打ち合わせ	北海道経済センター３階特別談話室において午後３時より、堀北支部長、金井幹事長、西原副幹事長出席のもと開催。当日は、中央大学経済学部の卒業生が組織している白門経友会から小川幹事長、浅野副幹事長、前島常任幹事が出席し、平成９年７月札幌において経友会主催の講演会開催の要望が出、本支部としても協力する旨承諾。尚、開催日時は平成９年７月２４日（木）とし詳細については、後日打合せする事になった。
		11	16	第１回支部長杯争奪麻雀大会の開催	市内の狸小路にある「シンセイ」において、午後２時より開催。土曜日の午後にもかかわらず、同好の士２０名が参加。金井幹事長の開会挨拶の後、雀歴１０年から５０年の強者が五卓に分かれ、優勝を目指し火花をちらした大会は３回戦総当り、１、２回戦の結果、点数の高い者順に最後の鬼殺し戦に出場、優勝者が決まった。勝負の合間にビール、日本酒等のアルコールも入り、和やかな雰囲気のうちに終了した。なお、当日は満貫賞を設け、各卓より満貫という声が上がるたびに幹事が賞品(テレホンカード)を配った。続いて表彰式を行い、吉田副支部長より、優勝者に対し支部長杯と副賞等を、全員にそれぞれ賞品を授与し散会した。優勝：柳森正治氏(昭和３９年・法・㈱富士屋ホテル常務取締役)、準優勝：高橋順一氏（昭和３５年・法・定鉄観光㈱専

					務取締役)、３位：緒方貞夫氏（昭和３８年・法・(社)日本ボイラ協会北海道支部事務局長)。詳細は、学員時報平成９年１月２５日付第３４９号に掲載。
		12	5	支部年末懇親会の開催	ホテル札幌ガーデンパレス２階「白鳥の間」において午後６時から、父母連絡会札幌支部より芹田支部長を迎え、堀北支部長以下１１８名出席のもと開催。堀北支部長から支部事業報告、本学の活動報告、また平成９年度の事業として本学音楽研究会吹奏楽団による演奏会（平成９年７月２１日（月）場所　札幌市民会館)、白門経友会と共催による講演会を開催する旨挨拶、続いて籏本道男氏（昭和３５,年・法・監査法人トーマツ代表）より「アメリカと日本の会社の算盤勘定」と題した卓話に続いて懇親に入った。懇親会では新規学員の紹介、名刺交換、記念撮影等を行い、一段と盛り上がったところで、全員で応援歌、校歌の合唱、最後にエールで締を飾り散会。詳細は、学員時報平成９年２月２５日付第３５０号に掲載。

1997 年				大学院総合政策部研究科開設	
	9	2	24	白門経友会との打ち合わせ	北海道経済センター３階特別談話室において午後３時より、金井幹事長、西原副幹事長、白門経友会より浅野副幹事長出席のもと開催。本年７月に開催の講演会の講師は、本学卒業の直木賞作家逢坂剛氏が決定。開催日時は、７月２４日（木）午後２時より１時間程度、場所は京王プラザホテル札幌３階「雅の間」、入場料は無料とし入場整理券を発行。又、白門経友会、学員会札幌支部、父母連絡会札幌支部の共催とし、集客・PR 方法、当日の運営などについて協議。
		4	8	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において、午後１２時より堀北支部長、吉田・大場・寺島副支部長、金井幹事長、西原副幹事長出席のもと開催。議題は、「平成８年度事業報告並びに収支決算報告」等について審議。
		5	24	第 2 回支部長杯争奪麻雀大会の開催	市内の狸小路にある「シンセイ」において、午後２時より開催。当日は吉田副支部長以下１６名参加、優勝を目指し火花を散らした。大会は３回戦総当りで行われ、１、２回戦の結果点数の高い者同志が最後の鬼殺し戦で優勝を競った。尚優勝は柳森正治氏（昭和３９年・法）、準優勝は、西館肇氏（昭和３１年・経済）に決定。優勝者に対して支部長杯と副賞等、入賞者全員にそれぞれ賞品を授与し解散。
		6	7	第 2 回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	オークドウッドカントリークラブ（早来町）において午前１１時３０分より開催。当日は吉田ゴルフ同好会会長以下３４名が参加。吉田会長の挨拶、石林肇（昭和４２年・経済）競技委員長の注意事項の説明後、アウト５組、イン４組に分かれてスタート、競技終了後懇親会を兼ね表彰式を行いわきあいあいの内に散会。尚優勝者は、吉田功次郎氏（昭和２８年・法）準優勝は、西館肇氏（昭和３１年・経済）に決定。優勝者に対して、支部長杯と副賞等、入賞者全員にそれぞれ賞品を授与し解散。
		7	5	中央大学父母連絡会札幌支部総会へ参加	北海道経済センター７階会議室において午後１時より開催の父母連絡会札幌支部総会へ西原副事長出席。当日は大学本部より松本文学部長並びに事務局が出席。総会に先立ち父母連絡会創立１０周年を記念して、松本文学部長による「日本語と外国語」と題した講演、次いで議事に入り事業報告、決算報告、役員改選が擬態として審議され、新支部長には根守勝巳氏が選任された。
			21	中央大学音楽研究会吹奏楽団演奏会の開催	本学音楽研究会吹奏楽団による演奏会が、１８日の北見市、２０日の旭川市に次いで３５年ぶりに本市で開催。本吹奏楽団は創部以来５５年と、我国でも最も歴史のある吹奏楽団のひとつに数えられており、過去に全日本吹奏楽コンクールに於いて１０回の金賞を受賞している。当日は堀北支部長の挨拶後演奏に入った。会場は市民会館の大ホールで、一般市民、学員、吹奏楽関係者が入場、1，５００人収容の会場はほぼ満員となった。一部海の歌、二部喜歌劇「天国と地獄」より序曲等ポピュラーな曲を含め７曲。演奏は素晴らしく恒例のアンコールも三度に亘り、会場と演奏者が一体となった感じで盛会裡に終了。
			24	中央大学文化講演会の開催	京王プラザホテル札幌において午後３時より学員会、経友会主催、本支部・父母連絡会札幌支部共催による文化講演会を開催。当日は本学学員で直木賞作家の逢坂剛先生（昭和４１・法）をお迎えし、一般市民、学員併せて５００名が参加、冒頭経友会副会長の米田康彦氏（本学経済学部長）の開会挨拶に続き講演に入った。講演は先生の学生時代の思い出、どうして作家の道を歩むようになったのかそのいきさつ、スペインについて、人生について等々ユーモアを交えた軽快な語りに、会場内は時には笑いの渦に包まれ、１時間２０分程の短い時間であったが、先生の話にすっかり魅了され有意義の中に終了。
			24	平成 9 年度支部定時総会の開催	京王プラザホテル札幌において午後６時から、堀北支部長以下７９名が参加。当日は来賓として学員会本部より佐藤和雄副会長、大学本部より米田康彦経済学部長、小川明夫経友会幹事長、直木賞作家逢坂剛先生、父母連絡会札幌支部長根守勝巳氏をお迎えした。議題の「平成８年度の事業報告並びに収支決算報告について」は、全員異議なく承認。「支部役員の改選について」は支部長一任となった。　懇親会では、来賓の佐藤副会長から「学員会本部の最近の動きについて」、米田経済学部長からは「本学の現況報告」、小川経友会幹事長、逢坂先生からもご祝辞・ご挨拶を戴いた。続いて、初参加の新規会員の自己紹介、　最後に出席者全員で応援歌、校歌の合唱と午後８時盛会裡に閉会、散会。学員時報平成９年９月２５日付第３５６号より。
		10	4	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇談会へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「就職懇談会」に当支部より西原副幹事長出席。当日は午後１時より北海道経済センター７階に於いて根守支部長の挨拶、程島学長室長の挨拶、増島総合政策学部

					長の講演、増田就職課副主事から「最新の就職情報について」の講演、続いて西村㈱北海道新聞社人事部長、足立北海道放送㈱人事部採用担当専任部長他、学員の所属企業４社の担当者から会社概要、求人状況について説明があり、終了後は個人面談会も実施。
		12	4	支部年末懇親会の開催	ホテル札幌ガーデンパレスにおいて午後６時から、根守勝巳父母連絡会札幌支部長を迎え、堀北支部長以下８４名出席のもと開催。堀北支部長の挨拶、次いで原口伸一氏（昭和３２年・法・札幌市議会議員）により「市政よもやま話し」と題した卓話に続いて懇親に入った。懇親会では、新規学員の紹介、名刺交換等を行い一段と盛り上がったところで、全員で応援歌、校歌の合唱、最後にエールで締を飾り散会。
1998 年	10	6	4	第 3 回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	札幌エルムカントリークラブにおいて午前９時より開催。当日は吉田ゴルフ同好会会長以下２５名が参加。石林肇（昭和４２年・経済）競技委員長の注意事項の説明後、アウト４組、イン３組に分かれてスタート、競技終了後懇親会を兼ね表彰式を行い、わきあいあいの内に散会。尚、優勝者は、青木茂氏（昭和２９年・法）準優勝は松橋稔氏（昭和４９年・理工）に決定。優勝者に対して、支部長杯と副賞、入賞者全員にそれぞれ賞品を授与しました。
		7	8	支部三役会議の開催	フジヤサンタスホテル５階会議室において午後１２時３０分より、堀北支部長、高田理事長、籏本・出戸・松本・金野（代理）副支部長、西原幹事長出席のもと開催。議題は「平成９年度事業報告並びに収支決算報告」等について審議。
		8	6	10 年度支部定時総会の開催	フジヤサンタスホテルにおいて午後６時より学員会本部より佐藤和雄副会長、父母連絡会札幌支部より小川義雄支部長をお迎えし堀北支部長以下６４名が参加。議題は「平成９年度の事業報告並びに収支決算報告」で全員異議なく承認。引き続き大八木治夫氏（昭和４０年・法・札幌地方検察庁特別刑事部長・検事）より「最近における犯罪情勢について」と題した卓話を頂いた。懇親会では、来賓の佐藤副会長から「本学の現状と学員会の近況及び活動状況について」、父母連絡会小川支部長からご挨拶、又途中からご参加の学員会小樽支部の久田泰弘支部長からもご祝辞を頂いた。続いて新規学員の自己紹介、最後に出席者全員で応援歌、校歌、惜別の歌と午後８時３０分盛会裡に閉会、年末懇親会での再会を約し散会。学員時報平成１０年１０月２５日付第３６８号より。
		10	17	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇談会へ参加	北海道経済センター7 階において午後１時より父母連絡会札幌支部主催の１９９８年度就職懇談会へ当支部より西原幹事長出席。当日は小川支部長の挨拶、高田橋範充経済学部教授による「学業（生活）と就職」と題して最近の学生気質等の講演、宮崎否寛就職課長により「最近の就職情報について」の講演、続いて足利利道氏（北海道放送㈱社長室部長）、松平教麿氏（北海道ビジネスオートメーション㈱経営管理本部人事部長）、大庭英敏氏（昭和５１年・商・㈱北洋銀行人事部人事第一課長、前野正昭氏（昭和３６年・法・㈱北海道新聞社取締役総務・労務担当、金野信夫氏（昭和４０年・法・札幌市総務局職員部長）、桜井一成氏（北海道旅客鉄道㈱総務部採用担当教育グループ）、田中圭一氏（北海道旅客鉄道㈱旅行業本部海外旅行課）の７氏により、会社概要、求人状況等について説明があり終了後は質疑応答個人面談も行われた。
		12	8	支部年末懇親会の開催	フジヤサンタスホテルにおいて午後６時から、堀北支部長以下８０名出席のもと開催。支部長の挨拶、次いで溝渕新蔵氏（昭和３１年・法・アクティプリント㈱代表取締役会長、北海道中小企業診断士研究会会長）により、高齢化社会に向かって「異業種交流からえた人的ネットワークの教訓」と題した卓話があり、続いて青木茂氏（昭和２９年・法･青木司法書士事務所）の乾杯により懇親に入る。懇親会では恒例の新規入会学員の紹介、紅一点、中野玲子氏（昭和３６年・法）挨拶。テーブル毎の名刺交換等を行い一段と盛り上がったところで、全員で応援歌、惜別の歌、校歌の合唱、最後にエールで締め散会。
1999 年				研究開発機構設置	
	11	7	3	中央大学父母連絡会札幌支部定期総会へ出席	北海道経済センター９階会議室において午後１時より開催の父母連絡会札幌支部総会へ西原幹事長出席。当日は大学本部より林茂樹文学部長並びに事務局が出席。先ず、支部総会の議事に入り事業報告、決算報告、役員改選が議題として審議され、新支部長には田村政義氏が選任。引き続き講演会に入り、林文学部長より「大学の近況について」、次いで事務局より「学校生活について」の話があり、終了後、懇親パーティーも催された。
			19	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より、堀北支部長、高田理事長、籏本・松本・佐藤副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題は、「平成 10 年度事業報告並びに収支決算報告等について審議了承。
		8	4	北海道平和セミナーへの参加	札幌市教育文化会館３階会議室において、午前１０時より開催の中央大学国際交流センター主催の北海道平和セミナーへ当支部より石橋嘉彌氏（昭和２５年・法）、末松正行氏（昭和３３年・法）、八田信之氏（昭和４２年・商）、田村政義父母連絡会札幌支部長他５名が参加。本セミナーはアイヌ民族への理解を深めると共に、世界的な視野で少数民族について考えることを目的としており、当日は北海道ウタリ協会札幌支部からも８名のアイヌの方達が参加された。講演会に続いて、午後１時３０分からのグループディスカッションと午後６からの懇親会と盛会裡に終了。尚、本学からは国際交流センター佐藤清所長（経済学部教授）中国（１４名）、韓国（４名）、マレーシア（１名）、オーストラリア（１名）、イギリス（１名）からの留学生が２１名、在校生２６名、計４８名が参加された。
			5	平成11年度支部定時総会の開催	京王プラザホテル札幌において午後６時より和田副支部長以下７９名が参加。当日はご来賓として学員会本部より長田繁副会長、父母連絡会札幌支部長田村政義氏をお迎えした。議題は平「成

					１０年度の事業報告並びに収支決算報告」で、事業報告並びに収支決算報告全員異議なく承認。総会に次いで吉岡直樹氏（昭和５７年・法　・ますだ・吉岡法律事務所所長）による「離婚にまつわるよもやま話」と題した卓話を戴き、続いて高田照市理事長（昭和３９年・法　高田法律事務所所長）の乾杯の音頭で懇親に入った。懇親会では、来賓の長田副会長からもご挨拶を戴いた。続いて、今回初参加の新規学員による自己紹介、最後に出席者全員で応援歌、校歌を合唱し午後８時盛会裡に閉会し散会。
			6	第 4 回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	札幌エルムカントリークラブにおいて午後１２時より開催。当日は吉田ゴルフ同好会会長以下２２名が参加。吉田会長の挨拶、石林　肇(昭和４２年・経済)競技委員長の注意事項説明後、アウト３組、イン３組に分かれスタート。競技終了後懇親会も兼ね表彰式を行い、和気あいあいの内に散会。尚、優勝は神田光雄氏(昭和４０年・法)、準優勝は青木茂氏（昭和２９年・法)に決定。優勝者に対して支部長杯と副賞、入賞者全員にそれぞれ賞品を授与した。
		9	16	第 5 回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	スコツトヒルカントリークラブ(石狩郡当別町)において、午後１２時より開催当日は、吉田会長以下２２名の参加がありました。吉田会長の挨拶、石林肇(昭和４２年・経済)競技委員長の注意事項説明後、アウト３組、イン３組に分かれスタート。競技終了後表彰式を兼ねた懇親会を行い和気あいあいの内に散会。尚、優勝は川崎毅一郎氏(昭和３９年年・商)、準優勝は西稔氏(昭和４６年・法)。優勝者には支部長杯と副賞、入賞者全員に賞品を授与した。
		10	17	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇談会へ参加	北海道経済センター７階において午後１時より開催の父母連絡会札幌支部主催の［１９９８年就職懇談会］へ当支部より西原幹事長出席。当日は午後１時より北海道経済センター７階会議室において、田村支部長の挨拶、高田橋経済学部教授のお話、松原就職課副課長、青柳就職課副主事から「最新の就職情報について」のお話、続いて前野正明氏（昭和３６年・法・(株）北海道新聞社）をはじめ学員の所属する企業４社の担当者から会社概要、求人状況について説明があり終了後、個人懇談も実施されました。
		12	8	支部年末懇親会の開催	京王プラザホテル札幌において、午後６時から田村父母連絡会札幌支部長を迎え堀北支部長以下９６名出席のもと開催。高田理事長の乾杯の音頭に続いて懇親に入った。年末は懇親を中心にビンゴゲーム等を実施しました。各テーブル対抗のゲーム結果により、１位から３位までの団体戦と、全員を対象にしたビンゴゲームにより会場は和やかな雰囲気の中で進行し、一段と盛り上がったところで籏本副支部長の締めの挨拶、全員で校歌、応援歌を合唱し散会となった。
2000 年				市ヶ谷キヤンパス開校	
	12	5	20	第 6 回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	オークウッドカントリークラブにおいて午後１２時より開催。当日は吉田会長以下２１名が参加。会長の挨拶、石林競技委員長の注意事項の説明後アウト３組、イン３組に分かれスタート。終了後は表彰式を兼ね懇親会を行い和気あいあいの内に散会。優勝は遠藤豊基氏(昭和４６年・理工)、準優勝は村上一元氏(昭和３９年・文)。入賞者全員に会長よりそれぞれ賞品が授与された。
		6	19	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より堀北支部長、籏本・和田・出戸・佐藤(代理奥岡)副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題は「平成１１年度事業報告並びに収支決算報告等について」審議了承された。
		8	4	平成 12 年度支部定時総会・小樽支部との交歓会の開催	小樽支部との親睦交流を目的に当支部として初めて小樽にて開催。当日はヒルトンホテル小樽５階「銀河の間」において午後６時より籏本道男（昭和３５年・法）副支部長以下３７名が参加。ご来賓として大学本部より三宅邦彦常任理事、学員会本部より佐藤信昭事務局長を迎えた。議題は「平成１１年度の事業報告並びに収支決算報告」で、全員異議なく承認。続いて小樽支部との合同懇親会を開催。小樽支部からは久田泰弘支部長以下２４名が参加。同支部の関口正雄幹事長の司会で先ず両支部の挨拶があり当支部からは籏本副支部長、小樽からは久田支部長の挨拶。次いで両支部の役員紹介に移り札幌は石林清名誉支部長（昭和２１年・法）籏本・和田丈夫副支部長、西原幹事長の紹介。小樽は久田支部長、辻哲也、大橋一弘副支部長、関口幹事長の紹介があり小樽の辻副支部長の乾杯の音頭により懇親会に入った。懇親会では三宅常任理事、佐藤事務局長から祝辞と「大学本部の最近の動き」、「学員会本部の動きについて」それぞれご報告を頂いた。又小樽支部のご好意により余興として迫力のある「潮太鼓」の演奏が１５分間行われた。続いて当支部から石林名誉支部長他１０名程度が演壇に上がり出席者全員で校歌・惜別の歌・応援歌の合唱、続いて小樽から岩崎耐輝（昭和４２年・商・㈱帝国データバンク小樽支店長）のエール交換、最後は和田副支部長の万歳三唱により閉会。懇親会は終始、和やかな雰囲気で行われ、両支部学員同志の名刺交換も等もあり、予定の時間を４０分程超過し午後８時４０分盛会裡に終了。又二次会を予定している会員はそれぞれに夜の町に流れていった。学員時報平成１２年９月２５日付に第２９９号より。
		8	20	中央大学父母連絡会札幌支部総会へ参加	フジヤサンタスホテル於いて午後１時より開催の父母連絡会札幌支部総会へ西原幹事長出席。当日は大学本部より北村敬子商学部長並びに事務局が出席。先ず、総会の議事に入り、前年度の事業報告、決算報告、新年度の事業計画、予算、役員改選が議題として審議され、新支部長には武田武雄氏が選任された。引き続き懇親会に入り北村商学部長より「大学の近況について」次いで事務局より「学校生活について（成績の見方等)」の話があり、終了後は個人面談も行われ、最後は懇親パーティーも催された。
		9	8	第 7 回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	札幌エルムカントリークラブにおいて午後１２時より開催。当日は吉田会長以下１７名が参加。会長の挨拶、注意事項説明後アウトとインに分かれスタート。競技終了後表彰式を兼ね懇親

					会を行った。優勝は、神田光雄氏（昭和４０年・商）準優勝は西山眞吾氏（昭和４１年・商）。優勝者には支部長杯と副賞、入賞者全員に吉田会長よりそれぞれ賞品が授与され和気あいあいの内に散会。
		10	13	中央大学文化講演会の開催	北海道経済センター８階Ａホールにおいて午後１時３０分より開催。当日は，市民、学員、父母連絡会札幌支部会員合わせて１５０名が出席されました。講師には大学より高橋由明商学部教授、高橋雄介理工学部専任講師をお迎えし講演を頂いた。高橋商学部教授からは「世界に通用するのか日本の経営方式～アジアと欧米ではどちらが受け入れやすいか」と題し、具体的には以下の三点を中心にお話しを頂いた。Ｉ。経営管理の諸技術・諸方式について、日本と欧米において、経営組織化の原理の最も異なる点と、経営管理の諸技術・諸方式の種類。体的には以下の三点を中心にお話しを頂いた。 Ｉ．経営管理の諸技術・諸方式に於いて、経営組織化の原理の最も異なる点と、経営管理の諸技術・諸方式の種類。 Ⅱ．経営方式の移転の可能性を考える場合について。その経営方式を導入する日系支社が合弁企業であるのか、あるいはどこの国に進出するかによって異なること。 Ⅲ．なぜこのような違いが生ずるのか、経営管理方式の決定要因について。それには「文化構造」、「経済過程」、「企業内外の組織」等にふれ、具体的事例を引き合いに説明を頂いた。最後に最近「グローバル・スタンダード」といわれ、ある国の基準を世界に広めようとする動きがあるが、それは各国の文化の多様性をも喪失させる恐れがあるだろう。自分としては「アメリカン・スタンダード」、「ヨーロッパ・スタンダード」が認められるように近い将来「アジアン・スタンダード」を作り上げて行くべきであろうと結ばれた。 続いて、高橋理工学部専任講師からは、「個性とライバルが自分自身を磨く」と題し講演を頂いた。コーチと選手の関係について、コーチは選手にとってリーダーでなければならないということ。又、一流といわれるコーチは、その道を極めようとする情熱と向上心を持ち合わせながら、更に、際だったリーダーシップを発揮していること。選手が成長していく過程を見守り、活躍する姿を見て、特にレース後、満面の笑顔で握手を求めてくれる時、それはコーチ冥利に尽きるものである。中央大学の水泳部が強くなった理由の一つに、「選手の個性」を活かすことにコーチングのポイントを置いていること。とりわけ、重要な点としては選手個々の個性を理解し、尚かつ尊重しながら、水泳選手一個人の前に「一人の人間である」という人間性を念頭に入れ、彼らに接して来たことが考えられます。 又、同じチーム内のライバルとして競争しあい、相乗効果として良い結果を生みこれらがエネルギーの起爆剤となって、他の選手に、あるいはチーム全体の勢いにも繋がるものがあること。 コーチとして注意しておかなければならない事が二つあり、一つは競争しあう事でライバルを過度に意識しすぎ、足の引っ張り合いや、いじめを引き起こす可能性があること。もう一つは競争という本当の意味をコーチが把握しておくことです。 実際の競争とは、「他人」との戦いではなく「己自身」との戦いである。シドニーオリンピックにもふれ日本選手の活躍等についてもお話を頂いた。終了後には質疑応答もあり盛会裡に終了した。
		10	14	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇談会へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「就職懇談会」に当支部より西原副幹事長出席。当日は午後１時よりフジヤサンタスホテルにおいて開催。武田支部長の挨拶に続いて、就職部の井上英明氏から「最新の就職情報について」の講演。次いで企業の就職説明会が行われた。小川滋夫氏（昭和５８年・理工、北海道電力㈱広報部推進グループ副長）、前野正明氏（昭和３６年・法、㈱北海道新聞社取締役）、檜森聖一氏（昭和４５年・法、㈱北洋銀行取締役公務金融部長）、足立利道氏（北海道放送㈱社長室部長）、柿本晃彦氏（北海道ビジネスオートメーション㈱経営管理本部人事部長）等の担当者からそれぞれ会社概要、求人状況について説明があり、終了後個人面談会も行われた。
			20	第 8 回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	札幌エルムカントリークラブにおいて午前 10 時より開催。当日は吉田ゴルフ同好会会長以下 17 名が参加。吉田会長の挨拶、石林肇（昭和４２年・経済）競技委員長の注意事項説明後アウトコースよりスタート。競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行った。優勝は、飯部紀明氏（昭和３９年・法）準優勝は斉藤正一氏（昭和３１年・法）。優勝者には支部長杯と副賞、参加者全員に吉田会長よりそれぞれ賞品が授与された。
		11	20	札幌市役所区白門会発足５０周年記念祝賀会への参加	札幌市役所白門会主催の記念祝賀会へ当支部より高田照市理事長、西原幹事長出席。当日はご来賓として桂信雄札幌市長も出席され午後６時より札幌グランドホテル３階「玉葉の間」において開催。司会は喜瀬浩氏（昭和４５年・法、札幌テレビ放送㈱編集局次長）の進行で行われ、佐藤勉（昭和４７年・法）会長の挨拶、来賓の桂札幌市長、当支部高田理事長の挨拶に続いて、原口伸一（昭和３２年・法・札幌市議会議員）の乾杯音頭により懇親会に入った。懇親会では石林清氏（昭和２１年・法・NPO 北海道地域文化保存振興協会理事長）より発足当時の苦労話等、次いで現役を代表して有塚広之氏（昭和６３年・法・札幌市中央区税務部納税課主査）のスピーチがあった。最後は、西塚道彦氏（昭和４２年・法・札幌市白石区市民部地域振興課長）のエールにより全員で腕を組み校歌、惜別の歌を合唱した。一段と盛り上がったところで星田剛氏(平１１年・法・札幌市南区税務部納税課）により母校と市役所白門会の発展を祈念し万歳三唱により盛会裡に終了。
		12	6	支部年末懇親会の開催	札幌支部の年末懇親会が午後６時から、堀北支部長出席のもと８３名が集い京王プラザホテル

					札幌３階「扇の間」で開催。当日の司会は、㈱鈴木イベントプロデュース所属の木村光江さんの進行で行われ、堀北支部長の開会挨拶、青木茂氏（昭和２９年・法、青木司法書士事務所）の乾杯の音頭により、懇親に入った。恒例により、冒頭、司会者より今回から新規に入会した学員の紹介がありました。 ・青木孝之氏　（昭和４４年・法・札幌地方検察庁副検事） ・赤根屋伸一氏　（昭和４９年・商・ソニー生命保険㈱札幌ライフプランナーセンター第２支社第３営業所長） ・大河内隆氏　（昭和４６年・商・千代田技研工業㈱札幌支店長） ・坂井慎一氏　（昭和６０年・法、(有)アセット・マネージメント） ・湯田浩二氏　（昭和３３年・経済） 本会の目的は、懇親が主で、アルコールは入ったところでゲームに入りました。最初は各テーブル対抗の団体戦で、一回戦はターゲットバードゴルフというゲーム。２m あまりの距離から、ゴルフボールの代わりに、バトミントンのシャトルを篭に入れ入ったシャトルの数で勝負を競うわけだが、入るたびに各テーブルから応援の掛け声と歓声が上がった。一位～三位までの入賞者のテーブルには、全員賞品が当たった。次いでビンゴゲームに移り、目玉商品は京王プラザホテル札幌提供によるスウィートルームペアー宿泊券、ほかに出席者全員に当たるように支部からとスィートルームペアー宿泊券、ほかに出席者全員に当たるように支部からと同窓からの寄贈品八十点あまりが寄せられ、「ビンゴ」の掛け声で会場内の雰囲気が一気に盛り上がり、目玉の宿泊券は木戸洋躬氏（昭和４１年・法・㈱市村製作所顧問）が獲得しました。最後は全員で校歌、応援歌、惜別の歌を合唱し、和田副支部長の万歳三唱で盛会のうちに和やかに終了した。二次会を予定していた学員は、三々五々連れ立って夜の街に流れて行った。
2001 年	13	6	25	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より堀北支部長、高田理事長、籏本・出戸・佐藤副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題は「平成１２年度事業報告並びに収支決算報告等について」審議され了承された。尚、堀北支部長より「今期をもって退任し、後任には和田副支部長にお願いしたい、ついては、定時総会で説明し承認を得たい」と申出がありました。
			30	第 9 回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	テイネオリンピアゴルフクラブにおいて午後１２時４０分より開催。当日は吉田会長以下１９名が参加。会長の挨拶、注意事項説明後スタート。競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行い和気あいあいのうちに散会。優勝は今村勝行氏（昭和４０年・商・北海道労動金庫）、準優勝は吉田武氏（昭和３５年・経済）。優勝者には支部長杯と副賞、入賞者全員に会長よりそれぞれ賞品を授与した。
		8	2	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室において午後１２時より堀北支部長、高田理事長、籏本・出戸・田中副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題は「定時総会並びに小樽支部との交歓会の運営について」審議し了承された。
			2	平成 13 年度支部定時総会・小樽支部との交歓会の開催	当支部平成 13 年度定時総会・小樽支部との交歓会を去る８月２日（木）午後６時から開催。第１部の総会は堀北支部長以下６１名が参加、同支部長から挨拶に続いて本日の総会を以って退任したいとの要請があり、後任には和田丈夫副支部長（昭和３５・法）が推薦され、出席者全員の承認を得た。和田新支部長からは本学の建学精神である“質実剛健”をモットーに、支部の発展に努力する旨挨拶がありました。尚、同支部長から堀北前支部長を名誉支部長にとの推薦があり承認されました。次いで議事に入り「平成１２年度事業報告並びに収支決算報告について」西原幹事長より報告し、異議なく承認された。引き続き第２部の小樽支部との交歓会に移り、同支部からは総勢２０名ご参加。まず当支部の和田支部長、小樽の久田泰弘（昭和３８年・経済）支部長の挨拶に続いて、辻哲也小樽支部副支部長（昭和２８年・法）の乾杯の音頭により懇新会に入りました。懇親会では両支部役員、並びにご来賓の橋詰幸夫父母連絡会札幌支部副支部長のご紹介、続いて三宅邦彦本学常任理事からは「中央大学創立１２５周年記念事業について」の協力要請があった。後楽園キャンパスの新築、多摩学生生活関連棟、多摩学生研究棟等建設に２２５億円の事業費がかかり、その為の募金１００億円を目標に１０年間に亘って寄付を集めたい。又、佐藤光信学員会副会長からは学員会の動きと、本道からの中央大学への入学者が減少傾向にある為ＯＢに対して協力依頼の要請が有った。余興に入り、今回は第１０回ヨサコイソーラン祭りで堂々第３位入賞（全国から４０８チーム参加）に輝いた札幌の新琴似天舞龍神チームを招き、１５分程よさこいソーラン踊りを舞ってもらいました。この間舞台に上がる者あり、会場内で踊る者あり、中には手拍子をとる者ありと会場は一気に盛り上がりました。最後は全員で手を握り、肩を組み合って校歌、応援歌、惜別の歌を合唱し、籏本副支部長の万歳三唱により閉会しました。懇親会は終始和やかな雰囲気で行われ両支部学員同士の名刺交換、記念撮影等もあり午後８時に終了散会しました。学員時報平成１３年１０月２５日付第４０１号より。
			4	中央大学父母連絡会札幌支部総会へ参加	ホテル札幌会館において午後１２時２０分より開催の父母連絡会札幌支部総会へ西原幹事長出席。当日は大学本部より北村敬子商学部長並びに事務局が出席。先ず、総会の議事に入り、前年度の事業報告、決算報告、新年度の事業計画、予算、役員改選が議題として審議され、新支部長には橋詰幸夫氏が選任された。引き続き北村商学部長より「大学の近況について」、次いで事務局より「学校生活について（成績の見方等）の話があり」、終了後は個人面談も行われた。
		9	25	第10回支部長杯争奪ゴルフ大会	札幌エルムカントリークラブにおいて午後１２時４２分より開催。当日は吉田会長以下１４名

				の開催	が参加。会長の挨拶、注意事項の説明後スタート。終了後表彰式を兼ね懇親会を行った。優勝は西館肇氏(昭和３１年・法)、準優勝は吉田会長(昭和２８年・法)。優勝者に対して支部長杯と副賞、入賞者全員にそれぞれ賞品を授与され和気あいあいの内に散会。10
		10	6	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇談会へ参加	父母連絡会札幌支部主催の[就職懇談会]へ西原幹事長出席。当日は午後１時よりホテル札幌会館において開催。橋詰支部長の挨拶に続いて井上彰法学部教授から「社会に出るにあたり大学４年間をどう過ごすべきか」就職部の宮澤俊人氏から「最新の就職情報」についてお話がありました。次いで企業の就職説明会が行われ、谷口能隆氏(昭和５７年・経済、北海道電力㈱営業本部北電契約センター構築グループ課長)、柿本晃彦氏（北海道ビジネスオートメーション㈱経営管理本部人事部長)、廣川一彦氏(昭和４０年・法・㈱北海道新聞社取締役社長室長)、明翫義昭氏(昭和５３年・商・㈱北洋銀行営業推進部推進役)、等の担当者から会社概要、求人状況について説明があり、担当者の中には同窓のよしみで採用に当たっての裏話も出て、出席の父母には感謝された。終了後は個人面談も行われた。
			19	第11回支部長杯争奪ゴルフ大会の開催	テイネオリンピアゴルフクラブにおいて午前８時より開催。吉田会長以下１２名が参加。会長の挨拶、注意事項の説明後スタート。終了後表彰式を行い和気あいあいの内に散会。優勝は、山本俊明氏（昭和３８年・法）準優勝は栗林弘三郎氏（昭和２９年・法)。優勝者には支部長杯と副賞、入賞者全員に会長よりそれぞれ賞品が授与された。
			23	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室において午前１１時３０分より和田支部長、高田理事長、籏本、出戸、田中副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題は中央大学学員会地域支部副会長候補の推薦について、上半期の支部事業報告並びに収支決算報告について審議し地域支部副会長候補者として金井重博氏（昭和３８年・商・㈱富士メガネ代表取締役会長）を推薦する事になり、支部長より年末懇親会の席上において報告することになった。
		12	11	支部年末懇親会の開催	札幌東急ホテル２階錦の間で、午後６時より開催。当日は和田丈夫支部長からご来賓として阿部三郎理事長がご出席の予定でしたが、あいにく、前日の降雪により千歳空港が閉鎖の為、不参加になった旨報告がありました。和田支部長は、挨拶の中で学員会本部の副会長に当支部より金井重博氏（当支部顧問、昭和３８年・商・㈱富士メガネ代表取締役会長）を推薦し、本部で承認された旨報告。次いで、金井副会長より本学創立１２５周年記念事業の詳細について説明を頂き、懇親会出席者に対し寄付の協力要請がありました。次いで、出戸一成副支部長（昭和３４年・経済・マックスバリュ北海道㈱代表取締役会長）の乾杯で懇親会に入った。本会の目的は、懇親が主で、アルコールが入った所でゲームに移った。司会進行は㈱フライトサッポロの新貴子さんにお願いし、先ずビンゴゲームから始まり目玉商品は、札幌東急ホテル提供によるディナー券と他に、出席者全員に当たるように支部と同窓から寄贈品が寄せられ「ビンゴ！」の掛け声で、会場内の雰囲気も一気に盛り上がった。次いで、各テーブル対抗の団体戦に移り、ビールの早飲みゲームで一位から三位までの入賞者のテーブルにはワイン等の賞品が全員に当った。最後は全員で校歌、応援歌を合唱し、籏本道男副支部長（昭和３５年・商・公認会計士籏本道男会計事務所所長）の万歳三唱で盛会のうちに和やかに終了した。又、来年の総会は８月上旬に、小樽支部の協力のもと小樽での開催で全員の了承を得た。
2002 年				学生研究棟完成	学生研究棟「炎の棟」(多摩キヤンパス)完成
	14	1	29	札幌市役所白門会新年会へ参加	午後６時１５分より、札幌サンプラザホテルにて、札幌市役所白門会新年会が開催され田中博之会長（昭和４４年・法・札幌市総務局国際部長）以下３７名が参加し、当支部より和田支部長、西原幹事長が出席。開会に先立ち全員で校歌を合唱し、田中会長は挨拶の中で、市役所に於ける本学出身者の結束力を強化し、ＯＢとの連携を蜜にすることが必要であると話され又、和田支部長からは中大生気質の一つ一過性の払拭についての話と１２５周年記念事業に対する寄付の協力の要請を行いました。次いで、原口伸一氏（昭和３２年・法・札幌市議会議員）の乾杯により懇親会に入りました。アルコールが入った所で、ビンゴゲームに移り「ビンゴ！」の掛け声で会場内の雰囲気も一気に盛り上がり、最後に応援歌を合唱し、ＯＢの村瀬浩気氏（昭和３１年・法）の万歳三唱で盛会裡のうち、和やかに終了した。
		3	6	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より和田支部長、籏本・出戸・田中副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題は、①平成１３年度支部事業報告並びに収支決算報告について②学員会講演会の開催について③本学創立１２５周年記念事業に対する寄付について審議し、①については全員了承、②については、本年は定時総会を小樽で予定しているので、小樽支部と連絡をとり事前に了解をとる、③については、支部として１００万円を寄付する旨、定時総会で承認を得る。その他として学員会支部長永年在任者として前堀北支部長を表彰候補者として本部に推薦することになりました。
		6	18	第 12 回ゴルフ大会の開催	札幌エルムカントリークラブ東コースにおいて午後１２時より開催。当日は西原幹事長以下１９名参加。注意事項の説明後スタート。競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行い、和気あいあいの内に散会。優勝は西山眞吾氏(昭和４１年・商、西山製麺㈱アウト４１　イン４６)、準優勝は神田光雄氏(昭和４１年・商・KAN エージェンシー、アウト４５　イン３７)。幹事長より優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与。
		7	30	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より和田支部長、高田理事長、籏本・出戸・田中副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題第１号：平成１４年度定時総会議案について　原案について、西原幹事長より説明し了承。議題第２号：小樽支部との交

					歓会開催について、西原幹事長よりスケジュール等についての説明があり、審議了承された。その他として、中央大学創立１２５周年記念事業に対し当支部より１００万円を寄付したいとの、支部長より提案があり了承された。
		8	2	平成 14 年度支部定時総会・小樽支部との交歓会の開催	ご来賓に大学本部より阿部三郎理事長、学員会本部より金井重博副会長、創立１２５周年募金推進本部高橋輝義副本部長をお迎えし当支部平成１４年度定時総会・小樽支部との交歓会を小樽グランドホテルにて開催。第１部の総会は和田支部長以下３１名参加。議案第１号：平成１３年度事業報告については、浜崎副幹事長、収支決算報告については、西原幹事長よりそれぞれ報告があり異議なく承認された。次いで和田支部長より、本学創立１２５周年記念事業に対して、当支部より１００万円贈呈したい旨提案があり、出席者全員異議なく承認された。引き続き第２部小樽支部との交歓会は会場を４階の「グランホール」に移動。司会進行は関口正雄小樽支部幹事長、開会に先立ち久田泰弘小樽支部長、当支部和田支部長の挨拶に続いて、当支部出戸副支部長の乾杯の音頭により懇親会に入りました。懇親会では、ご来賓の阿部三郎理事長から「大学の近況について」並びに「中央大学創立１２５周年記念事業について」又、金井重博副会長からは「学員会の近況について」並びに「１２５周年記念事業について」報告があり、お二人から創立１２５周年記念事業に対する熱心な協力要請が有りました。アルコールが入った所で、ビンゴゲームに移り、小樽支部のご好意により支部長名、副支部長名等賞品が用意され、「ビンゴ！」の掛け声で会場内の雰囲気も一気に盛り上がりました最後は全員で応援歌、校歌、惜別の歌を合唱し、大橋一弘小樽支部副支部長の一本締めで盛会のうちに和やかに終了した。来年の交歓会は８月上旬に札幌での開催で、出席者全員の了承を得ました。
			4	中央大学父母連絡会札幌支部定期総会へ参加	北海道経済センター7 階会議室に於いて開催の父母連絡会札幌支部総会へ西原幹事長出席。当日は午後１２時２０分より総会の議事に入り、前年度の事業報告、決算報告、新年度の事業計画、予算、役員改選が議題として審議され、新支部長に三宅章氏が選任されました。続いて、福田孝本学学長室長からは「大学の近況について」、次いで経済学部事務室橘由紀夫氏より「学業学校生活について」のお話があり、終了後は希望者に対し個人相談も行われた。
		8	20	第 13 回ゴルフ大会の開催	石狩市にあるスコットヒルゴルフクラブに於いて、午後１２時３０分より開催。当日は吉田会長以下１７名参加。会長挨拶、注意事項説明後スタート。競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行った。優勝は飯部紀明氏（昭和３９年・法・道都大学美術学部、アウト４９　イン４６）、準優勝は末松正行氏(昭和３３年・法、アウト４６　イン５１)。優勝者並びに入賞者全員に、吉田会長よりそれぞれ賞品が授与され、和気あいあいの内に散会した。
		10	1	第 14 回ゴルフ大会の開催	第１２回に続いて、札幌エルムカントリークラブ西コースに於いて、午後１２時１２分より開催。当日は吉田会長以下１２名参加。会長挨拶、注意事項説明後スタート。競技終了後は表彰式を兼ねた懇親会を行い、和気あいあいの内に散会。優勝は村上一元氏(昭和３９年・文・五英商事㈱アウト４４　イン４５)、準優勝は津越昇氏(昭和３２年・法通・アウト４５　イン４５)。吉田会長より優勝者並びに入賞者全員に、それぞれ賞品が授与された。
			27	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇懇談会へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「就職懇談会」に当支部より西原幹事長出席。当日は午後１時より、三宅支部長の挨拶に続いて、森田尚人文学部教授から「卒業後何をしたいか。その為に今何をしているか」、就職部の松原敏隆部長からは「最新の就職情報について」のお話がありました。次いで午後３時１５分より、企業の就職説明会が行われ、小林信樹氏（ホクレン農業協同組合連合会人事部課長補佐)、花田政幸氏（昭和４７年・文、㈱北海道新聞社総務局労務担当部長)、明翫義明氏（昭和５３年・商・㈱北洋銀行営業推進部営業推進役)、中野肇氏（昭和５９年・法・北海道電力㈱基幹系変電建設所副長)、柿本晃彦氏（北海道ビジネスオートメーション㈱人事部長）等の担当者から、それぞれ会社概要・求人状況についての説明があり、担当者の中には同窓のよしみで、採用に当っての裏話も聞け、出席の父母には感謝された。終了後は個人面談も行われた。
		11	6	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より和田支部長、籏本・出戸・田中副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題第１号：平成１４年度事業報告並びに収支決算について、幹事長により１０月迄の事業報告と収支決算について報告了承された。議案第２号：年末懇親会の開催について、幹事長により来る１２月１１日（水）午後６時より、札幌東急ホテル２階「真珠の間」に於いて開催致したい旨説明し了承された。
		12	11	支部年末懇親会の開催	札幌はこの時期としては、例年より雪が少なく厳しい寒さが続いており１１日（水）午後６時よりご来賓に学員会副会長の金井重博氏（昭和３８年・商・㈱富士メガネ代表取締役会長）を迎え、札幌東急ホテル２階真珠の間において、和田丈夫支部長（昭和３５年・法・和田丈夫法律事務所長）以下６４名が参加開催された。懇親会に先立ち、和田支部長の挨拶に続いて、金井副会長から先般１１月３０日開催の中央大学商議員会の会議についての説明があり、本学創立１２５年記念事業に対する募金の協力要請がありました。次いで吉田功次郎氏（昭和２８年・法）の乾杯で懇親に入りました。司会進行は昨年も好評だった㈱フライトサッポロの新貴子さんにお願いし、先ず新規入会者の紹介があり下記の２名が会員になられました。 ・小野拓郎氏　（平成７年・経済・司法書士小野拓郎事務所長） ・角田重継氏　（昭和４２年・商・コスモシステム開発㈱代表取締役） アルコールが入ったところで、第１部のビンゴゲームに移りました。目玉商品は金井副会長より寄贈の「中大炎の塔」竣工を記念した時計、札幌東急ホテル取締役総支配人岩瀬覚氏（昭和４２年・商）提供のホテル手作りのスープ・ラーメン・缶詰等の賞品と、出席者全員に当たるよう支

					部と、同門の原邦夫氏（昭和３９年・商・東急建設㈱札幌支店顧問）、堀江肇氏（昭和４０年・経・北海道キャンティーン㈱代表取締役社長）、廣川一彦氏（昭和４０年・法・㈱北海道新聞社取締役社長室長）、檜森聖一氏（昭和４５年・法・㈱北洋銀行取締役公務金融部長）、石原聰氏（昭和４５年・経済・北海道エナジートーク２１調査役）から寄贈品の数々が寄せられました。「ビンゴ！」の掛け声で会場内の雰囲気も一気に盛り上がり、その結果目玉の時計は一回目のビンゴで大野天司氏（平成３年・法・三井建設㈱札幌支店）に当たりました。次いで、第２部は、同窓の町屋博氏（昭和３７年・法・（有）コーセイ取締役）からご推薦頂いた１４人編成のアマチュアジャズバンド（ジョイフルハートオーケストラ・テイネ）によるオールドジャズの名曲の数々、「インザムード」「ムーンライトセレナード」「真珠の首飾り」「タキシードジャンクション」等、計１１曲を５０分間に亘り演奏していただき、それぞれ古き良き時代を偲び学生時代を懐かしみながら、ひととき演奏を堪能しました。最後は全員で生バンドをバックに校歌、応援歌、惜別の歌を合唱し、籏本道男副支部長（昭和３５年・商・公認会計士・税理士籏本道男事務所長）の万歳三唱で盛会裡のうちに、和やかに終了しました。尚、同ホテルは建物の老朽化と、市内でのホテル競争の激化に伴い、この１５日を以って札幌での３０年の歴史に幕を下ろしました。
2003 年				学生生活関連棟完成	学生生活関連棟「Ｃスクエア」、「グリーンテラス」、「白門ブロムナード」完成。
	15	5	30	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より和田支部長、籏本・出戸・田中副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題第１号：平成１４年度事業報告並びに収支決算について。原案について、西原幹事長より説明し了承。議案第２号：平成１５年度支部総会の開催について。８月７日（木）か８日（金）の午後６時から予定（場所未定）。総会の案内に１２５周年記念事業に対する寄付依頼文を同封することで了承。その他：本学アメリカンフットボール部が６月２２日（日）午後１時より円山競技場に於いて北海道大学と試合を行うことになりその際激励顧問として支部より５万円出すことで了承。
		6	22	第２９回スズランボウルに応援参加	関東大学１部リーグ校との交流を目的とした第２９回スズランボウルを、円山競技場で開催。本学のアメリカンフットボールチーム・中央大学ラクーンズ、近藤昭雄部長（法学部教授）以下総勢７０名が来札。今回は本道学生アメリカンフットボール連盟結成記念大会ということで、関東大学リーグ１部 A に所属する本学ラクーンズとの交流戦を実施。当日は午後１時キックオフで開始。ラクーンズは終始押し気味に試合を進め、対戦した北海道大学ビッググリーン（２００２年北海道学生リーグ優勝校）に４２対１０で勝利。又、MVP には本学一年生の宮幸崇が選出され、当日は当支部より和田支部長、西原幹事長以下数名と、本学父母連絡会札幌支部より三宅章支部長以下支部役員数名が応援に参加。
		7	15	札幌市役所白門会総会・納涼会へ参加	札幌サンプラザ２階「玉葉の間」において開催の札幌市役所白門会総会・納涼会へ和田支部長、西原幹事長参加。当日は田中博之会長（昭和４４年・法・札幌市建設局管理部長）以下ＯＢ・現役合わせて４３名が出席。池田重幸氏（昭和５６年・経済・札幌市東区市民部総務企画係長）の司会進行で、先ず田中会長の挨拶。続いて二度（４月・６月）の選挙で札幌市長に当選された上田文雄市長（昭和４７年・法）より本学先輩の故高田富与市長（大正１２年・法）の逸話の披露と市長選中の学員の温かい協力に対するお礼、今後も引き続き市役所白門会に対して協力要請の挨拶がありました。次いで和田支部長からは、支部事業運営に対するお礼と本学創立 １１２５周年記念プロジェクト事業に対する協力要請の挨拶がありました。総会の議事に入り、議案第１号：平成１４年度の事業報告、収支決算報告は原案通り承認。議案第２号：「中央大学創立１２５周年プロジエクト」事業への寄付については、平成１５年～１７年度の３年間で合計５０万円を目標に協力する旨提案され全員異議なく承認。次いで札幌市役所ＯＢの石林清（昭和２１年・法・札幌支部名誉支部長）の乾杯の音頭で懇親会に入りました。各テーブルでは日頃ご無沙汰している先輩への挨拶、名刺交換等も行われアルコールが入るにつれ会場の雰囲気も一段と盛り上がり、最後は全員で校歌、応援歌を合唱し、原口伸一氏（昭和３２年・法・札幌市議会議員）の締めの音頭で盛会の内和やかに終了。その後は恒例となっている２次会の会場へ三々五々連れ立って行きました。
			27	第 15 回ゴルフ大会の開催	オークウッドゴルフクラブおいて、午後１２時より開催、当日は西原幹事長以下１３名参加。注意事項説明後スタート、終了後表彰式を兼ね懇親会を行い、和気あいあいの内に散会。優勝は村木靖雄氏（昭和４３年・商・村木公認会計士事務所・アウト４４、イン４４）、準優勝は村上一元氏（昭和３９年・文・五英商事㈱・アウト３９、イン４４）、幹事長より優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与。尚今回は金井重博学員会副会長（昭和３８年・商・富士メガネ㈱代表表取締役会長）から景品の寄贈（清酒久保田の万寿・千寿）があり、優勝・準優勝の副賞としてそれぞれ贈呈した。又来る８月８日（金）開催の当支部総会・次回のゴルフ大会への参加を要請。
		8	2	中央大学父母連絡会札幌支部部総会への参加	北海道経済センター７階大会議室において開催の父母連絡会札幌支部定時総会へ西原幹事長が参加。当日は午後１２時３０分より総会の議事に入り、三宅支部長の挨拶に続いて「２００２年度の事業報告・決算報告、２００３年度の事業計画・予算・役員改選」が議案として審議承認。尚新支部長には、服部博友氏他新役員を選任。続いて星野智法学部教授から「大学の近況について」、次いで商学部事務室・谷聖子氏より「学業・学生生活について」のお話があり、終了後は希望者に対し個人相談も実施。
			5	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より和田支部長、籏本・出戸・奥岡副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議案第１号：平成１５年度支部定時総会・

					小樽支部との交歓会開催について、別添資料により西原幹事長より報告。小樽支部との交歓会については同支部より久田支部長以下１０名が参加予定であり、総会、交歓会のスケジュール全般、ご来賓の出席状況について報告し了承。その他として、和田支部長より中央大学本部より創立１２５周年記念プロジェクト事業に対する寄付金の還元支援金、７０万３，５００円にプラスして再度１００万円を贈呈してはとの提案があり、全員異議なく承認。尚、本件は総会に提案し承認を得ることで了承。
			8	平成 15 年度支部定時総会・小樽支部との交歓会の開催	当支部平成 15 年度定時総会・小樽支部との交歓会を去る８月８日（金）午後６時より京王プラザホテル札幌３階「雅の間」において開催。ご来賓に本学より阿部三郎理事長、学員会本部より大西保会長、随行員として学員会事務局より渋谷修次長、大学事務局総務部中村晋秘書課長、中大創立１２５周記念プロジェクト推進本部高橋輝義副本部長、同じくプロジェクト推進本部佐藤信昭部長をお迎えし、和田支部長以下９６名が出席。当日の司会進行は小泉笑美子（(有）ミュージック企画）さんに依頼。総会に先立ち和田支部長より「当支部の顧問でもあり、学員会副会長の金井重博氏（昭和３８年・商、㈱富士メガネ代表取締役社長）が、この度在札幌オーストリア名誉領事に就任。また春の叙勲に際し寺山敏保氏（昭和３１年・法）が勲４等旭日小綬章、伊藤大助氏（昭和１９年・経済・札幌農林㈱取締役）が勲６等単旭日小綬章、青木茂氏（昭和２９年・法・青木司法書士事務所所長）が黄綬褒章をそれぞれ受賞」旨報告がありました。続いて第一部の総会に移りました。議題第１号：平成１４年度事業報告並びに収支決算報告について。西原幹事長より別添資料により説明、全員異議なく承認。その他として本学創立１２５周年記念プロジェクト事業に対する寄付金の還元支援金７０万３，５００円が去る６月５日に大学本部より振り込まれ、この支援金にプラスして再度１００万円を贈呈したい旨提案し異議なく承認。第二部の卓話に移り、７月１８日付けで札幌地方裁判所所長を退官された三上英昭氏（昭和４２年・法）より「刑事裁判官としての思い出」と題し講演を頂く。三上氏は裁判官としてリクルート事件、オウム事件を担当され、その時の思い出話や事件の被告人に向き合う際の裁判官としての接し方、後輩への思い、自分の生き様、信条を淡々と語られ、氏の誠実が言葉の端々に伺われ出席者一同深く感銘しました。第３部の小樽支部との交歓会は小樽より１０名の参加者が出席され、金井学員会副会長、久田泰弘小樽支部長の挨拶に続いて辻哲也小樽副支部長の乾杯の音頭により懇親会に入りました。懇親会ではご来賓の阿部理事長より「大学の近況について並びに創立１２５周年記念事業について」、又大西学員会会長からは「学員会の近況について」の報告がありました。続いて久田小樽支部長より創立１２５周年記念事業に対する小樽支部としての寄付金を直接阿部理事長に贈呈しました。又、ご多忙の中この度、二度（４月・６月）の選挙で札幌市長に当選した学員の上田文雄氏（昭和４７･法）が入場し、和田支部長のご紹介に依り挨拶をされました。選挙中の学員の温かい協力に対してのお礼と今後も引き続き当支部に対する協力要請がありました。会場ではテーブル毎に着席の学員は、アルコールが入った所でお互いに名刺交換、記念のスナップ写真を撮ったり終始和やかな雰囲気の中で進行しました。次いで新規入会の会員紹介に移り、次の各氏が新会員となられました。 ・太田健介氏　　（昭和４９年･法）ネスレ日本㈱札幌支店長 ・小倉菜穂子氏　（昭和５４年･法）、 ・笠井猛氏　　（昭和４０年･法） ・小松諭知氏　　（平成１３年･法）札幌市 ・小沼肇子氏　　（平成１０年･法）小沼肇子事務所･札幌家裁調停員 ・相良昭夫氏　　（昭和４７年･法）㈱東急リゾートサービス北海道ブロック取締役 ・佐々木与三郎氏（昭和４５年･法）伊藤忠商事㈱北海道支社長 ・清水初巳氏　　（昭和４５年･法）日本郵政公社北海道監査本部長 ・藤田英明氏　　（昭和４２年･商） 総会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を全員で合唱。西塚道彦氏（昭和４２年・法・札幌市都市局市街地整備部課長職）のエールで阿部理事長、大西会長、上田札幌市長、久田小樽支部長、金井副会長、和田支部長、原口札幌市議会議員等９人が演壇に上がり、中には肩を組む者あり、手を繋ぐ者ありとそれぞれ全員が輪になり３番まで熱唱し、最後は籏本副支部長の万歳三唱で盛会のうち和やかに終了。尚、台風１０号が本道に接近中との予報もあり阿部理事長、大西会長等は終了後最終便の飛行機で帰京。その後、このまま名残惜しいという学員の希望最終便の飛行機で帰京。その後、このまま名残惜しいという学員の希望もあり、二次会のご案内をしたところ、高橋副本部長、辻小樽支部副支部長、和田支部長、籏本副支部長以下３９名に上田札幌市長も急遽参加。二次会場の「北海道時代」では、学員のパフォーマンス、カラオケ等で大盛況。当日は薄野祭りの最中でもあり終了後は、三々五々連れ立って三次会へと夜の街に流れていきました。
		9	25	第 16 回ゴルフ大会の開催	札幌東急ゴルフクラブにおいて午前９時３０分より開始。前日に２名の会員から欠席の連絡があり、当日は西原幹事長以下１０名参加し、注意事項の説明後スタート。競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行い、和気あいあいの内に散会。優勝は西山眞吾氏(昭和４１年・商・西山製麺㈱東４６　西４１)、準優勝は神田光雄氏(昭和４１年・商・KAN エージェンシー、東３９　西３７)。今回は趣向を凝らし賞品はくじ引きで行い、優勝者から順にクジを引いて貰い、引いた番号の賞品をそれぞれに授与。

		10	10	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より和田支部長、高田理事長、籏本副支部長、西原幹事長出席のもと開催。議題第１号：平成１５年度事業報告並びに収支決算報告について。別添資料により西原幹事長より報告承認。その他として、和田支部長より年末懇親会の日程を早目に決めてはとの提案がありました。予定は、１２月３日（水）、９日（火）１０日（水）、又懇親会の余興として、恒例となっているビンゴゲーム、その他に何か趣向をこらしてはとの提案があり、皆さんから夫々情報を頂く事で了承。
			26	中央大学父母連絡会札幌支部就職懇談会へ参加	父母連絡会札幌支部主催の「進路・就職懇談会」に当支部より西原副幹事長出席。当日は本学の３年生以下の在校生の父母５４名参加のもと開催。服部博友支部長の挨拶に続いて野口哲朗中央大学キャリアセンターキャリア支援課長より「最近の就職動向について」と題したお話がありました。次いで「道内の各企業の採用状況と求める学生像について」と題して７社の人事担当者から企業の就職説明会が行われました。深瀬聡氏（昭和５８年・商・㈱北洋銀行個人推進部主任調査役)、得能潔史氏（ホクレン農業協同組合連合会管理本部　人事部長)、花田政幸氏（昭和４７年・文・㈱北海道新聞社総務局次長)、柿本晃彦氏（北海道ビジネスオートメーション㈱経営管理本部人事部長)、池田敏博氏（伊藤組土建㈱　人事部人事課長)、村田拓哉氏（昭和６１年・経済・北海道電力㈱電源立地部火力水力グループ)、飯島寿之氏（平成３年・経済・札幌テレビ放送㈱ラジオ局編成制作部課長）等の担当者からそれぞれ会社概要・求人状況について説明があり、担当者の中には同窓のよしみで、採用に当っての裏話も聞くことができました。出席者の中には、釧路市等遠隔地からわざわざ参加され、大変参考になったと感謝されました。又、終了後は個人面談も実施。
			27	第 15 回ゴルフ大会の開催	前回に続いて相良明夫氏（昭和４７年・法・㈱東急リゾートサービス北海道ブロック取締役）のご配慮により札幌東急ゴルフクラブにおいて午前８時５０分より開催。当日は西原幹事長以下８名参加。注意事項の説明後スタート。競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行いました。今回も前回同様賞品はくじ引きで行い、優勝者から順にクジを引いて貰い、引いた番号の賞品をそれぞれに授与。優勝は竹内登紀彦氏(昭和３３年・商、西４６　中４７)、準優勝は今村勝行氏（昭和４０年・商、西４８　中４４)。１４回に続いて、今回も学員会金井重博副会長（昭和３８年・商、㈱富士メガネ代表取締役会長）より寄贈品（清酒　久保田の紅寿、越之寒梅）があり優勝・準優勝者にそれぞれ贈呈。又、来る１２月３日（水）開催の当支部年末懇親会への参加要請を依頼。
		12	3	支部年末懇親会の開催	例年であればすでに銀世界の札幌も、当日は零下２度と比較的に暖かく、市内中心部には一片の雪もない穏やかな日和の中、当支部年末懇親会を京王プラザホテル札幌３階「扇の間」において午後６時より開催。和田部長以下８１名が参加し、学員会本部よりご来賓として金井重博副会長がご出席。司会進行は（有）ミュージック企画の三塚洋美さんに依頼しました。懇親会に先立ち和田支部長よりご挨拶と報告を頂く。この度の秋の叙勲で末松正行氏（昭和３３年・法）が瑞宝小綬章を受賞され、原口伸一氏（昭和３２年・法・札幌市議会議員）が札幌市の市政功労者としてそれぞれ表彰を受けられた。続いてご来賓の金井学員会副会長より、去る１１月１７日の本学理事会で総長に外間寛本学名誉教授を選任。又本学学員会名誉会長で本学顧問の堂野達也先生が、満９９歳を迎えられ、１１月１３日（木）に「白寿をお祝いする会」が赤坂プリンスホテルで盛大に開催され、本学において日本人初となる名誉博士号の称号を授与。また来年４月に開講の本学法科大学院の概要等々についてもご報告頂き、併せて乾杯の音頭により懇親会に入りました。第一部は「ノース・サクソホン・クワルテット」による６０年代流行の名曲・ポップスサウンドの調べ…「プリーズ　ミスターポストマン」(カーペンターズ)、「プリーズ　プリーズ　プリーズ」(ビートルズ)、「青春の輝き」(カーペンターズ)、「踊りあかそう」「ゴスペルメドレー」「シング・シング･シング」の６曲を演奏。懇親会は終始和やかな雰囲気の中で行われテーブル毎に学員同士の名刺交換も行われました。続いて新規入会者の紹介がありました。 ・柳谷紀秀氏　（昭和４０年・理工）㈱じょうてつ常務取締役 ・長尾和宏氏　（平成８年・法）北海道総務部総務課 本会の目的は懇親会が主で、アルコールが入った所でビンゴゲームに移りました。目玉商品は「京王プラザホテル札幌」の提供によるペアー宿泊券と、他に全員に当るよう支部と同窓から寄贈品が寄せられました。「ビンゴ！」の掛け声で会場内の雰囲気も一気に盛り上がり、目玉の宿泊券は３人のジャンケンで櫻井義久氏（昭和５４年・理工、佐藤工業㈱札幌支店営業部門副部長）が獲得。また公務でご多忙の中、途中から参加の上田文雄札幌市長（昭和４７年・法)、この度の衆議院議員選挙で見事当選された小林千代美氏（平成４年・法）が入場され、それぞれご挨拶を頂きました。尚、年末懇親会景品の寄贈者は、太田健介氏（昭和４９年・法・ネスレ日本㈱札幌支店長)、堀江肇氏（昭和３９年・経、北海道キャンティーン㈱代表取締役社長)、大庭英敏氏（昭和５１年・商・㈱北洋銀行　札幌市役所支店長)、檜森聖一氏（昭和４５年・法・㈱北洋銀行　常務取締役)、廣川一彦氏（昭和４０年・法、道新サービスセンター代表取締役社長)、西山眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺㈱専務取締役)、服部博友氏（昭和５４年・理工、㈱エナジーフロンティア常務取締役)、金井重博氏（昭和３８年・商・㈱富士メガネ代表取締役会長、本学学員会副会長)、札幌市役所白門会。最後は全員で肩を組み、校歌・応援歌・惜別の歌をそれぞれ３番迄熱唱し、籏本副支部長の万歳三唱で盛会裡のうちに終了。
2004 年				ロースクール開校	ロースクール「法務研究科」開校。
	16	1	28	札幌市役所白門会新年会へ参加	午後６時１５分より、札幌サンプラザホテル４階「すずらんの間」において札幌市役所白門会

					新年会が開催され、奥岡文夫会長（昭和４７・法、札幌市教育委員会教育制度担当部長）以下３５名とＯＢ９名の計４４名が参加。 当支部より和田支部長、西原幹事長が出席。開会に先立ち奥岡会長は、挨拶の中で市役所における本学出身者の結束力と上田文雄札幌市長に対する協力を要請。又、和田支部長からは、最近札幌市役所を目指す本学の後輩が少ないと聞いているが、市役所現役並びにＯＢの皆様と札幌市を目指す後輩が増えていくよう協力していきたいとの挨拶がありました。次いで石林清氏（昭和２１年・法・札幌支部名誉支部長）より中大生らしさの公務員を目指して頑張って欲しいとのコメントと乾杯の音頭で懇親会に入りました。上田市長も途中から参加され今後も市政運営の中で市役所白門会に対し絶大なる協力を頂きたいとのご挨拶がありました。各テーブルでは、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶、職員同士の近況報告も行われ、アルコールが入るにつれて雰囲気も一段と盛り上がりました。最後は恒例となっている校歌・応援歌を全員で合唱し、原口伸一氏（昭和３２年・法・札幌市議会議員）の一本締めで、盛会のうち和やかに終了。その後は二次会の会場へ三々五々連れ立って行きました。
		4	13	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より和田支部長、籏本・奥岡副支部長、西原幹事長出席のもと開催。議題第１号：平成１５年度事業報告並びに収支決算について。幹事長より説明し了承。議案第２号：中央大学学員会副会長、協議員、幹事の推薦について。幹事長より、学員会本部より本年５月３１日をもって上記役員が任期満了となる為、当支部宛推薦の依頼があった旨説明し審議の結果、副会長については引き続き金井重博氏（昭和３８・商・㈱富士メガネ代表取締役会長）、協議員には工藤武久氏（昭和３６年・法・丸北三建工業㈱代表取締役社長）、又幹事については、籏本道男氏（昭和３５年･商･公認会計士･税理士旗本道男事務所所長）をそれぞれ推薦する事で了承。その他として平成１６年度支部総会を８月６日（金）１８：００から予定（場所：京王プラザホテル札幌）。又本学より創立１２５周年プロジェクト事業に対する寄付の還元支援金５０万円が振り込まれ、これにプラスして再度寄付金１００万円を贈呈してはとの提案があり全員異議なく承認。
		5	27	第 18 回ゴルフ大会の開催	最高気温２８度と５月にしては真夏並みの暑さの中で、午後１２時札幌エルムカントリークラブにおいて当支部のゴルフ大会を開催。当日は吉田功次郎会長（昭和２８年・法）以下１５名参加。注意事項の説明後スタート。競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行い、和気あいあいのうちに解散。優勝は溝渕新蔵氏(昭和３１年･法・アピアプリント㈱代表取締役会長、アウト４８　イン４８)。吉田会長より優勝者並びに入賞者全員に商品を授与。尚、今回も学員会副会長金井重博副会長（昭和３８年・商・富士メガネ代表取締役会長）より寄贈品（清酒　越之寒梅）があり優勝の副賞として渡しました。
		7	16	第 19 回ゴルフ大会の開催	札幌東急ゴルフクラブに午前１１時３０分集合。当日は３名の欠席があり西原幹事長以下１３名が参加し、注意事項の説明後、４組で午後１２時スタート。競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行い、次回は９月１２日（日）同クラブで開催する旨参加を呼びかけ、和気あいあいの内に散会。笠井猛氏(昭和４０年･法　西４２　中４２)、準優勝は今村勝行氏（昭和４０年･商　西４５　中４７)。尚、笠井氏は同時にベスグロも獲得。幹事長より優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与。前回同様、今回も学員会副会長金井重博氏（昭和３８年・商・富士メガネ代表取締役会長）より寄贈の清酒　越之寒梅を優勝者に副賞として授与。
			21	札幌市役所白門会納涼会の参加	連続真夏日が続いている最中、札幌サンプラザ２階「平安の間」において開催の札幌市役所白門会納涼会へ和田支部長、西原幹事長参加。当日は奥岡文夫会長（昭和４７年・法・札幌市教育委員会教育制度担当部長）以下ＯＢ・現役合わせて２７名出席。渡辺孝之氏（昭和５７年・法・札幌市中央区市民部地域振興課まちづくり担当係長）の司会進行で、先ず奥岡会長の挨拶。次いで市役所ＯＢの国安智明氏（昭和３８年・法）の乾杯の音頭で納涼会に入りました。又、公私共にご多忙の折柄、本会出席の為上田文雄市長も会議の途中から駆けつけ、市政を推進するに当って平素から市役所白門会の温かい協力に対するお礼と、札幌の良さを今後とも地域の住民と共に大切にしていきたい旨挨拶された。各テーブルでは日頃ご無沙汰している先輩への挨拶、名刺交換等も行われアルコールが入るにつれ会場の雰囲気も一段と盛り上がり、最後は全員で校歌、応援歌を合唱し、ＯＢの長部幸一氏（昭和３２年・法・大正オーデシト㈱顧問）の乾杯の音頭で盛会の内和やかに終了。その後は恒例となっている二次会の会場へ三々五々連れ立って行きました。
		8	3	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において午後１２時より和田支部長、籏本・奥岡副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議題第１号：平成１６年支部定時総会について。幹事長より別紙総会資料に基づき事業報告、収支決算報告について説明、了承。尚その他として当日のスケジュールとご来賓に大学本部より創立１２５周年記念プロジェクト推進本部の副本部長高橋輝義氏、同本部担当部長小林信武氏、学員会本部より会長の中山正暉氏、副会長の金井重博氏が出席。又小樽支部より久田泰弘支部長以下８名が懇親会より参加する旨報告、了承。

			6	平成 16 年度支部定時総会の開催・小樽支部との交歓会の開催	１０年振りの猛暑が続く最中、当支部平成１６年度定時総会を８月６日（金）午後６時より京王プラザホテル札幌２階「エミネンスホール」に於いて開催。ご来賓として学員会本部より中山正暉氏、金井重博副会長、大学本部より創立 125 周記念プロジェクト推進本部高橋輝義副本部長、同じくプロジェクト推進本部小林信武部長をお迎えし、和田支部長以下６６名が出席。当日の司会進行は昨年好評だった小泉笑美子（(有）ミュージック企画）さんに依頼。総会に先立ち和田支部長より挨拶と報告を頂く。この春の叙勲に際し、石川晋八郎氏（昭和３１年・法）が瑞宝章小綬章、長谷川隆博氏（昭和２５年･法）が瑞宝章双光章をそれぞれ受章された旨ご披露され、出席者全員拍手でもってお祝いをしました。続いて第一部の総会に移りました。議題第１号：平成１５年度事業報告並びに収支決算報告について。西原幹事長より別添の資料により説明し全員異議なく承認されました。 その他として本学創立１２５周年記念プロジェクト事業に対する寄付金の還元支援金５０万円が去る６月１７日大学本部より振り込まれ、この支援金にプラスして再度、当支部の寄付金として１００万円を贈呈したい旨提案し異議なく承認されました。第二部の懇親会に入る前に小樽支部より久田泰弘支部長以下８名が出席し全員拍手で迎えられ宴席に着きました。金井学員会副会長のご挨拶に続いて、ご来賓の紹介があり、代表として中山学員会会長よりご挨拶を頂きました。会長からはご自身の自己紹介と国会議員当時の政界や北海道選出国会議員の裏話等、興味の尽きないお話と、学員会の近況並びに学員会への協力要請がありました。続いて久田小樽支部長の乾杯の音頭により懇親会に入りました。懇親会ではご来賓の高橋プロジェクト推進本部副本部長により創立１２５周年記念事業に対する協力のお礼と事業経過の報告がありました。会場ではテーブル毎に着席の学員がアルコールが入った所でお互いに名刺交換、記念のスナップ写真を撮ったり終始和やかな雰囲気の中で進行。次いで新規入会の会員紹介がありました。 ・服部忠良氏　（昭和３３年・商）（有）三共緑地開発　代表取締役 ・小松直喜氏　（昭和４４年・法）㈱札幌リゾート開発公社　代表取締役社長 総会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を全員で合唱。中山会長、金井副会長、久田小樽支部長、和田支部長等々が演壇に上がり、校歌・応援歌は３番までフルコーラスで熱唱し、惜別の歌に至っては全員が輪になって肩を組む者、手を繋ぐ者、誰もが過ぎし青春時代へ思いを馳せている様子でした。最後は関口正雄小樽支部幹事長（昭和４７年・法、関口法律事務所所長）の閉会の挨拶で和やかに終了。当日は毎年恒例となっている薄野祭りの最中でもあり、三々五々連れ立って二次会へと夜の街に流れていきました。
		9	12	第 20 回ゴルフ大会の開催	前回に続いて相良明夫氏（昭和４７・法、㈱東急リゾートサービス北海道ブロック取締役）のご配慮で札幌東急ゴルフクラブにおいて午前１１時より開催。当日は秋晴れの絶好のゴルフ日和に恵まれ、金井重博学員会副会長以下２４名参加。当初２７名の申込が台風１８号の影響で３名欠席となり１１時３０分スタート。今回は第２０回の記念大会ということで多数の出席者があり盛会でした。競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行い和気あいあいの内に散会。優勝は溝渕新蔵氏（昭和３１年・法・アピアプリント㈱代表取締役会長中４９　東４５）で優勝カップと副賞に金井副会長より寄贈の品（清酒・久保田万寿）を授与されました。準優勝は青木宜久氏（昭和４２年・経済・東洋警備保障㈱取締役副社長、西４２　中４５）、３位は服部忠良氏（昭和３３年・商・(有）三共緑地開発代表取締役、西４１　中３８）。尚、ベスグロは奥岡文夫氏（昭和４７年・法・札幌市教育委員会教育制度担当部長、西３８　中４０）が獲得しました。以下全員に金井副会長より賞品を授与。尚、記念大会ということで下記の先輩の方々から景品のご寄贈を頂きました。長沼昭氏（昭和３６年・土・㈱ドーコン専務取締役)、金井重博氏（昭和３８年・商・㈱富士メガネ代表取締役会長)、檜森聖一氏（昭和４５年・法・㈱北洋銀行　常務取締役)、白石重昭氏（昭和４２年・法・札幌テレビ放送㈱代表取締役社長)、高橋恭平氏（昭和４８年・理工・㈱タカラ常務取締役)、上田文雄氏（昭和４７年・法・札幌市長)、西山眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺㈱専務取締役)、相良明夫氏（昭和４７年・法・㈱東急リゾートサービス北海道ブロック取締役・統括総支配人）
		10	31	中央大学父母連絡会札幌支部就職セミナーへ参加	北海道経済センター７階大会議室において開催の父母連絡会札幌支部主催の「就職セミナー」へ当支部より西原幹事長が参加。当日は本学の３年生以下の父母が６３名参加のもと開催。旭川、帯広、湧別町、美深町等遠隔地から６名の父母が参加されました。午後１時３０分より米沢健治支部長の挨拶に続いて、大澤雅範中央大学学事部父母連絡会事務室長より「最近の就職動向」についてのお話があり、次いで「道内各企業の採用状況と求める学生像について」と題して７社の人事担当者から企業の概要と採用状況について、各社２０分程度のお話がありました。ご出席の人事担当者は下記の通りです。角田純氏（６１年・法、㈱北洋銀行札幌南支店次長)、柿本晃彦氏（㈱HBA 経営管理本部人事部長)、三浦英典氏（㈱北海道新聞社　総務局人事部部長)、土屋和博氏（ホクレン農業協同組合連合会人事課)、高橋章氏（平成 1 年・法、北海道電力㈱広報部報道グループ)、石本桂一氏（平成５年・法・札幌テレビ放送㈱ラジオ局営業部)。
		11	9	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室に於いて、午後１２時より和田支部長、高田理事長、籏本副支部長・西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。議案第１号：平成１６年度上期事業報告並びに収支決算報告について別紙資料に基づき西原幹事長より報告・了承。議案第２号：支部年末懇親会について来る１２月１０日(金)午後６時より京王プラザホテル札幌を予定。議案第３号：支部ホームページの開設について西原幹事長より別紙資料に基づき説明する、支部ホームペ

					ージ開設に伴う経費(初期費用として１９万円・ドメイン使用料として年間１５，０００円・サーバースペースレンタル料として年間４８，０００円)審議・了承。
		12	10	支部年末懇親会の開催	当支部年末懇親会が、１０日午後６時から、札幌市中央区の京王プラザホテル札幌の２階「エミネンスホール」において午後６時より開催されました。年の瀬も近づき、忙しい最中にもかかわらず、和田支部長以下７０名の会員が出席しました。約２時間、お互いに近況を語り合いながら、母校の更なる発展へ向けて奮闘を誓い合いました。和田支部長から「あっという間の１年でした。皆さんは母校をこよなく愛する方々。楽しい会にして欲しい」と開会の挨拶があり、東都大学野球リーグ戦で野球部の２５年振りの優勝、アメフト部の関東大学選手権Ｂブロックでの優勝を紹介し、「母校の活躍をうれしく思う」と述べると、期せずして出席者から大きな拍手が起きました。上田文雄札幌市長(昭和４７年・法)も駆けつけ、「市長になって１年半を迎えました。改革は難しいが、安全・安心の札幌市をつくりたい。今後ともアドバイスをお願いします。」と札幌市政への支援を呼びかけました。続いて学員会副会長で、㈱富士メガネ代表取締役会長の金井重博氏(昭和３８年・商)が「オーストリア観光あれこれ」と題して講演されました。金井氏は在札幌オーストリア名誉領事も務めており、スライドで同国の街並みを紹介しながら,「オーストリアと北海道は広さがほぼ同じ。観光客を誘致し、冬が長いし、農産物も北海道と似ているし、いろいろな点で学ぶべきところが多い。」とオーストリアと北海道の交流発展を訴えました㈱富士メガネは本年１０月に、難民にメガネを贈る活動が認められ、朝日新聞社の「第１回朝日企業市民賞」を受賞されております。 懇親会は、高田照市理事長(昭和３８年・法)の乾杯で始まり、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿がテーブルのあちこちで見受けられました。しばらくして、小林千代美・衆議院議員(平成４年・法)が壇上に立ち、「中大出身の国会議員は現在４７人で４番目に多い。私はその中で２番目に若いが、先輩の皆さんに見守られながら頑張っていきたい。」と決意を述べられました。次いで新規入会者の紹介があり下記の４名が会員となられました。 ・荒谷守一氏　(昭和６２年・経済) 札幌グランドホテル人事課長 ・板垣博之氏　(昭和６３年・文) ㈱毎日新聞北海道支社報道部 ・砂川利行氏　(昭和６２年・経済) 来年１月に事務受託会社設立予定 ・田中史人氏　(平成１５年・商学研究科博士後期課程修了) 北海学園大学経営学部専任講師 恒例のビンゴ大会は酔いが回ったためか、なかなかビンゴが出ませんでしたが、１等の京王プラザホテル札幌のペアー宿泊券は山本祥一氏(昭和５５年・法・札幌市議会事務局調査担当課長)が獲得しました。 続いて「校歌・応援歌・惜別の歌」を出席者全員で肩を組み、「中央の名よ光あれ、力、力、中央、中央」などと熱唱すると、たちまち会場は大学時代さながらの雰囲気に・・・・、学員の心は大学生そのもの・・・と、そんな熱気に包まれました。最後に籏本道男副支部長(昭和３５年・商) の音頭で万歳三唱し今年の支部活動を締めました。尚、ビンゴ大会の景品などは以下の方々からご寄贈して頂きました。 ・小松直喜氏　(昭和４４年・法) ㈱札幌リゾート開発公社代表取締役 ・廣川一彦氏　(昭和４0 年・法) ㈱道新サービスセンター代表取締役社長 ・檜森聖一氏　(昭和４５年・法) ㈱北洋銀行常務取締役 ・大庭英敏氏　(昭和５１年・商) ㈱北洋銀行札幌市役所支店長 ・吉田守利氏　(昭和４９年・法) 北海道電力㈱広報部長 ・田代信一氏　(昭和５６年・文) ㈱京王プラザホテル札幌管理部副部長 ・札幌市役所白門会
2005 年	17	1	31	札幌市役所白門会新年会へ参加	ホテル札幌ガーデンパレス４階「すずらんの間」煮於いて午後６時１５分から開催の札幌市役所白門会新年会が開催され、当支部より和田支部長、西原幹事長が出席。司会進行は渡辺孝之氏（昭和５７年・法、札幌市中央区市民部地域振興課まちづくり担当係長）が担当し、奥岡文夫会長（昭和４７年・法、札幌市子ども未来局部長）以下１８名とＯＢ７名が参加。　開会に先立ち奥岡会長、続いて和田支部の挨拶、石林清氏（昭和２１年・法・ＮＰＯ法人北海道地域文化保存振興会協会理事長）の乾杯の音頭で懇親会に入りました。各テーブルでは、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶、職員同士の近況報告も行われました。司会の渡辺氏から平成１６年度の係長職登用試験に合格した森肇氏（平成３年・商、中央区役所市民部総務企画課選挙係）紹介があり出席者全員拍手でもってお祝いしました。アルコールが入るにつれて会場の雰囲気も一段と盛り上がり、最後は恒例となっている校歌・応援歌をそれぞれ肩を組み、手を取り合い学生時代に戻った感じで三番まで熱唱しました。　最後の締めは、原口伸一氏（昭和３２年・法、札幌市議会議員）の音頭により万歳三唱で終了。その後同ホテルの地下１階「蝦天庵」に会場を移し、二次会を行い盛会の内和やかに終了しました。
		5	30	第 19 回ゴルフ大会の開催	札幌エルムカントリークラブに於いて午後１２時集合。 当日は１名の欠席があり、吉田 功次郎会長（昭和２８年・法）以下２１名の参加がありました。笠井 猛氏（昭和４０年・法）より注意事項の説明があり、西コースのアウト・インにそれぞれ３組ずつ分かれ、午後１２時４８分にスタート。競技終了後、表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は村上 一元氏（昭和３９年・ 文・五英商事（株）アウト４５　イン４６）。準優勝は西山 眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺（株）アウト４３　イン４１）。尚、西山氏は同時にベスグロ賞も獲得しました。吉田会長より優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与しました。

					今回も学員会副会長 金井 重博氏（昭和３８年・商・(株）富士メガネ 代表取締役会長）よりご寄贈の清酒「久保田 万寿」はベスグロ賞として西山氏に授与されました。尚、次回は７月３０日（土）オークウッドゴルフクラブに於いて午後１２時スタートする旨参加を呼びかけ、和気あいあいの内に散会しました。
		6	9	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室に於いて、午後１２時より和田支部長、籏本・奥岡副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。 ・議案第１号：平成１６年度事業報告並びに収支決算報告について 西原幹事長より別添資料に基づき報告、了承されました。 ・議案第２号：平成１７年度支部総会の開催について 開催日時：８月５日（金)・１８：００ 開催場所：札幌グランドホテル３階「銀扇の間」 その他として、空席となっていた副支部長に広川 一彦氏（昭和４０年 法・(株）道新サービスセンター代表取締役社長）を選任する事で了承されました。
		7	21	札幌市役所白門会納涼会への参加	連日、暑さが続いている最中、午後６時１５分よりホテルガーデンパレス４階「高砂の間」にて、札幌市役所白門会納涼会が開催され、和田支部長が参加致しました。奥岡 文夫会長（昭和４７年法・子ども未来局子ども育成部長）以下ＯＢと現役を合わせて２８名出席。 渡辺 孝之氏（昭和５７年・法 ・札幌市中央区市民部地域振興まちづくり担当係長）の司会のもと、まず奥岡会長が挨拶に立ち、続いて上田文夫市長もご多忙の中駆けつけ、市政への理解と協力に対してお礼の挨拶がありました。その後、和田支部長から支部事業運営に対するお礼の言葉があり、原口 伸一氏（昭和３２年・法・札幌市議会議員）の乾杯で始まった宴会は大いに盛り上がり、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶や近況報告など笑顔で交わされていました。また、この日は任期満了による新役員の選出が行われました。 新会長には三輪 潤氏（昭和４８年・ 法・札幌市観光文化局観光部課長職・国際プラザ派遣)、副会長は山本 祥一氏（昭和４９ 年・法・札幌市議会事務局総務課調査担当課長)、幹事長には知野 学氏（平成３年・ 法・札幌市総務局秘書部秘書課秘書係長)、幹事には星田 剛氏（平成１１年・法 ・札幌市財政局財政部財政課予算係)、押切 栄人氏（平成１１年 ・文・札幌市総務局職員部人事課調査係）がそれぞれ選ばれ、新役員への励ましの声援と、今回で任期満了の役員へ労いの言葉が掛けられていました。 最後に恒例の校歌と応援歌の大合唱があり、締めは大先輩の石林清氏（昭和２１年・法・ＮＰＯ北海道地域文化保存振興協会理事長）による乾杯の音頭で、盛会のうち和やかに終了し、散会となりました。二次会も多くの方が連れ立って行き、さらに盛り上がり、皆にとって楽しい夜となったようです。
			30	第 20 回ゴルフ大会の開催	オークウッドゴルフクラブに於いて午前１１時３０分集合。 連日の暑さの続く中、吉田会長（昭和２８年・法）以下１７名の参加がありました。 注意事項の説明の後、アウト・インそれぞれに分かれ午後１２時スタート。 競技終了後、表彰式を兼ね懇親会を行いました。 今回の優勝は飯部 紀昭氏（昭和３９ 年・法・道都大学 アウト４５ イン４２)、準優勝は西山 眞吾氏（昭和４１年・法・西山製麺（株）アウト４２ イン４６）又、ベスグロ賞は川崎 毅一郎氏（昭和３９年・ 商・川崎・水野公認会計士事務所 アウト４２ イン４２）が獲得、吉田会長より優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与し、次回も全員参加するよう呼びかけがあり、和気あいあいの内に散会しました。
		8	5	平成17年度支部定時総会の開催	この夏一番の暑さの中、平成１７年度定時総会を午後６時より、札幌グランドホテル３階「銀扇の間」において、ご来賓に大学本部より外間 寛総長、学員会本部より神谷 咸吉郎副会長、金井 重博副会長（(株）富士メガネ代表取締役会長)、中大創立１２５周年記念プロジェクト推進本部 小林 信武担当部長、随行員として大学事務局総務部 松原 敏隆担当課長をお迎えし、和田支部長以下７０名が出席し開催されました。 当日の司会進行は昨年好評だった小泉 笑美子（(有）ミュージック企画）さんに依頼しました。総会に先立ち、和田支部長のご挨拶に続いて第一部の総会に入りました。 ・第一号議案：平成１６年度事業報告並びに収支決算報告について 西原幹事長より、別添の資料に基づき説明、全員異議なく了承されました。 ・第二部の卓話に移り、志村 邦彦氏（昭和３５年・法）より「札幌三十五会活動１００回を超えて」と題して、講演を頂きました。 志村氏は「今回で会活動は１０２回目になりました。本会は昭和 54 年に発足し、最初はただひたすら飲んで食べて、会員同志のコミュニケーションを図る目的で、年に４回（４月、７月、１０月、１月）例会を持ち、親睦を深めて来ました。その後、旅行会も企画し、益々結束力も強まりました。同期の仲間との懇親を深めること、青春のある時代を共に過ごしたという連帯感、母校愛も育まれました。私はこの活動に参加することにより、価値ある人生を価値あるものとしてとらえ、今後も末永く会が続くよう努力して参りたい。そして中央大学を卒業したことに感謝したい。」と結ばれました。 ・第３部は金井副会長のご挨拶と、乾杯の音頭により懇親会に入りました。 ご来賓の外間総長より、創立１２５周年記念事業の推進並びに中央大学に対するご支援・ご協

					力のお礼と、次のようなご挨拶も頂きました。 「北海道には、就任後初めて訪問しましたが、学員の皆様のお元気な様子を拝見して、大変嬉しく思います。これまで各地の学員会・支部総会に出席したことがありますが、その度に、卒業後何年経っても、学員が母校に対して、熱い思いを持ち続けていることに大きな感動を受けました。札幌に参りまして、その思いを一層、強くしております。又、今年の６月には白門市長会の設立総会が東京で開催され、全国各地区から４０名の市長さんが出席し、札幌から上田市長も出席されておりました。今後とも、大学の発展の状況、そして、発展のために重ねられている努力の状況を絶えずお知らせして、大学への理解を深めて頂くことにしたいと思います。」 又、神谷副会長からは「学生を増やすための、推薦制度を導入する必要があり、そのためには、入学試験制度の改正も必要であります。本校の卒業生で、まだ学員会に入会していない著名人への入会の呼びかけもして参りたい。来る１０月２３日に開催されるホームカミングデーは、昨年、参加者は３０００名位集まりましたが、本年は５０００名を目標に努力しております。札幌からも多数ご参加下さい。」との要請もありました。 小林担当部長からは、「中央大学は一般的に社会受けをしない所がありますが、今年の箱根駅伝においては、序盤に苦しい展開になりながらも、這い上がっていく力強さ・根性を見せ、総合４位の結果を残しました。本校が日本一の大学、世界に存在ある大学にするには、大学関係者ばかりでなく卒業された学員が、社会においてそれぞれ努力し、活躍することが中央大学の存在感を高めることになるものと思います。又、１２５周年記念事業の寄付については、札幌支部にお世話になっておりますが、幅広く裾野を拡げるため、もう一押しのご協力を頂きたい。」旨ご挨拶がありました。 会場では、テーブル毎に着席の学員が、アルコールの入った所でお互いに名刺交換等々終始和やかな雰囲気の中で進行されました。途中で小林千代美・衆議院議員（平成４年・法）が壇上に立ち、平素のご支援とご協力にお礼を述べられました。 次いで恒例となっている新規入会の会員紹介があり下記の２名が会員になられました。 ・鳴海 信也氏　（昭和５６年・経済）AIG エジソン生命保険（株）札幌営業所 ・呂 全禄氏　（昭和 62 年・商）善合グループ代表のお二人が入会されました。 呂氏は台湾のご出身で、同グループの代表者として旅行代理店を経営しており、北海道営業所を開設し、本道の観光産業の振興に貢献しておられます。 又、この６月より（株）北海道フットボールクラブ（コンサドーレ札幌）の代表取締役社長となられた児玉 芳明氏（昭和３４年 ・法）からは「コンサドーレ札幌は、スポーツを通じて本道の青少年の健全なる発達・育成に寄与しておりますが、プロスポーツですので、勝たなければならないという使命があります。ついてはコンサドーレ札幌を応援し、試合観戦を是非お願いしたい。」との要請もありました。 総会の最後は、恒例となっている校歌・応援歌・惜別の唄を全員で合唱。外間総長、神谷副会長、金井副会長、和田支部長、小林衆議院議員、小林担当部長等々が演壇に上がり、校歌・応援歌を３番迄フルコーラスで熱唱。惜別の歌に至っては全員が輪になって肩を組む者、手を繋ぐ者、誰もが過ぎし青春時代へ思いを馳せている様子でした。 最後は渋谷幹男氏（昭和３６年法・司法書士渋谷幹男事務所・三十六会札幌支部長）より「「惜別の歌」は三番の歌詞が一番好きで、我が青春時代を思い出します！卒業してから４４年経っておりますが、心は何時も青春です！中央大学は今後とも文武両道で頑張って欲しい。」とのご挨拶と、万歳三唱で盛会裡のうち和やかに終了しました。 当日は毎年恒例となっている「薄野祭り」の最中でもあり、三々五々連れ立って二次会へと夜の街へと流れて行きました。
		9	19	第 21 回ゴルフ大会の開催	本年度最後のゴルフ大会は、秋晴れの絶好のゴルフ日和に恵まれ、オークウッドゴルフクラブに於いて吉田会長以下１３名参加のもと開催。注意事項の説明後、１１時３０分にスタート。優勝は川崎 毅一郎氏（昭和３９年 商・川崎・水野公認会計士事務所アウト４５ イン４２）。準優勝は吉田 功次郎氏（昭和２８年・ 法・アウト５４ イン５０）。尚、ベスグロ賞は優勝の川崎氏が獲得されました。 今回景品として金井 重博氏（昭和３８年 商・（株）富士メガネ代表取締役会長）よりご寄贈頂いた清酒「 久保田 万寿」は優勝者へ、ブービー賞・ブービーメーカー賞の賞品は西山 眞吾氏（昭和４１年 商・西山製麺（株））よりご寄贈頂き、それぞれ授与されました。 競技終了後は、恒例に依り表彰式を兼ね懇親会を行い、来年の再会を期して和気あいあいの内に散会しました。 尚、溝渕 新蔵氏（昭和３１年 法・アピアプリント（株）代表取締役会長）より参加者全員に、自社で製作した中大のロゴ入りＴシャツの寄贈がありました。
		10	16	「中央大学父母連絡会就職情報セミナー」への参加	「札幌すみれホテル」３階に於いて、父母連絡会札幌支部主催の「就職情報セミナー」へ当支部より西原幹事長が出席。当日は、本学に在校している３年生以下の父母５９名が参加されました。 当日午後１時３０分より、佐々木 忠則支部長の挨拶に続いて、大澤 雅範中央大学学事部父母連絡会事務室長より「最近の就職動向について」と題したセミナーが行われました。キャリアセンターの活用、２００５年３月卒業生の進路決定状況、２００６年３月卒業見込み者への求人及

					び内定状況、就職活動の進め方としての自己分析、業界・企業研究の必要性等々についてお話を頂きました。 　続いて「道内の各企業の採用状況と求める学生像について」と題して６社の人事担当者から、各社の概要と採用状況について、それぞれ２０分程度のお話がありました。 　ご出席の担当者は下記の方々です。 ・後藤 尚志氏　（昭和５７年 商）（株）北洋銀行公務金融部公務金融課主任調査役 ・川人 正善氏　（株）北海道新聞社総務局人事部長 ・鎌田 嘉人氏　（株）ＨＢＡ経営管理本部人事部人事課長 ・信平 章克氏　 伊藤組土建（株）人事部人事担当課長 ・橋 章氏　（平成元年 法）北海道電力（株）広報部報道グループ副主幹 ・今田 光春氏　（昭和５５年 法）札幌テレビ放送（株）報道制作局局次長
		10	28	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室に於いて、午後１２時より和田支部長、高田理事長、籏本・廣川・三輪副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催しました。 議案第１号：平成１７年度上期事業報告並びに収支決算報告について 　　西原幹事長より別添資料に基づき報告了承されました。 議案第２号：支部年末懇親会の開催について 　　開催日時･･･平成１７年１２月６日（火）１８：００～ 　　開催場所･･･京王プラザホテル札幌　３階「扇の間」
		12	6	支部年末懇親会の開催	師走に入り、札幌は例年になく雪の少ない毎日が続く中、当支部の年末懇親会が午後６時から、今年リニューアルされた「京王プラザホテル札幌」の３階「扇の間」において、和田 支部長（昭和３５年・法・ 和田丈夫法律事務所）以下７７名の会員が集い開かれました。 　冒頭、和田支部長より日頃の支部事業に対するご協力のお礼と、本学の理事長・学長選挙に関して報告がありました。新理事長には鈴木敏文氏（(株) セヴンアンドアイ・ホールディングス 代表取締役会長：ＣＥＯ)、新学長には永井和之氏がそれぞれ選任され、総長は永井学長が兼務されることになった旨報告がありました。 　続いて「アイヌと世界の先住民族」と題する卓話に入りました。講師に飯部 紀昭氏（昭和３９年・法・道都大学美術学部教授）をお迎えし、以下のような内容のお話を頂きました。 『先住民族とは文字通り先に住んでいた民族を言い、ある国では長い間、少数派の異民族はただ単に「少数民族」ととらえられてきました。 　１９７０年代からは、ある民族が合意や自由意志で国家に統合された場合は「少数民族」、合意なく土地や資源、自由権などを奪われ、支配されたケースは「先住民族」と位置づけられ、アイヌ民族の場合は国際社会ではっきりと先住民族であることを表明しています。 　アイヌ民族の起源については諸説ありますが、梅原 猛、埴原 和郎氏などは「日本には古モンゴロイド的特質を持った縄文人がおり、それが小進化を遂げて現在のアイヌになり、一方、和人の方は外来の農耕民が入ってそれと混血し、小進化を遂げて現在の日本人になった。」という見方で一致しています。アイヌ民族は北海道の開拓以前に先住し、 イ）独特の言語、文化を持つ民族であります。 ロ）記録としてはほぼ１２世紀ごろアイヌ文化が確立したといわれています。 ハ）アイヌは狩猟や漁労、採集の生活を営み、ユーカラという素晴らしい伝承文学やアイヌ語、昔話、歌や踊りを今に伝えています。 ニ）北米、カナダのインディアン、北欧のサーミ民族などもアイヌとの共通の歴史を持ち独特の文化があります。』お話を拝聴しながら、札幌に住む私達にとってもアイヌ民族の問題は身近な事でもあり、改めて関心をもって考えなければならない。と、そんな感想を持ちました。第２部は吉田功次郎氏（昭和２８年・法 ・オークウッドゴルフクラブ理事長）の乾杯の音頭により懇親会に入りました。司会は田代信一氏（昭和５６年・文・(株) 京王プラザホテル札幌総務部副部長）と重森健一氏（平成４年・法・(株) 京王プラザホテル札幌宴会料飲部 宴会料飲予約担当係長）のお二人に進行をお願いしました。 　冒頭、新規入会者の紹介があり、今回６名が新会員として入会されました。全員が壇上にあがり、それぞれ自己紹介をかね５分程の自己ＰＲをお願いしました。 新規入会者は次の方々です。 ・上野 美和氏　（平成１６年・法）日興コーディアル証券（株）札幌支店 ・芹田 武氏　（平成１０年・文 ）北海道札幌方面札幌南警察署 ・中野 充氏　（平成８年・商 ）第四銀行札幌支店 ・佐藤 剛之氏　（平成７年・経済 ）北海道漁業（協）連合会道央営業所 ・窪田 克彦氏　（昭和６３年・法 ）(株) 東京リーガルマインド札幌支社 ・飯森 宣博氏　（昭和５６年・文 ）北海道滝上高等学校 　懇親会は終始和やかな雰囲気で行われ、テーブル毎に学員同志名刺の交換も行われました。本会の目的は懇親が主で、アルコールが入った所でビンゴゲームに移りました。 目玉商品は（株）北海道フッドボールクラブ提供による「コンサドーレ札幌のユニフォームのレプリカ」２点、三井観光開発（株）札幌グランドホテル提供による「ホテルゆもと」のペアー宿泊券、他に出席者全員に当たるよう支部と同窓から寄贈品が寄せられました。

					「ビンゴ！」の掛け声で会場内の雰囲気も一気に盛り上がり、目玉のコンサドーレのレプリカは窪田克彦氏（昭和６３年･法･㈱東京リーガルマインド札幌支社）と有馬清喜氏（昭和３８年・文・ みんなでつくる札幌市民の会事務局 事務総長）が獲得し「京王プラザホテル札幌」のペアー宿泊券は品田康博氏（昭和４０年・経済 札幌警備（株）総括本部長）が獲得しました。 尚、景品の寄贈者は下記の方々です。 ・廣川 一彦氏　（昭和４０年・法 ）（株）道新サービスセンター 代表取締役社長 ・荒谷 守一氏　（昭和６２年・経済）　三井観光開発（株）札幌グランドホテル人事課長 ・髙橋 章氏　（平成元・法 ）北海道電力（株）広報部報道グループ副主幹 ・鳴海 信也氏　（昭和５６年・経済）　ＡＩＧエジソン生命保険（株） ・猪野 正則氏　（昭和６１年・商 ）西松建設（株）札幌支店 営業課部長 ・児玉 芳明氏　（昭和３４年・法）（株）北海道フッドボールクラブ 代表取締役社長 ・田代 信一氏　（昭和５６年・文）（株）京王プラザホテル札幌 総務部副部長 ・重森 健一氏　（平成４年・法）（株）京王プラザホテル札幌宴会料飲部宴会料飲予約担当係長） ・檜森 聖一氏　（昭和４５年・法 ）（株）北洋銀行 常務取締役） また師走の繁忙期の中、仕事の途中から駆けつけた新規入会の小澤篤史氏（平成１１年･法（株）みずほ銀行札幌支店）の紹介に続いて、髙田照市理事長（昭和３８年・法 髙田法律事務所）から閉会の挨拶がありました。 最後は、会恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を全員で手を繋ぎ、なかには肩を組む等三番まで熱唱し、盛会裡のうち終了しました。
2006 年	18	1	31	札幌市役所白門会新年会への参加	午後６時１５分より札幌ガーデンパレス４階「高砂」に於いて、札幌市役所白門会新年会が開催されました。 司会は知野学 氏（平成３年・法・札幌市総務局秘書部秘書課秘書係長）が担当し、三輪潤会長（昭和４８年・法・（財）札幌国際プラザ コンベンションビューロー部長）以下２０名に OB 会員６名の計２６名が参加しました。当支部より和田支部長、西原幹事長が出席しました。開会に先立ち三輪会長、和田支部長の挨拶に続いて、石林清氏（昭和２１年・法・NPO 北海道地域文化保存振興協会理事長）の乾杯の音頭で懇親会に入りました。 また、ご来賓として出席の金井重博 氏（昭和３８年・商・（株）富士メガネ代表取締役会長・本学学員会副会長）からは、中央大学理事長等の役員選挙にまつわる経緯について報告がありました。ご多忙の中、上田札幌市長も途中から駆けつけ、日頃のご協力に対するお礼の挨拶がありました。 また、各テーブルでは日頃ご無沙汰している先輩への挨拶、職員同志の近況報告も行われました。アルコールが入るにつれ雰囲気も一段と盛り上がり、最後は恒例となっている校歌、応援歌、惜別の歌をそれぞれ肩を組んだり、手を取り合い学生時代に戻った感じで全員三番まで熱唱しました。締めは原口伸一 氏（昭和３２・法・札幌市議会議員）の１本締めで和やかに終了しました。 その後２次会会場を同ホテル地下１階「蛯天庵」に移し、三輪会長以下１５名が参加し盛会のうち終了解散しました。
		3	7	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室において、午後１２時より和田支部長、籏本・廣川・三輪副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催致しました。 議案第１号：平成１７年度事業報告並びに収支決算報告について 西原幹事長より別添資料に基づき報告、了承されました。 議案第２号：支部ホームページの開設について 平成１６年１１月２日開催の三役会で、既に承認済の懸案事項「支部ホームページ」がこの度完成の旨、西原幹事長より報告がありました。 パソコンよりスナップ写真もプリントし、画面上から支部の活動状況・事業報告等について見て頂き了承されました。
		5	25	第 22 回ゴルフ大会の開催	本年度第１回目の支部ゴルフ大会は、五月晴れの中、札幌エルムカントリークラブにおいて開催されました。吉田　功次郎会長（昭和２８年・法）以下１３名の参加がありました。 当日は平日にもかかわらず何組かのコンペが入っており、竹花　明氏（昭和４６年・商・前田建設工業(株)北海道支店）の注意事項の説明後、３０分遅れて午後１２時４０分スタート。競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会を行いました。 優勝は中山　正治氏（旧姓　柳森　昭和３９年・法・フジサービス(株)　アウト４６　イン４６）、準優勝、ベストグロス賞は西山　眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺(株)　アウト４４　イン４０）が獲得しました。 吉田会長より、優勝者並びに入賞者全員にそれぞれ賞品を授与しました。今回景品として金井重博氏（昭和３９年・商・(株)富士メガネ名誉会長・本学学員会副会長）よりご寄贈の清酒「久保田　万寿」は優勝者へ、又、竹花　明氏からの焼酎は入賞者へ授与しました。尚、次回は７月２９日（土）オークウッドゴルフクラブにおいて、午前１１時３０分スタートする旨参加を呼びかけ、和気あいあいのうちに散会しました。
		6	25	中央大学父母連絡会札幌支部第 20 回定時総会並びに父母懇談会	すみれホテル３階「ヴィオレ」において、父母連絡会札幌支部定時総会・父母懇談会が開催され、西原幹事長出席。

				へ出席	当日は午後１２時３０分より総会の議事に入り、佐々木支部長の挨拶に続いて「２００５年度事業報告・収支決算報告・２００６年度事業計画・収支予算・役員改選」が議事として審議され、新支部長に舘小路　公士氏他新役員が選任されました。 引き続いて午後１時１０分より父母懇談会が開催され、宇野　茂彦文学部教授より「大学の近況について」、次いで大澤　雅範学事部父母連絡会事務室長より「学業・学生生活について」、勝信樹キャリアセンター担当副部長からは「進路・就職について」それぞれお話があり、終了後は希望者に対して個人相談会も実施されました。 一年生については東京での生活、２年生以上には１年間の成績結果を個人面談の形で行われ、今回は７０名の父兄が参加されました。
		7	9	第 49 回札幌国際ハーフマラソンへ応援参加	第４９回札幌国際ハーフマラソンが７月９日、札幌市円山競技場を発・着とする２１．０９７５キロのコースで行われ、女子は２００４年のアテネ五輪マラソン金メダルの野口みずきが１時間８分１４秒の大会新で初優勝し、男子は一般参加のサイラ・ジユイ（日産自動車）が１時間１分１６秒で制しました。 尚、本学から参加した６名の結果は下記の通りです。来年１月の箱根駅伝の優勝を目指して下さい。健闘を祈ります。 当支部から応援のため、西原幹事長、村瀬浩気氏（昭和３１年・法)、潮文武氏（昭和３８年・経済）が参加致しました。 ・長谷川　誠　　文学部　　４年　１時間０４分４２秒　　（３５位） ・平川　信彦　　総合政策学部　　２年　１時間０５分３６秒　　（５７位） ・森　　誠則　　法学部　　２年　１時間０７分４２秒　　（１２４位） ・関　　敏則　　法学部　　３年　１時間０８分３０秒　　（１４１位） ・山脇　和真　　法学部　　２年　１時間０８分５０秒　　（１５１位） ・遠山　翔太　　文学部　　２年　１時間１３分２６秒　　（２０８位）
		7	24	札幌市役所白門会納涼会への参加	盛夏の最中、午後６時１５分より、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において、札幌市役所白門会納涼会が開催され、和田支部長と西原幹事長が参加致しました。 三輪潤会長（昭和４８年・法・(財）札幌国際プラザコンベンションオフィス　コンベンションビューロー部長）以下現役と OB 併せて３０名が出席されました。 知野学氏（平成３年・法・札幌市総務局秘書部秘書課秘書係長）のもと先ず三輪会長が挨拶に立ち、その後和田支部長からは支部事業運営に対するお礼の挨拶があり、石林清氏（昭和２１年・法・NPO 法人北海道地域文化保存振興協会理事長）の乾杯の音頭で始まりました。懇親会は大いに盛り上がり、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶や近況報告など、笑顔で交わされていました。 公務多忙の中、途中から駆けつけた上田文雄市長（昭和４７年・法）からは、市役所白門会が平素から市へ惜しみない協力をしている事への感謝の言葉と、人と人の結びつきによって、さらに札幌を住みよい町にしていきたい旨の挨拶がありました。 また、新入会員の野元康貴氏（平成１５年・法・札幌市東区保健福祉部保護二課保護係）の紹介・挨拶もあり、活気溢れる会となりました。 最後は恒例の校歌・応援歌を全員で力一杯歌い上げ、西原幹事長による閉会挨拶で盛会のうちに終了しました。続いて二次会では、旧駿河台校舎の思い出話などを学生時代に戻って皆で語り合い、大変楽しい夜となったようでした。
			29	第 23 回ゴルフ大会の開催	盛夏にもかかわらず現地ではあいにくの霧雨の中、本年度２回目のゴルフ大会を「オークウッドゴルフクラブ」において開催致しました。 当日は午前１１時に吉田会長以下１９名（１名欠席）の参加がありました。冒頭、吉田会長に続いて、品田康博氏（昭和４０年・経済・札幌警備（株)）より注意事項の説明があり、アウト３組イン２組に別れスタート。途中から雨も止み、晴れ間もでて絶好のゴルフ日和になりました。競技終了後は表彰式をかね懇親会を行いました。 優勝は木禄哲英氏（昭和３１年・法・アウト４９　イン４８)、準優勝は西山眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺（株)・アウト４２　イン４３）が獲得しました。吉田会長から優勝者並びに全員に賞品を授与しました。 今回は田代信一氏（昭和５６年・文・(株）京王プラザホテル札幌総務部副部長）よりご寄贈頂いた「京王プラザホテル　ペアー宿泊券」は優勝者へ、同ホテル特製の「ジャム詰め合わせ」はベスグロ賞として、又それ以外の入賞者全員に会長より賞品を手渡して頂きました。最後に事務局より８月３日（木）開催の支部総会への参加の要請を行いました。次回３回目の大会は９月３０日（土)・同クラブにて、再会と健闘を期して、皆和気あいあいの内に散会しました。
		8	3	平成 18 年度支部定時総会の開催	連日の暑さが続く最中、平成１８年度定時総会を８月３日（金）午後６時より京王プラザホテル札幌３階「雅の間」において開催しました。 ご来賓として学員会本部より佐藤光信副会長、金井重博副会長、大学本部より中津靖夫常任理事、創立１２５周年記念プロジェクト推進本部小林信武本部長をお迎えし、和田支部長以下８３名が出席しました。当日の司会進行は昨年来好評だった小泉笑美子さんに依頼しました。総会に先立ち和田支部長よりご挨拶とご報告を頂きました。 この春の叙勲に際し、木禄哲英氏（昭和３１年・法・元北広島市長）と馬見洲一氏（昭和３３

					年・法・馬見法律事務所）が旭日小綬賞をそれぞれ受章され、また夏には、難民支援のノーベル賞ともいわれる国連難民高等弁務官事務所の「ナンセン難民賞」を、日本で初めて金井副会長の実弟・金井昭雄氏（(株）富士メガネ代表取締役会長）が受章された旨ご披露され、出席者全員拍手でもってお祝いしました。続いて第１部の総会に移りました。 第１号議案：平成１７年度事業報告書並びに収支決算報告について 西原幹事長より別添資料の説明があり、全員異議なく承認されました。 その他として、本学創立１２５周年記念プロジェクト事業に対する寄付の還元支援金が大学本部より振り込まれ、この内５０万円を当支部の寄付金として贈呈したい旨提案し、異議なく承認されました。 第２部の卓話に移りご来賓の佐藤副会長より「中大スポーツの現状について」と題して講演を頂きました。 冒頭、中央大学のスポーツの現状に触れ、本学は戦後の大学スポーツの中では日本を代表する大学でありましたが、東京オリンピックのころから中大のスポーツは低迷を続けており、この数年は最低に位置する現状であります。その象徴的なものとして硬式野球を挙げ、かつて全日本大学選手権大会でも優勝したことがあるが、現在は二部に低迷しています。この事について大学でも危機感をもち、もう一度中大スポーツを盛り上げ、１２５周年を迎える頃には野球部と水泳部、箱根駅伝を優勝させなければならないと相まって学生側の一層の奮起を期待したい。現在、中大で公認されているスポーツの団体は、４６部あり、その中の３３部の団体で推薦入学が認められており、優秀な学生を入学させる環境は整っております。又、相撲部、柔道部、ボート部、サッカー部、ラグビー部、重量挙げ、射撃、フェンシング等についてその現状を熱く語って頂きました。 続いて本年１月の箱根駅伝について、データを元に詳しい分析結果をお話し頂きました。これによると、「本年も含め８２回の中で、優勝したチームは必ず５区の中で３位迄に入っております。つまりは３位までに入っていれば９８％優勝というデータが残っております。しかし例外として本年の場合、５区で６位だった亜細亜大学が優勝した事は大会８２回の中で唯一度だけであります。それくらい今年の駅伝レースは内容が面白かったのです。 区間賞を取ったから優勝できるとは限らないし、いかに選手の粒をそろえるかという事が必要になると思います。 第３部は金井副会長のご挨拶と乾杯の音頭により懇親会に入りました。
		9	30	第 24 回ゴルフ大会の開催	本年度３回目のゴルフ大会を、早来町（現・安平町）にあるオークウッドゴルフクラブにおいて開催しました。当日は１名が欠席されましたが、午前１１時同クラブに集合し、吉田　功次郎会長（昭和２８年・法）以下１９名の参加がありました。 品田康博氏（昭和４０年・経済 札幌警備(株)）より注意事項の説明があり、午前１１時３０分にスタート。天気予報通りアウトの３ホールからあいにく雨が降り出し、良いコンディションの状態ではありませんでした。恒例により競技終了後、表彰式を兼ね懇親会を行いました。 優勝は西山眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺(株) アウト４６ イン４４）、準優勝は今回初参加の舛田雅彦氏（昭和５４年・法・札幌総合法律事務所 アウト４６ イン４１）。　　舛田氏はベスグロ賞も獲得しました。尚、服部忠良氏（昭和３３年・商 ・(有）三共緑地開発）より景品代としてご寄贈頂いた寸志は、中大のロゴマーク入りＴシャツを制作し、参加者全員に吉田会長より授与しました。また西山眞吾氏からも景品のご寄贈を頂きました。 次年度第２５回の再会と健闘を期して、皆和気あいあいの内に散会しました。
		10	5	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室Ｃにおいて午後１２時より和田支部長、籏本・三輪副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催。 ・議案第１号：平成 18 年度上半期事業報告並びに収支決算報告について 別紙資料にもとづき、平成１８年度上半期事業報告並びに収支決算報告について、西原幹事長より報告承認される。 ・議案第２号：支部年末懇親会について 来る１２月７日（木）午後６時より、京王プラザホテル札幌を予定。
		12	7	支部年末懇親会の開催	例年であればすでに銀世界の札幌も、当日はみぞれ混じりに強風と悪天候の中、当支部年末懇親会を京王プラザホテル札幌 ３階「雅の間」において、午後６時より、和田夫支部長以下８４名が参加し開催しました。 司会進行は毎年好評を頂いている小泉笑美子さん（(有）ミュージック企画）にお願いしました。 冒頭、和田支部長より「日頃の支部事業に対するご協力のお礼と、この度の新司法試験の結果、本学法科大学院出身の合格者が全国で第一位（合格者１３１名）になりました。これを弾みに後に続いてくれる人が多数出て来る事を期待しております。鈴木理事長は経済界のご出身でありますので、これからは「法科の中央」という事ではなくて、他学部ご出身の皆様方のご研鑽・ご活躍を祈念しております。新年に入りますと、恒例の箱根駅伝がございますが、この駅伝も後輩が活躍する事を期待しております。」旨ご挨拶がありました。 続いて「老人ホームあれこれ」と題する卓話に入りました。 講師に出口元治氏（昭和２８年・法・ ホクビサービス（株）取締役会長）をお迎えし、以下のような内容のお話を頂きました。「老人ホームは色々な問題がありますが、昨今高齢者の平均寿

					命が延びて来ております。老人が病気になりますと、その内容によりますが５年から１０年位は床についている状態になり、身障老人が長生きするようになりました。この間自宅で介護することは容易ではありませんので、施設に入れ介護する時代に入って来ております。私がこの業界に入ったきっかけは、理想的な老人ホームを、自分で造ろうと思ったからでございます。平成１２年に老人介護のエースとして、期待されて発足した介護保険法が、６年目にして破綻の危機に瀕している状態になっております。 　この為、本年４月に法律が改正され、自宅介護は重症者のみが対象となり、厳しく制限される事になりました。又新たに高齢者虐待防止法という法律もできました。従いまして、これからは一般有料老人ホームを利用する方が得策だと思います。老人ホームを選択するに当たっては、次の点に留意して頂きたいと考えます。 （１）　この業界は「安かろう、悪かろう」という傾向が強い。 それは看護スタッフを充実させると、人件費が高騰し、その結果利用料金にはね返るからです。 （２）　心と心がかよった家庭的な雰囲気は、大規模な老人ホームでは先ず望めません。（収容人員は４０名迄） （３）　ホームを運営する会社が倒産した場合、高額な一時入居金が戻らない。従って後をひきうける運営会社が出て来ないので、社会問題になります。この為、全国有料老人ホーム協会に加盟している運営会社であれば、補償体制ができているので大丈夫だと思います。 　結論を申し上げますと、多少値段が高くても、高級な老人ホームを選択すると、手厚い看護を受ける事ができる訳でございます。」 　続いて支部顧問の吉田功次郎氏（昭和２８年・法 オークウッドゴルフクラブ理事長）の乾杯の発声により、懇親会に入りました。 　懇親会は終始和やかな雰囲気の中で行われ、名刺交換をされたり、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久しぶりの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで見受けられました。 　今回新たに会員となった稲野辺詔士さん（昭和６１年・経済 ・大和証券（株）札幌支店投資銀行 第一部付部長）、工藤保人さん（昭和６０年・法 大和証券（株）札幌支店・上席次長）、高木邦真さん（平成６年・法 ・高木 邦真司法書士事務所所長）松﨑孝弘さん（平成１０年・商 ・松﨑ビル（株）代表取締役）の４名が紹介されました。 　恒例のビンゴ大会は、酔いが回った為かなかなかビンゴがでませんでしたが、目玉の京王プラザホテル札幌提供の「ペアー宿泊券」は小川義博さん（平成７・商 三城美装（株）・常務取締役）が、２等の京王プラザホテル札幌の食事券は野元 康貴さん（平成１５・法 ・札幌市東区役所保健福祉部保護二課）、またコンサドーレ札幌のユニフォームのレプリカは大野隆都さん（昭和３９・経済・（株）フィードメイク代表取締役）と中野充さん（平成８・商・（株）第四銀行札幌支店 主任）がそれぞれ獲得しました。この他全員に景品が当たるよう、支部と同窓からの寄贈品が寄せられました。 「ビンゴ！」の掛け声で会場内の雰囲気も一気に盛り上がりました。 　児玉芳明氏が壇上に立ち、「今年のコンサドーレは６位になりましたが、来年こそＪＩ昇格を目指して頑張りますので、応援の方宜しくお願いします。」とご挨拶がありました。 　公務ご多忙の中、ご出席頂いた上田文雄市長（昭和４７年・法 ）が途中で退場されることになり、壇上で日頃の市政に対するご協力のお礼のご挨拶がありました。 　懇親会の最後は、恒例となっている校歌・応援歌・惜別の唄の合唱に入り、新規入会の４人に、石林 清特別顧問（昭和２１年・法）、和田支部長等の諸氏が壇上に上がり、それぞれ３番迄フルコーラスで熱唱。全員が輪になり、肩を組むなど誰もが過ぎし青春時代へ思いを馳せている様子でした。 　最後は籏本 道男副支部長が壇上に立ち、来年の道議会議員に札幌市から立候補予定の道下大樹さん（平成１０・法）、同じく札幌市議会議員に小倉 菜穂子さん（昭和５４年・法）、次回の衆議院議員に小林 千代美さん（平成４年・法）等々の当選を祈願し、万歳三唱で盛会のうち和やかに終了し、散会しました。 　尚ビンゴゲームの景品は以下の方々から頂きました。 ・太田 健介氏　（昭和４９年・法 ）ネスレ日本（株）札幌支店長 ・児玉 芳明氏　（昭和３４年・法 ）（株）北海道フットボールクラブ 代表取締役社長 ・廣川 一彦氏　（昭和４０年・法）（株）道新サービスセンター 代表取締役社長 ・田代 信一氏　（昭和５６年・文）（株）京王プラザホテル札幌 管理部副部長 ・重森 健一氏　（平成４年・法）（株）京王プラザホテル札幌 宴会料飲部担当係長
2007 年	19	1	30	札幌市役所白門会新年会への参加	厳冬の最中、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において、札幌市役所白門会新年会が開催され、当支部より和田支部長が参加しました。 　三輪潤会長（昭和４７年・法・札幌国際プラザさっぽろフィルムコミッション部長）以下 OB と現役員合わせて３１人が出席し、知野学氏（平成３年・法・秘書部秘書課秘書係長）の司会進行で、冒頭三輪会長からの挨拶があり、続いて和田支部長より支部事業運営に対するお礼の挨拶がありました。 　懇親会に入り、OB の石林清氏（昭和２１年・法）の乾杯の音頭を合図に会は佳境を迎え、公務ご多忙の中、途中から駆けつけた上田文雄市長（昭和４７年・法）から、白門会札幌支部が平

					素から市政へ惜しみない協力をしていることへの感謝の言葉と、また４月の札幌市長選に向けてゆるがぬ決意、愛する札幌への熱い思いを述べられ、盛り上がりは最高潮に達しました。最後は全員で校歌・応援歌・惜別の唄を力一杯歌い上げ、OB の鈴木徹夫氏（昭和１８年・法）の乾杯の挨拶で、盛会のうちに終了しました。また二次会では、懐かしい学生時代の歌を歌うなど、学生気分に戻って皆楽しく過ごしていました。
		5	29	第 25 回ゴルフ大会の開催	本年度第１回目の支部ゴルフ大会は、五月晴れの中、札幌エルムカントリークラブ東コースにおいて開催されました。 当初１６名の参加申し込みがありましたが、期日が迫ってきた時点で４名の欠員が出て、結局１２名で行うこととなりました。 当日は午前８時３８分に品田康博氏（昭和４０年・経済）の注意事項の説明後、午前８時４８分スタート。天候にも恵まれ、楽しいゴルフ大会になりました。競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会を行いました。 優勝は、村上一元 氏（昭和３９年・文・五英商事（株）　アウト：５２　イン：４８）、準優勝は白畑力 氏（昭和３６年・商　アウト：５４　イン：５２）、ベストグロス賞は金井貢 氏（昭和３３年・経済　アウト：５２　イン：４６）が獲得しました。 吉田会長より挨拶の後、優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与しました。今回も景品として、金井重博 氏（昭和３９年・商・（株）富士メガネ名誉会長・本学学員会副会長）よりご寄贈頂いた清酒（久保田　万寿）は、優勝者の村上一元 氏へ会長より授与しました。 尚次回は、７月２１日（土）オークウッドゴルフクラブにおいて午後１２時スタートする旨参加を呼びかけ、和気あいあいのうちに散会しました。
		6	7	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室 C において午後１２時より、和田支部長、籏本・廣川・三輪副支部長、高田理事長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催致しました。 ・議案第１号：平成１８年度事業報告並びに収支決算報告について 西原幹事長により別添資料に基づき報告了承されました。 ・議案第２号：支部総会について 来る８月３日（金）午後６時より、京王プラザホテル札幌　２階　ローズルームにおいて、開催する旨決定されました。 ・議案第３号：支部役員の選任について 西原幹事長より別添資料に基づき、役員の選任案を説明し、原案通り承認されました。 その他として、創立１２５周年記念事業推進に伴う寄付の依頼状を会員宛案内することで承認されました。
			23	中央大学父母連絡会札幌支部総会並びに父母懇談会へ出席	札幌すみれホテル３階「ヴィオレ」において開催の父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会へ西原幹事長が出席されました。 当日は在校生の父母６０名余りが参加されました。午後１２時３０分より総会の議事に入り、舘小路支部長の挨拶に続いて、「２００６年度事業報告・決算報告・２００７年度事業計画・予算・役員改選」が議案として審議され、新支部長に原田良一 氏、副支部長に青野聡・東原幸生の両氏の他、新役員が選任されました。 引き続いて、午後１時１０分より父母懇談会が開催され、松丸和夫 経済学部教授から「大学の近況について」、次いで、川野正一 商学部事務長から「学業・学生生活について」、青柳伸也 キャリアセンターキャリア支援課主事から「進路・就職について」のお話しがあり、終了後は希望者に対し個人面談も実施されました。
		7	21	第 26 回ゴルフ大会の開催	本年度第２回のゴルフ大会はあいにく霧雨の中、オークウッドゴルフクラブにおいて開催されました。当日は、吉田会長以下１９名の参加がありました。品田康博氏（昭和４０年・経済、㈱道都機動警備）の注意事項の説明後、午後１２時スタートし、競技終了後は表彰式を兼ねて懇談会を行いました。 優勝は、今回初めて参加した鈴木潔氏（昭和４９年・経済・学校法人東日本学園　北海道医療大学、アウト：４３、イン：４１）。準優勝は、やはり初めて参加した柴田昌幸氏（昭和４６年・文・柴田興産㈱、アウト：４２、イン：４０）が獲得、尚、柴田氏はベストグロス賞も合わせて獲得しました。 吉田会長より、優勝者ならびに入賞者全員にそれぞれ賞品が授与されました。前回に続いて金井重博氏（昭和３８年・商・㈱富士メガネ名誉会長・本学学員会副会長）よりご寄贈の清酒「久保田　万寿」は優勝者へ、田代信一氏（昭和５６年・文・㈱京王プラザホテル札幌　管理部副部長）からの景品は入賞者へ授与されました。
			26	札幌市役所白門会総会・納涼会へ参加	盛夏の最中、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において午後６時１５分から開催の市役所白門会総会・納涼会へ当支部より和田支部長、西原幹事長が参加されました。 当日は三輪潤会長（昭和４７年・法・札幌市手稲区市民部総務企画課長）以下ＯＢと現役合わせて３０名が出席されました。知野学氏（平成３年・法・札幌市秘書部秘書課秘書係長）の司会進行で行われ三輪会長の挨拶、続いて和田支部長から支部事業運営に対するお礼の挨拶がありました。続いて総会に入り、先ず平成１８年度の収支決算報告が審議承認されました。 本年度は役員改選の年に当っており、会長には高橋悟氏（昭和５２年・文・札幌市市民まちづくり局情報化推進部長）、幹事長には水野雅人氏（昭和６３年・経済・札幌市経済局産業振興部

					振興課商業振興係長）等、新幹事も選任されました。 　高橋会長、水野幹事長の挨拶、幹事の紹介の後、市役所ＯＢの鈴木徹夫氏（昭和１９年・法）の乾杯の音頭で納涼会に入りました。又、公務ご多忙の中、途中から駆けつけた上田文雄市長（昭和４７年・法）から、札幌市長に再選されたことへのお礼と、平素から学員会札幌支部の会員各位が市政に対し協力をされている事へのお礼の挨拶がありました。 　アルコールが入るにつれて雰囲気も和やかになり、最後は全員で校歌・応援歌を力いっぱい唱いあげ、市役所ＯＢの石林清氏（昭和２１年・法）の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後は恒例となっている二次会へ連れ立って行きました。二次会では歓談中に歌を唱い出す会員もいて、ますます盛り上がりを見せていました。
		8	3	平成 19 年度支部定時総会の開催	台風５号の北上に伴い、その影響を心配しておりましたが、大した事もなく１９年度の定時総会を８月３日（金）午後６時より、京王プラザホテル２階「エミネンスホール」において開催致しました。 ご来賓として学員会本部より金井重博副会長を大学本部からは加用　久男常任理事をお迎えする予定でしたが、加用常任理事につきましては翌日大学本部での工事打合わせ会議が入り欠席となりました。当日は和田支部長以下７９名が出席致しました。 　総会に先立ち和田支部長よりご挨拶を頂き、続いて支部長の司会進行により第一部の総会に移りました。 第一号議案：平成１８年度事業報告並びに収支決算報告について 　西原幹事長より別添資料に基づき報告があり、全員異議なく承認されました。 　その他として当支部の顧問、相談役、役員、幹事が任命され、今後２年間支部運営に協力を頂く事になりました。 又昨年に引き続き、本学創立１２５周年記念プロジェクト事業に対する寄付の還元支援金（３３３千円）が大学本部より振り込まれ、これに当支部より若干プラスし計５００千円を寄付として贈呈したい旨提案され、異議なく承認されました。 　第２部の卓話に移り、講師の笹岡征雄氏より 「日本の女子マラソンはこうして始まった」と題して講演を頂きました。前段は笹岡先生の４０年に亘るマラソン人生を振り返り、その活躍を記録したビデオを鑑賞しました。 　「私は岩見沢で生まれ、将来は親の営む漁魚店の跡継ぎをしようと考え、岩見沢から北海高校へ入学しました。その時に自分には才能があるのでは…と思い、努力して陸上を続けていくには中央大学しかないという決心のもと、入学致しました。 　当時の中央大学は昭和３３年～３８年に掛け、箱根駅伝の６連覇を成し遂げ、その間の４年間を在籍していました。それはあらゆる対抗戦で部員が力を合わせ勝ち取った証であると、今も思います。 　私が昭和３８年中央大学商学部を卒業後、なぜ体育の教師をしているのか、その経緯をお話したいと思います。 当時、北星学園理事長の時任先生と出会い、先生から是非教職を取って、北星学園高校の教師として来て欲しいと要請され、教職の単位を取り、体育指導の道を歩む事になりました。北星高校で４年間勤め、その後札幌学院大学でお世話になり現在に至っております。今日で４０年を経過し、私はこの４０年の節目を機に一つの集大成でもあり、また新たな出発点として、まだまだ頑張ろうという夢を持って本を出版しました。 　私が指導を始めた４０年前は、「女子にはマラソンは無理」という反対意見が多く、走ったり飛んだりするのは男のやる事という風潮も残っており、一般女性はあまりスポーツに親しんでいませんでした。走る事が嫌いな母親が、果たして走る事の好きな子供を育てられるでしょうか…。女子マラソンに取り組んだ背景にはこうした思いがありました。　私の指導の原点は、中央大学の陸上部に在籍した４年間の経験です。箱根駅伝６連覇の黄金期を迎えていた長距離陣の練習方法を間近にみていたので、ペースを落とせば女子でも長距離を走り抜けると確信しました。 学生達には、長距離になればなるほど、体質や体力よりも精神力の必要性を説き教えました。 　１９７３年、男子チームに交じり女子選手達を小樽・積丹駅伝大会に初参加させ見事完走。続くその年の末には稚内～札幌間約４００キロ、翌年夏にも釧路～札幌間約３８０キロを女子選手だけでリレーしながら走破しました。 　札幌学院大学には体育学科はありませんので、運動能力に秀でた学生がいたわけではなく、ごく普通の学生です。これらの駅伝の結果から女子にもマラソンが可能だという自信を一層深め、次のステップに踏み出す事になりました。 当時の日本には女性を参加させてくれるマラソン大会がなく、米国の「ボストンマラソン」に出場しようと考えました。それには日本陸連の推薦が必要であり、その為に１９７５年に「網走～女満別間往復」の陸連公認コースを走りました。これが日本初の女子マラソンとされています。 　母と子がともに走る姿を夢みて指導を続け、その結果が遂に２年後の１９７７年４月１７日、４人がボストン大会に出場し、ひたすら付いて来てくれた学生達には感謝しております。 　また大学だけにとどまらず、女子マラソンの市民クラブを組織する活動にも取り組んで来ました。現在札幌学院大学の留学生を通じ、韓国や中国とのマラソン交流も続けています。 ２００１年には札幌学院大学と中国人民大学の合同チームで北京国際駅伝に出場し、三位に入賞しました。あと２年で定年を迎えますが、今後もマラソンを通した新たなる挑戦を考えて参りたいと思います。」 笹岡氏はこの様に講演を結ばれ、今なお熱く語られる心の内に、限りない「長距離走者」のお姿を見る思いがありました。

					第３部は金井副会長のご挨拶と乾杯の音頭により懇親会に入りました。 金井副会長のご挨拶の要旨は下記の通りです。 ① 学員会前会長の中山 正暉氏の退任により、後任に評議員会議長の久野 修慈氏（塩水港精糖　（株）代表取締役社長）が決定。 ② 学員会の財政悪化に伴い１０数年前から懸案問題として検討審議されて来た代理徴収制度がこの度承認され、在校生にも予備学員として登録して貰う事になりました。 ４年時に２０,０００円を徴収し学員会の財政基盤の健全化を図る事になりました。 ③ 平成１８年度新司法試験の合格者は全国で第１位。旧司法試験の合格者は全国で３位。 ④・平成２０年４月に本学ビジネススクールを後楽園キャンパスに開校（専門職大学院戦略経営研究科）。 ⑤・平成２０年４月に本学理工学部に生命科学科を新設。 ⑥・都心の校舎整備をすべく後楽園校舎の再開発を図る。 ⑦・専門職大学院の校舎の建設。 ⑧・海外の大学との交流を活発に行い、国際化を図る。 会も進みアルコールが入るにつれ、７台のテーブル毎に着席の学員は終始和やかな雰囲気で、会場内では名刺交換や日頃ご無沙汰している先輩への挨拶回り等が行われておりました。次いで恒例となっている新規入会の会員紹介に移り、下記の学員が壇上にあがり３分程自己紹介・自己ＰＲを行いました。 ・阿倍優子　（平成１７年・大学院）（株）ライセンスアカデミー大学新聞社 ・荒谷守一氏　（昭和６２年・経済）（株）グランドビスタホテル＆リゾート 札幌グランドホテル人事課長 ・伊東和紀氏　（昭和４９年・法）北海道総務部危機監理官 ・越智重和氏　（平成２年・商）ホスピタリティマインド代表 ・柏野大介氏　（平成１５年・法）恵庭市議会議員 ・久保田直樹氏　（昭和６０年・商）日本中央競馬会札幌勝馬投票券発売所所長 ・笹岡征雄氏　（昭和３８年・商）札幌学院大学人文学部教授 ・鈴木潔氏　（昭和４９年・経済）学校法人東日本学園　北海道医療大学事務局 次長 ・前島治基氏　平成６年・経済・前島治基税理士事務所 ・谷津正雄氏　昭和４１年・法・札幌簡易裁判所裁判官 公務等でご多忙の中、途中から参加頂いた上田文雄札幌市長からは、２期目の当選のお礼とそれに向けての熱い思い、日頃の市政に対するご理解とご協力のお礼のご挨拶がありました。「２期目がスタートするに当たって私が追求して来た課題は、市民が主役になれる地方自治体を目指し、その事をテーマにもっともっと推進させて行きたい事です。 これからは北海道の時代だと言われて久しいが、「北海道における札幌市はどうあるべきか」を議論して行きたいと考えております。 北海道の最大の資源は何かと言った時に、私は、それは当市だと申し上げております。 札幌市という１８９万の人口を抱え、７８,０００件という事業体があり、知恵もマンパワーも他の道内都市に比べ、圧倒的に富の集中が当市にはございます。 札幌という資産をどのようにして他の１７９の自治体が活用するかということが、これからの北海道の行くべき姿ではなかろうかと考えております。北海道が本当に活力を持ち、素晴らしい北海道の未来を形づくって行く方向づけに、札幌の力は絶対に必要と位置づけ、是非皆様の様々なお知恵もお借りしたいと思います。札幌市を豊に、これぞ私達が住む北海道だと言えるよう頑張って参りたいと存じます。」 続いて４月の地方選挙で北海道議会議員に当選された道下大樹氏（平成１０年・法)、札幌市議会議員の小倉菜穂子氏（昭和５４年・法)、恵庭市議会議員の柏野大介氏（平成１５年・法）が紹介され、３氏からは当選のお礼と行政に対する抱負を聞かせて頂きました。 次いで恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を全員で合唱し、今回の新規入会者に和田支部長、上田札幌市長、石林特別顧問、小林千代美氏（平成４年・法）等の諸氏が壇上に上がり、校歌・応援歌は３番迄フルコーラスで熱唱し、最後の惜別の歌に至っては全員が輪になり、肩を組むなど誰もの心に過ぎし青春時代が去来した事でしょう。 最後は籏本副支部長と石林特別顧問が壇上に上がり、大学・学員会・札幌支部の繁栄と、参加者のご多幸・ご健勝を祈願し、万歳三唱で盛会のうちに和やかに終了、散会となりました。
		9	22	第 27 回ゴルフ大会の開催	３連休の初日、本年度３回目の（通算２７回）のゴルフ大会は秋晴れの中、オークウッドゴルフクラブにおいて開催されました。　当日は吉田会長以下１９名の参加がありました。 品田康博氏（昭和４０年・経済・(株）道都機動警備）の注意事項の説明後、午後１２時にアウト３組、イン２組でそれぞれスタートし、天候にも恵まれ、楽しいゴルフ大会になりました。 競技終了後は恒例により表彰式を兼ね懇親会を行いました。 優勝は７月に続いて２連覇した鈴木潔氏（昭和４９年・経済・学校法人東日本学園北海道医療大学　アウト４２　イン４６） 準優勝は服部忠良氏（昭和３３年・商・(有）三共緑地開発　アウト３７　イン４３）尚、服部氏はベストグロス賞も合わせて獲得しました。

					吉田会長より、優勝者ならびに入賞者全員にそれぞれ賞品が授与されました。前回に続いて金井重博氏（昭和３８年・商・(株）富士メガネ名誉会長・本学学員会副会長）よりご寄贈の清酒「久保田　万寿」は優勝者へ、西山眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺（株))、荒谷守一氏（昭和６２年・経済・(株）グランビスタホテル＆リゾート札幌グランドホテル）からご寄贈の品は入賞者へ授与されました。 尚、今回初参加の檜森聖一氏（昭和４５年・法・(株）北洋銀行)、廣川一彦氏（昭和４０年・法）からは、そろって来年度も是非参加したい旨挨拶があり、参加者一同再会を期して和やかのうち散会しました。
		12	6	支部年末懇親会の開催	１２月６日 午後６時より、京王プラザホテル札幌「扇の間」において、当支部年末懇親会を開催しました。例年であればすでに雪化粧の札幌も、当日は市内中心部の路上には一片の雪すら見られず、季節を錯覚する様な日でありました。 年の瀬が近づき忙しい最中にもかかわらず、９７名の会員が出席しました。約２時間、お互いに近況を語り合いながら、母校の更なる発展へ向けて奮闘を誓い合いました。 和田丈夫支部長の挨拶に続き、第一部のフルートによる演奏会が始まりました。 このグループは小林千代美さん（前衆議院議員・平成４年・法）他４名で２００６年８月に結成され、「フルートアンサンブル Kira」という名前で、札幌近郊を中心にフルート２重奏～４重奏で主に慰問演奏などの活動を行っています。 演奏曲目は①マスカーニ作曲　歌劇　「カバレリア・ルスティカーナ」より間奏曲 ②作曲者不詳　讃美歌　「荒野のはてに」 ③モーツアルト作曲　「アヴェ・ヴェルム・コルプス」 ④三浦 真理作曲　フルート四重奏のための「想い出は銀の笛」より １楽章　エメラルドグリーンの風 ２楽章　真紅のルビー ３楽章　ブラック・インベンション ４楽章　紫の薔薇 ５楽章　ブルー・パステル等４曲が演奏されました。 師走の忙しい中、３０分程の時間でしたが、清々しいフルートの音色に会場内はしばし厳かな雰囲気に包まれました。司会進行はここ数年お願いし好評の小泉笑美子さんに依頼しました。懇親会は籏本道男副支部長の乾杯で始まり、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿がテーブルのあちこちで見受けられました。 会の途中からご参加されましたご来賓の本学学員会副会長の金井重博氏からは、最近の大学本部・学員会本部についてのご報告がありました。続いて新たに会員になられた下記の学員紹介が行われ、８名の方々が壇上に立ち、それぞれ３分程の自己 PR を行いました。 ・山本 好宏 氏　（昭和３７年・法）（株）三信 代表取締役 ・芝田 治久 氏　（昭和４８年・文）北海道札幌方面南警察署 警務課長 ・佐々木 吉長 氏（昭和５０年・経済）（株）日本教育新聞社北海道総局 事業開発推進部（北海道担当） ・渡辺 明彦 氏　（昭和５８年・法）北海道企画振興部 地域振興・計画局 地域づくり支援室参事 ・桜庭 綾子 氏　（平成５年・経済）北海道経済産業局資源エネルギー環境部電力事業 需給係長 ・菊池 智一 氏　（平成１３年・大学院法学研究科）北海道建設部住宅局住宅課主事 ・吉本 寧雄 氏　（平成１５年・商）（株）みずほ銀行札幌支店 ・松井 英二 氏　（平成１６年・法） ・東篠 泰暁 氏　（平成１９年・経済）日興コーディアル証券（株）札幌支店 本会の目的は懇親が主で、アルコールが入った所で第二部のビンゴゲームに移りました。恒例のビンゴ大会は酔いが回った為か、なかなかビンゴが出ませんでしたが、ついに「ビンゴ！」の掛け声で会場内の雰囲気も一気に盛り上がり、目玉はこの度６シーズン振りにＪ１サッカーに昇格となったコンサドーレ札幌のレプリカ（ユニホーム）で、池田重幸氏（昭和５６年・経済・(財）札幌国際プラザコンベンションビューロー部長)、久住博氏（昭和４６年・商（有）ひさし書籍販売代表取締役)、渋谷幹男氏（昭和３６年・法・司法書士渋谷幹男事務所長)、本藤幸生氏（昭和５７年・商 ・日本カーソリューションズ（株）営業開発本部長）の四名が獲得しました。他に参加者全員に当たるよう支部で用意した「たらば蟹」「松前漬」等海産物のギフト商品、中大マーク入りの「Ｔシャツ」、また裏ビンゴで目玉の「京王プラザホテル札幌のペアー宿泊券」は佐藤剛之氏（平成７年・経済・北海道漁業協同組合連合会主事補）が獲得しました。続いて校歌」・「応援歌」・「惜別の歌」を出席者全員で輪になり肩を組み、「中央の名よ光あれ」、「力　力　中央　中央」など熱唱すると、たちまち会場は大学時代さながらの雰囲気になり、学員の心も大学生そのものと…誰もが青春時代のただ中にいるような、そんな熱気に包まれました。最後に桧森聖一副支部長（昭和４５年・法（株）北洋銀行）の挨拶で今年度の支部活動を締めました。

					尚、年末懇親会景品等の寄贈者は下記の方々です。 ・田代 信一 氏（昭和５６年・文）（株）京王プラザホテル札幌 管理部副部長 ・重森 健一 氏（平成　４年・法）（株）京王プラザホテル札幌 宴会料飲部宴会料飲予担当係長 ・児玉 芳明 氏（昭和３４年・法）（株）北海道フットボールクラブ 代表取締役社長 ・猪野 正則 氏（昭和６１年・商）西松建設（株）札幌支店営業課長 ・札幌市役所白門会
2008 年				ビジネススクール開校	ビジネススクール(法務研究科）開校。
		1	30	札幌市役所白門会新年会への参加	厳冬の最中、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において、札幌市役所白門会新年会が開催され、当支部より和田支部長、西原幹事長が参加しました。 高橋悟会長（昭和５２年・文･札幌市市民まちづくり局情報化推進部長）以下、ＯＢと現役合わせて３３名が出席し、水野雅人氏（昭和６３年・法・札幌市経済局産業振興部産業振興課商業振興係長）の司会進行のもと、冒頭高橋会長からの挨拶、続いて来賓を代表して和田支部長よりご挨拶がありました。 懇親会に入り、ＯＢの鈴木　徹夫氏（昭和１８年・法）の乾杯の音頭を合図に、懇談の輪が広がり、今回初参加の品川吉正人事委員会委員（昭和４５年・法　品川吉正法律事務所)、また、同じく紅一点として小倉菜穂子市議会議員（昭和５４年・法）のご出席もあり、会は和んだムードの中で佳境を迎えました。 公務ご多忙の中、途中から駆けつけた上田文雄市長（昭和４７年・法）から、２期目への抱負として、「市民が議論を重ねながら、自らの手でまちづくりを行う、市民も事業者も自分たちが札幌の将来に向けて何ができるのか、一緒に考えるまちにしていきたい。」と愛する札幌のまちづくりへの熱い思いが述べられ、盛り上がりは最高潮に達しました。最後に、　ＯＢの石林　清氏（昭和２１年・法）から、「公務員よ熱くあれ！」との激励の言葉のあと、全員で校歌・応援歌・惜別の唄を力一杯歌い上げ、盛会のうちに終了しました。また、二次会では和やかな歓談中で、石林氏の歌の披露もあり、９５歳とは思えない歌声に一同感服しながら、あっという間に時は過ぎていきました。
		2	22	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室Ｃにおいて午後１２時より、和田支部長、籏本・高橋（悟）・檜森副支部長、高田理事長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催致しました。 議案第１号　：　平成１９年度事業報告並びに収支決算報告について 西原幹事長より別添資料に基づき報告了承されました。 議案第２号　：　中央大学音楽研究会吹奏楽演奏会の開催について 和田支部長より１０年前に札幌市民会館において標記演奏会を開催しているが、来年札幌市コンサートホール・大ホール＜キタラ＞を会場に開催してはとの提案があり、出席者全員了承しました。　西原幹事長より、前回の収支決算について報告（支部負担金、ポスター、入場料、当日会場での配賦のパンフレット等々）がありました。
		3	19	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室Ｂにおいて午後１２時より、和田支部長、籏本・高橋（悟）檜森副支部長、高田理事長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催致しました。 議案第１号　：　中央大学音楽研究会吹奏楽演奏会の開催について 本件については去る２月２２日（金）開催の同会議において審議し、開催する事で結論が出ておりましたが、大学本部より提出された予算について（支部の負担金（350 万円)、日時等）　検討の結果、本部と折衝する（４月に関係者来札の予定）事になりました。その後　４月１９日（土）大学本部と打合せの結果、支部負担金は 300 万円。尚、演奏会の開催日時は５月１２日（月）に予約の結果、下記の通り決定しました。 ◆演奏会日時　　平成 21 年 6 月 7 日（日）　開演時間は未定 ◆場　　所　　札幌コンサートホール・Kitara 大ホール
		5	25	第 28 回ゴルフ大会の開催	リラ冷えの寒い日が続いた昨日までとはうって変わって、五月晴れの中「札幌エルムカントリークラブ西コース」において、本年度第一回（通算第２８回）ゴルフコンペが吉田功次郎会長（昭和２８年・法）以下１３名の参加のもと開催されました。 吉田会長の挨拶、注意事項の説明後３０分程遅れて１２時３０分スタートしました。 優勝は今回初参加の松﨑孝弘氏（平成１０年・商・松﨑ビル　アウト４４　イン４６） 準優勝は西山眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺（株）　アウト４７　イン４６）がそれぞれ獲得しました。尚、ベストグロス賞は松﨑氏が合わせて獲得しました。 吉田会長より優勝者並びに入賞者全員にそれぞれ賞品を授与しました。最後は初参加の松﨑氏と大野隆都氏（昭和３９年・経済・（株）フィードメイク）の両氏からご挨拶を頂きました。 次回は７月２日（水）「シャトレーゼカントリーゴルフクラブ石狩」において午後２時スタートする旨、会員以外の人も誘ってご参加頂くようお願いし、散会しました。
		7	2	第 29 回ゴルフ大会の開催	今年１番の暑さ（２９度）の中、第２回の支部ゴルフコンペが「シャトレーゼカントリーゴルフクラブ石狩」において、吉田功次郎会長以下１７名の参加のもと開催されました。 当日は炎天下の午後１２時にスタートしました。 優勝は信田暁氏（昭和３５年・商・（有）シノダ総合保険　西５１　中５１）準優勝は廣川一彦氏（昭和４０年・法　西４６　中４９）が、またベストグロス賞は柴田昌幸氏（昭和４６年・

					文・柴田興産（株）　西３９　中４７）がそれぞれ獲得しました。 吉田会長より優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与しました。　次回は９月１３日（土）「オークウッドゴルフクラブ」において午後１２時スタートする旨説明し、次回の参加もお願いし和気あいあいの内に散会しました。
		7	22	札幌市役所白門会総会・納涼会へ参加	盛夏の中、平成２０年札幌市役所白門会総会・納涼会は、髙橋悟会長（昭和５２年・文・札幌市市民まちづくり局情報化推進部長）以下ＯＢと現役合わせて３１名出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において午後６時１５分から開催されました。 当支部から和田支部長、西原幹事長、本学学員会からは金井副会長が参加されました。　水野雅人幹事長（昭和６３年・法・札幌市北区市民部地域振興まちづくり推進係長）の司会進行で行われ、冒頭、開会挨拶で髙橋会長からは新司法試験における本学の躍進と硬式野球部が東部大学リーグで見事１部復帰を果たしたこと、待望の新人会員２名が納涼会初参加となったことなど紹介され、続いて来賓の和田支部長から支部事業運営に対するお礼と、来年予定されている吹奏楽部の北海道公演に対する協力などについてお話がありました。　同じく来賓の金井学員会副会長からは、創立１２５周年に向けた新理事会が発足したこと、他の私立大学の出願が減少する中で、中央大学の出願が 23%増となったことなどの報告がありました。引き続き行われた総会では、平成１９年度収支決算報告が審議され、承認の後、奥岡 文夫教育長（昭和４７年・法）の乾杯の音頭で納涼会に入りました。今回、上田文雄市長（昭和４７年・法）が公務多忙による腰痛の為、急遽欠席となったことは大変残念な事でしたが、紅一点の小倉菜穂子市議会議員（昭和５４年・法）の参加もあり、和やかな雰囲気の中で会は進みました。最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力いっぱい唄いあげ、市役所ＯＢの石林清氏（昭和２１年・法・元収入役）の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。 その後、恒例となっている二次会では三輪潤前会長（昭和４７年・法・札幌市手稲区市民部総務課企画課長）の寅さんの名調子や石林先輩の９６歳とは思えない素晴らしい歌声などで大いに盛り上がりました。
		7	27	中央大学父母連絡会札幌支部総会並びに父母懇談会へ出席	札幌すみれホテル３階「ヴィオレ」において開催の「父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会」へ和田支部長が出席されました。当日は在校生の父母１００名余りが出席されました。 午後１２時３０分より総会の議事に入り、原田支部長の挨拶に続き、「2007 年度事業報告・決算報告」、「2008 年度事業計画・予算・役員改選」が議案として審議されました。 新支部長に青野聡氏、副支部長に東原幸生・岡村一郎の両氏、他新役員が選任されました。引き続き午後１時１０分より父母懇談会が開催され、池田勝学部長からは「大学の近況について」、丸太初太郎キャリアセンター部長からは「学業・学生生活について」、皆川公寿経済学部事務室からは「進路・就職について」のお話があり、終了後は希望者に対し、個人相談も実施されました。
		8	8	平成 20 年度支部定時総会の開催	温暖化の気候のせいか連日蒸し暑い日が続いている最中、当支部平成２０年度定時総会は８月８日（金）午後６時より、札幌市中央区にある京王プラザホテル札幌３階「雅の間」において開催されました。ご来賓として去る５月２６日本学理事会において改選されました学員会会長も務める久野修慈理事長、金井重博学員会副会長、随行員として本学総務部秘書室 池田浩二課長をお迎えし、和田支部長以下７９名が出席されました。 約２時間お互いに近況を語り合いながら母校のさらなる発展へ向けて奮闘を誓い合いました。当日は西原幹事長の司会進行で行われ、総会に先立ち和田支部長よりご挨拶と報告を頂きました。 その中で去る７月２２日に当校のキャンパスのある八王子のビルにおいてで、本学４年生の斉木 愛さんがまことに痛ましい不慮の事件によりお亡くなりになった事に対して哀悼の意を表しました。又１１年振りに本学吹奏学部の演奏会が本市の「キタラ」において平成２１年６月７日（日）に行われる事になった旨のご報告と、演奏会開催に当たり学員各位のご家族のご参加とその協力要請を致しました。第２部の懇親会では和田支部長より、ご挨拶とご来賓の紹介があり、金井学員会副会長の乾杯の音頭により懇親会に入りました。ご来賓の久野理事長からは次のような要旨のご挨拶を頂きました。 １．国際化の時代に生き残る為には： 　１．本学においてもトップから使命感を以て大学を変えて行かなければならない。 　２．教員の先生方が教育レベルの向上を図り、優れた教員による優れた教育を実現すること。 　３．教職員の方々も本当の意味の経営マインドを持ち大学の改革に取組み協ばならない。 　２．本学は４９万名もの学員がおられ、この事は本学の重要な資産であり戦力であります。 私は中央大学の営業部長として全国各地の学員会支部にお邪魔し、多くの学員と触れ合って来ました。と言うのも触れ合いの中から強い絆を持つ組織が形成されると考えるからです。私はこの３年間で全国にネットワークを築き、この組織を中央大学の戦力として活用して行きます。大学を活力あるものにする為には、一方に偏していては国際化の中では対応が出来ないと思います。とにかく本学が一流であるという証明を、社会に示して行かなければなりません。中央大学のロースクールなりビジネススクールを卒業した学生が、アメリカの会社に勤めた時にケンブリッジ大学を出た学生と互していける位の実力のある看板を作る事によって、少子化時代の中で学生を多く集める事が出来ると思っています。

					またスポーツにおいても同じで、中途半端なやり方ではだめです。やる時は徹底的にやる事が大事だと思います。私の理念は現場を重視する行動主義で、理想でも理屈でもなく現場からたたき上げていくというのが私の主義です。 大学の改革に対しても右も左も大同団結して一本化していく事が基本だと思っております。本学が良くなるには掃除のおばさんから始まって、関わる全ての人達が中央大学を良くしょうとする気持で一丸となった時に、初めて早稲田大学・慶應大学に勝てるのではないでしょうか。会も進みアルコールが入るにつれ７台のテーブル毎に着席の学員は終始和やかな雰囲気でした。又この間、久野理事長は本学と学員会に対する理解と協力のお願いで、各テーブルを回り名刺交換を行っておりました。 次いで恒例となっている新規入会の会員紹介に移り、下記の学員が壇上にあがり一言ずつ自己紹介・自己ＰＲを行いました。 ・小崎 学氏　　（昭和４９年・法）（社）北方圏センター ・国岡 健氏　　（平成３年・文）北海道札幌北高等学校 ・中田 徹氏　　（昭和５３年・法）日本化薬（株）札幌支店 ・平野 正明氏　（昭和６０年・経済）北海道企画振興部地域行政局市町村課 ・棟方 裕昌氏　（昭和５２年・法）北海道企画振興部科学技術振興課 ・村田 浩輔氏　（平成１６年・法）札幌市南区税務部課税課市民税係 ・山岡 庸邦氏　（昭和６０年・経済）北海道経済部総務課 続いて北海道議会議員の道下大樹氏（平成１０年・法)、札幌市議会議員の小倉菜穂子氏（昭和５４年・法）恵庭市議会議員の柏野大介氏（平成１５年・法）の３氏が壇上にあがり、最近の議会の動きについて一言ずつ報告を頂きました。 次いで恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を全員で合唱し、今回の新規入会者と久野理事長、和田支部長、石林特別顧問、金井学員会副会長、小林千代美氏（平成４年・法）等の諸氏が壇上にあがり校歌・応援歌は３番迄フルコーラスで熱唱し、惜別の歌に至っては全員が輪になり肩を組み、哀愁を帯びた歌詞に酔いしれながら、まるで大学時代さながらの雰囲気の中、学員の心も大学生そのもの…誰もが青春時代のただ中いるようなそんな熱気に包まれました。最後は籏本副支部長が壇上に上がり、大学、学員会、札幌支部の繁栄と参加者のご多幸とご健勝を祈念し、万歳三唱で盛会のうちに和やかに終了散会となりました。
		9	13	第 30 回ゴルフ大会の開催	３連休の初日、本年度３回目（通算第３０回）のゴルフ大会は秋晴れの中（気温２８度)、安平町にあるオークウッドゴルフクラブにおいて開催されました。 吉田会長はあいにく体調不良の為欠席となりましたが１７名の参加がありました。 品田康博氏（昭和４０年・経済・(株）道都機動警備）の注意事項の説明後、午後１２時にアウトコースでスタートし（ゴルフ場の都合で９月中はキャディの付かないグリーンキャディシステム採用)、天候にも恵まれ楽しいゴルフ大会になりました。優勝は服部忠良氏（昭和３３年・商・三共緑地開発（アウト４４・イン４０） 準優勝は中山正治氏（昭和３９年・法・フジサービス（株）（アウト４７・イン４６）尚、服部氏はベストグロス賞も合わせて獲得しました。 今回、金井重博氏（昭和３８年・商（株）富士メガネ名誉会長・本学学員会副会長）よりご寄贈頂いた清酒「久保田 万寿」は優勝者へ、髙橋恭平氏（昭和４８年・理工・(株）タカラ 専務取締役）からご寄贈の品は入賞者へ授与されました。 初参加の小川義博氏（平成７年・商・三条美装（株）常務取締役）からは来年度も是非参加したい旨の挨拶があり、ゴルフ歴３０年になる西山眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺（株）専務取締役）からは去る８月２日（土)、苫小牧市にある桂ゴルフ倶楽部において、ホールインワンを達成した旨の挨拶と全員に記念品が配られました。 最後は最年長の青木茂氏（昭和２９年・法・青木司法書士事務所）の挨拶で本年度のゴルフ大会を締めて頂き、記念写真を撮りました。参加者一同再会を期して和やかなうち散会しました。
		10	16	札幌支部幹事会の開催	北海道経済センター８階第２会議室において、午後６時より西原幹事長以下幹事の村木宏彰氏（昭和６１年・法・(株）サテライト・フィナンシャル・アドバイザリー・サービス 取締役札幌支店長）知野学氏（平成３年・法 ・札幌市中央区役所市民部総務企画課庶務係長）小川義博氏（平成７年・商 ・三城美装（株）常務取締役）出席のもと開催致しました。 議案第１号 :「支部年末懇親会の企画について」西原幹事長より本懇親会を盛り上げるために若い人達の感覚で企画を考えて欲しい旨説明し、幹事の他何人か集まってもらう事になりました。 議案第２号 :「中大吹奏楽部の演奏会開催について」西原幹事長より本演奏会について主旨を説明し、動員の協力・チケットの販売・プログラム広告掲載の協力要請を行った。
		12	9	支部年末懇親会の開催	恒例となっている当支部の年末懇親会を去る１２月９日（火）京王プラザホテル３階「雅の間」において、ご来賓に上田文雄札幌市長、小樽支部より関口正雄支部長をお迎えし、和田支部長以下８７名参加の下に開催しました。 司会は西原幹事長が進行し、懇親会に先立ち和田支部長からご挨拶の中で、支部の相談役として貢献された石橋嘉彌氏（昭和２５年・法）が本年９月１８日に、永年市議会議員としてご活躍された原口伸一氏（昭和３２年・法）が１２月４日に夫々亡くなられた旨のご報告があり、お二

					人のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げました。 又平成２１年６月７日（日）に「札幌コンサートホール Kitara 大ホール」において、本学吹奏楽部の演奏会が行われる旨のお話がありました。会場は 2008 名も入場できる広さがあり、学員とそのご家族、友人等多数参加頂けるように要請がございました。 続いてお忙しい公務の中ご参加頂いた上田札幌市長からは、本年の札幌市政は色々な問題が出てきてマスコミでも取り上げられましたが、これらの問題点を反省し来年は市民の信頼を勝ち得るよう札幌市政に取り組みたいと、決意も新たにしておりました。 髙橋悟副支部長（昭和５２年・文・札幌市市民まちづくり局 情報推進部長）の乾杯の音頭で懇親会に入りました。 会場ではテーブル毎に着席の学員がアルコールが入った所で、お互いに名刺交換や記念のスナップ写真を撮ったりと、終始和やかな雰囲気で進行しました。 新規入会の会員紹介に移り、次の各氏が新規会員となられました。 ・小濱 淳一氏　（昭和６２年・商 ）予備校クラズユニック ・甲野 晃弘氏　（昭和６１年・経済 ）サントリー（株）北海道支社 ・佐藤 充孝氏　（昭和６３年・法 ）北海道総務部人事局人事課研修グループ ・阿部 浩文氏　（昭和５７年・法 ）北海道石狩支庁地域振興部地域政策課 例年年末懇親会は親睦を目的としており、今回は若手の幹事を中心に楽しい企画を練って貰いました。その中心となった村木宏彰氏（昭和６１年・法 ・(株）サテライト・フィナンシャル・アドバイザリー・サービス札幌支店）にバトンタッチし、司会進行をお願いしました。　テーブル対抗のゲーム（１．輪ゴムゲーム　２．豆つまみゲーム　３．中大クイズ）を行い、その結果の総合得点で優勝から７位までを決定。　因みに「輪ゴムゲーム」は輪ゴムをストローで隣の人に渡して行くゲームで「豆つまみゲーム」はお皿の中に豆を３０粒入れ、それを箸でつまんで時間内に何粒取り出せるかを競うゲーム、「中大クイズ」は中大にまつわる話題を集めて、例えば東都野球の一部に昇格した時の監督は誰？等…こんな問題も出題されました。学員はそれぞれテーブル毎にチームワークを発揮し、優勝賞品をねらって対抗意識を燃やす姿は、さながら学生時代に戻ったような光景でした。会場が盛り上がった処で、和田支部長と参加学員とのジャンケン大会で最高潮に達し、優勝は奥策久治氏（昭和３５年・法・(有）北日本電話）で「京王プラザホテル札幌」の提供によるペアー宿泊券を獲得しました。尚ジャンケン大会に協賛頂いた１４，５００円は札幌市社会福祉協議会へ寄付金として贈呈致しました。 懇親会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を全員で合唱しました。和田支部長・新規入会者４名に今回懇親会の企画担当された幹事全員が壇上に上がり、肩を組む者・手を繋ぐ者ありとそれぞれ全員が輪になり３番まで熱唱し、盛会のうち和やかに終了しました。忘年会の最中でもあり学員は三々五々に連れだって、二次会へと夜の街に流れて行きました。
		12	24	支部三役会会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において、和田支部長、旗本・檜森副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催致しました。 議案第１号：「札幌支部平成２０年度事業報告並びに収支決算報告について」西原幹事長より別添資料に基づき報告了承されました。 議案第２号：「中央大学音楽研究会吹奏楽部演奏会開催について」本演奏会開催に当たり、旭川・札幌両支部より３００万円を負担する事になり、プログラムの広告掲載募集等について検討し、別添の資料に基づきそれぞれ担当し広告を募集する事になりました。
2009 年					学校法人横浜山手女子学園を系属法人とする(後に合併)
	21	1	26	札幌市役所白門会新年会へ参加	例年にない暖冬の中、平成２１年札幌市役所白門会新年会は、高橋悟会長（昭和５２年文・市民まちづくり局情報化推進部長）以下ＯＢと現役合わせて２８名の出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において午後６時１５分から開催されました。 当支部から和田支部長が参加しました。 水野雅人幹事長（昭和６３年法・北区市民部地域振興課まちづくり推進係長）の司会進行で行われ、髙橋会長の挨拶のあと、来賓の和田支部長からは、支部事業運営に対するお礼と今年６月に予定されている吹奏楽部の北海道公演に対する協力などについてお話がありました。 公務多忙の中、貴重な時間を割いて出席いただいた上田文雄市長（昭和４７年・法）から、人を大事にすることでこの世界的な不況を乗り切って行くことなど平成２１年度の札幌市の取り組みについての力強いお言葉をいただいた後、堀澤純一部長（昭和５４年・法）の乾杯の音頭で新年会に入りました。和やかな雰囲気の中で会は進み、最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯唱い上げ、市役所ＯＢの石林清氏（昭和２１年・法　元収入役）の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後恒例となっている二次会では三輪潤前会長（昭和４７年・法・札幌市手稲区市民部総務企画課長）の寅さんの名調子や石林先輩の９６歳とは思えない素晴らしい歌声などで大いに盛り上がりました。
		3	25	支部三役会議に開催	北海道経済センター３階特別会議室において、午後１２時より和田支部長、籏本・高橋副支部長、西原幹事長出席のもと開催致しました。 ・議事第１号：「平成２０年度収支決算報告について」 西原幹事長より別添資料に基づき報告了承されました。 ・議事第２号：「中大吹奏楽部演奏会開催について」

					西原幹事長より別添資料に基づき３月２５日現在協賛金３２５，０００円　協賛広告１，７００，０００円　合計２，００５，０００円となっているものの広告等で２，５００，０００円以上を集めたい。 　演奏会会場は２，０００名収容可能なので、父母連絡会会員（３２８名）、札幌地区吹奏楽連盟会員（４７１団体）に夫々ＤＭを発送しチケット購入依頼の要請を行う。並行して学員会札幌支部全員（平成２０年度会費納入者２７５名）に対してチケット５枚の要請を行う。 　又市民向けとしては、各区役所の市民部にお願いしてチラシ５０枚、ポスター１枚を届けそのＰＲと周知を図る。 市内の各プレイガイド、楽器店、キタラ、市民ホール、教育文化会館等にもチケット販売の協力を頂く。 　演奏会運営に関しアルバイト１名を４月～５月の２ヶ月採用し、その業務を担当させる旨報告了承されました。
		5	27	第 31 回ゴルフ大会の開催	前日の予報では晴れでしたが、当日はあいにくの小雨の中、本年度１回目（通算３１回）のゴルフ大会は石狩市にある「シャトレーゼカントリークラブ石狩」において開催されました。 吉田会長は、別予定が入り欠席となりましたが、９名の参加がありました。品田康博氏（昭和４０年・経済・北海道セキュリティ事業協同組合）の注意事項の説明後、午前８時４０分に中コースでスタートしました。プレイの途中からは雨も止み、快適なゴルフ日和で楽しい大会になりました。尚、ハンディキャップはダブルペリア方式で行いました。優勝は原邦夫氏（昭和３９年・商・中４７　東４９）、準優勝は初参加の間山正一氏（昭和４９年・法通・北海道工業大学工学部・中４８　東４０）で同氏はベストグロス賞も合わせて獲得しました。今回二人の初参加があり、金丸　英之氏（昭和４１年・法・NPO 法人フリースクール自由が丘学園）、間山正一氏の両氏からは、残りの２回も是非参加したい旨の挨拶がありました。　最後に西原幹事長からは、来る６月７日（日）札幌コンサートホール Kitara 大ホールで開催の、本学吹奏学部演奏会へご家族・友人等をお誘い、是非参加するよう要請を行い、招待用のチケットを手渡しました。　次回は７月２２日（水）「札幌エルムカントリークラブ西コース」において午後１２時１２分スタートする旨、会員以外の人も誘って参加頂くようお願いし、散会しました。
		6	2	支部三役会の開催	北海道経済センター３階特別談話室において、午後１２時より和田支部長、髙田理事長、籏本、檜森・高橋副支部長、西原幹事長、浜崎副幹事長出席のもと開催しました。　議案第１号：「札幌支部平成２０年度事業報告並びに収支決算報告について」西原幹事長より別添資料に基づき報告了承されました。　議案第２号：「中大吹奏学部演奏会について」西原幹事長より、標記演奏会プログラムの広告掲載先は７１件、協賛５件にチケットの売上を合計すると、当所の目標額３，５００千円は達成の見通しであり、集客についても市民、学員会、父母連絡会関係者を併せて１２００～１３００余名の入場者が見込めるとの報告がありました。
			7	第 32 回ゴルフ大会の開催	本年度第２回（通算第３２回）の支部ゴルフコンペが「札幌エルムカントリークラブ西コース」において会員１４名参加のもと開催されました。当日はあいにくの曇天日和でしたがゴルフをするにはいい気候でした。事務局より注意事項の説明後午後１２時１２分にスタートしました。優勝は竹花明氏（昭和４６年・商　（株）タカフジ興産・アウト４４ イン４３）、準優勝は間山正一氏（昭和４９年・法 通・北海道工業大学社会基盤工学科 アウト４３　 イン４２）がそれぞれ獲得しました。尚ベストグロス賞は間山氏が合わせて獲得しました。今回初参加の田井中氏（平成１年・法 ・泰和石油（株））から次回も是非参加したい旨のご挨拶がありました。　事務局からは来る８月６日（木）開催の支部総会、９月１６日（水）開催の本年度第３回ゴルフコンペへの出席要請を致しました。
		7	23	札幌市役所白門会総会・納涼会へ参加	夏らしくない肌寒い日が続く中、平成２１年札幌市役所白門会総会・納涼会は、髙橋悟会長（昭和５２年・文 ・札幌市北区市民部長）以下ＯＢと現役合わせて２２名の出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において午後６時１５分から開催されました。当支部から和田支部長・西原幹事長が参加しました。　総会では役員の改選が行われ、会長には荒井功札幌市観光文化局観光コンベンション部長（昭和５４年・法）、副会長には渡辺 孝之札幌市西区保健福祉部保護二課長（昭和５７年・法）、幹事長には髙橋 博英札幌市西区保健福祉部保護二課保護一係長（平成３年・法）がそれぞれ選出されました。　その後、納涼会に移り、髙橋会長の挨拶のあと、来賓の和田支部長から、支部事業運営と今年６月に開催された吹奏学部の北海道公演に対するお礼や白門会のさらなる発展に対するお話があり、奥岡札幌総合情報センター（株）代表取締役社長（昭和４７年・法 ）の乾杯の音頭で懇談に入りました。公務多忙のため、残念ながら上田文雄市長（昭和４７年・法）は急遽出席できなくなりましたが、和やかな雰囲気の中で会は進み、最後は会員で校歌・応援歌・惜別の歌を力いっぱい唱いあげ、市役所ＯＢの石林清氏（昭和２１年・法 元収入役）の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後、恒例となっている二次会では石林先輩の９７歳とは思えない素晴らしい歌声などで大いに盛り上がりました。
			25	中央大学父母連絡会札幌支部総会並びに父母懇談会へ出席	札幌すみれホテル３階「ヴィオレ」において開催の「父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会」へ和田支部長が出席されまました。当日は在校生の父母１０６名が出席されました。午後１２時３０分より総会の議事に入り、青野支部長の挨拶に続き「２０８年度事業報告・決算報告」、「２００９年度事業計画・予算・役員改選」が議事として審議されました。　新支部長に東原幸生氏、副支部長に岡村一郎・大下泰生の両氏、他新役員が選任されました。引き続き午後１時１０分よ

					り父母懇談会が開催され、本学商学部 木下耕児部長からは「大学の近況について」、帯部幸子氏（法学部事務室）からは「学業・学生生活について」、大西浩輔氏（キャリアセンター）からは「進路・就職について」のお話がありました。終了後は希望者に対し個人面談も実施されました。
		8	6	平成 21 年度支部定時総会の開催	連日蒸し暑い日が続いている最中、当支部２１年度定時総会は８月６日（木）午後６時より、京王プラザホテル札幌２階「ローズルーム」において開催されました。ご来賓に本学理事長で学員会会長も務める久野修慈理事長、金井重博学員会副会長、随行員として本学総務部法人秘書室池田浩二課長をお迎えし、和田支部長以下６５名が出席されました。　総会に先立ち和田支部長よりご挨拶と報告を頂き、西原幹事長の司会進行で行われました。和田支部長からのご報告要旨は以下の通りでした。去る６月７日（日）中大吹奏学部の北海道公演が行われ、前日の旭川に次いで「札幌コンサートホール Kitara 大ホール」において 1,200 余名の札幌市民が入場され、盛会裡に終了致しました。本演奏会開催にあたり、学員各位におかれてはプログラム広告への掲載、チケットの販売に関し絶大なるご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。因みに本演奏は全国で開催されておりますが、一会場で１，０００名入場したという箇所は数える程でございます。演奏された学生達は音響効果抜群で全国的にも有名な「Kitara」で、演奏が出来た事に非常に感激しておりました。　又本年度の春の叙勲で、当支部会員の栗山裕吉氏（昭和３８年・法・栗山裕吉法律事務所）が旭日中綬賞、南寿寛氏（昭和２８年・法）が瑞宝小綬賞をそれぞれ受章された旨、ご披露され出席者全員拍手をもってお祝いしました。 続いて第一部の総会に移り「第１号議案：平成２０年度事業報告並びに収支決算報告について」は西原幹事長より別添の資料より報告、全員異議なく承認されました。議事の終了後、西原幹事長より本学１２５周年記念事業に対して１，０００千円を寄付したい旨提案が出され、諮ったところ全員異議なく承認されました。　第２部は和田支部長からのご来賓の紹介と乾杯の音頭で懇親会に入りました。ご来賓の久野理事長・会長からは次のような要旨のご挨拶を頂きました。「私は本学の将来に向けて全国におられるＯＢの皆様方にお会いしてご意見・思い入れをお聞きし、それらを参考にして本学の経営に取り入れ反映させるべく全国２２７支部の内１８４支部に参りました。本学がこの厳しい大学の生き残りを掛け競争に勝つ為には、卒業生ＯＢの声を拝聴し、本学の今後の経営に反映させ生かしていかなければならないと考えているところでございます。 昨年京都支部に参りました際、昭和１８年に特攻兵として徴兵され、上野駅で出陣式の時に中大の同窓生が見送りに行ったわけですが、その状況を題材にして「駿河台の空は暗かった」という本をお書きになった方と私は２時間程お話をする機会がありましたが、戦前戦後を通じＯＢの諸先輩は本学に対する思い入れが非常に大きいという事がわかりました。　又先般岐阜支部に参りました時に、お話を伺ったその方は現在岐阜支部の副支部長をされており、昭和３７年に本学の法学部を卒業され、岐阜市で学校の先生をされた後、父親が経営されていた花屋を継いでおります。自分の父親は小学校しか出ていなく花屋を営んでいましたが、その方は法律の勉強がしたく中央大学の法学部を受け合格しました。おそらく「花屋を継げと言うに違いない」と思いながら、合格を父親に告げたところ、父親は黙って送り出してくれました。父親は小学校しか出てはいないが、本学の法学部は素晴らしいという評価をし、進学を許したのであろうと、その方はおっしゃっていました。　ところが今、中央大学はそういう評価を受けていないのではないか？今の中央大学はどうなっているのか？どこに行っているのかわからない！是非中央大学を建て直して貰いたい！とこれらはＯＢの方々の真剣なご意見だと思います。　先週新潟支部へ参りました。ゲスト講話の講師として北朝鮮に拉致されました蓮池 馨さんの講演がありました。要約しますと本人は拉致されてから一ヶ月間「自分は中央大学の学生で早く日本に戻してほしい。戻らないと大学を除名されてしまうんだ！」と言い続けましたが、なかなか釈放してくれませんでした。ついに諦めて韓国語の勉強を徹底的にやりました。その後釈放され日本に戻り、中央大学に復学し学問を修める事ができました。この間中央大学の先生方がわざわざ新潟迄来て下さって、私は講義を受け、２４年を掛け卒業致しました。 自分が今の立場にあるのは、中央大学のお陰であると心から感謝しているとお話され、会場におられるＯＢの方々から大変な喝采を浴びたわけであります。　そういう方々が本学を卒業され今や全国で５１万人になっております。この卒業生のご意見をいかに本学の経営に反映させていくかという事が今重要な時にきております。何としても皆さん方が卒業された中央大学は、将来とも生き残って行かなければなりません。中央大学を卒業して良かったという大学にしなければなりません。私は昨年５月に大学の理事長に就任してから学校内のあらゆる点検を行いました。毎朝午前８時に大学に行っております。これらの事からやらないと大学は変わらないと思っております。大学はつぶれないだろう。国は大学をつぶす事はないだろう。とはもはや神話にすぎず、これから生き残って行く為には国際的にも勝って行かなければならない時がきたわけです。　大学の場合、官庁と違って結論をだすのが遅すぎます。学校の先生方は優れており、慎重に問題政策を検討していくのは結構だけれども、意見の食い違いによって結論が出ない、少数派の意見がお蔵入りしてしまう等…つまりは、中間在庫の山を抱えてしまう事です。企業にたとえるなら倒産につながります。素晴らしい先生方の考えている本当の政策が、大学の経営に反映してこなければならないのであります。スピードをあげて結論を出していかなければ私は絶対生き残れないという信念に基づき、経営に当たっているという事をご理解頂きたいと存じます。　尚、皆さん方にお渡した資料の中に「中央大学の近況」という雑誌を入れさせて頂いております。残念なが

					ら中央大学は学生のための広報は有りましたがＯＢの方に対する広報はありませんでんした。本学には広報室があります。卒業されたＯＢの方々に中央大学の指針を示す必要があろうと広報誌を作りました。この広報誌を２７万人の卒業生の皆様にお送りしたところ、感激され相当なアクセスがありました。それだけ卒業されたＯＢの方々は、本学を卒業された事に誇りと思い入れを持っておられる訳で、これらに応えていかなければ中央大学の将来はないというのが、私の考えであります。大学も新しい時代が参りました。先般慶応大学が株式で２８６億円の損失を出したのも、福沢諭吉の名前に依存していた証ではなかったかと思われます。大学は真剣勝負の時代がきました。私はあらゆる面で大学を変えて参りたいと存じます。慶応・早稲田には負けるわけには行きません。まだまだ取り返しが出来るという事で私の挨拶に代えさせて頂きます。どうぞ今後とも本学に対する深いご理解とご支援をお願い致します。 　懇親会も進みアルコールが入るにつれて、６台のテーブル毎に着席の学員は終始和やかな雰囲気でした。又この間、久野理事長は本学と学員会に対する理解と協力のお願いで各テーブルを回り、名刺交換を行っておりました。次いで恒例となっている新規入会の会員紹介に移り、下記の学員が壇上に上がり一言ずつ自己紹介・自己ＰＲを行いました。 ・ 伊藤善総氏（平成１６年・法）栄冠運輸（株）） ・ 白石京子氏（平成１年・文） ・ 白濱直人氏（平成２０年・法 ）札幌市西区役所保健福祉部保護二課保護係） ・ 堀内朋氏（平成２０年・商）（株）京王プラザホテル札幌） 　会が盛り上がったところで横井一夫氏（昭和２９年・法）が学生時代から愛用しているハーモニカを持参し、余興として「丘を越えて」・「名月赤城山」の二曲を演奏して頂き、会場からは万雷の拍手が沸き起こりました。引き続き恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を全員で合唱し久野理事長、和田支部長、石林特別顧問、金井学員会副会長、小林 千代美氏（平成４年・法）等の諸氏が壇上に上がり校歌・応援歌は３番迄フルコーラスで熱唱、最後の惜別の唄に至っては全員が輪になり肩を組み、哀愁を帯びた歌詞に酔いしれながらまるで学生時代さながらの雰囲気の中、学員の心も大学生そのもの…誰もが青春時代のただ中にいるような熱気に包まれました。 　最後はご来賓の金井学員会副会長が壇上に上がり、大学・学員会札幌支部の繁栄と参加者のご多幸とご健勝を祈念し、万歳三唱で盛会のうちに和やかに終了散会しました。
		9	16	第 33 回ゴルフ大会の開催	本年度３回目の支部ゴルフ大会が、安平町の早来にある「オークウッドゴルフクラブ」において開催され、吉田会長以下１４名の参加がありました。　品田康博氏（昭和４０年・経済）から注意事項の説明後、午前９時４５分スタートしました。絶好のゴルフ日和に恵まれましたが、途中天候が変わり通り雨に合いましたが、たいした事もなく無事終了出来ました。　優勝は今回初参加の工津輝雄氏（昭和３９年・商 ・(株）エミック　アウト４６・イン４１）、準優勝は村上 一元氏（昭和３９年・文・五英商事（株）　アウト４８・イン４７）で、工津氏はベストグロス賞も合わせて獲得しました。尚、工津氏は「初めて参加しましたが、同窓という事でパートナーとも気楽に楽しくプレイが出来て、来年も是非参加したい」と優勝者としての挨拶がありました。懇親会も終始和やかな雰囲気で進み、今回吉田会長は体調不良の為、競技には参加出来ませんでしたが、表彰式では来年も皆さんにご参加頂き、楽しい大会にしたい旨の挨拶がありました。
			26	北海道北地域ブロック懇談会への出席	中央大学では本学の近況等を全国の学員に周知させ、理事会の基本方針及び創立１２５周年記念事業、教学関係等について報告し、学員各位から本学に対する意見、助言等を貰う機会として、また母校への理解をより一層深めて貰うために地域ごとにブロック懇談会を開催しております。北海道については、去る９月２６日（土）午前１１時より京王プラザホテル札幌２階「クローバールーム」において、札幌を含めて函館、小樽、旭川、帯広各支部の支部長、幹事長１０名、本学より久野理事長、長内常任理事、石川商学部長、鎌田管財部長、創立１２５周年記念プロジェクト推進本部川野部長、池田秘書課長、学員会より金井副会長、当支部からは和田支部長、籏本副支部長、西原幹事長が出席されました。　冒頭に久野理事長の挨拶、DVD「中央大学のビジョン」の放映に続いて食事と懇談会を挟み、石川商学部長からは研究教育、入試、スポーツ等大学の近況報告、長内常任理事からは１２５周年記念事業に関する報告があり、事務局からは各支部宛に書面で募金の協力依頼がありました。（札幌については５,０００,０００円）続いて各支部の活動報告と意見交換がなされ、質問等については長内常任理事、石川商学部長、鎌田管財部長が回答され活発な意見交換が行われました。
		10	8	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階・特別談話室において午後１２時より、和田支部長、籏本・檜森・荒井副支部長、西原幹事長出席のもと開催されました。・ 議案第１号　中大創立１２５周年記念事業募金について本件については去る９月２６日（土）開催の北海道北地域ブロック懇談会の席上、本学久野理事長、長内常任理事より要望のありました標記記念事業募金の追加依頼については、審議の結果未だ募金協力を頂いていない会員、８４０件に対し１口当たり５、０００円の寄付をお願いする事で承認されました。・ 議案第２号　上半期事業報告並びに収支決算報告について西原幹事長より別添資料より報告承認されました。・ 議案第３号　支部年末懇親会開催について来る１２月３日（木）午後６時より京王プラザホテル札幌地下１階「プラザホール」において行う事で了承されました。
			8	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階・特別談話室において午後１２時より、和田支部長、籏本・檜森・荒井副支部長、西原幹事長出席のもと開催されました。・ 議案第１号　中大創立１２５周年記念事

					業募金について本件については去る９月２６日（土）開催の北海道北地域ブロック懇談会の席上、本学久野理事長、長内常任理事より要望のありました標記記念事業募金の追加依頼については、審議の結果未だ募金協力を頂いていない会員、８４０件に対し１口当たり５千円の寄付をお願いする事で承認されました。・ 議案第２号　上半期事業報告並びに収支決算報告について西原幹事長より別添資料より報告承認されました。・ 議案第３号　支部年末懇親会開催について来る１２月３日（木）午後６時より京王プラザホテル札幌地下１階「プラザホール」において行う事で了承されました。
		11	12	支部幹事会の開催	京王プラザホテル札幌地下１階「あきず」において午後６時より、西原幹事長、常任幹事の村木宏彰氏（昭和６１年・法（株）サテライト・フィナンシャル・アドバイザー・サービス取締役札幌支店長）、知野学氏（平成３年・法・札幌市市長政策室秘書部秘書課長）、小川　義博氏（平成７年・商・三城美装（株）代表取締役副社長）に若手の幹事佐藤善宣氏（平成１２年・理工・札幌市市長政策室広報部広報課報道係）、村田浩輔氏（平成１６年･法・札幌市南区役所税務部課税課市民税係）出席のもと開催致しました議案第１号：「支部年末懇親会の企画について」西原幹事長より本懇親会は親睦が目的であり、昨年参加の会員から大変好評を頂きましたので、今回も若い人達の感覚で企画を考えて会を盛り上げて欲しい旨説明し、幹事のほか何人かの協力を得て実施する事になりました。
		12	3	支部年末懇親会の開催	温暖化気候の影響のせいか、師走に入っても雪の少ない毎日が続く最中、当支部の年末懇親会が午後６時から京王プラザホテル札幌２階「エミネンスホール」において、和田丈夫支部長（昭和３５年・法・和田丈夫法律事務所）以下９０名の会員が集い開催されました。司会は、西原幹事長が進行しました。冒頭、和田支部長より日頃の支部事業に対する協力のお礼と、当支部会員の小沼肇子氏（平成１０年・法）が藍綬褒章を受章された旨の報告があり出席者全員拍手で持ってお祝いしました。約２時間２０分、お互いに近況を語り合いながら、母校の更なる発展に向けて奮闘を誓い合いました。懇親会は、籏本道男福支部長（昭和３５年・商・公認会計士籏本道男事務所）の乾杯の音頭で始まり、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿が各テーブルのあちこちで見受けられました。しばらく歓談の後司会者より新規入会者の紹介があり、今回は４名が新会員として入会されました。 ・加勢　健治氏（平成９年・商）㈱加勢経営事務所 ・鈴木豪氏（平成１４年・法）北海道財政局財政課 ・竹越広志氏（昭和５８年・経済）北海学園札幌高等学校 ・礪波雄一郎（平成１２年・文）サントリーフーズ㈱北海道支社 本会の目的は会員同士のより一層の親睦を深めるものであり、アルコールが入ったところで若手グループの企画によるゲーム大会がはじまりました。 司会進行を村木宏彰氏（昭和６１年・法・(株）サテライト・フィナンシャル・アドバイザリー・サービス札幌支店）にバトンタッチし合いの手に重森健一氏（平成４年・法・(株）京王プラザホテル札幌宴会料飲部）が加わり絶妙のコンビによる司会のもとゲームがはじまりました。①豆つまみゲーム　３回戦　②中大クイズ　中央大学に関係したクイズを１５問出題しテーブル対抗で競います。豆つまみゲームは各テーブルから代表３名に登壇して頂き、豆２０粒を皿から皿へ移すゲームで３回戦行い、タイムを競うものです。また中大クイズは、中大生なら常識の問題から難問まで出題され（１中央大学の設立時の名称は?　①東京専門学校（早稲田）　②英吉利法律学校　③東京法学社（法大）　④日本法律学校（日大）　２中央大学の創立年は?　①１８５８年（慶大）　②１８８９年（日大）　③１８８０年（法大）　④１８８５年）４択で行われ、正解ボードを各テーブルから挙げて貰い速さを競うものです。ゲームの途中では、郡司孝志氏（昭和５７年・法・(株）北海道住宅通信社）と小林千代美氏（平成４年・法・衆議院議員）の手拍子で「中大節」を６番まで、続いて横井一夫氏が吹く自慢のハーモニカ演奏で会場は益々盛り上がりました。ゲームの最後は、和田支部長と参加者全員による「ジャンケン大会」を行いました。その結果最後に勝ち残り優勝は、國岡健氏（平成３年・文・北海道札幌北高等学校）が京王プラザホテル札幌から寄贈のディナー券を準優勝は、道下大樹氏（平成１０年・法・北海道議会議員）で同ホテルからのお菓子の詰め合わせをそれぞれ獲得しました。 尚景品の寄贈者は、下記の方々です。 ・重森健一氏　（平成４年・法）　㈱京王プラザホテル札幌宴会料飲部 ・田代信一氏　（昭和５６年・文）㈱京王プラザホテル札幌管理部 ・松本　一夫氏　（昭和３５年・商）㈱ファスト・フード・サービス 尚「ジャンケン大会」の参加料として徴収の７，６００円は、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会へ寄付しました。更に石林　清氏（昭和２１年・法・NPO 法人北海道地域文化保存振興協会）が壇上に立ち、森繁久弥作詞・作曲の「ちぎれ千島に雲が飛ぶ」を３番までアカペラで歌い会場を盛り上げました。 懇親会の最後は、毎年恒例となっている校歌･応援歌を３番まで出席者全員が力強く歌い上げ、惜別の歌になると全員が一同輪になり肩を組んで熱唱しました。最後の締めは、青木　茂氏（昭和２９年・法・青木司法書士事務所）の万歳三唱で盛会裡のうち終了しました。
2010 年				創立 125 周年	市ヶ谷田町キャンパス(ミドルブリッジ)開校、横浜山手中学校・高等学校が附属学校となる。附属中学校開校。

	22	1	28	札幌市役所白門会新年会へ参加	例年にない暖冬の中、平成２２年札幌市役所白門会(会長：荒井功　昭和５４年・法・札幌市観光文化局観光コンベンション部長、会員数：５７名)の新年会が、ＯＢと現役合わせて２３名の出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において午後６時１５分から開催されました。当支部からは和田支部長が参加しました。高橋博英幹事長(平成３年・法・札幌市西区役所保健福祉部保護二課保護一係長)の司会進行で行われ、渡辺孝之副会長(昭和５７年・法・札幌市西区役所保健福祉部保護二課長)の挨拶のあと、森芳郎氏(昭和５５年・法・札幌市人事委員会事務局次長)の乾杯の音頭で新年会に入りました。公務多忙のため、残念ながら、上田文雄市長(昭和４７年・法)は、欠席されましたが、和やかな雰囲気の中で会は進み、最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯唄い上げ、市役所ＯＢの石林清氏(昭和２１年・法・元収入役)の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後恒例となっている二次会では石林先輩の９７歳とは思えない素晴らしい歌声などで大いに盛り上がりました。
		4	2	支部三役会の開催	北海道経済センター３階特別談話室において、午後１２時より和田支部長、高田理事長、籏本・檜森・荒井副支部長、西原幹事長出席のもと開催致しました。 議案第１号：「札幌支部平成２１年度事業報告並びに収支決算報告について」 西原幹事長から別添資料に基づき報告了承されました。 議案第２号：「中央大学創立１２５周年記念事業について」 幹事長から本年１１月１３日(土)に八王子の本学において、創立１２５周年の記念式典が開催されることになっておりますが、先般、中大本部の辻本常任理事より記念事業に関連して１１月１３日以降来年３月末までに全国７ヶ所で記念の祝賀会を開催する旨の連絡があり、北海道については札幌で開きたい旨の事前の要請がありました。審議の結果、人集めの問題、忘年会等の調整の問題があり、札幌は忘年会と併せて開催の要望を依頼してはとの意見が出され本部にその旨を連絡する事になりました。その他の事項として幹事長から本年本学が創立１２５周年を迎えるに当たって、昨年本部から追加依頼のあった募金の最後のお願いを支部総会の案内と一緒に会員宛発送してはとの提案が出され出席者全員了承しました。 尚総会は下記の日程に決まりました。 日　時　　平成２２年８月５日(木)　１８：００～ 場　所　　京王プラザホテル札幌２階　「ローズルーム」 尚本部から寄付金の追加依頼額は５，０５７千円で４月２日現在６２５千円の追加申し込みがあり、残額４，４３２千円となっている旨報告。
		5	18	第 34 回ゴルフ大会の開催	本年度第１回のゴルフ大会は五月晴れの中、シャトレーゼカントリークラブ石狩において開催されました。吉田会長はあいにく別予定が入り欠席となりました。当所１９名の参加申し込みがありましたが期日が迫って来た時点で１０名の欠席者が出て結局９名で行うことになりました。 当日は、午前８時４５分に中コースをスタートしました。絶好のゴルフ日和に恵まれ後半の東コースでは気温２４度と少ない人数ながら楽しいゴルフ大会になりました。競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会をおこないました。 優勝は、間山正一氏(昭和１９年・法通・北海道工業大学基盤工学科・中４５　東４５)のスコアでベストグロス賞も併せて獲得しました。また準優勝は、廣川一彦氏(昭和４０年・法・中５１東５０)が獲得しました。 参加者からの要望で次回の７月１５日(木)以降は奥様の同伴が可能となり、参加者が増え楽しい大会になることを期待しながら、和気あいあいうちに散会しました。
		7	15	第 35 回ゴルフ大会の開催	本年度第２回のゴルフ大会が吉田功次郎会長以下１８名の参加のもと「札幌エルムカントリークラブ東コース」において開催されました。当初参加者は５組２０名の予定でしたが、欠席者が続出し当日は１８名になりました。 アウト２組、イン３組に分かれ、吉田会長の挨拶、品田康博氏(昭和４０年・経済)の注意事項の説明後、午前８時４２分それぞれがスタートしました。 優勝は第１回に続いて間山正一氏(昭和４９年・法　北海道工業大学・アウト４６　イン４３)、準優勝は西山眞吾氏(昭和４１年・商　西山製麺(株)アウト４４　イン４１)がそれぞれ獲得しました。尚、ベストグロス賞は西山氏が合わせて獲得しました。　吉田会長より優勝者、並びに入賞者全員にそれぞれ賞品を授与しました。最後は初参加の出口元治氏(昭和２８年・法　ホクビサービス(株))、濱田雅英氏(昭和４６年・経済　地崎商事(株))の両氏からご挨拶を頂きました。 事務局からは来る９月１１日(土)開催する本年度最後のゴルフ大会、８月５日(木)支部総会等へ出席のお願いをし、和気あいあいの内に散会しました。
			25	中央大学父母連絡会札幌支部総会並びに父母懇談会/進路・就職懇談会へ出席	札幌すみれホテル３階「ヴィオレ」において開催の「父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会」へ和田支部長が出席されました。 当日は在校生の父母８５名が参加されました。午後１２時３０分より総会の議事に入り、東原支部長の挨拶に続き「２００９年度事業報告・決算報告」、「２０１０年度事業計画案・予算案・役員改選」が審議されました。 その結果、新支部長に岡村一郎氏、副支部長に近藤則夫・井出博基の両氏、他新役員が選任されました。 引き続き午後１時１０分より「父母懇談会/進路・就職懇談会」が開催され、本学の学長であり法学部教授の永井和之氏からは「大学の近況について」又、「学業・学生生活について」、「進路・就職について」それぞれ学部の担当者からお話がありました。終了後は希望者に対し個人相談も実施されました。
			30	札幌市役所白門会創立 60 周年	連日の猛暑の中、市役所白門会創立６０周年記念の納涼会が、荒井 功会長（昭和５４年・法・

				記念納涼会へ参加	札幌市観光文化局観光コンベンション部長）以下、ＯＢと現役合わせて３２名が出席され、京王プラザホテル札幌２階「ローズルーム」において 開催されました。当支部から和田支部長・西原幹事長が参加しました。荒井会長による開会の挨拶に続いて、和田支部長とご来賓の小倉 菜穂子（昭和５４年・法・札幌市議会議員）からお祝いの言葉があり、堀澤 純一氏（昭和５４年・法･札幌市保健福祉局保健福祉部長）の 乾杯の音頭で懇親に入りました。ことしは新人が４人加わったこともあり、にぎやかな雰囲気の中で会は進みました。また、公務ご多忙の中、途中から上田文雄市長（昭和４７・法）も駆けつけ、日頃の市政に対するご理解とご協力のお礼の挨拶があり、 その中で４人の新人たちを激励しておりました。最後は、恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を会員全員で力いっぱい唱いあげ、市役所ＯＢの石林 清氏（昭和２１年・法・元収入役）の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。 その後、恒例となっている二次会では石林先輩の９８歳とは思えない素晴らしい歌声などで大いに盛り上がりました。
		8	2	支部三役会議の開催	市内中央区にある大和屋の会議室において午後１２時より和田支部長、金井学員会副会長、籏本・桧森・荒井副支部長、西原幹事長出席のもと開催いたしました。 議案第１号：「中央大学創立１２５周年記念式典報告と感謝のつどいについて」 本件については去る４月２日開催の三役会において審議しご承認を頂いており、この度本学より頂いた資料を基に作成の原案について審議し了承されました。 ・日時　平成２２年１２月２日(木)１７：３０～ ・場所　京王プラザホテル札幌　２階「エミネンスホール」 ①１７：３０～１７：５０　久野理事長、永井学長　挨拶 ②１７：５０～１８：２０　式典・大学の近況など(ビデオ上映) ③１８：２５～１８：４５　各支部代表へ理事長より感謝状贈呈 ④１８：５０～２０：１０　乾杯・歓談 懇談会中、記念演奏(管弦楽部等音研学生)又はＣＤによる校歌、惜別の歌等の演奏 その他の事項として金井副会長より本年は本学の１２５周年に当たっており、当支部の寄付金の努力目標額として５０，０００千円以上は確保したい旨提案があり、出席者全員了承しました。
			5	平成 22 年度支部定時総会の開催	連日蒸し暑い日が続いている最中、当支部平成２２年度定時総会を８月５日（木）午後６時より市内中央区にある「京王プラザホテル札幌 」２階「ローズルーム」において開催致しました。 ご来賓として本学理事長で学員会会長も務める久野 修慈理事長、上田文雄札幌市長、本年４月より本学執行役員会特別顧問としてご就任の丹保 憲仁氏、金井重博学員会副会長、小樽支部関口正雄支部長、創立１２５周年記念事業募金推進本部 山中温事務局長、随行員として本学総務部法人秘書室 池田浩二課長をお迎えし、和田支部長以下９５名が出席されました。約２時間お互いに近況を語り合いながら、母校のさらなる発展へ向けて奮闘を誓い合いました。会は西原幹事長の司会進行で行われ、総会に先立ち和田支部長よりご挨拶と報告を頂きました。 和田支部長からのご報告の要旨は以下の通りです。 本日は本学の１２５周年記念に当たりそれぞれ行事が予定されておりますが、地元札幌市役所白門会が去る７月３０日（金）設立６０周年を迎え、その会合が賑やかに行われました。 １２５周年の寄付の件ですが、本件については今迄色々な機会に何回となく皆様にお願いをして参りましたが、当初予定しておりました目標の予算額（１００億円）に対してかなり逼迫している状態でございます。７月３１日現在５８億５１６５万円で、今一度努力をして皆様のご協力を得なければならないと考えております。改めて今回学員会の存在理由との関係を申し上げると、学員会は言うまでもなく本学の興隆と発展に寄与する事を目的として発足しました。その活動目標は三つあり、「３Ｓ活動」と言われております。「Sympathy（親愛関係)」、「Square（交流の場)」、「Support（支援)」の三つの「Ｓ」を活動の目標にしており、今まさに「Support（支援)」が必要な時期ではないかと考えております。かつて若き日に本学で学んだ当時の気持ちを思い起こして頂き、我々は今どのような形で本学を支援出来るかという事を、今一度噛みしめて頂ければと思います。 続いて上田文雄札幌市長（昭和４７年・法）からは、挨拶の中で和田支部長からご紹介頂きましたように、札幌市役所白門会は過日創立６０周年記念を挙げさせて頂きました。本会は昭和２５年に設立されましたが、時は戦後第１回の民選による市長選が行われました。　我が中央大学法学部出身の先輩であります高田 富与弁護士が見事当選され、戦後の民主主義の源流を形成された戦後民選第１号の札幌市長であります。我々の大先輩がしっかりとした札幌市政の基盤を作って頂いたという事は、私達の誇りとするところであります。　　それから半世紀近くを経ましたが、本学法学部を昭和４７年３月に卒業の私が、札幌市政を担当する事になりました。高田市長が行政を担った当時は、終戦直後でもあり、全く何もなく、そういうところから始まった札幌でありますが、今や少子高齢化社会という極めて困難な市政課題を抱えております。今だからこそ知恵を絞り、市民の皆様方の信頼を得て、しっかりとしたこれからの札幌を作っていかなければならない時代にさしかかっております。本学に学んだ者として先輩諸氏に本当に恥ずかしくない札幌市政に邁進して参りたいと考えておりますので、今後とも宜しくご支援を頂きたいと思います。 続いて第１部総会の議事に移り「第１号議案：平成２１年度事業報告並びに収支決算報告につ

					いて」西原幹事長より別添の資料により報告、全員異議なく承認されました。 第２部の懇親会では籏本副支部長よりご挨拶とご来賓の紹介があり、乾杯の音頭により宴に入りました。ご来賓を代表して久野理事長から次のような要旨のご挨拶を頂きました。 １・２００３年８月から本年６月末まで在札幌オーストリア名誉領事の職にあった金井重博学員会副会長がオーストリア大統領から「オーストリア共和国功栄勲章金章」を授与されました。 名誉領事としておよそ７年間、オーストリアと北海道との架け橋の役割を果たしてきた金井副会長。「経済や文化の交流、推進を図ることが主な役割だった」とおっしゃっていました。 ２・札幌は３回お邪魔しておりますが、この度大学学員会会長に再任され、本学の新しいネットワークを作る為に、又慶応大学に負けない為にと、営業本部長として全国を行脚しております。現在学員会の支部は２３２支部ございますが、お伺いしていない支部は残り３支部でございます。　各支部にお伺いした際には何時も「本学ＯＢの方々は中央大学の貴重な財産である事を訴えつつ、その事を認識し大切にしていない大学は、もはや火葬場行き…とさえ申し挙げて来ました」 ３・昨年６月に「中央大学の近況」という雑誌を発刊し卒業生２７万人の方々にお送りしました。皆様方から１，３００万円のご寄付を頂戴しました。又昨年１２月に第２号をお送りしたところ１億４，０００万円、本年５月に第３号をお送りしたところ、現在迄４，５００万円のご寄付を頂いております。　これらの雑誌をお送りした中の一つのエピソードがございますのでご披露致します。「中央大学の近況」をお送りしたところ亡くなったご主人に代わって奥様が「この雑誌を仏壇に供え、その前で孫にお祖父ちゃんはこの大学を卒業したんだよ。と言い聞かせたとの事で、本当に心温まるお話でございます。　私は本学の理事長としてＯＢの方々と心底からコミュニケーションを取り、慶応大学に負けないような組織を作って行きたいと努力しております。 ４・本学はこの１１月１３日に１２５周年を迎える訳ですが、ただお祝い事で終わってしまうのではなく、この１１月１３日を起点に、大学の人的、物的な面で本質的に強化して行かなければならない時が来たと思います。　この為に全力を注いで参りたい。本学としても将来コースの中に新しいものを取り入れ強化していかなければならないと思っております。これからの大学は人間教育とか、あるいは責任感を持てとかという事に加えて、これからの学業に対して本当の生命力を打ち込んで行かなければならない。　それが国家というものを作り上げ、本学を１５０年あるいは２５０年と伸ばしていく事が出来ると思っております。 ５・本日お配りした資料の中に入っております中央大学スポーツ新聞に、本学の飯塚選手が世界ジュニア陸上選手権大会で優勝しました。オリンピックの成績からいうと３位は、この後のオリンピックにおいて必ずや日本の旗と中央大学の旗を揚げてくれるものと私は確信しております。　今後は本学もあらゆる分野において、国家のリーダーになれる人材を作っていかなければならない。先般、飯塚選手に会った時、「お前はやはりこの陸上のスポーツ選手として国家のリーダーなんだという強い意志を持って世界に挑戦して行かなければならない」と話をしました。　本学の卒業生があらゆる分野において、国家的なリーダーとして活躍してくれる事が必要であり、そのような学生をこれから教育して参りたいと思います。どうかＯＢの皆様のご理解とご協力を一層お願い申し上げます。 会も進みアルコールが入るにつれて、８台のテーブル毎に着席の学員は終始和やかな雰囲気でした。この間、久野理事長は本学と学員会に対する理解と協力のお願いで各テーブルを回り、名刺交換を行っておりました。 次に恒例となっている新規入会の会員紹介に移り、下記の学員が壇上に上がり一言ずつ自己紹介・自己ＰＲを行いました。 ・飯田 祐司氏　（昭和５８年・経済）（株）北洋銀行 ・石黒 英司氏　（昭和６２年・商）住友生命保険（相）旭川支社 ・石塚　肇氏　（昭和５７年・商 ）北海道警察本部 ・猪島 秋彦氏　（昭和５９年・商）（株）北洋銀行新琴似支店 ・小沢 達也氏　（平成１１年・法）（株）パソナ札幌支店 ・佐々木 徳子氏　（平成１７年・法）（株）第一葬祭 ・柴田 龍氏　（昭和５６年・理工）（株）北洋銀行 ・須之内 昌子氏　（平成２０年・法）（株）パソナ札幌支店 ・辻 昌子氏　（平成１４年・法 ）セーヴェーエムエル外国法律事務弁護士事務所 ・富樫 正浩氏　（平成５年・商 ）公認会計士富樫正浩事務所 ・豊岡 孝章氏　（昭和５６年・法）（株）北洋銀行千歳中央支店 ・堂前 綾子氏　（昭和４２年・文）三角山文庫（布の絵本と出前の紙芝居 ・中田 裕子氏　（平成２０年・商）（株）損保ジャパン札幌支店 ・浜野 聡史氏　（平成７年・商）（株）日立住友重機械建機クレーン札幌営業所 ・宮川 知久氏　（平成２２年・法）日本放送協会札幌放送局 ・板倉 拓也氏　（平成２２年・法）（株）読売新聞東京本社 北海道支社 続いて会の恒例となっている校歌・応援歌・惜別の唄を全員で合唱し、今回の新規入会者と久野理事長、和田支部長、石林特別顧問、金井学員会副会長等の諸氏が壇上に上がり、校歌、応援

					歌は３番までフルコーラスで熱唱、最後の惜別の唄に至っては全員が輪になり肩を組み、哀愁を帯びた歌詞に酔いしれながら、まるで大学時代さながらの雰囲気の中で学員の心も大学生そのもの…誰もが青春時代のただ中にいるようなそんな熱気に包まれました。 最後は桧森副支部長が壇上に上がり大学・学員会・札幌支部の繁栄と参加者のご多幸とご健康を祈念し、万歳三唱で盛会の内に和やかに終了、散会となりました。
		9	11	第 36 回ゴルフ大会の開催	本年度最後のゴルフ大会は、絶好のゴルフ日和に恵まれ吉田功次郎会長以下１６名参加のもと勇払郡安平町早来にある「オークウッドゴルフクラブ」において開催されました。吉田会長の挨拶、品田 康博氏（昭和４０年・経済）の注意事項の説明後、午前１１時４０分アウトコースをスタートしました。 優勝は工津 輝雄氏（昭和３９年・商　(株)エミック　アウト３７　イン３８）で同氏はベストグロス賞も併せて獲得しました。又、準優勝は溝渕 新蔵氏（昭和３１年・法　東京リーガルマインド大学　アウト４９　イン４５）が獲得しました。吉田会長より優勝者、並びに入賞者全員にそれぞれ賞品を授与しました。 今回初参加の濱野聡史氏（平成７年・商　(株)日立住友重機械建機クレーン札幌営業所）から来年度も是非参加したい旨ご挨拶頂きました。最後に事務局から、来る１２月２日（木）午後５時３０分より京王プラザホテル札幌において開催される本学主催の「中央大学創立１２５周年記念式典報告と感謝のつどい」への参加要請を行いました。 参加者一同来年度の再会を期して和やかのうち散会しました。
		10	27	支部三役会議の開催	北海道経済センター９階会議室において午後１２時より和田支部長、籏本・檜森、・荒井副支部長、西原幹事長出席のもと開催しました。 議案第１号：「平成２２年度札幌支部上半期事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長から別添資料に基づき報告了承されました。 議案第２号：「中央大学創立１２５周年記念「式典報告と感謝のつどい」について」 幹事長から本件について、本学担当の山中温氏（創立１２５周年記念プロジェクト推進本部事務局長）と打ち合わせの結果「記念式典並びに感謝のつどい」の当日は、学友会文化連盟音楽研究会吹奏楽部の学生４名による記念演奏、本学の創設から現在までをバーチャルリアリティーの映像と寸劇で表現された模様がビデオで上映されたり、卓話のゲスト講師として学友会硬式野球部監督の高橋善正氏による「ピッチャーについて」の講話が行われる等の報告がありました。 尚、開催の案内は１１月早々に支部会員、道内学員会各支部の三役（支部長、副支部長、幹事長)、父母連絡会各支部役員（支部長、副支部長）宛郵送し、出欠の確認をとる事で了承されました。
		12	2	支部年末懇親会ならびに中央大学創立 125 周年記念「式典報告と感謝のつどい」	師走に入ってもここ数年の温暖化気候のせいか、市内の都心部は積雪が少なく足下が滑りやすい日が続いております。 去る２日（木）午後５時３０分より中央大学創立１２５周年記念「式典報告と感謝のつどい」北海道ブロックの集まりがありました。 本学からは、久野修慈理事長・学員会会長、永井和之総長・学長以下１２名、道内学員会各支部(函館・小樽・旭川・帯広)の三役１１名、父母連絡会各支部（札幌・函館・道東・道北）の役員７名、札幌からは、年末懇親会を兼ねての開催により和田支部長以下１２６名参加のもと、京王プラザホテル札幌の２階「エミネンスホール」において開催されました。 司会進行は工藤 浩氏（昭和４６年・商・札幌テレビ放送元アナウンサー）にお願いし、第１部記念式典に入りました。 冒頭、金井重博学員会副会長から、学員会の運営協力に対するお礼と開会の挨拶があり、続いて本学吹奏楽部部員４名による記念演奏の後、久野理事長から「１２５周年を期に新しい中央大学に作りかえて行かなければならないという強い決意のもと、北海道地域の皆様にお集まり願い、 本当の中央大学が今後どういう形で強く、たくましく世界的に羽ばたいていくのかをお示しし、また１２５周年に際し、非常に厳しい経済環境のもと全国の学員各位より大変なご芳志を頂戴致した事に対して心から厚く、感謝申し上げます。」 また永井総長からは「１２５周年のこの機会に、日本のみならず世界において本学を卒業する時に学生が自分の４年間の学生生活に悔いがないと答える学生の率が一番多い大学、学生を一番伸ばす(成長させる)大学として、もう一つは、教員達が自分の研究が世界水準の研究の中で一番すぐれているか、 トップをめざしているか、そしてその研究に裏付けされた教育を学生にきちんと行い（知識を教え、理解させ、応用能力を身につけさせる）学生達を燃えさせている事であります。　最高の教育は、学生達を燃えさせる事ですので、私達教員はこの様な強い決意を持って教育に当たり、本学の制度に魂を入れて参ります。　私共は本学を卒業された全ての学員、日本、世界に対して本学が学生を一番伸ばす大学として社会で評価され、国際水準から見てもひけを取らないどころか、一段も二段も上の大学として学生を輩出することに萬進して参りたい。」との力強いご挨拶がありました。 次いで辻本京朔常任理事からは、去る１１月１３日（土）に本学で開催された式典の報告ならびに本学の創立時から現在までをバーチャルリアリティーの映像と寸劇で表現された模様のビデオが上映されました。 第２部感謝のつどいでは、北海道ブロックを代表して和田札幌支部長の挨拶がありました。その中で支部長は、支部年末懇親会開催のお礼と、この秋の叙勲で、当支部会員の丸山達男氏（昭和３９年・法）が瑞宝中綬章、菅野勲氏（昭和４２年・法）が瑞宝小綬章をそれぞれ受章された

					旨報告があり、本日出席の菅野氏に対し全員拍手を持ってお祝いしました。 次いで、上田文雄札幌市長(昭和５７年･法)の乾杯の音頭で祝宴に入りました。 　懇親会も進みアルコールが入るにつれて、会場は終始和やかな雰囲気の中、本学学員会の藤本幹子副会長からもご挨拶をいただきました。 　続いてゲストの高橋善正硬式野球部監督から［ピッチャーについて］の講話があり、その中で高橋監督は、本年のドラフト会議で読売巨人から指名を受けた本学出身の澤村拓一投手についてふれ、「本人は、入学時から１５０km以上のスピードの球を投げたいという目標を持って努力し下半身等を鍛えた結果、４年生になってからマックス１５７ｋｍを出し念願の巨人入りとなった。 今後も努力を続けていけば、まだ進化していくのではないか。早稲田大学の斎藤佑樹投手については、もうすでに投手として完成されているのでプロ球界での活躍はどうなのか？また来年本学に入学が決定の沖縄興南高校の島袋洋奨投手について」等の話しがありました。 　西原幹事長からは「本日の会合で札幌支部会員から徴収の会費の内５００，０００円を本学創立１２５周年記念プロジエクト事業へ寄付したい旨」の提案が出され、出席者全員の拍手を持って了承されました。 　尚本件については、事前に支部三役と打ち合わせ済みの事項であります。 　感謝状の贈呈では、北海道ブロックを代表して和田支部長が受け取りました。 引き続き恒例となっている校歌･応援歌･惜別の歌を、久野理事長、永井総長、金井学員会副会長、藤本学員会副会長、佐藤光信学員会副会長等々の諸氏３０名が壇上に上がり吹奏楽部部員の演奏入りで、校歌・応援歌は３番までフルコーラスで熱唱し、 最後の惜別の歌に至っては、全員が肩を組み哀愁を帯びた歌詞に酔いしれながら、まるで大学時代さながらの雰囲気の中、皆の心も大学生そのもの…誰もが青春時代のただ中にいるような熱気に包まれました。 　続いて学員会函館支部長の 岩船寛氏が壇上に上がり、本学・学員会・道内各支部の繁栄と参加者のご多幸とご健勝を祈願し万歳三唱。 最後に佐藤学員会副会長より本会が盛会のうちに和やかに終了した事に対して感謝の挨拶があり、閉会となりました。
2011 年	23	1	28	札幌市役所白門会新年会への参加	平成２３年札幌市役所白門会(会長：荒井功　昭和５４・法・札幌市観光文化局観光コンベンション部長、会員数：５８名)の新年会が、ＯＢと現役合わせて２８名の出席のもと、 ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において午後６時１５分から開催されました。当支部からは和田支部長が参加しました。高橋　博英幹事長(平成３年法・西区役所保健福祉部保護二課保護一係長)の司会進行で行われ、 荒井会長の挨拶のあと、長谷川　雅英氏(昭和５４年法・保健福祉局保健福祉部高齢福祉課長)の乾杯の音頭で新年会に入りました。公務多忙の中、上田文雄札幌市長(昭和４７年・法)にも顔を出していただき、 和やかな雰囲気の中で会は進み、最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯唄い上げ、市役所ＯＢの石林　清氏(昭和２１年・法　元収入役)の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後恒例となっている二次会では石林先輩の９８歳とは思えない素晴らしい歌声などで大いに盛り上がりました。
		5	19	第 37 回ゴルフ大会の開催	本年度第１回のゴルフ大会は、朝から曇天でしたが、石狩市にあるシャトレーゼカントリークラブ石狩において開催されました。 　当初１６名の参加申し込みがありましたが、期日が迫ってきた時点で６名の欠員が出て結局１０名で行うことになりました。 　スタート頃には薄日も差して来て、絶好のゴルフ日和となりました。品田康博氏(昭和４０年・経済)の注意事項説明後、午前８時３０分に中コースをスタートしました。 　競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会を行いました。 　優勝は、工津輝雄氏(昭和３９年・商・(株)エミック　中コース４２　東コース４２)が、準優勝は間山正一氏(昭和４９年・法通　中コース４０　東コース５０)が、又ベストグロス賞は工津氏が併せて獲得しました。 今回初めて参加の菅野勲氏(昭和４２年・法)からは大変楽しい会なので次回も是非参加したい旨の挨拶がありました。事務局から、次回は７月１１日(月)札幌エルムカントリークラブ東コースにおいて 午前８時３０分スタートする旨参加を呼びかけ、和気あいあいのうちに散会しました。
		7	11	第 38 回ゴルフ大会の開催	盛夏にもかかわらず現地はあいにくの曇り空の中、本年度２回目のゴルフ大会が「札幌エルムカントリークラブ東コース」において開催されました。 当初申し込みは５組２０名でしたが、その後２名の不参加が出、又当日になり２名の欠席があり、結局は１６名でスタートしました。途中からは晴れ間も出て絶好のゴルフ日和になりました。 　恒例により競技終了後、表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は廣川一彦氏(昭和４０年･法・アウト４２　イン４５)、準優勝は間山正一氏(昭和４９年・法通　アウト４５　イン４８)。優勝の廣川氏はベストグロス賞も併せて獲得しました。 又今回初参加の小林聖宣氏(昭和５７年法・東急建設(株)札幌支店)からは、いろいろな会合等に参加し、機会をとらえ人脈づくりを図って行きたい旨、挨拶を頂きました。最後に事務局より８月５日(金)開催の支部総会への参加要請を行いました。次回３回目の大会(９月１０日(土)は小樽支部との交流が目的で、早来町安平町にある「オークウッドゴルフクラブ」で行うことが決まっており同クラブでの再会と健闘を期して、皆和気あいあいのうちに散会しました。
			23	中央大学父母連絡会札幌支部総	札幌すみれホテル３階「ヴィオレ」において、父母連絡会札幌支部定時総会・父母懇親会が開

				会並びに父母懇談会へ出席	催され、当支部より和田支部長が出席されました。 　当日は午後１２時３０分より総会の議事に入り、岡村支部長の挨拶に続いて「２０１０年度事業報告・収支決算報告・２０１１年度事業計画・収支予算・役員改選」が審議され、新支部長に近藤則夫氏他新役員が選託されました。 　引き続いて午後１時１０分より父母懇談会が開催され、橋本基弘法学部長より「大学の近況について」次いで池上京子氏(経済学部事務室)より「学業・学生生活について」、 谷裕史氏(キャリアセンター)からは「進路・就職について」それぞれお話があり、終了後は個人相談会も実施されました。１年生については東京での生活、２年生以上には１年間の成績結果を個人面談の形で行われ１１６名の父母が参加されました。
			28	札幌市役所白門会総会・納涼会へ参加	連日の猛暑の中、平成２３年札幌市役所白門会総会・納涼会が、ＯＢと現役合わせて２９名参加のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において開催されました。 当支部からは和田支部長・西原幹事長が参加しました。総会では役員の改選が行われ、会長には森 芳郎札幌市水道局総務部長（昭和５５年・法)、副会長には長谷川雅英札幌市教育委員会生涯学習部総務課長（昭和５８年・商)、 幹事長には森 肇札幌市豊平区市民部地域振興課他地域活動担当係長（平成３年・商）がそれぞれ選出されました。 　その後、納涼会に移り、渡辺副会長による開会の挨拶に続いて、和田支部長とご来賓の伴 良隆氏（平成１５年・法・札幌市議会議員）からお祝いの言葉があり、森新会長の乾杯の音頭で懇親に入りました。 昨年に続き、今年も新人が加わったこともあり、和やかな雰囲気の中で会は行われました。公務多忙のため、残念ながら上田文雄市長（昭和４７年・法）は急遽出席が出来なくなりました。 　最後は会員で校歌・応援歌・惜別の歌を力いっぱい唱いあげ、市役所ＯＢの石林 清氏（昭和２１年・法　元収入役）の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。 その後、恒例となっている二次会では、一次会での盛り上がりそのままに盛会のうちに終了しました。
		8	5	平成 23 年度支部定時総会の開催	連日厳しい暑さが続いている最中、午後６時より京王プラザホテル札幌３階「雅の間」において開催致しました。 　ご来賓として学員会本部より金井重博副会長、大学本部からは久野修慈理事長・学員会会長をお迎えする予定でしたが、久野理事長につきましては急な国の会議が入り、代理として松丸和夫常任理事が出席、 他に山中温創立１２５周年記念事業募金推進本部事務局長を迎え、和田支部長以下８５名が出席されました。 　総会に先立ち和田支部長より、日頃の支部事業に対する協力のお礼とこの度春の叙勲で当支部会員の長部幸一氏（昭和３２年・法）と谷津正雄氏（昭和４１年・法）がそれぞれ瑞宝小綬章を受章された旨の報告があり、出席の谷津氏に対し全員拍手で持ってお祝いをしました。続いて支部長の司会進行により第１部の総会に移りました。 第１号議案：「平成２２年度事業報告並びに収支決算報告」について西原幹事長より別添資料に基づき報告があり全員異議なく承認されました。 第２部に入り籏本副支部長よりご挨拶とご来賓の紹介がありました。 　次いで金井学員会副会長のご挨拶と乾杯の音頭により懇親会に入りました。金井副会長のご挨拶の要旨は下記の通りです。 ①　学員の皆様からご協力を頂きました本学創立１２５周年記念募金も約６１億円あまり集まりました。 この場を借りて厚くお礼申し上げます。昨年１１月１３日に本学創立１２５周年記念式典を八王子校舎で行いましました。 これに関し全国７ヶ所で「式典報告と感謝のつどい」を開催し、札幌は１２月２日に行いました。 ②　去る３月１１日に発生しました東日本大震災の関係で本学は入学式、卒業式等のお祝いの催しを自粛しましてその経費を被災した学生たちの授業料の免除等の関係に回す等、学校当局もいろいろとご配慮されております。 ③　又、平成２２年度の新司法試験・公認会計士等の国家試験の結果を申し上げますと 　　イ：新司法試験は１８９名で全国第２位。 　　ロ：公認会計士試験は１５４名で全国第３位。 ④　学生の活躍の状況を申し上げますと 　　イ：去る１月２日～３日の箱根駅伝において本校は６位となり来年のシード権を確保しました。 　　ロ：準硬式野球部は東都大学準硬式野球春季リーグ戦で２年連続して優勝を達成し、この度８月１７日（水）～２１日（日）にかけ札幌市、江別市、千歳市にて開催の第６３回全日本大学準硬式野球選手権大会に出場することになりました。 つきましては、来る８月１６日（火）の開会式と１７日（水）千歳市民球場での第一試合の応援には、是非ご参加頂きたい。 　会も進みアルコールが入るにつれて７台のテーブル毎に着席の学員は終始和やかな雰囲気で会場内では名刺交換や日頃のご無沙汰している先輩への挨拶回り等が行われておりました。ご来賓の松丸常任理事からは平素の本学の諸事業運営並びに創立１２５周年記念事業募金の協力に対するお礼のご挨拶がありました。また公務等でご多忙の中、ご参加いただいた上田文雄札幌市長からは、３期目の市政に対するご理解とご協力のお礼のご挨拶がありました。上田札幌市長のご挨拶の内容は下記の通りです。

					「去る４月１０日の選挙におきましては、３期目という事で本当に多くの学員の皆様方のご支援を頂戴した上で札幌市長に当選させていただくことが出来ました。これから４年間本当に頑張って参りたい。さて３月１１日の東日本大震災、 そして福島原発の事故等、我々はかつて経験したことがないこの震災と原発事故というダブルの災害、これは私達札幌にとりましては遠くて、間接的な事で、少々リアリティがない感じがしておりますが、しかし、これは日本全体が変り、変ることを余儀なくされている時代が今来ているのだと思っております。こういう大震災、原発事故というように過激に迫って来る災害と同時にじんわりと、しかし確実に我々の社会の変革を求められているのは少子高齢化社会だと思います。 少子化だけならいいのですが高齢化という枠組みの中で人口構造がまさに高齢者が多くなってきており、３人に１人は６５歳以上という社会がもうすぐやって来るわけです。こういう時代に今迄通りの生産で良かったのか？今迄通りの働き方で良かったのか？ 今迄通りの消費の仕方で良かったのかという事も本当に考えていかなければならない時代だと思います。 　先程常任理事の松丸様から伺った話でございますが、本学の応援団にも女子が入って来たという事です。今、女の子がものすごく元気が良く、 私達は今生産を担って頂く女性を大事にしていく事が今まさに求められていると思いますし、高齢者を本当に真剣に考えていかなければならないそんな時代であるような気がいたします。是非札幌市政の中で今後も様々な問題を提起させて頂きたいと考えておりますので、 これからもどうか学員の上田 文雄が頑張っているという事を皆様ご注目頂きまして、出来ればご理解、ご支援を頂戴頂ければ有難い事と思っております。」 　次いで恒例となっている新規入会の会員紹介に移り、下記の会員が壇上にあがり一言ずつ自己紹介、自己 PR を行いました。 ・上野 崇宏氏　（平成１７年・商）(株)京王プラザホテル札幌 ・小林 聖宣氏　（昭和５７年・法）東急建設(株)札幌支店 ・坂井 秀行氏　（昭和６３年・商）日本興亜損害保険(株)札幌支店 ・伴 良隆氏　（平成１５年・法）札幌市議会議員 ・藤田 稔人氏　（平成１４年・法） ・森永 卓氏　（平成２年・理工）三井住友海上火災保険(株)札幌支店 　尚、支部総会懇親会への飲み物の寄贈者は下記の通りです。 ・泉山 利彦氏（昭和５２年・法）サッポロビール(株)北海道本社代表 ・札幌市役所白門会 ・北海道庁白門会 　続いて４月の地方選挙で北海道議会議員の道下大樹氏（平成１０年・法)、札幌市議会議員の小倉菜穂子氏（昭和５４年・法）の両氏からは当選のお礼と行政に対する抱負を聞かせて頂きました。 尚、道下氏・小倉氏は議員として２期連続して当選されております。 　次いで恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を全員輪になり肩を組み３番までフルコーラスで熱唱しました。 　誰もの心に過ぎ去りし青春時代が去来したことでしょう。 最後は桧森副支部長が壇上に上がり、大学・学員会・札幌支部の繁栄と参加者のご多幸・ご健勝を祈願し、三三七拍子で締め、盛会のうちに和やかに終了、散会となりました。
		8	22	第 63 回全日本大学準硬式野球選手権大会へ応援参加	９年振りに道内で開催される本選手権大会は、８月１７日（水）から２２日（月）迄千歳市民球場（千歳市)、野幌総合運動公園球場（江別市)、札幌円山球場（札幌市）を会場に、全国の大学２５チームが参加し熱戦が繰り広げられました。 　本学の野球部は池田浩二監督のもと選手関係者総勢４０名が来道し５試合を戦い、２２日（月）行われた決勝戦で福岡大学を１－０で９回サヨナラ勝ちし、２年振り９回目の優勝を飾りました。 　又試合の応援のため應援團（團長　内布諒）と関係者総勢１８名が来道し、ブラスバンドによる校歌・応援歌・中大健児の歌等の演奏、手拍子等による応援により、日本一奪回へ強力なバックアップ体制がありました。 　尚決勝戦終了後午後１時３０分より市内にある日本最大級のビヤホール「ビヤケラー札幌開拓使」で金井重博学員会副会長主催の祝勝会が開催されました。この建物は、開拓使時代の明治９年（１８７６年）この地に 「開拓使麦酒醸造所」が建設され日本人の手により始めてのビール造りが始まりました。本建物は、明治２５年札幌麦酒旧第一製作所として建設された赤レンガ造りのもので、その後明治４０年に増築されました。 その後、この由緒ある建造物は、平成５年サッポロファクトリーにビヤホールとして甦りました。１３５年という長い歴史ある建物の中で選手たちは、北海道地区限定販売のサッポロクラシックの生ビールにジンギスカンを充分に堪能しました。 又大学日本一という喜びと、遠方からはるばる応援のため来道した父母の皆さん方も一緒に参加され、会場は大変盛り上がりました。選手達にとって一生の思い出になる事と思います。
		9	10	第 39 回ゴルフ大会の開催	本年度３回目の支部ゴルフ大会が、早来町にある「オークウッドゴルフクラブ」において開催され、１名の欠席が出て会員１５名が参加されました。 　品田康博氏（昭和４０年・経済）から注意事項の説明後、午前１１時５４分スタートしました。当日は、絶好のゴルフ日和に恵まれ楽しい大会になりました。

					優勝は原邦夫氏（昭和３９年・商・アウト５４　イン４７）、準優勝は濱野 聡史氏（平成７年・商・(株)日立住友重機械建機クレーン北日本支店札幌営業所・アウト５０　イン４７）がそれぞれ獲得しました。 ベストグロス賞は松崎孝弘氏（平成１０年・商・松崎ビル・アウト４１　イン４２）が獲得しました。尚当日は会員の高橋恭平氏（昭和４８年・理工・(株)タカラ　専務取締役）から景品（お酒２本）のご寄贈があり優勝者等に対する副賞として使わせて頂きました。優勝の原氏からは来年も是非参加して優勝を目指したい旨挨拶がありました。 懇親会は終始和やかな雰囲気で進み、次年度第４０回の再会と健闘を期して、皆和気あいあいの内に散会しました。
		12	8	支部年末懇親会の開催	師走に入り雪の少ない日が続く中、当支部の年末懇親会が午後６時から「京王プラザホテル札幌」の３階「扇の間」において、和田支部長以下７５名の会員が集い開かれました。 司会進行は今回初めてフリーアナウンサーの木村光江さんにお願いしました。冒頭和田支部長から「今年は３月１１日に起きた東日本大震災、福島原発事故等の影響のせいか一年が経つのが非常に早かったと感じております。 私は毎年このシーズンになりますと思うのですが、忘年会というのは、忘れる年ではなくて次の年を望む年の望年会であると申し上げておりますが、来年はどういう年になるかと、もともと私は、物事を考える場合、マイナーな考え方は嫌いで、努めて陽気に楽天主義なプラス思考で考えております。 そういう意味で来年に期待するとしますと、本支部会員の中で最長老であります石林　清先輩（昭和２１年・法）が百歳になりますので、お元気に百歳をお迎えになりますように拍手で持ってお祝いをしたいと存じます。（出席者全員拍手）どうぞご健勝で、お体に気をつけて、長生きされるようお祈り申し上げます。 続いて第一部は、舛田雅彦氏（昭和５４年・法・札幌総合法律事務所・弁護士）を講師にお迎えして、『北海道暴力団排除条例について（密接交際者と呼ばれないために)』と題する卓話に入りました。 第１　はじめに １　暴力団排除条例制定の流れ 暴力団排除条例は、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（略称「暴対法」）等の法令と相まって暴力団の排除を推進し、都道府県民の安全で平穏な生活の確保、社会経済活動の健全な発展及び青少年の健全な育成に寄与することを目的として制定されたものである。 暴力団排除が条例に盛り込まれたのは、平成１６年６月に広島県と広島市が条例で公営住宅入居資格について「本人とその同居親族が暴力団対策法に規定する暴力団員でないこと」と規定したのが始まりとされている。 その後、佐賀県で、暴力団組事務所の開設について、不動産所有者が暴力団に対して賃貸契約を解除できること等を内容とする「佐賀県暴力団事務所等の開設の防止に関する条例」が制定され、平成２１年７月１日に施行された。 これが、都道府県条例の条例名に「暴力団」という文字が使用された第１号ということである。 そして、福岡県で、暴力団の威力を利用する事業契約の禁止、暴力団の公共工事妨害排除、暴力団から危害を加えられる恐れがある者の保護、暴力団を排除するための民事訴訟支援などの総合的な内容を規定した条例が全国で初めて制定され、この条例が平成２２年４月１日に施行されたのを皮切りに。その他の都道府県でも、暴力団排除を明確に目的とする条例制定の動きが広がり、本年１０月１日に、東京都・沖縄県で条例が施行され、暴力団排除条例が全都道府県で実施されることになった。 ２　暴力団排除条例の危険性 暴力団排除という理念に反対する者は暴力団関係者以外にはいないと思うが、暴力団排除条例そのものには、注意しなければならない危険性がある。 道条例２条１号では、暴力団について「法第２条第２号に規定する暴力団をいう。」と定義している。ここでいう法とは暴対法のことなので、その２条２号を見ると、暴力団の定義として「その団体の構成員（その団体の構成団体の構成員を含む。）が集団的に又は常習的に暴力的不法行為等を行うことを助長するおそれがある団体をいう。」 と規定されている。 この定義は、暴力団を取り締る側には便利に使えるものであるが、特別の指定なしに暴力団を認定できることになるので、暴力団と何らかの接触を持つ可能性のある者にとっては、恣意的に運用されるリスクがあるということは知っておく必要がある。 このように述べると、自分は暴力団とは関係を持つ気はないので、自分には関わりのないことと思われるかもしれないが、ことはそんなに簡単ではない。 後に述べるように「暴力団員と密接な関係を有する事業者」に認定されれば、そのことを理由に、公共工事において入札はおろか下請けに入ることも排除されることになるのに、その大本の「暴力団」の定義が不明確であれば、思わぬ不利益を被る恐れは全くないとは言えない。 あり得ないと思われるかもしれないが、私たちが何気なく業務上の付き合いをしている団体が、警察に「暴力的不法行為等を行うことを助長するおそれがある団体」と認定されてしまうと、私たちも「暴力団員と密接な関係を有する事業者」と認定されて公共工事等から排除されてしまう恐れがないとは言えないということである。ここで用いられている「おそれがある」などというあいまいな定義は、「誰でも暴力団に仕立て上げられる」虞があるものであり、刑罰法規や国民に不利益処分を科すような法規範では極力用いることは避ける必要があるのだが、相手が暴力団ということで、その辺があいまいにされていることは、実は大きな問題があるところである。

					暴力団と暴力団員の定義があいまいな場合、それらの者との間に「金を出している」「利用している」「交際している」などの関係があると強引に認定されてしまうことだって無いとは言えないことだからである。 　これまでは、私たち一般の国民は、暴力団の定義があいまいだろうと自分たちにその不利益が及ぶことはないと思っていたので、あまり気にかけていなかったと思うが、この条例が施行された以上、これからはそうはいかないのである。 ３　関係者の責務 　道条例３条２項では、「暴力団の排除は、道、市町村、道民、事業者、事業者団体、道暴追センターその他関係する機関及び団体の相互の連携の下に、社会全体で行われなければならない。」とされ、警察や行政だけでなく、道民個々や事業者といった住民も暴力団排除の一翼を担うことが規定されている。 　道民の責務は、「道民は、基本理念にのっとり、暴力団の排除に対する理解を深め、自らこれに努めるとともに、道が実施する暴力団の排除に関する施策に協力するよう努めるものとする。」（５条）　という理念的なものにとどまっているが、事業者の責務は「事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、暴力団を利することとならないよう、暴力団の排除に自ら積極的に取り組むとともに、道が実施する暴力団の排除に関する施策に協力するものとする。」（６条）　と定められ、更に具体的な措置に関する内容も規定されている。 　そのための便宜として、道条例１１条では、「道は、道民等が暴力団の排除に関する活動に自主的に、かつ、相互の連携協力を図って取り組むことができるよう、道民等に対し、情報の提供、助言その他の必要な支援を行うものとする。」　とされているが、例えば、不動産取引で後に契約解除のトラブルなどを回避したいので取引相手が暴力団関係者かどうかを道警に照会しても、すんなり回答が得られるかどうかは今のところ未知数である。 第２　北海道の暴力団排除条例 １　マスコミで報道される排除条例は北海道にそのままあてはまらない 　暴力団排除条例は、北海道の場合は「北海道暴力団の排除の推進に関する条例」という条例名であるが、東京をはじめとする多くの都府県では、単に都府県名の後に「暴力団排除条例」という条例名にしている。　これらの条例は、警察庁の指導で制定されているので、条例の骨子は変わらないが、その中身は微妙に異なっている。 　テレビで暴力団排除条例に関する報道がされるときには、主に東京の条例を念頭に置いて事例紹介をすることになるので、その話がそのまま北海道に当てはまらないことがあるということは知っておく必要がある。 　後に述べる罰則も、北海道と東京の条例では異なるし、罰則が適用されない規制に関しても、どちらかというと北海道よりも東京の条例の方が厳しい印象がある。 ２　道が講ずべき措置 (1) 公共事業等からの排除（７条） 　道条例７条１項は、「道は、その発注する建設工事その他の道の事務又は事業（次項において「公共事業等」という。）により暴力団を利することとならないよう、暴力団員又は暴力団関係事業者（暴力団員が実質的に経営を支配する事業者その他暴力団又は暴力団員と密接な関係を有する事業者をいう。次項において同じ。）　について、道が実施する入札に参加させない等の必要な措置を講ずるものとする。」と規定し、２項では公共工事等の元請だけでなく、下請け業者からも暴力団関係事業者を排除することを定めている。公共工事に依存している土木建築関係の事業者にとって、公共工事から排除されるということは死活問題に他ならず、間違っても排除されるようなことがないようにする必要がある。　ちなみに、東京都条例の条項は、公共工事に限定しないで、「都が締結する売買、貸借、請負その他の契約」にも同様の暴力団関係者排除の措置を講ずるよう求めている（都条例第７条）が、道条例でも「建設工事その他の道の事務又は事業」と規定されているので、実質的な規制対象は異ならないと考えるべきであり、この規制は公共工事に限定されず、道と何らかの契約関係に入ろうとする事業者に広く当てはまると考えておくべきである。 (2) 「暴力団員と密接な関係を有する事業者」とは 　道条例第７条１項にある「暴力団と密接な関係を有する事業者」について、条例の中に定義規定はない。本来、他人の権利に制約を加える法規範については、恣意的な適用を排除するために一義的に明確な定義規定を置くべきであるが、そのような規定がないことが疑心暗鬼のもとになりそうである。　後に述べるように、暴力団関係者との会食、ゴルフ、旅行などの交際を繰り返すことを理由に、警察がその人物を「密接交際者」と認定して公表する自治体もあるが、その認定が恣意的になるようなことがあれば、暴力団排除以上に深刻な悪影響があり得ることも忘れてはいけない。 (3) 公の施設に係る措置（８条） 　ここでは、道の設置する公の施設が暴力団の活動に利用されないようにするために必要な措置を講ずるとされているので、暴力団関係者が道の施設を利用して何らかの活動を行うことも規制されることになる。例えば、かでる２・７で暴力団関係者がセミナーを開催しようとして申し込んだときに、後に主催者や講師が暴力団関係者と分かった時点で利用契約を解除できるというこ

					とも可能になるのであろう。 ３　事業者が講ずべき措置 (1) 暴力団利用行為等の禁止（１４条） 　道条例１４条は、事業者が暴力団を利用することを禁止している。 １項で、事業者は、その行う事業（事業の準備を含む。）に関し、暴力団の威力を利用してはならないと規定され、２項では、財産上の不当な利益を図る目的で暴力団員等を利用してはならないとされている。 　具体的には、暴力団を利用して債権を回収したり、地上げや不動産の立ち退きをさせようとしたりすることは１項によって禁止されるし、暴力団の影をちらつかせて高額の商品を売りつけるなどということは２項で禁止されることになる。 これまでは、恐喝とまでは言えないとして処罰されなかった事案でも、この条例によって規制の対象になる場合が出てくるであろう。 　また、３項では、事業者が、「その行う事業に関し、暴力団員等又は暴力団員等が依頼した者が不正の方法を用いて得た物品」を知り又は知り得る状態で譲り受けてはならないとされている。 ３項の具体例としては、暴力団員等が密漁した水産物を仕入れることなどが挙げられている。北海道公安委員会は、本条に違反する行為をした疑いがあると認められる者やその者と密接な関係を有するものに対し、その違反の事実を明らかにするために必要な限度において、報告又は資料の提出を求めることができる。（２１条） 　更に、本条違反の行為が暴力団の排除に支障を及ぼし、又は及ぼすおそれがあると認めるときは、当該行為をした者に対し、必要な措置を講ずべきことを勧告することができる。（２２条） 　そして、正当な理由なく上記の報告等を怠り又は勧告に従わないものについて、北海道公安委員会が公表することができることになっている。（２３条） 　事業者にとって、暴力団を利用したと公表されることは、死活問題でもあるので、公表による抑止力で暴力団利用をやめさせようという狙いである。 (2) 利益供与の禁止（１５条） 　道条例１５条では、事業者が、暴力団の威力を利用する目的や、暴力団の活動や運営に協力する目的で、暴力団員等に利益を提供することが禁止されている。 　具体的には、飲食店の経営者が、客とのトラブル時の用心棒になってもらうために暴力団と絵画リースの契約をすることや、事業者がトラブル解決のために暴力団員等に交渉させて、その見返りに謝礼を支払うこと、事業者が暴力団の要求に応じてみかじめ料やショバ代等として金を支払うことなどが禁止の対象になる。 　加えて、暴力団と知っていながら会合場所を提供することも禁止されるので、飲食店が宴会予約を受けつけたところ、店にやってきた客が暴力団関係者だったという場合に対応に苦慮することも考えられる。 　ただし、法令上の義務や相手が暴力団と知らずに締結した契約の債務の履行としてする場合など、正当な理由がある場合には、暴力団に金品を提供することは禁止されていない。これは、義務を履行しなければ逆に債務不履行になってしまうからである。 本条の禁止に関しても、暴力団利用の禁止と同様、報告や資料提供（２１条)、勧告（２２条)、公表（２３条）という手続きが定められている。 (3) 契約時における措置（第１６条） 　道条例の１６条では、事業者の事業上の取引が暴力団の活動を助長し、又は暴力団の運営に資することとなるものである疑いがあると認めるときは、当該取引の相手方（その者が法人である場合にあっては、その役員。以下この条において同じ。）が暴力団員でないことを確認するための必要な措置を講ずることを求めている。 　そして、その取引に関し契約書を作成するときには、契約の相手方が暴力団員でないことや相手方が暴力団員であることが判明したときは、催告なしに契約を解除できることなどを条項に盛り込むことを求め、更に、このような契約書を締結しているときに相手方が暴力団員であることが判明したときは、速やかに、当該契約を解除するよう求めている。 対象は、「暴力団の活動を助長し、又は暴力団の運営に資することとなる」取引ということであるが、極端なことを言えば、文房具を販売したり、食事を提供したりすることも暴力団の運営に資することとなりかねない。 加えて、ここでも、誰が暴力団や暴力団員と判断するのかという問題があり、余り実効性は期待できないような気がする。 　どちらかというと、暴力団によって悪影響を受ける事業者を救済するような場合に限定して効果を発揮することになりそうである。 　なお、これは努力規定であり、違反したとしても特段の不利益がある訳ではないが、今後の流れとしては、どのような契約書にも、相手が暴力団員の場合に契約を無催告で解除できるような条項を入れることが一般化することになると思われる。（モデル条項は、道警のホームページからダウンロードできる。） ４　不動産の譲渡等における措置 (1) 暴力団事務所目的の不動産譲渡等 　道条例１７条は、道内に所在する不動産の譲渡や貸付を行う場合に、その不動産が暴力団事務所として使われないことを確認することを求めている。

					売主や貸主は、その不動産が暴力団事務所として使われることを知って契約をしてはならないとされており、その対象は、事業者に限定せず、北海道民である必要もない。 後に述べる暴力団との「密接交際者」に認定されると、賃貸住宅の契約もできなくなる（つまり住居もなくなる）という報道があちらこちらでなされているが、この規定は、暴力団事務所の規制のためのものなので、条例の規定にはそのようなことは書かれていない。 ただ、道条例１６条の規定によって、一般的な暴力団排除の条項が契約書に入っていた場合には、その条項に基づいて契約解除を求めることが可能になる場合もあるであろう。 (2) 不動産譲渡等の契約書 道条例では、知っていて行う譲渡、貸付の禁止だけでなく、後から分かった時に解約できるよう契約書の条項を入れるように求めている。 具体的には、①契約の相手方が、その不動産を暴力団事務所として使わないことを契約の条件としたうえで、②その不動産が暴力団事務所として使われていることが判明したときは、催告なしで契約を解除し、又はその不動産を買い戻すことができることを契約書に入れることが求められている。 そして、このような条項付の契約をした場合には、その不動産が暴力団事務所として使われていることが判明したときは、速やかに、当該契約を解除し、又は当該不動産を買い戻すよう努めるとされている。 しかし、賃貸住宅であればともかく、不動産を売ってしまった売り主に対して、後にその不動産が暴力団事務所に利用されていることを知ったら、売買代金を戻して買い戻しをするよう求めることは、売主にとっても酷な結果となりそうである。 なお、道条例１８条には、宅地建物取引業者は「自らに不動産の譲渡等の代理又は媒介を依頼した者に対し、前条の規定を遵守するために必要な情報の提供又は助言を行うよう努める」と規定されているので、これらの業者を通じて契約する場合には、暴力団排除条項が記載された契約書を使用することになるのであろう。 第３　密接交際者 １　「密接交際者」とは (1) 暴力団排除条例に「密接交際者」という概念はない 道条例に限らず、各都道府県の暴力団排除条例の中に密接交際者という用語を使用したものは見当たらない。 それでは、この言葉がどこから出てきたかということだが、ネット上を検索して行き当たったのは、警察庁の広報資料であった。 （添付資料参照）そこには「全国銀行協会は、平成２３年６月、融資取引・当座勘定取引に係る暴力団排除条項の参考例の排除対象に、従来からある暴力団員等に加え、暴力団員等の密接交際者等をも明記した改正を行い、会員銀行に導入を要請」と記載されているほか、 「地方公共団体において、下請・再委託を含む公共工事の発注、役務提供、物品・資材調達等の契約から、暴力団員を始め暴力団員等の密接交際者をも排除する規定及び通報報告制度の整備を推進」とも記載されている。 ここで密接交際者という用語が出ているが、その定義が記載されている訳ではない。しかし、その効果として銀行借入ができなくなり当座が開けなくなるだけでなく、下請けであっも公共工事に関与することすらできなくなるとしたら、密接交際者と認定されるか否かは、企業にとっては死活問題となる。 (2) 銀行取引約定書 そこで、警察庁の資料にある銀行取引約定書の参考例を読んでみたけれどもそこにも密接交際者という表現は見当たらない。（添付資料参照） 唯一関連があると思われるのは「役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること」という条項であるが、ここにある「社会的に非難されるべき関係」というのも極めてあいまいな規定であり、このような多義的に解釈できるあやふやな条項を元に企業活動の息の根を止められるかもしれないというのは、法律家の視点からは、はなはだ疑問である。 そうすると、銀行はどのような根拠でこの条項を行使するのであろうか、おそらく、実行するとすれば、警察からの情報提供を元に行うことになるのであろうが、そこに恣意的な運用が入り込む余地なしとしないので、その危険性は意識しておく必要がある。 (3) 公共工事等からの排除 北海道においてどのような措置がなされているのかは調べられなかったが、暴力団の集積地でもある福岡県では、県の事業に参加しようとする事業者に対して「福岡県暴力団排除条例に関する誓約書」（添付資料参照）を提出させ暴力団排除を徹底している。 （北海道でも誓約書は提出させているが、福岡県のような細かな記載のあるものではないようである。） そのなかに、暴力団排除条項１項８号という規定が引用されている。 そこでこの条項を読んでみると、１項本文は、「甲（県）は、警察本部からの通知に基づき、乙が次の各号の一に該当するときは、契約を解除することができる。この場合において、解除により乙に損害があっても、甲はその損害の賠償の責を負わないものとする。」とされ、８号は「役員等が、暴力的組織又は構成員等と密接な交際を有し、又は社会的に非難される関係を有しているとき。」と規定している。そして、この書面に「『密接な交際』とは、例えば友人又は知人として、会食、遊戯、旅行、

スポーツ等を共にするなどの交遊をしていることである。」との説明がなされている。
　どうやら、マスコミが密接交際者に該当する要件として会食、ゴルフ、旅行などを一緒にする関係を挙げているのは、この福岡県の説明を引用しているようである。
注意すべきは、銀行協会の約款では、「役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有する」場合に契約を解除できるとされているのが、ここでは「役員等が、暴力的組織又は構成員等と密接な交際を有し、又は社会的に非難される関係を有しているとき。」とされており、社会的に避難される関係でなくても「密接な交際」をしていれば公共工事から排除されてしまうことである。
　古くからの友人がたまたま暴力団関係者だったとか、道条例も福岡県の条例も、「暴力団員等」の定義を暴力団員又は暴力団員でなくなった日から５年を経過しない者としている（２条３号）ので、知らずに採用したまじめに働く従業員が、３年前まで暴力団員であった場合などに、関係を絶たなければ自分の会社が公共工事から排斥されるということになってしまう。 この規定が、本当に社会的相当性を有しているのか、疑問なしとしないところである。
　しかし、会社を守るためには、暴力団員であるうちは、極力交際はしないようにし、暴力団を止めた後も親密な交際をするのであれば、５年経過後にするなどの注意が必要となる。
２　密接交際者としての「公表」？
(1) 公表の根拠
　マスコミでは、暴力団関係者との会食、ゴルフ、旅行などの交際を繰り返す人物を「密接交際者」と認定して公表するなどと言われているが、そもそも、暴力団排除条例には「密接交際者」という概念はないので、そのことを理由とする公表は規定上あり得ない。
　後に説明するように、暴力団排除条例には公表という規定はあるが、それは、公安委員会に対する情報提供を拒んだり勧告に従わなかったりした場合等で、公表前には弁明の機会も与えられるので、何の前触れもなしに「密接交際者」と認定して公表されることはないはずである。
　ただし、公共工事等の関係で、入札から排除する対象として公表されることはあり得ることなので注意が必要である。
(2) 公表の実例
　インターネットで「密接交際者」をキーワードとして検索してみたところ、福岡県警が「暴力団と密接に交際している」と認定した建設業者を県などに通報し、県警のホームページに公表したという記載を見つけることができた。
　一例としては、「同社の社長が、組員の男と約１０年前から交際し、同社の忘年会に招くなどしていた」ことを理由に「密接交際者」と認定されたものもあった。
　この福岡県の例は、県警本部が、その会社の役員が暴力団との密接交際者であるため「暴力団関連企業」に当たるとして、公共工事からの排除を求めて県などに通報し、その通報したという事実を公表したということなので、単純に警察が「密接交際者」を公表したということではない。
　したがって、公共工事に関与していない一般人が「密接交際者」として公表されることはおそらくないとは思うが、公共工事に関与している事業者としては注意をしなければならない。
なお、インターネット上を検索しても、このような理由による公表は今のところ福岡県だけのようである。
３　北海道では心配ないのか
　北海道で「密接交際者」と認定されて何らかの措置を受けたという情報が見当たらないが、今後、北海道で密接交際者の扱いがどうなるのかは判然としない。
　しかし、公共工事等から暴力団排除をすることは、道条例においても北海道が講ずべき措置として明記されているのであるから、福岡県と同様の運用がなされてもおかしくはない。
万が一、公共工事等の関係で「密接交際者」として公表されてしまえば、当然民間工事の受注にもマイナスの影響が出ることは避けられないので、公共工事に関与する場合には注意が必要である。 君子危うきに近寄らずということになるのであろうが、社会儀礼の範囲の付き合いまで制約されることは釈然としないところがある。
第４　罰則とその他の制裁措置
１　道条例で定められた罰則
　道条例の罰則としては、２６条に定める「第１９条第１項の規定に違反して暴力団事務所を開設し、又は運営した者は、１年以下の懲役又は５０万円以下の罰金に処する。」というものしかない。
　１９条は、「何人も、次に掲げる施設（大学を除く学校や図書館、博物館、児童福祉施設、家庭裁判所、少年院、少年鑑別所、保護観察所など、特にその周辺において青少年の健全な育成を図るための良好な環境を保全する必要がある施設）の敷地の周囲２００メートルの区域内においては、暴力団事務所を開設し、又は運営してはならない。」という 暴力団事務所開設場所に関する規定なので、暴力団と関係ない一般人がこの罰則に触れることは考えにくい。
　都条例では、道条例と同様の暴力団事務所開設に加えて、暴力団排除の活動を妨害する行為について公安委員会の中止命令等に違反した場合も罰則がある。
２　公表
　道条例１４条（事業者の暴力団利用行為等の禁止）、１５条（事業者の暴力団員等への利益供

					与の禁止)、１７条２項（暴力団事務所として利用されることを知ってする不動産の譲渡、貸付等）に違反した場合、北海道公安委員会は規定に違反する行為をした疑いがあると認められる者その他当該者と密接な関係を有する者から、報告又は資料の提出を求めることができるが、正当な理由なくその求めに応じなかった時にはその事実を公表されることがある。 　同じく、これらの行為が暴力団の排除に支障を及ぼし、又は及ぼすおそれがあるとして公安委員会が行った勧告に従わない場合も、その事実を公表されることがあるが、道条例上の公表はこれだけである。 　東京都では、これに加えて、暴力団事務所に青少年を立ち入らせないよう命令を受けた場合についても公表することができるとされている。 暴力団と関連があるということで、氏名公表されてしまえば、そのことが事業に与える影響は計り知れないので、事業者に対する規制としてはこれで足りるという判断であろう。 第５　まとめとして １ 暴力団排除条例は暴力団排除の力になるものではあるが、恣意的な運用がされると、まともな事業者であっても、思わぬ不利益を被ることがあることは知っておくべきである。 ２ 条例には「密接交際者」に関する規定はないが、企業経営に深刻な影響を及ぼしかねない銀行取引約款や公共工事の契約書には「密接交際者」を排除する趣旨の条項が入っているので注意が必要である。 ３ 余計な疑念を抱かれないためには、暴力団関係者と知った場合には、その相手との接触は極力控えるという注意が必要である。 ４ 自らの事業を守るためにも、条例の基本理念である「暴力団を恐れないこと」「暴力団に資金を提供しないこと」「暴力団を利用しないこと」を基本として、対処することが肝要である。 　続いて，檜森 聖一副支部長の乾杯の発声により第二部の懇親会・ビンゴゲームに入りました。懇親会は、終始和やかな雰囲気の中で行われ会員同志それぞれ名刺を交換されたり、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久しぶりの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで見受けられました。 公務ご多忙の中ご出席頂いた上田文雄市長からご挨拶を頂きました。 『札幌で２５年あまり弁護士をさせて頂いておりましたが、８年前に皆様方の本当に熱いご支援を頂きながら札幌市長に当選させて頂きました。今年一年を振り返って見ますと、選挙があったという事を、ほとんど忘れる位忙しい日々を過ごして１２月を迎えております。 ３月１１日に東日本大震災、福島原発事故という大変な事態に立ち入ったわけですが、その直後に選挙戦をやらなければならないという大変な事態でございましたけれども、多くの先輩・後輩の皆様方のお助けを頂戴しまして、何とか４月１０日に市長に当選させて頂きまして３期目を開始したところでございます。６月１０日から３期目に入り６ケ月経過したわけでございますが、本当に忙しく過ごさせて頂いているところでございます。 今年はいろいろな事がございましたが、特に札幌市は観光が非常に大きな基幹産業の一つになっておりますけれども、やはり風評被害により外国の方々がお出でにならないという状況がしばらく続きまして、ようやく夏が過ぎて９月頃から少しずつ回復しつつあるわけですが、それまでの間は絶望的な状況で市内のホテルが空っぽになってしまうという状況の中で、よくぞここまで来たかなと思いますけれども、まだまだ問題が解決しているわけではありませんので、何とかしょうと思っております。 今年の漢字は、絆という字が選ばれたようですが、本当に大きな事件・事故がありまして、自分達の支え合いとか、助け合うとか、そういう事の大事さといった事が、本当に認識させられる一年だったのかと思います。私達も札幌市も、皆さんが安心して安全に暮らすことが出来る街づくりを行い、本当にそういう意味では、地域の中で支え合う、助け合う、そして自分が何かをするというそういう能動的な人格を皆が持ち合わせるという事が、一番自分達の精神衛生的にも、また本当に日常生活関係も、素晴らしいものになるのではないかと思っているところでございます。 先程舛田先生のお話をお聞ききしておりまして、先生の話は歯切れが良くていいなと思っておりましたけれども、弁護士の仕事を８年も離れておりますと、なかなか帰りにくいなあという感じを今、しているところでございます。』 次いで司会者から今回新たに会員となった方々の紹介がありました。 ・大橋 恒夫氏　（昭和４８年・経済）（株）近宣東京支社 ・田井 敏郎氏　（平成１０年・法）札幌市交通局事業管理部営業企画課資産活用係 ・由良 比策志氏（平成１２年・経済）（株）北洋銀行本店営業部・法人部 ・吉川 哲也氏　（昭和５５年・法）三井住友海上火災保険（株）北海道本部 　４名の会員が壇上に上がりそれぞれ一言ずつ自己ＰＲを行いました。 　恒例のビンゴ大会は、出席者全員に景品が当たるよう当支部と同窓からの寄贈品が寄せられました。（北海道産たっぷり海鮮松前漬３０点・新千歳空港ターミナル拡張を記念のシネマチケット・新千歳空港温泉「万葉の湯」入浴チケット・ＤＯＲＡＥＭＯＮ　ＷＡＫＵＷＡＫＵチケット・ピザハトお食事券・化粧石鹸の詰め合わせ２０点等々） 酔いが回った為か最初はなかなかビンゴが出ませんでしたが、司会者の巧みなリードにより「ビンゴ」のかけ声、会場内の雰囲気も一気に盛り上がりました。 　一通り全員に景品が、当たったところで「裏ビンゴ」に移り本日の目玉である「京王プラザホ

					テル札幌」提供の「お食事券」は、吉川哲也氏（三井住友海上火災保険（株）北海道本部長）が獲得しました。 　懇親会の最後は、恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入り和田支部長、石林特別顧問を始め若手会員の諸氏が、壇上に上がりそれぞれ３番までフルコーラスで熱唱し惜別の歌に至っては、全員が輪になり肩を組むなど誰もが過ぎし青春時代へ思いを馳せている様子でした。 　最後は籏本道男副支部長が壇上に立ち、万歳三唱で盛会のうち和やかに終了し散会となりました。尚、年末懇親会への飲み物等の寄贈者は、下記の通りです。 ・泉山 利彦氏　（昭和５２年・法）サッポロビール（株）北海道本社代表 ・札幌市役所白門会 ・田代 信一氏　（(昭和５６年・文）（株）京王プラザホテル札幌管理部副部長 ・重森 健一氏　（平成４年・法）（株）京王プラザホテル宴会料飲部宴会料飲予約担当係長
2012 年	24	1	31	札幌市役所白門会新年会への参加	厳しく寒い日々が続いている最中、平成２４年札幌市役所白門会（会長：森芳郎＝昭和５５年法・札幌市水道局総務部長、会員数：５７名）の新年会が、ＯＢと現役合わせて２４名出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において午後６時１５分から開催されました。 　当支部からは和田支部長・西原幹事長が参加しました。森肇幹事長（平成３年・商・札幌市豊平区市民部地域振興課地域活動担当係長）の司会進行で行われ，上田文雄市長（昭和４７年・法）からの挨拶のあと、来賓として参加の和田支部長の乾杯の音頭で新年会に入りました。今年１００歳を迎える市役所ＯＢの石林清氏（昭和２１年・法・元収入役）の自慢の歌声１５曲が入った自作のＣＤのお披露目・即売会や新入会員の肥後範之氏（平成１１年・法・財政局南部市税事務所納税課納税係）の紹介など、終始和やかな雰囲気の中で会は進み、最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯唱い上げ、石林氏の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後、恒例となっている二次会では、一次会での盛り上がりがそのままに盛況のうちに散会となりました。
		2	22	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室Ｃにおいて、午後１２時より和田支部長、籏本・檜森副支部長、西原幹事長出席のもと開催致しました。 　議案第１号「平成２３年度事業報告並びに収支決算報告について」 　幹事長より別添資料に基づき報告了承されました。 　議案第２号「２０１２年度中央大学学術講演会について」 　大学本部から、本学における学術研究の成果を広く社会に普及させ、中央大学を世間一般にＰＲする事を目的に、毎年全国各地で標記講演会を行っております。本事業を実施するに当たり当支部宛開催意向の打診があった旨幹事長より報告がありました。検討の結果下記日程により実施することになりました。尚、講演の講師は本学の教授が担当し、予め決められたテーマから選択し講演を頂くことになっております。 １．日　時　　平成２４年８月９日(木)　１３：３０～ ２．会　場　　北海道経済センター８階Ａホール 　　(札幌市中央区北１条西２丁目) ３．テーマ　　「会社法の変遷と企業不祥事」 　　―オリンパス事件や東電問題との関連を中心に― 　　講師　　中央大学前総長・学長 　　中央大学法学部教授　　永井　和之氏 ４．入場無料 　議案第３号「被災地にてボランティア活動をする中大生の支援について」 　学員会本部より、この度の東日本大震災を受けた被災地の復興に向け、多数の本学学生がボランティア活動に当たっておりますが、その活動は交通費を含め基本的に実費となっており学生達の思いが強ければ強いほど経済的な負担が増加する現状にあります。ついては、今般これら学生達が行うボランティア活動の経済支援を目的として募金を募ることになり協力の依頼があった旨西原幹事長から報告があり、審議の結果本支部として５万円を寄付することになりました。尚、その他の事項として本年度の総会を学員会本部より久野修慈会長(予定)、また本学より永井和之法学部教授(前総長・学長)をお迎えして下記により開催することになりました。同門へのＰＲとその周知をお願いしました。 １．日　時　　平成２４年８月９日(木)　１８：００～ ２．会　場　　京王プラザホテル札幌　３階「扇の間」 ３．会　費　　懇親会費　７，０００円　　支部年会費　２，０００円
		5	22	第 40 回ゴルフ大会の開催	本年度第１回のゴルフ大会は、五月晴れの中、石狩市にあるシャトレーゼカントリークラブ石狩において開催され、会員１０名の参加がありました。 　またこの度永年ゴルフ同好会会長として会の運営にご尽力頂きました吉田功次郎氏（昭和２８年・法）から健康がすぐれないとの事で会長を退きたいとの連絡があり、二代目会長を西山眞吾氏（昭和４１年・商・西山製麺（株）相談役）にお願いする事になりました。当日は新会長の挨拶に続いて、品田康博氏（昭和４０年・経済）から注意事項の説明後、午前８時３０分に西コースをスタートしました。競技終了後、表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は西山眞吾氏（西コース４４　中コース４５）が、準優勝は工津輝雄氏が（昭和３９年・商・(株）エミック　西

					コース３９　中コース４５）又ベストグロス賞も工津氏が併せて獲得しました。事務局から、次回は７月１７日（火）札幌エルムカントリークラブ西コースにおいて午前８時３０分スタートする旨参加を呼びかけ、和気あいあいのうちに散会しました。 　尚、今回の大会に田代信一氏（昭和５６年文・(株）京王プラザホテル札幌管理部副部長）から景品の寄贈を頂きました。
		6	14	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において、午前１１時５０分より和田支部長、籏本・檜森副支部長、西原幹事長出席のもと開催致しました。 議案第１号「平成２３年度事業報告並びに収支決算報告について」 　幹事長より別紙資料に基づき報告了承されました。 議案第２号「平成２４年度中央大学学術文化講演会開催について」 　幹事長より去る２月２２日（水）開催の三役会議で審議の本件について、その後札幌教育委員会、札幌商工会議所から後援、中央大学父母連絡会札幌支部から協賛の承諾を頂きました。 　また本講演会のＰ･Ｒと参加者の動員を図るため、ポスター、チラシを制作し下案の要領で周知をしたい。 ①　Ａ１サイズのポスター５０枚、Ａ４サイズチラシ２１，０００枚を制作する。 ②　札幌商工会議所が、会員１８，０００社に向け毎月送付している情報誌「さっぽろ経済」６月号の中にチラシを入れ、本講演会のＰＲし参加者を募る。 ③　中大学員会札幌支部会員９００件、中大父母連絡会札幌支部会員３１０件に案内をする。 ④　札幌市営地下鉄３０カ所の駅掲示板にポスターを貼り市民向けにＰ・Ｒする。 ⑤　協同組合中小企業振興センターが、会員３，７６０社に向け毎月送付している資料の中にチラシを入れ、参加者を募る。 ⑥　法人関係の企業に勤務している同門に動員を依頼する。 第３号議案「支部役員の選任について」 　和田支部長より、就任以来会員はじめ役員各位のご協力を頂き１０年を経過致しましたが、そろそろ世代交代の時期に来ておりますので、若い方に支部長を譲り退任したい。又同期卒業の籏本副支部長からも退任の意向があり審議検討の結果、新支部長に現副支部長の檜森氏を、新副支部長には、舟橋健市氏（昭和４７年・商・舟橋公認会計士事務所）・坂本眞氏（昭和５５年・法・北海道労働委員会）・柴田龍氏（昭和５６年・理工・(株）北洋銀行）を選任し、森副支部長、西原幹事長は留任する事になりました。会計監事の竹花明氏（昭和４６年・商）・高橋恭平氏（昭和４８年・理工）も留任をお願いする事になりました。尚、和田支部長、籏本副支部長の両氏については顧問として当支部の運営に今後もご協力を頂くことになり、また永年常任理事として支部の運営にご尽力頂いておりました青木茂氏（昭和２９年・法)、出戸一成氏（昭和３４年・経済)、工藤武久氏（昭和３６年・法)、渋谷幹男氏（昭和３６年・法)、山口潔氏（昭和３６年・法)、中田輝夫氏（昭和３７年・法）も顧問として今後もご協力を頂く事になりました。
		7	13	北海道庁白門会への参加	北海道庁の主に本庁舎及び別館に勤務する現役職員による北海道庁白門会(会長：坂本眞・昭和５５年法・労働委員会事務局長)が、道庁に近接する中村屋旅館３階「有明」において開催され、当支部より西原幹事長が出席しました。 　北海道庁には、平成２４年４月１日現在で１３５名の現役卒業生がおり(振興局等の勤務を含む)、在札の仲間に声をかけて年２回程度懇親会を開催しているとのこと。当日は、２１名の出席があり、坂本会長の乾杯の音頭を兼ねた開会挨拶で幕を開けました。 　しばらくして、来賓として、北海道議会より道下大樹議員(平成１０年・法)から、次いで西原幹事長が挨拶。道庁白門会から札幌支部への出席要請は今回が初めてであり、感謝の言葉とともに８月９日(木)開催の学術文化講演会及び、支部総会への参加要請を致しました。 　引き続き、出席者の若い人から順に、近況報告を兼ねた自己紹介があり、学生時代の思い出や職場を同じくする仲間ゆえに理解できる仕事の話など、各自思い思いのフリートーキングが展開され、一気に和やかな雰囲気となりました。 　最後は、出席者全員で校歌、応援歌、惜別の歌を合唱し、記念撮影の後、永井正博札幌医科大学事務局長(昭和５４年・法)の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。
			17	第 41 回ゴルフ大会の開催	札幌エルムカントリークラブにおいて午前８時集合。 当日は西山眞吾会長(昭和４１年・商)以下１３名の参加がありました。事務局より注意事項の説明後西コースのアウトを午前８時３６分にスタートしました。 　競技終了後、表彰式を兼ね懇親会を行い、優勝は中山正治氏(昭和３９年･法･フジサービス(株)アウト４５　イン４５)､準優勝は鈴木潔氏(昭和４９年･経済･(学)東日本学園北海道医療大学　アウト４９　イン５１)がそれぞれ獲得しました。尚ベストグロス賞は廣川一彦氏(昭和４０年・法)が獲得しました。西山会長より優勝者並びに全員に賞品を授与しました。 　今回も田代信一氏(昭和５６年文・(株)京王プラザホテル札幌)から景品のご寄贈を頂きました。 事務局より次回(９月８日(土)サンパーク札幌ゴルフコース　午前８時集合　午前８時３０分スタート)開催の第１回小樽支部との交流コンペへの参加と来る８月９日(木)本学主催の学術文化講演会・支部総会への参加を呼びかけ、和気あいあいの内に散会しました。
			22	中央大学父母連絡会札幌支部総会並びに父母懇談会へ出席	札幌すみれホテル３階「ヴィオレ」において、父母連絡会札幌支部定時総会・父母懇親会が開催され、当支部より和田支部長が出席されました。

					当日は午後１２時３０分より総会の議事に入り、近藤支部長の挨拶に続いて「２０１１年度事業報告・収支決算報告・２０１２年度事業計画・収支予算・役員改選」が審議され、新支部長に篠原正行氏他新役員が選任されました。 引き続いて午後１時１０分より父母懇談会が開催され、関野満夫経済学部長より「大学の近況について」次いで野田真人氏(文学部事務室)より「学業・学生生活について」、北澤竜一氏(キャリアセンター)からは「進路・就職について」それぞれお話があり、終了後は個人相談会も実施されました。 １年生については東京での生活、２年生以上には１年間の成績結果を個人面談の形で行われ１００名の父母が参加されました。
			25	札幌市役所白門会納涼会へ参加	連日の猛暑の中、平成２４年札幌市役所白門会総会・納涼会が、OB と現役合わせて３８名が出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「高砂の間」において開催されました。当支部から和田支部長・西原幹事長が参加しました。森肇幹事長(平成３年・商・豊平区地域振興課地域活動担当係長)の司会進行で行われ、森芳郎会長（昭和５５年・法・水道局総務部長）の挨拶のあと、和田支部長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。新採用職員８名の加入や市役所 OB の石林　清氏(昭和２１年・法・元収入役)の１００歳のお祝いなどにより、大変にぎやかな雰囲気の中で会は進みました。また、公務多忙の中、上田文雄札幌市長(昭和４７年・法)にも顔を出していただき、最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯唄い上げ、市役所 OB の石林氏の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後恒例となっている二次会では石林氏の 100 歳とは思えない素晴らしい歌声などで大いに盛り上がりました。
		8	9	学術文化講演会の開催	中央大学、学員会札幌支部、本学父母連絡会札幌支部主催、札幌市教育委員会、札幌商工会議所、（協）中小企業振興センター後援による学術文化講演会が北海道経済センター８階Ａホールにおいて午後１時３０分から開催されました。 講師には永井和之本学前総長・学長をお迎えし、「会社法の変遷と企業不祥事－オリンパス事件や東電問題との関連を中心に」と題した講演に一般市民、商工業者、学員、父母連絡会会員合わせて１８０余名が熱心に聴講しました。 冒頭、学員会札幌支部檜森　聖一副支部長の開会挨拶に続き、講演に入りました。 東京電力の福島原発問題は何に起因しているのか。あの災害は「天災」か「人災」かの判断によって企業の責任が大きく異なる。一般論としてマグニチュード９の大地震、それによって起きた大津波は想定外の「異常に巨大な天災」とし免責に該当するとした見解を採る立場と。一方、国会の事故調査委員会のような過去の巨大地震の歴史や周期、地震に対する研究や科学技術進歩に対応した各種対策の遅れが結果的にあの大震災が起きたとする「人災説」があり、現在は「人災説」が有力の様相である。またオリンパス事件は不良債権の損失を隠し「飛ばし」を行い、それを不正な方法で処理しようとした事が発覚しました。１９９７年自主廃業した山一証券倒産の事例と比較しながら解説されました。企業の経営トップの責任、コーポレートガバナンス、コンプライアンスの重要性が指摘されております。会社法も企業の不祥事の発生と共にその対応を求められている状況であります。講師からは企業の社会的責任を確保し、社会における構成員としての企業のあり方を規定する会社法の第２次的機能についての説明と会社法の役割変遷を踏まえ、オリンパス事件や東京電力のケースを取り上げてお話して頂きました。 その結果①中央大学における学術研究の成果を広く社会に普及する事。　②中央大学を世間一般にＰＲするという所期の目的を達成する事が出来ました。
			9	平成 24 年度支部定時総会の開催	連日厳しい猛暑が続いている最中、午後６時より京王プラザホテル札幌３階「扇の間」において開催致しました。ご来賓として大学本部から久野修慈理事長・学員会会長をお迎えする予定でしたが、緊急の会議が入り代理として学員会本部から吉田憲一事務局事務総長、永井和之前総長・学長、金井重博学員会副会長他に村上毅学事部秘書課長を迎え、和田支部長以下８４名が出席されました。 総会は、西原幹事長の司会進行で行われ、議事に先立ち和田支部長から挨拶があり、慣例により支部長を議長に第１部の総会に移りました。 第１号議案「平成２３年度事業報告並びに収支決算報告」について 西原幹事長より別添資料に基づき報告、続いて会計監事の高橋　恭平氏（昭和４８年・理工、（株）タカラ専務取締役）から監査報告があり全員異議なく承認されました。 第２号議案「平成２４年度支部役員の選任」について 和田支部長から「就任以来、会員の皆様はじめ役員各位のご協力を頂き１０年を経過致しましたが、そろそろ世代交代の時期に来ておりこの際若い方に支部長を譲り退任したい。」、又同期の籏本副支部長からも退任の意向がありました。 その結果新支部長には、現副支部長の檜森　聖一氏（昭和４５年・法・（株）北海道二十一世紀総合研究所代表取締役社長）、副支部長に舟橋健市氏（昭和４７年商・舟橋公認会計事務所所長）、柴田龍氏（昭和５６年・理工・（株）北洋銀行副頭取）、森芳郎氏（昭和５５年・法・札幌市水道局総務部長）、坂本眞氏（昭和５５年・法・北海道労働委員会事務局長）がそれぞれ就任し、幹事長には引き続き西原氏が留任する事で全員異議なく承認されました。尚和田氏、籏本氏については、引き続き当支部の顧問としてご支援頂く事になりました。 和田前支部長は退任に当たり次の様に述べられました。

					①学員会は様々な事業と活動を通して、すべての学員の躍進のために、３Ｓを提供している事はご存じの事と思います。「①Ｓｙｍｐａｔｈｙ（親愛)、 ②Ｓｕｐｐｏｒｔ（支援)、 ③Ｓｑｕａｒｅ（交流の場)」全国にある２２１の支部ではこの３つを旗印に掲げて支部活動を行っております。支部相互間の親愛、支援、交流を踏み台にして、強いては母校に対する親愛、支援、交流ということにも繋がる事と思います。 ②先般終了しました本学創立１２５周年記念事業の寄付金の件でご報告しておきたい事がございます。ご承知の通り当支部の寄付金額が地方支部の中でも相当な額（５，５０００千円）にのぼっております。これは金井副会長氏の非常なご努力によるところが多かったという事です。 ③支部長に就任して１０年になりますが、会務の運営が順調に進んでこられたのは、西原幹事長のお陰でございます。西原幹事長には、又数年間新しい支部長のもとで事務局を取り仕切って頂く事になっておりますが、よろしくお願いいたします。 ④札幌市役所白門会には何かといろいろな形でお手伝いを頂きましたが、これまでのご協力に対し心からお礼を申し上げます。又北海道庁白門会はじめ、その他の会社の団体の各支部でいろいろと活動が活発になる事を願っております。籏本前副支部長からも、会員の皆様のご協力によりどうにか無事務める事が出来た旨の挨拶を頂きました。 　第２部の懇親会に入り、冒頭檜森支部長から４名の副支部長のご紹介と各副支部長からも一言ずつご挨拶を頂きました。支部長の挨拶要旨は次の通りです。「和田前支部長、籏本前副支部長から強硬指名を受けまして、若輩者でまた浅学非才ではありますが選ばれた以上、先輩方が守って来られたこの伝統ある支部をきちっと受け継いで、又今回顧問になって頂きました諸先輩のご指導を仰ぎながら、先輩である西原幹事長、副支部長と連携して、何とかして本支部を明るくて、楽しい、そして会の会合には必ず出席したくなるような組織に作っていきたいと思っておりますので、皆様の絶大なるご支援をよろしくお願い致します。」引き続き支部長の乾杯の音頭で宴にはいりました。 　会も進みアルコールが入るにつれて、７台のテーブル毎に着席の学員は終始和やかな雰囲気で、会場内では名刺交換や日頃ご無沙汰している先輩への挨拶回り等が行われておりました。ご来賓の永井　和之中央大学前総長・学長のご挨拶の内容は下記の通りです。 「昨年１１月に、６年間の総長・学長を任期満了と共に退任し、現在は法学部の一教員として学生の教育に熱を入れております。法学部のルールとして一番年長の者が、一年生の法学の入門編の授業を持つという事になっておりまして、４月から悪戦苦闘をしながら法学の授業を持っていたところであります。一年生にどうやって法学の授業を教えるのか、法と道徳をどうやって教えるのかという事で現代的な事例を考えながら教えております。学生達に法学を理解させ、リーガルマインドを身につけさせるために四苦八苦しながら法学の授業を担当しているところです。今の一年生が卒業する時は、私も定年で本学を卒業することになりますので、そういう意味で可愛さも人一倍です。今の一年生には、お前達に中大を任せるぞ！今後お前達が中大を背負ってくれよ！私は母校中大のために素晴らしい学生を残していきたいな！というのが私の最大の願いで、そういった授業をやっていきたい。」 　吉田憲一学員会本部事務局事務総長からは本学の近況と学員会の状況についてお話を頂きました。「昨年３月１１日の東日本大震災の時に、皆様に学員のための義援金をお願いしたところ約１，３００万円集まりまして、１４２名の激震被災地の学員にお届けする事が出来ました。又今年に入りまして、現役の学生達が激震被災地のボランティアをやっておりまして、そのための支援金という事で、皆様にお願いしたところ約５００万円集まりまして学校へお届けしました。現在、学生達はそれを財源にして活動しております。有難うございました。併せてお礼申し上げます。学員会の状況でございますが、先ず最初に振り返って見ますと、学員会本部から学員に対して発信力が少なかったのではないか反省しております。今回５月号の学員時報は内容をかなり刷新しました。その時報を住所が判明した２８万人の学員全員にお届けしました。その反響が非常に大きくて、初めて学員会の事を知ったとか、いろいろな反響があり非常に喜んで頂きました。今までは、会費を納めて頂いた学員のみに送っておりました。こんな地道な活動を第一に続けていきたい。今度は秋に白門タウン誌を発行します。皆さんそれぞれお仕事が違うわけですので、お仕事の紹介を兼ねて交流を深めて貰おうという企画を考えております。又２番目には、学員の皆様の満足度を高めるために、今年から支部名に白門という名前を使える事になりました。白門というのは中央大学の象徴ですので 是非白門＝中央という事で学員が確認できるような呼称を使って貰いたい。その他として白門サロンを作ろうとか、いろいろな企画を考えております。３番目に、いろいろな活動を展開するには財源が必要であります。平成１５年から年会費をお願いしておりましたが、これは非常に不評でありまして、昨年末を持ちました全て止めました。それで今運動をしておりますのは、先ず学員会をご存じではない方に学員会費の３万円をお願いしております。先般発行しました学員時報でお願いしたところ、何と５００名の方々から１，５００万円お振り込み頂きました。こんな地道な活動をしてまともな会費を頂くという事。もう一つ白門支援金というものを設けまして、これも使い道をはっきりさせて皆様にお願いをしようと考えております。それから本学のブランド力を高めるために、先ずスポーツ振興のために学員会としてもっと力を入れようという事になりました。手始めとして今回オリンピック向けのポスターを作りました。学員会として白門の５つの星という事で５人のご紹介を致しました。こういう発信

					力も含めて、ネットワークの拡充と構築に努めて参りますので共にこれからもよろしくお願い申し上げます。学校の方からは、以下の３つの項目について、お話がありました。①本学創立１２５周年の募金の件でございますが、お陰様で皆様のご協力により総額６４億３，４００万円、３５，０００件の個人・団体からご寄付を頂きました。このお金は、教育・研究・環境整備、施設整備資金等々に使わせていただきます。②東大日本大震災の被災学生に対する大学の取り組みについて、昨年、在学生１，５００名、新入生５００名で合計２，０００名について無事が確認出来ました。 　又学費の全額給付が１６０名、半額給付が４３０名で合計５９０名の方々に４億２，０００万円を寄付させて頂きました。今年度も引き続き１６８名の被災学生に１億６，２５０万円をお届けしました。 ③平成２４年度学部入学試験の志願者状況について、昨年の５位から今年度は、明治、早稲田、法政に次いで第４位の（約８６，０００人）応募者を集めました。就職状況ですが、本年３月の卒業学生の就職決定率は、男子が９６．３％、女子が９５．８％、全体では、９６．１％となっており前年より０．２％上回っております。第２１回のホームカミングデーは、来る１０月２８日（日）に本学多摩キャンパスにおいて開催する事になりましたので、是非ご参加賜りますようお願い申し上げます。中央大学の近況は、第６巻になりますが、皆様のお手元に届いている事と思いますが、本学が調査し、住所が判明した２８万名の学員全員にもお届けしました。これからも学員のネットワークの構築・拡充と充実について皆様と共にやって参りたいと存じます。」次いで恒例となっている新規入会者の紹介に移り、下記の会員が壇上に上がり一言ずつ自己紹介、自己ＰＲを行いました。 ・茂田　健行氏　（平成２年・法）北海道後志総合振興局（余市町派遣） ・鈴木　将人氏　（平成３年・商）パナソニック（株）エコソリューウションズ社 北海道・東北住建営業部北海道住設建材営業所 ・髙橋　慶子氏　（平成２２年・法通）Ｏｆｆｉｃｅアイカレッジ北海道 ・長尾　和宏氏　（平成８年・法）北海道総合政策部新幹線・交通企画局地域交通課 ・前田　和男氏　（昭和６０年・法）第一生命保険（株）北海道営業局 ・三浦　裕季氏　（平成２１年・総合）札幌市手稲区保健福祉部保険年金課収納係 ・吉田　泰和氏　（平成２年・法）三井住友海上あいおい生命保険（株）北海道営業局 　続いて恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌を全員で合唱し、今回の新規入会者と永井氏、和田顧問、檜森支部長等々の諸氏が壇上に上がり校歌・応援歌は３番までフルコーラスで熱唱、最後の惜別の歌に至っては、全員が輪になり肩を組み、哀愁を帯びた歌詞に酔いしれながら、まるで大学時代さながらの雰囲気の中、学員の心も大学生そのもの…誰もが青春時代のただ中にいるようなそんな熱気に包まれました。 　最後は柴田副支部長が壇上に上がり、大学、学員会、札幌支部の繁栄と参加者のご多幸とご健勝を祈念し、三三七拍子で締め、盛会のうち和やかに終了、散会となりました。 尚、支部総会懇親会への飲み物の寄贈者は下記の通りです。 ・泉山　利彦氏　（昭和５２年・法）サッポロビール（株）北海道本社代表 ・札幌市役所白門会
		9	8	第 42 回ゴルフ大会の開催	本年度３回目の大会は、北広島市にある「サンパーク札幌ゴルフコース」において開催されました。今回は小樽支部との親睦・交流を兼ね、小樽支部長の関口正雄氏（昭和４７年・法・関口法律事務所)、米山八郎氏（昭和３４年・商・温泉宏楽園相談役)、長原寛明氏（平成２年・法・日本興亜損保（株）小樽支店）の３名の出席を頂きました。 　当支部からは、西山眞吾会長（昭和４１年・商・西山製麺（株）相談役）以下１３名が参加されました。当日は絶好のゴルフ日和に恵まれ楽しい大会になりました。前半は午前８時３０分に東コースをスタートし後半は南コースに移りました。 　恒例により競技終了後、表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は当支部会長の西山氏が（東コース４０　南コース４１)、準優勝は小樽の米山氏（東コース４２，南コース４０）がそれぞれ獲得し、当支部から優勝者にはパター、準優勝者にはゴルフバッグを副賞として渡されました。 　又ベストグロス賞は、西山会長、工津輝雄氏（昭和３９年・商・(株）エミック・東コース３８，南コース４３）の２名が獲得しました。 　懇親会で西山会長から「当支部のゴルフ大会は、年々参加者が少なくなって来ているので、来年度は小樽さんにも呼びかけては」との提案が出され、関口支部長に相談したところ、承諾を頂いたので新年度早々にも企画しご案内する事になりました。会は終始和やかな雰囲気で進み次年度の再会と健闘を期して和気あいあいの内に散会しました。 　尚、会員の高橋恭平氏（昭和４８年・理工・(株）タカラ専務取締役）から景品（野菜の詰め合わせ３点 ゴルフシューズバック他)、同じく田代信一氏（昭和５６年・文・(株）京王プラザホテル札幌リスク管理担当支配人）から２点、小林聖宣氏（昭和５７年・法・東急建設（株）札幌支店長）から２点のご寄贈がありました。
		10	12	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室Ｂにおいて、午後１２時より檜森支部長、柴田・森副支部長、西原幹事長出席のもと開催致しました。 　議案第１号「平成２４年度上半期事業報告並びに収支決算報告について」

					幹事長より別紙資料に基づき報告了承されました。 議案第２号「支部常任幹事の選任について」 幹事長より若手で行動力ある方々を候補として選びましたが、今後も会員各位から推薦があれば追加をしていく事で、別紙により説明し諮った結果、出席者全員了承されました。 その他の項目として、本年の「支部年末懇親会」は下記の通り決まりました。 １．日　時　　平成２４年１２月５日（水）１８：００～２０：００ ２．会　場　　京王プラザホテル札幌　　３階「扇の間」 ３．会　費　　７，０００円
		12	5	支部年末懇親会の開催	恒例となっている当支部の年末懇親会を、京王プラザホテル札幌の３階「扇の間」において、午後６時より学員会本部より金井重博副会長を迎え、檜森聖一支部長以下９９名が参加し開催しました。司会進行は小泉笑美子（(有）ミュージック企画）さんにお願いしました。 冒頭、檜森支部長より「今日初めてお会いする方もいらっしゃると思いますが、去る８月９日開催の総会で、半ば強制的に先輩方のご支持により支部長に選任されました。私は、学園紛争の最中、昭和４５年にやっと法学部を卒業できました。しかも入った銀行が潰れるという中で諸先輩方に大変お世話になりながら、現在は（株）北洋銀行がバックアップしております（株）北海道２１世紀総合研究所（旧北海道拓殖銀行総合研究所）で働いております。今までの支部長、副支部長さん方は大変見識のある大先輩が歴代なられておられたのですが、私は歴代一番落ちるなと自分では思っております。家でもかみさんから、あなたは学校もまともにいっていないのに、よく大任を引き受けて来たのですね言われております。先輩方が私になれと言う事は、この支部のコミュニケーションを多くし、より大きくして、そして仲良くやっていく会にしろという意味と理解しまして、永年頑張って頂いている西原幹事長を中心に副支部長の方々、顧問の皆さん方にもご協力を頂いて、札幌だけではなく道内の各支部とのコミュニケーションを更に広げて仲良くしていきたいと思っております。又北海道に転勤して来た人達があの会に入ればいいよとか、今まで入っていなかった仲間も、あの会は楽しいから入って仲良くやろうよという会にしたいと思っておりますので何卒よろしくご指導、応援をお願い致します」旨ご挨拶がありました。約２時間２０分、お互いに近況を語り合いながら、母校の更なる発展に向けて奮闘を誓い合いました。 続いて「人づくり　ポジティブとネガティブの境目について」と題する卓話に入りました。講師に、原　みちる氏（(株）ことに大和屋　代表取締役）をお迎えし、以下のようなお話を頂きました。「私は、奄美大島で生まれ、札幌で育ちました。本日は人づくりの話ではなくて日頃自分が実践してきた事についてお話をしたいと思います。こういう所で話す時に何時もポジティブとネガティブ、表と裏、マイナスとプラス、前向きと消極的、いろいろと話をするのですが、そんなのは本当に紙一重で、立つ位置とか、見る位置によって全然物が変わってくるのです。実は３年前に居眠り運転で交通事故を起こし、膵臓を緊急に摘出し、死ぬ目にあいましたが、病院を１０日間で出ました。お陰様で健康に生まれて来ましたので短期間で退院できたのだと思います。交通事故を経験した事と、３月１１日に起きた東日本大震災の様子をテレビで見た時に、即私は開き直ったんです。自分は非常にコンブレックスの固まりだったのですが、それまでは、何時も前向きに行こう、行こうと肘を張っていたり、あるいは、かっこよく見せようと思っていたのが、この体験によって全部吹き飛んでしまったのです。人間は本当に弱くて、たいした者ではないのだなあ、自分もたいしたものではないのだなあと自覚したのですごく楽になりました。 実は、交通事故を起こす前に、娘と姪が国立大学の試験に合格し、娘達に良かったねと言った時に、娘達は親の見栄で大学に行くのではないし，自分たちがやりたい事があって行くのだからお母さんそんな風に思わなくて良いんだよと言われたのです。その事で一つ成長しました。人の前で話しをする時に、私は何もないので自分の生き方で、皆様に人づくりと人とのコミュニケーションの話で本日ここに参りました。他人に文句を言われたり、他人に自分の欠点を指摘されたりする事はとても大事な事です。その事に腹を立てたり、何を言ってるのさと思うようであったなら本当にそれまでの人間なのかなあ、要するに自分が見えてきた時に、人の事もよく見える。例えばあの人は、こんな人だとか、あんな人だとか皆さん集まった時に、よく言いますけれど、そういう事は、自分が決めて、自分を基準に比べている事ですね。それでは自分は一体どういう風に見られているんだろう、自分も同じように思われているんではないかと思ったら、相手の事が全然別な視点で見えてくるんです。ですから、いやな方ってどんな人かなと思った時に、自分とは相容れない事があるからいやなんだなあ思った時です。自分が嫌っているから、相手も嫌っているんだなあと思うとわりとスムーズにいく事があります。現に若い時は、ずいぶん苦手な人だなあと思っていた人が、今西区の街づくりの中で非常に協力してくれます。本当の事を言ってくれるので、そういう方の助言は本当に助かります。自分の間違っていた部分がたくさんわかってきましたので勉強になりました。今一番思っている事は感謝するという事です。家は寿司屋をやっていますので、商売柄日頃、いらっしゃいませ、ありがとうございましたと言っておりますが、ありがとうと言うのは商売でお金を頂いた時とかではなくて、本当に何か一つの仕草、あるいは朝、奥さんが起きがけに水を出してくれた時に、ありがとうと言ったり、お味噌汁を出してくれた時にありがとうと言ったら全然一日が違って来るだろうし、又職場で事務の女の子がお茶を出してくれたり、書類を取ってくれた時に、ありがとうと一言言って顔を見て礼を言うと全然

					相手の印象も違ってくるだろうと思います。そういう事はとても大事な感謝の証かなあと今は思っております。 　どんな小さな事から始めようと思った時に、ありがとうという言葉をあまり言ったら軽々しいと思うかもしれないけれども、口に出して言おうと思っている事が一つ。二つ目は、自分の生活の中でいろんな方に支えられて来ました。街づくりの中で一番やっている事はとにかく当たってくだけろ、駄目もとが自分の人生なので、当たって駄目だったら仕方がない、自分の力が足りなかったと思っております。ただそこで諦めるのではなく、どうやったら分かってもらえたり、どうやったら伝えられるのだろうとか、もう一回勉強しようとか、前は教わろうとばかり思っておりましたが、ちょっと引く事も覚えました。自分がコンプレックスを持っている部分の中で、ちょっと開き直って、相手を見る目をちょっと大きく持つ、そして自分を見つめ直す、そしてそれのプライド・自信、自分の生き方が見えた時に、それから自分が一歩引く時に、自分が見えた時のプライド。要するに自分の生き方のプライドを自分で常に持っていれば、ぶれる事のない自分の生き方の信念を持っていれば、どなたでもうまく交流が出来るのかなあと思っております。」 　続いて金井学員会副会長のご挨拶と乾杯の発声により懇親会に入りました。金井副会長からは「この秋に本学の理事長に足立直樹氏（凸版印刷（株）代表取締役会長）が選任されました。うれしい事項としましては、本学の司法試験の合格者は、ここ数年一位をとれなかったのですが、本年度は第一位に返り咲きました。皆さんと共にお喜びしたい大きな出来事です。又日弁連の会長に本学出身の山岸憲司先生がなられた事も大変うれしい事でございます。又この秋の叙勲で本学出身の１７名の諸先生方が勲章を授与されました。法曹界の先生方が多いのですが、お一人元上智大学の学長さんが勲章を頂きました。そんな事で我々の諸先輩大変貢献をされておられます。今後とも、われわれも頑張りまして日本のために貢献出来るように一生懸命努力したいと思っております。また日頃学員会のために皆様方大変ご努力・ご協力賜りまして誠にありがとうございます。」 　懇親会は、終始和やかな雰囲気の中で進み、会員同志名刺交換をされたり、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで、見受けられました。今回新たに会員となった学員は、総勢１８名で最近にない多い人数で司会者から紹介を頂きました。 ・阿部　斉　　氏　　（昭和６３年・法）（株）北洋銀行融資第一部 ・井上　春海　氏　　（平成２年・経済）井上春海公認会計士・税理士 ・入江　心　　氏　　（平成１年・商）（株）北洋銀行法務コンプライアンス部 ・薄　　俊克　氏　　（平成２４年・文）みずほ証券（株）札幌支店 ・大平　祐司　氏　　（昭和６２年・法）北星学園大学付属高等学校 ・岡部　好浩　氏　　（昭和６３年・商）(株)北洋銀行地域産業支援部 ・片桐　聖智　氏　　（平成１９年・理工）泰伸データウエアハウス（株） ・熊坂　和也　氏　　（昭和５９年・理工）（株）ビームオン ・後藤　尚士　氏　　（昭和５７年･法）（株）北洋銀行リテール部 ・権平　宗中　氏　　（平成９年・経済）（株）北洋銀行法人部 ・佐々木　教雄　氏　（平成３年・経済）（株）北洋銀行経営企画部 ・殿田　吉弘　氏　　（昭和６１年・商）（株）北洋銀行札苗支店 ・日当　隆文　氏　　（昭和６２年・法）（株）北洋銀行法人部法人推進課 ・増村　哲史　氏　　（昭和５７年・法）（有）増村不動産鑑定 ・丸山　泰司　氏　　（昭和５６年・法）（株）北洋銀行恵庭中央支店 ・矢部　夏彦　氏　　（昭和５８年・経済）（株）北洋銀行業務管理部 ・山田　昭彦　氏　　（昭和６２年・法）　あいおいニツセイ同和損害保険（株）北日本業務部 ・吉田　昌人　氏　　（平成１０年・商）（株）北洋銀行北七条支店 　恒例のビンゴ大会は、酔いが回った為かなかなかビンゴがでませんでしたが、目玉の京王プラザホテル札幌提供の「食事券」は、山本好宏さん（昭和３７年・法・(株）三信代表取締役)、真鍋俊彦さん（昭和４５年・法・(学）北邦学園専務理事)「お菓子の詰め合わせ」は、出戸一成さん（昭和３５年・経済・マックスバリュ北海道（株）相談役)、高橋恭平さん（昭和４８年・理工め（株）タカラ専務取締役）がそれぞれ獲得しました。 この他参加者全員に当たるよう支部の方で景品を用意し、「ビンゴ！」の掛け声で会場内も一気に盛り上がりました。懇親会の最後は、恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入り、新規入会の１７名全員が壇上に上がり、それぞれ３番までフルコーラスで熱唱し、惜別の歌に至っては、全員が輪になり、肩を組むなど誰もが過ぎし青春時代へ思いを馳せている様子でした。
2013 年				ハワイ大学マノア校に海外拠点設置	ハワイ大学マノア校に海外拠点（第１号）設置、横浜山手中学校・高等学校を附属中学校・高等学校と改称。
	平成 25	1	23	札幌市役所白門会新年会へ参加	厳冬の最中、平成２５年札幌市役所白門会(会長：森芳郎・札幌市水道局総務部長、会員数：６６名)の新年会が、OB と現役合わせて２７名の出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「錦の間」において午後６時１５分から開催されました。 　当支部からは檜森支部長が参加しました。森肇幹事長(平成３年・商・札幌市豊平区地域振興課地域活動担当係長)の司会進行で行われ、森芳郎会長(昭和５５年法・水道局総務部長)の挨拶のあ

					と、檜森支部長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。公務多忙のため、残念ながら上田　文雄市長(昭和４７年・法)は急遽出席できなくなりましたが、今年１００歳を迎えた市役所 OB の石林清氏(昭和２１年・法　元収入役)をはじめ、新採用職員７名も参加し、大変にぎやかな雰囲気の中で会は進みました。 最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯唄い上げ、市役所 OB の奥岡氏(昭和４７年・法)の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後、恒例となっている二次会では、一次会での盛り上がりそのままに盛況のうちに終了しました。
		2	27	北海道庁白門会への参加	本年度２回目の北海道庁白門会（会長：坂本　眞・昭和５５年・法・労働委員会事務局長）が、本庁在札の会員を中心に２０名の出席のもと、道庁に近接する中村屋旅館３階「春日の間」において午後６時から開催されました。当支部からは檜森聖一支部長が参加しました。 佐藤充孝総幹事（昭和６３年・法・北海道総合政策部総務課主幹）の司会進行で行われ、坂本会長の乾杯の音頭を兼ねた開会挨拶で幕を開けました。 ご来賓に北海道議会より加藤礼一議員（昭和５３年・法)、道下大樹議員（平成１０年・法)，八田信之議員（昭和４２年・商)、北海道人事委員会より中澤義則委員長（昭和４５年・商）を迎えそれぞれご挨拶を頂きました。当日は、道議会開会中であり用務のため出席者は少なめでしたが、新規採用職員や平成２０年前後の若い職員も出席し、和室の会場では時折、席を移動しながら会話に花を咲かせておりました。その後は、出席者の若い人達から順に近況報告を兼ねた自己紹介があり、学生時代の思い出話や仕事の苦労話など、さらには趣味の話など各自思い思いのフリートーキングが展開され、一気に和やかな雰囲気になりました。 最後は、出席者全員で校歌を高らかに合唱し、記念撮影の後、永井正博札幌医科大学事務局長（昭和５４年・法）の閉会の挨拶で盛会の内に終了しました。
		5	25	第 45 回ゴルフ大会の開催	本年度第１回のゴルフ大会は、前日の予報は雨天でしたが、集合時間の頃は曇天となりました。今回は１２年振りに札幌市の郊外にある札幌テイネゴルフ倶楽部において開催されました。 当初１６名の参加申し込みがありましたが、期日が迫ってきた時点で１名の欠員が出て結局１５名で行うことになりました。スタート頃には薄日も差して来て、絶好のゴルフ日和となりました。注意事項説明後、午前８時０３分にきつつきコースをスタートしました。 競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会を行いました。 優勝は、西山眞吾会長(昭和４１年・商、西山製麺(株)相談役　きつつきコース：４１　かいちようコース：４４)が、準優勝は工津輝雄氏(昭和３９年・商、(株）エミック代表取締役　きつつきコース：４６　らいちようコース：３６)が、又ベストグロス賞は工津氏が併せて獲得しました。 初参加の鈴木隆司氏(昭和５０年・法、公益財団法人北海道新聞社社会福祉振興基金)の挨拶、小樽支部から参加の長原寛明氏（平成２年・法・日本興亜損害保険㈱小樽支店）は大変楽しい会なので次回も是非参加したい旨の挨拶がありました。事務局から、次回は７月１６日(火)シャトレーゼカントリークラブ石狩コースにおいて 午前８時３７分スタートする旨参加を呼びかけ、和気あいあいのうちに散会しました。今回参加の高橋恭平氏（昭和４８年・理工、(株）タカラ専務取締役）からは、焼酎の寄贈があり優勝者、準優勝者等への副賞として、又田代信一氏（昭和５６年・文（株）京王プラザホテル札幌管理部副部長）からも菓子の詰め合わせの寄贈があり、景品の一部として会長より授与しました。
		6	15	2013 年度中央大学父母連絡会札幌支部総会･父母懇談会へ参加	本学在校生の父母で構成されている父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会へ当支部から西原幹事長出席。 当日は、午後１２時３０分から札幌すみれホテル３階「ヴィオレ」において開催され、篠原支部長の挨拶に続いて「２０１２年度事業報告・収支決算報告・２０１３年度事業計画・役員改選」が行われ、新支部長に澤田信也氏他役員が選任されました。引き続いて午後１時１０分より父母懇談会が開催され中川恭明総合政策学部教授から「大学の近況について」、次いで清水洋孝理工学部事務室副課長から「学業・学生生活について」、松岡亜希子キャリアセンターキャリア支援担当から「最新の進路・就職事情について」、吉田昌人氏（平成１０・商・(株）北洋銀行北７条支店課長）から「卒業生による就職アドバイス」ということで（株）北洋銀行の会社概要・求人状況についてお話を頂きました。終了後は個人相談も実施されました。１年生については、東京での生活、２年生以上には１年間の成績結果を個人面談の形で行われ１２０余名の父母が参加され熱心に聴講されておりました。
			18	支部三役会議の開催	北海道経済センター８階第２会議室において、午後１２時より檜森支部長、柴田・舟橋・森副支部長、西原幹事長出席のもと開催いたしました。 議案第１号「平成２４年度事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長より別紙資料に基づき報告了承されました。 議案第２号「平成２５年度中央大学学術講演会開催について」 幹事長より本件については、電話連絡により三役会で了解を頂いておりました。 その後札幌市教育委員会、札幌商工会議所、協同組合中小企業振興センターから後援、中央大学父母連絡会札幌支部から協賛の承諾を頂きました。 ついては本講演会のＰ・Ｒと参加者の動員を図るため、ポスター、チラシを制作し、下案の要領で周知をしたい。 ①　Ａ１サイズのポスター(カラー)３０枚、Ａ４サイズのチラシ１９，０００枚(企業者向け)、２，

					５００枚(個人向け)の計２１，５００枚を制作する。 ②　札商工会議所・（協）中小企業振興センターが会員向けに毎月配布している資料の中にチラシを折り込み、参加者を募る。 ③　学員会札幌支部会員にＤＭを発送し参加者を募る。 ④札幌市営地下鉄３０ヶ所の駅掲示板にカラーポスター貼り、市民向けにＰＲし、参加者を募る。 ⑤北海道新聞等を中心に、市民むけＰＲ版に掲載を依頼し参加者を募る。 ⑥法人関係の企業に勤務している同門に参加者の動員の協力を依頼する。 議案第３号「支部定時総会の開催について」 幹事長より説明。当日は大学本部より学長の福原紀彦様、学員会本部より久野修慈様をお迎えして下記日程により開催いたしますので、同門お誘い合わせの上、是非ご出席下さい。 日時：平成２５年８月７日(水)　　午後６時より 場所：京王プラザホテル札幌３階「雅の間」 会費：懇親会費７，０００円　　支部年会費２，０００ 議案第４号「全道各支部との交流会開催について」 幹事長より趣旨を説明し、審議の結果今後のことも考え、会議だけではなく、一泊の予定で懇親会を開催し、相互に連携を深め、今後も継続していってはどうか。又会議は持ち回りで開催してはどうか、地方の出席者に対し旅費の援助を検討してはどうか、公私とも忙しい方が多いので取りあえず今回は８月末か９月中旬頃に実施の方向で調整して、早めに各支部に連絡する事で了承しました。 その他の事項として、幹事長から金井重博氏（昭和３８年・商・（株）富士メガネ名誉会長）は４期１２年に亘つて学員会副会長を務められましたが、この度退任をされました。ついてはご苦労さんという事で慰労会を新・旧の三役で開催してとの提案があり、本人と連絡を取り日程を決める事になりました。
		7	16	第 46 回ゴルフ大会の開催	連日厳しい暑さが続いている最中、本年度２回目のゴルフ大会が、石狩市にある「シャトレーゼカントリークラブ石狩」において開催され、会員１１名が参加されました。 注意事項の説明後、午前８時４０分中コースをスタートしました。 優勝は柴田昌幸氏（昭和４６年・経済・柴田興産（株）・中４３　東４５）、準優勝は西山眞吾氏（昭和４１年、商・西山製麺（株）・中４２　東４２）がそれぞれ獲得、西山氏はベストグロス賞、平和賞等も合わせて獲得しました。尚当日は会員の田代信一氏（昭和５６年・文・（株）京王プラザホテル札幌・リスク担当支配人）から景品のご寄贈があり賞品として使わせて頂きました。優勝の柴田氏からは２年ぶりに参加し、しかも優勝出来ました。次回も是非参加したい、又初参加の熊坂和也氏（昭和５９年・理工・（株）ビームオン代表取締役）からは楽しい会なので次回も是非参加したい旨挨拶がありました。懇親会は終始和やかな雰囲気で進み、最後に事務局から来たる８月７日（水）開催の学術講演会、札幌支部定時総会、今年度最後のゴルフ大会への参加要請がされ、皆和気会々の内に散会しました。
		8	2	札幌市役所白門会・納涼会への参加	連日の猛暑の中、平成２５年度札幌市役所白門会・納涼会が、ＯＢと現役合わせて２７名の出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「錦の間」において開催されました。当支部から西原幹事長が参加しました。総会では役員の改選が行われ、会長に長谷川雅英・札幌市総務局行政部連絡調整担当部長（昭和５８年・商)、副会長には知野学・札幌市西区市民部地域振興課長（平成３年・法)、幹事長には小松諭知・札幌市西区保健福祉部保護三課保護一係長（平成１３年・法）がそれぞれ選出されました。その後、納涼会に移り森会長による開会の挨拶に続いて、上田市長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。 昨年に続き、今年も新人が４名加わった事もあり、にぎやかな雰囲気の中で会は進みました。公務多忙のため上田市長は途中退席となりましたが、終始和やかな中で会は行われ、最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯歌い上げ、ＯＢの石林清氏（昭和２１年・法元収入役）の乾杯の音頭で盛会の内に終了しました。恒例となっている二次会では、一次会での盛り上がりそのままに盛況のうちに終了しました。
			7	平成 25 年度支部定時総会の開催	厳しい暑さが続いている最中、午後６時より京王プラザホテル札幌３階「雅の間」において開催しました。学員会本部より久野修慈会長、小畑悟副会長、大学本部より福原紀彦学長、露木恵美子ビジネススクール・大学院戦略経営研究科教授、事務局学事部村上毅秘書課長を迎え、檜森支部長以下９７名が出席されました。 総会は西原幹事長の司会進行で行われ、議事に先立ち支部長から「我々は昨年、大先輩の方々から支部役員を仰せ使いやって参りました。お陰様で年末の懇親会、本日の支部総会と大勢の学員各位にお集まり頂き本当に有難うございます。私と副支部長４名に先輩の西原幹事長と一緒に元気に、仲良く、そして明るくこの学員会の運営をやっていこうと頑張っております。今年は柴田副支部長の提案で、来る１０月４日に道内各支部との交流会を初めて開催する事に致しました。これからももっと学員の交流は勿論あるいはそういう中でのビジネスマッチングとかいろいろな事をやって参りたいと考えております。我々は本学員会の趣旨にそった形で、これからも学校、あるいは学員、あるいはこれから本学に入ろうとする学生達に対し、中央大学っていい大学なんだと思って頂けるような活動を、これからもやっていこうと考えております。」挨拶がありました。

					続いて支部会則第１０条３項に則り支部長を議長に第１部の総会に入りました。 第１号議案「平成２４年度事業報告並びに収支決算報告について」 　幹事長より別紙資料に基づき報告し、会計監事の高橋恭平氏（昭和４８年・理工）から監査報告があり全員異議なく承認されました。 　第２部の懇親会に入り、当支部顧問の金井重博氏（昭和３８年・商・(株）富士メガネ名誉会長）よりご挨拶と乾杯の音頭で宴に入りました。 「この５月まで学員会の副会長を４期１２年間させて頂きました金井でございます。この仕事は札幌支部の皆様方のお支えがないと務まらなかった職務でございます。そして担当地域が宮城、福島県以北、東北、北海道全体という事で永年担当させて頂きました。私の後任に、この度秋田県から小畑さんが就任される事になりまして実は私も安心しております。本日は遠路、学員会本部から久野会長、小畑副会長、本学から福原学長、露木先生をはじめ、学員の皆様方大勢お集まり頂いております。今後中央大学、学員会、そして札幌支部がますます発展しますよう心から皆様とともに祈念しまして乾杯の音頭を取らせて頂きます。」懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み、会員同志名刺交換をされたり、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで見受けられました。 　今回新たに会員となった学員は、総勢１６名で年末懇親会に次ぐ人数で、それぞれ壇上に立ち自己紹介と３分程度の挨拶を頂きました。 ・川越　一郎氏　（平成１年・法） ・田中　康道氏　（平成１６年・法）札幌英和法律事務所 ・川口　宏　氏　（昭和５７年・文）ソニー生命保険（株）札幌ライフプランナー札幌支社第６営業所 ・原田　宏　氏　（平成２２年・商）税理士法人山田＆パートナーズ札幌事務所 ・香川　曉子氏　（昭和５６年・商）（株）大丸松坂屋百貨店札幌店 ・岩松　謙維氏　（昭和５３年・商）参議院議員 ・瀬尾　潔　氏　（昭和５４年・商）セオコンサルティングオフィス ・藤田　高虎氏　（昭和５８年・法）北海道石狩振興局産業振興部建設指導課 ・菊地　直紀氏　（平成１年・法）　北海道人事委員会事務局給与課給与グループ ・下谷　薫　氏　（昭和５３年・商）（株）共立メンテナンス ・羽貝　拓己氏　（平成２３年・経済）札幌市西区保健福祉部保護三課保護二係 ・肥後　範之氏　（平成１１年・法）札幌市議会事務局政策調査課調査係 ・菅澤　紀生氏　（平成７年・法）すがさわ法律事務所 ・野村　繁敏氏　（昭和４８年・法）創価学会北海道本部 ・菊本　良治氏　（昭和５１年・法）（株）毎日新聞北海道センター ・後藤　大樹氏　（平成２２年・経済）札幌市西区保健福祉部保護三課保護二係 　続いて久野会長から「先程檜森支部長が仲良く、楽しく、そして大きく羽ばたかなければならないとおっしゃっていました。また学員の方からのご質問がありましたようにネットワークを強化していかなければならないとございましたが、その通りでございます。私は６年間会長やっておりまして全国６２，０００人の学員の方々とお会いしました。その中には「俺、倒産しちゃったんだけれどもどうしたらいいかという相談を受けた事もあります。」また「老人ホームから出て来て、苦労して大学を卒業したんだ。」というお話をお聞きする事もあります。その時に激励するとまた元気に老人ホームにお戻りになるわけであります。これが本当の中央大学の家族的情味といいますか、本当の人間性ではないかと私は思っております。金井さんは、１２年間皆さん方のお支えで副会長として大変なご苦労をされました。また本学の１２５周年つきましても、金井さんの大変なご努力によって皆さん方の協賛を得た事に対して心から感謝申し上げますと共に、金井さんにどうか皆さん方本当に有難うございましたと感謝申し上げたいと思います。またこの度北海道と東北地方を代表致しまして小畑悟さんが副会長としてご推薦を受けました。選考委員会の中で小畑さんの人間性を高く評価されて副会長にご就任なったわけでございます。どうか皆さん方東北・北海道も同じような基盤の中にあると思います、是非とも小畑副会長をご支援願いますよう心からお願い申し上げたいと思います。最後に私は今ＴＰＰの反対の先頭に立っているわけであります。昨日も北海道の中央農協の飛田会長からはっぱをかけられました。そして今日もまたはっぱをかけられて来ました。北海道に取ってＴＰＰが今後国益を守るのか、守らないのか、本当に北海道経済が成り立つか、成り立たないのか、これが今度のＴＰＰの交渉であります。私はＴＰＰに反対とか、賛成とかという事ではなくてその持っている国益・国家というものは、守り抜かねばならないと言う真剣な交渉をして北海道に長期的な繁栄をもたらさなければならないという事を申し上げているわけであります。どうか皆さん方北海道の農業、畜産全て大切であります。 　北海道の皆さん方は、ご支援願っているとは思いますが、どうか本当に国家を守り、北海道の領土を守る、あるいは北海道の産業を守り抜くという本当の交渉が成り立つようにご支援願う事を心から念じ、そして北海道が本当に将来子供のために、すばらしい北海道になるためのＴＰＰの交渉でなければならないと思っております。 是非とも皆さん方のご支援をお願い申し上げます。」

					続いて小畑副会長から「秋田の田舎から参りました小畑でございます。金井さんから突然業務命令で、副会長をやりなさいという事で副会長になりました。久野会長がいらっしゃるのに、私ごとき者がわざわざ来る事もなかったのですが、金井さんから北海道の札幌支部は、素晴らしい会だから、お前ちょっと勉強しに来いという強いご指示がありましたので参りました。今日一番勉強になりました事は、総会をいかにスムーズに、早く終わらせるかという事で北海道の方々は、本当に正直な方達だと思います。総会を早く終わらせて、早く飲もうという発言が大変参考になりました。また、本日同じテーブルにお座りの石林清先輩が、何と１０１歳ですか、いち、まる、いちですよ。ご長寿おめでとうございます。今日は、いろんな良い事がありました。」 福原学長からは本学の近況報告とご挨拶、露木先生、新規入会の岩松謙維氏（参議院議員）からもご挨拶を頂きました。 懇親会の最後は、恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入り全員が輪になり、肩を組みそれぞれ３番までフルコーラスで熱唱し、誰もが過ぎし学生時代へ思いを馳せている様子でした。 結びは柴田副支部長が壇上に立ち一本締めで盛会のうち和やかに終了し散会となりました。 尚、支部総会への飲み物の寄贈者は下記の通りです。 ・泉山利彦氏（昭和５２年・法）サッポロビール（株）北海道本社相談役 ・札幌市役所白門会
		9	8	第 47 回ゴルフ大会の開催	本年度３回目は、昨年に続き北広島市にある「サンパーク札幌ゴルフコース」において開催されました。小樽支部との親睦・交流を兼ねた本大会は、昨年に続き２回目で関口正雄支部長（昭和４７年・法・関口正雄法律事務所)、米山八郎氏（昭和３４年・商・温泉宏楽園相談役)、松田亙氏（昭和５４年・経済・(株）小樽海洋水産代表取締役)、佐野英昭氏（昭和５４年・理工・環境工房（株）代表取締役）の４名が参加され、当支部からは、西山眞吾会長（昭和４１年・商・西山製麺（株）相談役)、柴田龍副支部長（昭和５６年・理工・(株）北洋銀行副頭取）以下１５名の参加がありました。当日は朝方曇っておりましたが、途中から日射しも出て絶好のゴルフ日和に恵まれ楽しい大会になりました。前半は午前９時に南コースをスタートし、後半は西コースに移りました。 恒例により競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は小樽支部の佐野英昭氏が（南コース４５　西コース４３)、準優勝は当支部の小林聖宣氏（昭和５７年・法・東急建設（株）札幌支店・執行役員支店長・南コース４８　西コース４６）がそれぞれ獲得し、支部長から賞品と副賞を、その他の入賞者全員に渡されました。またベストグロス賞は、工津輝雄氏（昭和３９年・商・(株）エミック代表取締役・南コース４０、西コース４０）が獲得しました。その他に、ニアピン・ドラコン・大波・小波・平和・飛び賞等々の景品を盛り沢山用意しました。懇親会では西山会長から「当支部の大会は、年々参加者が少なくなって来ているので、小樽支部との交流大会は、今後も継続していきたい。」その後優勝者からの感想、関口支部長、柴田当副支部長からもそれぞれご挨拶を頂きました。会は終始和やかな雰囲気で進み、次年度の再会と健闘を期して和気あいあいの内に散会しました。尚、会員の高橋恭平氏（昭和４８年・理工・(株）タカラ専務取締役）から（卵の詰め合わせ)、同じく田代信一氏（昭和５６年・文・(株）京王プラザホテル札幌・リスク管理担当支配人）からも景品のご寄贈がありました。
		10	4	第１回中央大学学員会全道支部交流会の開催	京王プラザホテル札幌の地下１階中華料理「南園」において午後６時より当支部から檜森聖一支部長、柴田龍・永井正博・長谷川雅英各副支部長、西原幹事長、函館支部から平沼冠三支部長（昭和４７年・経済)，森元浩副支部長（昭和４０年・法)、小樽支部から内藤重雄副支部長（昭和４１年・商)、黒坂典弘幹事（昭和５９年・理工)、旭川支部から武田勇美幹事長（昭和５０年・法)、釧路から中村圭佐（昭和５２年・理工）幹事長、帯広支部から後藤裕弘支部長（昭和４５年・理工)、石川政彦幹事長（昭和５１年・理工）出席のもと開催致しました。 冒頭檜森支部長から「本日は遠路から各支部役員の方々におかれましては、本交流会開催のご案内を申し上げましたところご多忙にもかかわらず、ご出席頂き誠に有難うございます。今、何でだと思っておられる方もいらっしゃると思いますが、この度当支部では、支部長以下役員が変わりました。新執行部体制のもとに、今後全道各支部との交流を深め、学員会活動をより一層広げてこうという方針を立てました。これからは我々も各支部に積極的に出かけていって、皆さん方と交流し学員活動をより一層明るく、元気な活動にしていこうと考えております。本学、学員会の方はいろいろともめているようですが、我々はそういう事がないように、仲良く、元気に、また中央大学を目指す学生さん達が増えるように、あるいは中央大学の出身者の就職等に少しでも協力して参りたいと思っております。本日はご出席を頂き誠に有難うございました。」続いて西原幹事長司会のもと議事に入りました。 議案第１号「支部活動の現状について」 各支部から別紙により支部の事業報告に則りご報告を頂きました。 「釧路支部」 ①会員数は１００名、総会等の参加人員は１９～２０名。 ②会費の定額徴収はしていない、事業毎にその都度徴収し、不足分は、先輩等からの寄付で賄っている。 「小樽支部」

					①若い人達がなかなか入ってこないので、会員の高齢化が進んでいる。 ②会員数は５０名、年会費２，０００円を徴収。 ③本年度の事業としては、５月１０日花見会の開催（参加人員８名）、６月３０日本年で７回の中大・日大対抗のゴルフ大会への参加、９月８日札幌支部との交流ゴルフ大会への参加（参加人員４名）、９月１２日平成２５年度支部総会の開催（参加人員１９名）、９月２２日本年で１１回の東都２１大学交流野球部ＯＢゴルフ大会の開催への参加。例年１１月上旬開催の東都２１大学交流会（東都の集い）への参加予定 「帯広支部」 ①会員数８６名、年会費２，０００円を徴収。 ②本年度の事業としては７月４日支部総会の開催、平成２６年１月４日支部新年会（箱根駅伝感想会）の開催、平成８年優勝時より恒例に開催している。 ③会員の高齢化が進んでいる。 ④釧路支部とは、距離的に近いので情報の交換等をやっているが、今回全道的な支部交流の機会を作って頂き、今後各支部との連携も出来大変ありがたい。 「函館支部」 ①会員数１００名、年会費３，０００円を徴収。 ②本年度の事業としては、８月２３日支部定期総会の開催（参加人員２５名）、平成２６年２月支部新年会の開催、東都大学野球リーグ加盟校で実施の事業（新年会・納涼会）への参加、道南圏域で合宿・競技・研修を行う本学公認の学生団体などを支援するため陣中見舞い等を実施する。 「旭川支部」 ①会員数２３１名、年会費は徴収していない。 ②若い人達が入って来ないので、会員の高齢化が進んでいる。 ③本年度の事業としては、６月１６日中央大学父母連絡会道北支部総会への参加、６月３０日第２５回大学対抗親睦ゴルフ大会への参加（参加人員４名）、９月２１日学術講演会の開催（参加人員５０名）、平成２６年２月支部新年会の開催。 また、会議のため途中から出席の柴田副支部長から「本日はご多忙の所、全道支部の役員の方々にご出席頂き有難うございます。今回は顔合わせという位置づけにはなっておりますが、これを機会に全道ベースで支部の連携を図りたいと思っておりますし、若い後輩達のために何か出来れば良いと思っております。若輩ではありますが、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。」 各支部の活動報告に続いて、平沼函館支部長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。 懇親会は、終始和やかな雰囲気で行われ各支部間の情報交換も出来ました。第１回としては、大変有意義な会議で所期の目的も達成できました。本会議は今後も継続していくことで出席者全員の了解も頂きました。第２回を来年１０月に旭川市で開催する事になりました。最後は旭川支部武田幹事長の締めの乾杯で閉会となりました。
		11	29	第 81 回全日本アイスホッケー選手権大会へ出場の本学アイスホッケー部への応援	札幌市月寒体育館において１１月２９日（金）～１２月１日（金）開催される全日本選手権大会へ関東大学アイスホッケーリーグ戦第１位の本学アイスホッケー部が出場する事になりました。このため学員会札幌支部会員・父母連絡会札幌支部会員に呼びかけたところ、学員会から十数名、父母連絡会から数十名が母校の応援に駆けつけました。初戦は午後１時から昨年優勝の王子イーグルスと対戦しましたが、善戦及ばず第１ピリオド３対０、第２ピリオド４対０，第３ピリオド３対０と、計１０対０で負けてしまいました。また来年を目指して頑張って下さい。尚、当日学員会札幌支部から江口秀次監督に陣中見舞いとして寸志（３０,000 円）を渡しました。
		12	4	支部年末懇親会の開催	温暖化気候のせいか、師走に入っても雪が少ない毎日が続く最中、恒例の当支部年末懇親会が午後６時から京王プラザホテル札幌の３階「扇の間」において、檜森支部長以下８４名の会員が集い開催されました。 約２時間２０分お互いの近況を語り合いながら、母校の更なる発展に向けて奮闘を誓いあいました。司会進行は、昨年に続いて小泉笑美子（(有）ミュージック企画）さんにお願いしました。 冒頭、支部長から「年末の何かとお忙しい中たくさんの皆さんにご参加頂き有難うございます。私は現在経済研究所に勤務しております。支部長になりましてからモットーは、元気で、明るく、仲良くやりましょうという事です。今年初めて道内の各支部の交流会を開催しました。来年度はもっと皆さんと楽しめる行事をやろうと副支部長さんはじめ西原幹事長と一緒に何とかこの会を盛り上げていこうと張り切っております。我々の支部は、本部のようなもめ事が無くて、出来ればみんなで仲良く、公私とも仕事の事で何か役に立つ場合もありますし、あるいは老後の仲間、また新しい仲間を作ったり、仲良くこれからやっていきたいと思っております。少し経済のお話をしますと、最近私の出身の銀行も中間決算を発表しておりましたが、少し利益がでているようです。しかし私が勤務している会社の職員が纏めた資料によると、どうも東京オリンピックが終わるまでは、建設業を中心に仕事があるんだけれども、７年後はこのままの状態で行くと壊滅的になるのではないかという予想もでております。証券会社の講演でも、どう見ても７年経ったあとは目途が立たないとアナリストが予想しております。でも我々は元気で、仲良く、明るくやっていけば、きっと良いことがあるのではないかと思っております。これからもいろいろな行事を考え会員の皆さんと一緒にやっていこうと思っておりますので、宜しくお願いいたします。」 続いて第１部の卓話「遠藤美紀の独立指南」に入りました。講師に遠藤美紀氏（(有）凛　代

					表取締役）を迎え以下のようなお話を頂きました。 「蒼々たる方達を前にしてお話をする事は、場違いかなと少しビビッております。現在私は毎月第２土曜日と第４土曜日の午前９時から１０時まで三角山放送局のパーソナリティーとして「遠藤美紀の独立指南」という番組を１５年間やっております。小さな企業を立ち上げる起業家達のために、アイディアとか、注意する事とか、どんな資質の方が経営者として向いているのかという話をして参りました。１５年も経ちますとネタ切れになり、最近では自分の思った事とか四方山話で終わってしまう事も多いんです。しかしながら私にとっては、この時間は癒しの時間帯なのです。毎日忙しく生活をしているので、この１時間の番組が癒しになっておりまして、この番組が終わるとほっとして何か楽しい気分で家に帰れます。私の人生の中でも大事な一時になっております。私は二足の草鞋で仕事を始めました。札幌信用金庫に勤めながら、リサイクルブティックの経営者として１３年間やって参りました。というのは、札信金にいて、起業家達の９割方が失敗して倒産されるという事例を見ていたものですから軌道にのるまでは絶対、札信金は辞めたくないという事で身体にはきつかったんですが頑張って続けてきました。会社を終えて店に行くタクシーの中が自分を切り替える時間でした。切り替えを上手にやらなかったら二足の草鞋をはけなかったと思います。下北沢にある本多劇場が札幌に進出してきて、俳優の卵の募集をやっていましたので、そのオーデションを受け合格しました。芝居の方も平行してやっていたんです。そんな中で２つ目の支店を開店した時点で、リサイクルブティック事業が軌道にのったではないかと思いました。一方札信金の方ではバッシングが始まった時期でして、当時部下が５人位おりましたが、２人に減らされたりして仕事の内容も厳しくなって来ましたので退職する事にしました。私が２９年前個人企業でリサイクルショップを立ち上げた時はまだフリーマーケットもない時代でした。起業家するのには、やはり若い時の方がいいと思います。体力があって、頭の回転が良いうちに起業家した方が良いと思います。企業はよく３０年しか続かないと言われる説がありますが、この間日経ビジネスに１８年説という事が載っておりました。本業の話になりますが、現在札幌に店として、中央区にリサイクルショップの店が６店、旭川の駅前に１店出店しております。店を増やす事は楽しいですが、だんだん創業者の考え方が現場の末端まで反映しないのではないかと思い、今くらいのボリュームが自分のボリュームなのかと考えております。扱い商品はエルメスとか、シャネルとか皆さんがご存じの外国物の他に、国内のワールドとかメーカーもののブランドも扱っております。良いもの、高い物を買って、永く大事に着続けるという事を私の生き方としておりますので、そういう事が大好きなお客様だけ店に来て頂いて買って貰っております。ワンシーズン向けだけに買って、捨ててしまうファストフアッションを数多く着るような顧客は対象にしておりません。商売を３０年近くやっておりますと、私のお店に２０歳代のお嬢さんだった頃買い物に来た方が、もう５０歳になり、おばあちゃんの年令になって自分の子供をお客さんとして連れて来て、良い物をちゃんと大事に着て、その古着を私のような古着屋さんに売って、ちゃんとした合理的な生活なのよと教育をしてくれて、私のお店の存在を伝えており、非常に有り難い事だと思っております。フランスの若者達の統計によると、クロゼットを開けると、新品で買った衣類が２～３割、リサイクル店で良い物を安く買った物が７～８割という数字が出ております。アメリカも同じ傾向のようです。しかし日本の若者達はその逆で８割が新品で買った物で、２割がリサイクル店で買った物という数字があります。そういう意味で申しますと、まだまだリサイクル商品の業界は伸びしろがあるのではないかと思っております。」 講演の終了後第２部の懇親会に入りました。 　永井副支部長（昭和５４年・法・札幌医科大学）から「私の職場は北海道庁でございます。学員は全道に１３０～１４０名位おり、単位としては多い方です。道庁の職員はどちらかと言いますと、人見知りの人間が多く、あまりこういう晴れがましい席には出たがらない傾向があり、なかなか参加者が集まらない現状にあります。私は今回参加し、会員の皆様とお酒を飲まさせて頂くのでありますが、同じテーブルに日頃仕事でお世話になっている籏本道男先輩、舟橋健市先輩が同席されているという事がわかりました。こういう支部の会合もないがしろには出来ないと思いました。本日は札幌支部の忘年会という事で不肖私が乾杯の発声を取らせて頂きます。忘年会といいますと、当然もうすぐ新年です、新年になりますと我が中央大学が出場する箱根駅伝という大イベントが控えております。今年は残念な結果になりましたが来年は是非名門中央が返り咲く事を祈念し、また本日お集まりの皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして乾杯をさせて頂きますのでご唱和をお願い申し上げます。」 　懇親会は、終始和やかな雰囲気の中で進み会員同志名刺交換をされたり、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶回り、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで見受けられました。 　しばらく歓談の後、司会者から新規入会者の紹介があり、今回は４名が新会員として入会されました。それぞれ自己紹介を兼ね５分程の自己ＰＲをお願いしました。 ・越岡　智幸氏　（平成１２年・法）司法書士越岡智之事務所 ・岡部　好弘氏　（昭和６３年・商）一般社団法人北海道食産総合振興機構（フード特区機構） ・田村　智幸氏　（昭和６０年・法）田村・橋場法律事務所 ・熊谷　一也氏　（昭和５７年・商）カメイオート北海道（株） 　本会の目的は会員同志のより一層の親睦を深めるものであり、アルコールが入ったところで恒

					例のビンゴ大会に入りました。 　酔いが回ったせいか、なかなかビンゴが出ませんでしたが、目玉の京王プラザホテル札幌提供の「食事券」は井上春海さん（平成２年・経済・井上春海公認会計士・税理士事務所）、後藤大樹さん（平成２２年・経済・札幌市西区保健福祉部保護三課保護二係）がそれぞれ獲得しました。 　この他参加者全員に当たるよう「ホタテの詰め合わせ」、「石鹸の詰め合わせ」、「中大のマーク入りＴシャツ」など支部の方で景品を用意し「ビンゴ」の掛け声で会場内も一気に盛り上がりました。懇親会の最後は、恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入りました。 　新規入会の４名の会員が壇上に上がり、それぞれ３番までフルコーラスで熱唱し、惜別の歌に至っては全員が輪になり、肩を組むなど誰もが過ぎ去りし青春時代へ思いを馳せている様子でした。 　結びは、舟橋副支部長が壇上に立ち「本支部の会合は、夏の総会、冬の忘年会と年二回ございますが、先輩、同輩、後輩と席を一緒にさせて頂きとても楽しい一時を過ごさせて頂き有難うございます。会の冒頭、檜森支部長が証券会社の講演のお話で２０２０年の東京オリンピック後は、かなり悲惨になるだろうと予想されるお話をされておりましたが、我々は先の事はわからないので、同じ仲間ですからお互いに助け合っていけばどうにかなるでしょう。本日は先輩、同輩、後輩一緒に過ごしおいしいお酒を飲ませて頂き有難うございます。来る年も皆さんと共に手を取り合い。助け合って参りたいと存じます。」旨締めの挨拶があり、盛会の内和やかに終了し散会となりました。 　尚、年末懇親会への飲み物・景品等の寄贈者は下記の通りです。 ・泉山利彦氏　（昭和５２年・法）サッポロビール（株）北海道本社相談役 ・札幌市役所白門会 ・田代信一氏　（昭和５６年・文）京王プラザホテル札幌リスク管理担当支配人
2014 年				タマサート大学法学部に海外拠点設置	タマサート大学法学部に海外拠点（第 2 号）設置。
	26	1	29	札幌市役所白門会新年会への参加	厳冬の最中、札幌市役所白門会（会長：長谷川雅英・総務局行政部連絡調整担当部長、会員：７０名）の平成２６年新年会が、上田市長含め３１名出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス２階「白鳥の間」において午後６時１５分から開催されました。当支部からは檜森支部長、西原幹事長が参加しました。 　小松諭知幹事長（平成１３年・法・札幌市西区保健福祉部保護三課保護一係長）の司会進行で行われ、長谷川雅英会長（昭和５８年・商）の挨拶に続いて、檜森聖一学員会札幌支部長の挨拶、「ブラボー札幌」の歌に合わせ上田文雄札幌市長（昭和４７年・法）による乾杯の音頭で懇親会に入りました。終始和やかな雰囲気の中会は進み、最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯唱い上げ、知野学副会長（平成３年・法・札幌市西区市民部地域振興課長）乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後、恒例となっている二次会では、一次会での盛り上がりそのままに盛況のうちに終了しました。
		5	29	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別会議室Ｃにおいて、午後１２時より檜森支部長、柴田・舟橋・永井・長谷川副支部長、西原幹事長出席のもと開催しました。 　議案第１号「平成２５年度事業報告並びに収支決算報告について」幹事長より別紙資料に基づき報告了承されました。 　議案第２号「学術講演会の開催について」幹事長より「本件については、札幌市教育委員会、札幌商工会議所、協同組合中小企業振興センターから後援、本学父母連絡会札幌支部から共催の承諾を頂きました。ついては本講演会のＰＲと参加者の動員を図るためポスター、チラシを制作し下案の要領で周知をしたい」報告了承されました。 ①Ａ１サイズのポスター３０枚、Ａ４サイズのチラシ１９，５００枚を制作する。 ②札幌商工会議所・協同組合中小企業振興センターの会員向けに毎月配布している資料の中にチラシ１８，５００枚を入れ参加者を募る。 ③学員会札幌支部会員向けＤＭにて参加者を募る。 ④札幌市市営地下鉄駅の掲示板にポスターを貼り市民向けにＰＲし参加者を募る。 ⑤北海道新聞等を中心に市民向けＰＲ版に掲載し参加者を募る。 ⑥法人関係の企業に勤務している同門に参加者の動員を依頼する。 　議案第３号「支部定時総会の開催について」幹事長より説明、当日は大学本部より深澤武久理事長、学員会本部より久野修慈会長、小畑悟副会長を迎え下記日程により開催しますので同門お誘いの上ご出席下さい。 ①開催日時　平成２６年８月７日（木）午後６時～ ②場所　京王プラザホテル札幌３階「扇の間」 ③会費　懇親会費７，０００円、支部年会費２，０００円。尚、総会終了後 卓話「裁判員制度について」講師　奥田正昭氏（札幌地方裁判所所長）
		6	22	2014 年中央大学父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会への参加	本学在校生の父母で組織されている父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会へ当支部の檜森聖一支部長が出席されました。 　当日は午後１２時３０分から札幌すみれホテル３階「ヴィオレ」において開催され、澤田信也支部長の挨拶に続いて「２０１３年度事業報告・収支決算報告・２０１４年度事業計画・予算・

					役員改選」が行われ、新支部長に熊坂和也氏ほか役員が選任されました。熊坂氏は本学の出身（昭和５９年・理工）で現在は（株）ビームオンの代表者として活動しております。引き続いて午後１時１０分より父母懇談会が開催され中村昇文学部教授から「大学の近況について」、仲谷康敬法学部事務室副課長から「学業・学生生活について」、堀口博史キャリアセンター・キャリア支援課長から「最新の進路・就職状況について」、次いで「企業担当者・卒業生による就職アドバイス」というタイトル金井重博氏（昭和３９年・商・（株）富士メガネ名誉会長）から就職するに当たって非常に参考になるお話をいただきました。１３０余名の父母が出席され熱心に聴講されておられました。 終了後は個人相談も実施され、一年生については、東京での生活、二年生以上については、一年間の成績を個人面談の形で関係父母に事務局から話をしておりました。
		7	16	第 48 回ゴルフ大会の開催	連日厳しい暑さが続いている最中、本年度第１回目のゴルフ大会が、北広島市にある「札幌北広島ゴルフ倶楽部」西コースにおいて開催。 当初１２名の申し込みがありましたが、その後３名の欠席者が出て当日は９名の参加となりました。集合写真、注意事項の説明後、午前９時アウトコースをスタートしました。 その結果優勝は柴田昌幸氏（昭和４６年・経済・柴田興産（株）・アウト４０　イン４５）、準優勝は小林　聖宣氏（昭和５７年・法・東急建設（株）札幌支店・アウト４８　イン４５）がそれぞれ獲得しました。尚、柴田氏は第４６回（平成２５年７月１６日）に続く優勝で、ベストグロス賞も合わせて獲得しました。西山眞吾会長（昭和４１年・商・西山製麺（株））から全員に賞品を授与しました。 懇親会は終始和やかな雰囲気で進み、最後に事務局から、来たる７月２９日（火）の「中大学術講演会」、８月７日（木）の「札幌支部定時総会」、９月６日（土）開催の「小樽支部との交流ゴルフ大会」への参加要請を願い、和気あいあいの内に散会しました。
		7	29	中央大学学術講演会の開催	本学主催、学員会札幌支部・父母連絡会札幌支部共催、札幌市教育委員会・札幌商工会議所・（協）中小企業振興センター後援による学術講演会が北海道経済センター８階 A ホールにおいて午後１時３０分から開催されました。講師には野村修也氏（中央大学大学院法務研究科教授）を迎え「社外取締役はなぜ必要なのか」と題した講演に一般市民、商工業者、学員、父母連絡会札幌支部会員合わせて１８５名が熱心に聴講しました。講演に先立ち檜森支部長から開会の挨拶に続き講演に入りました。講演会の詳細については、下記のリンクをご覧下さい。 「２０１４－０７－２９中央大学学術講演会（ＰＤＦ）」 講演会終了後は、参加者から質問も出て盛会の内、終了しました。この結果①本学における学術研究の成果を広く社会に普及する事。②本学を世間一般にＰＲするという所期の目的を達成する事が出来ました。
		8	7	平成 26 年度支部定時総会の開催	連日厳しい暑さが続いている中、天気予報は雨でしたが、受付が始まる頃は曇りとなり雨もあがりました。総会は午後６時より京王プラザホテル札幌の３階「扇の間」において、学員会本部より久野修慈会長，小畑悟副会長、熊坂和也父母連絡会札幌支部長をご来賓に迎え、檜森支部長以下１０１名の会員が集い開催されました。約２時間２０分お互いの近況を語り合いながら母校の更なる発展に向けて奮闘を誓い合いました。 司会の進行は西原幹事長で進められました。議事に先立ち支部長から「私が支部長に就任してからやっと丸１年経ちましたが、元気で、明るく、仲良くやろうという事でいろんな交流を進めておりますがお陰様で父母連絡会札幌支部さん、全道各支部さんのご協力もありまして、懸案でありました全道各支部との交流会を去年に続いて本年も来る９月１９日（金）に旭川市で開催することになりました。これは偏に会員の皆さんの暖かいご協力によるものだと思っております。とにかくこういう世の中ですけれども元気で、明るく、仲良くどんどん交流をしていけば、本学にとっても、あるいはこれから卒業してくる後輩達にとっても非常に良い事であり、これからも参加するという事が会活動を活発にすると私は思っております。私は平素から挨拶は短く、幸せは永くという事をモットーにしております」と挨拶があり、続いて支部会則第１０条３項に則り支部長を議長に第１部の総会に入りました。 第１号議案「平成２５年度事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長から別添の資料に基づき報告し、次いで会計監事の高橋恭平氏（平成４８年・理工）から監査報告があり諮った結果出席者全員異議なく承認されました。 第２号議案「平成２６年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」 幹事長より別添の資料に基づき報告し諮った結果異議なく承認されました。続いて第２部の卓話「裁判員制度について」講師は奥田正昭氏（昭和５１年・法・札幌地方裁判所所長）にお願いをしました。講演の要旨は下記の通りです。「裁判員制度の運用が始まりましたのは、平成２１年５月２１日という事でもう既に５年を経過しております。本年５月頃には裁判員制度が５周年という事で新聞あるいはテレビの記事等で特集がたくさん組まれました。 この制度について簡単に申し上げますと、通常３名の裁判官と一般の市民６名の合計９名で合議体を構成し刑事裁判について、例えば殺人事件等の重大な事件について、有罪か無罪かを決めると共に、有罪という事になれば量刑といって、刑を何年にするかという事迄決めていくというシステムであります。これまで全国で多くの裁判員裁判が実施されておりますが、全体としてみると、これまでは順調に運用されてきているという評価を頂いております。これも偏に裁判員等

					を務めて頂いた国民の皆様方の強い熱意と情熱あるいは誠実さに基づいて運用されたと考えております。本日はむしろ裁判員についてもう少し身近に感じて頂いて、もし皆様方が将来裁判員に当たった時には、積極的にその職務に取り組んで頂けるのではないかという事で、若干広報的なお話しをさせて頂きたいと存じます。先ず、平成２１年５月から今年の５月迄の間ですが、全国で約６，５００人の被告に対して裁判員裁判が行われ判決等が言い渡されました。事件については、裁判員としてこれまで３８，０００人というたくさんの人達が関与して頂き補充の裁判員（裁判員がいなくなった時の補充のために選んでいる）と併せて合計５０，０００人の方にご協力を頂いているという事でかなりの数になります。　北海道では四つの裁判所がありますが、そのうち札幌地方裁判所が四分の一強を占めておりますが、これまで１５４人の被告人に対し刑事判決が言い渡されました。札幌でも裁判員９００人、補充の裁判員３００人併せて１，２００人の方に裁判員等として事件の審議に関与して頂きました。年間札幌ですと、３０人前後の刑事被告人に対して裁判員裁判が行われております。実は、札幌市内には三つの裁判体がありますのでそれぞれ三分の一ずつ分担して事件の審議等に当たっております。この様にかなりの数の道民の方々のご協力を得てこれまで概ね順調に審議が行われて来ました。 　最近裁判員裁判に対する国民の参加意欲といった面で気になる傾向が出て来ております。実は裁判員をやって頂いた方には，終わった後にアンケートを実施しております。アンケート内容は、①　審議は理解しやすかったか、②　法廷での弁護人や検察官、裁判官の説明等は充分理解しやすかったか ③　裁判員に選ばれる前は，選ばれる事についてどんなふうに思っていたか、④　裁判員をやった後の感想はどうでしたか、この回答結果をトータルしますと、裁判員に選ばれる前の段階では約半数５０％の方が、やりたくない、あまりやりたくないと、半分の人が嫌がっているという結果がでております。所が実際裁判に関与し終わった後に聞くと９５％の方がよい経験をしたという感想を頂いております。実は、読売新聞が６月末に実施した世論調査の結果が去る７月１１日付けの朝刊に出ておりまして、裁判員裁判なんか止めてしまえ、あるいは今後も継続していいかと聞いたところ７４％の方が、（今のままあるいは少し改善がいるよという事は別にして）この裁判員裁判を是非続けましょうというご意見の方が多かったという事でかなり受け入れられております。逆にもう裁判員制度はいらないから止めてしまおうという方は１７％という低い割合でした。又同時に同じように裁判員に参加したいですか、あるいは参加したくないですかと聞いたところ７９％の方が出来ればやりたくないという回答でした。これは裁判員に参加するという事で前向きに取り組んだ方に聞いた意見と、そんな事はぬきにして一般に広く聞いた意見ですから、多分やりたくないという数は増えるなという感触は当然わかります。それにしてもかなり多くの人が否定的な回答をした。ただ今の経験した結果と合わせて考えますと、どうも実際のシステム、あるいは裁判員がどう動いて、どんな事をやらなければならないという事を恐らくあまり皆さんは事前に知らないので、一定程度拘束されて仕事も出来なくなるし、家庭の事もいろいろ気になるし、だからこそ拒否反応があったという事になっていると思われます。我々裁判所の立場として、裁判員というものは、一体どういうもので、どんなところが問題があり、それらについて皆さん方にしっかりと問題点を事前にアナウンスして理解して貰い、もっと気持ちよく取り組んでもらえるように、広報という事を積極的に考えていかなければならないと思っております。そうすると多くの方は裁判員をやる事によって、こんな問題とか、こういう不都合があるのではないかと、不安に思っている部分があるだろう、そういう事について、我々としては誤解を解くようなお話をしていく必要があると思っております。実は裁判員の広報ついては、いろいろな企画を立て改めて取り組むため現在検討を進めている最中です。この制度の問題点について何点かにしぼってお話をします。①　選任手続きにおける辞退の申し入れについては、いろいろあっても断り切れないのではないか、不安もあるのではないか、②　裁判員裁判は一体どんな風に行われているのか、その実情のご紹介　③　精神的な負担という事で、裁判にもありましたが、死体の写真を見て具合が悪くなり、何故そんなもの見なければならないのか等、そのケアーがどうなっているのか、④　守秘義務の問題について。 　先ず裁判員を経験したかどうかは、守秘義務の範囲から外れているので別に違反にはならない。法律上守秘義務は二つの側面から課されております。一つ目は評議の秘密という事。これは裁判官と６人の裁判員とで事実を確認し判断をする際に密室でいろいろと意見交換をしますが、誰がどんな事を言ったなんていう事、その時の審議内容等について外部に漏らしてはならない。仮に違反をすると刑事罰という事もあり得る。二つ目は法律の条文では、その他職務上知り得た秘密は漏らしてはならないという事。これは事件の中で知り得た被害者とか被告人の出所来歴、親戚関係あるいはどんな事をやって来たかという過去の事、プライバシーに亘事等。これは職務上手続きの中で知り得た事でこんな事を他でオープンに言われたらかないません。これも当然常識的に考えればそんな事を言っては拙いと解るわけです。法廷の中で行われた審議については、誰にどんな事を言ってもまったく問題はありません。ただ法廷を離れて評議室という所で裁判官と裁判員と話した中味については、話しては駄目だという意味で、括りはっきりしています。というような事を考えて頂くと守秘義務についてはそんなにアレルギーを持つ必要はないのかなと思っております。 　実は裁判員経験者の中から希望される方にご出席を頂いて、意見交換会を開催しており、札幌でも９回やっておりますが、その中で経験者数名の方から、いろんな話を伺って不都合があれば

					直すという事でこれまで取り組んで参りました。去る６月１６日に実施した意見交換会の中に、裁判員の経験者の記事が、７月１７日の北海道新聞に載っております。我々としては、裁判員としての経験をいろんな方にお話しして、自分はこんな事を思った、こういう不都合があったけれども、こういう形で何とか裁判官と一緒に意見交換が出来たよ、と言って頂く事によってもっと安心して参加出来る、普通にやっていれば大丈夫なんだという事を理解して貰える事が大事なのかなと思っております。 　裁判員裁判の実情という事ですが、札幌地方裁判所では毎年大体５，０００人～８，０００人程の方に、年によって違いますが裁判員候補者として選んでお伝えしております。実はこれは裁判所が選んでいるのではなくて、選挙管理委員会の方で、選挙人名簿の中から一定数、予定された人数を無作為に選んで、その対象者に裁判員として登載されたという事を裁判所から通知をしております。そうして次の一年の間に、ひょっとしたら裁判員に当たるかもしれませんよと予告し、心構えをして頂く事になります。その時に７０歳以上の人は裁判員をやらなくてもいい事になっておりますので、これは義務ではありませんから７０歳以上でも本人がやると言って頂ければ、問題なく実施して頂くわけです。 　弁護士、警察官とか定型的にやれない職種については、そういう事を言って頂ければ当然排除致します。またその段階で重病のため動けないという事になれば、書面で裁判所にご連絡頂ければそこからはずして、またお呼びしますというよう形で工夫をしております。その後個別にある裁判、例えば殺人の事件が開かれる事になりました。今度１０月から始まりますよという事になると、その一定前に裁判員の方８０人～１００人に声を掛けて、来て頂きませんかとお願いをします。その方については、出来れば来て頂きたいのですが、当時試験中で単位を取らないと落第してしまいますとか、学生でそもそもいけませんというような合理的な理由があればＯＫですという事ではずすという事が出来るわけです。当日は大体３０人前後の方にご出席頂いておりますが、最終的には６人の裁判員と補助員１～２人を選ぶというのが一般的であります。ですから裁判員を７～８人を選ぶために３０人というのは多すぎないかというお話がよくあるのですが、当日来て頂いたけれども、いろいろな事情で私は、この被告人を知っているから駄目ですとか、仕事の用務でどうしても私がはずれたら会社が成り立たないという事であれば、これは当然はずしてもいいわけです。そういう具体的な事情をお伺いし、その生活に支障が出る、あるいは介護のために親の面倒をみなければならないから、とても裁判員は出来ませんという事は、それは合理的な理由ですのでその方もはずす事が出来ます。こういった事で、どんどんはずしていって、ひょっとして６人に、もし満たなくなってしまうと裁判員裁判は出来ません。数ケ月前から準備をして、証人もその日に来てもらって、一気呵成に何日間で審議しょうと思っていたところが、それが出来ないとなると結局改めてやり直すという事、これは刑事被告人も身柄を拘束されているのにまた伸びるのかという話になって、これはとんでもない話で、そういう事からする一定程度予備を持った上でその中から選んでいく事をしないと、ぎりぎりで持っていたのでは、不測の事態に対応できない事になり、そこである程度ゆとりを持った人数を選ばせて頂いて何とか来て頂いて、やっているという事です。ですからやりたく思って来たのにおれはやれない、けしからんと極たまに言われるのですが、そこはこのシステムとしてしようがないところがあるのでご理解を頂ければと話をしているところです。そういう事で辞退の理由については、裁判所は非常に柔軟に選ばせて頂いておりますので、困るとか、今日はどうしても駄目なんだ、今週は外したいとか、いろんな事情があれば積極的に言って頂ければ充分対応させて頂いているというところです。 　審議の期間については、テレビ等でご覧になったとおり、大体一番長いので１００日間という裁判もございますが、札幌でやったのでは長いものでは、２１日、短いものでは２日で終わっております。そういった意味で非常に短期間に審議をするという事で裁判所も工夫をしながらやっていて、大体半数以上の事件が５日以内に全国的に見ても終わっているところで、合理的な範囲でやっているのかと思っているところでございます。例えば４日の事例を話しますと、月曜日に始まって火、水、木という事です。４日間で終わる事件を取ると、一日目の午前中に選任手続きを行って、朝来てもらって大体１時間半位で手続きか終わります。いろんな不都合の事情を皆さんからお聞きして、駄目な人をはずした上で、残った人から抽選で無作為にぱっと６人が選ばれるという事で、当たった方にお願いするという事になっております。その日は午後から法廷を見て頂いたり、あるいは裁判官と懇談をして頂いて、気持ちをつないで頂いて、審議は普通その日はしない事になっております。翌日の火曜日から実際の審議が始まります、法廷で検察官の起訴状朗読という事で、被告人は○日○時被害者を殺しました。というような事を読んで、それから双方の検察官、弁護人から意見を言ってもらって、審議の対象、ここがポイントですよという事を明らかにした上で実際に必要な証拠を調べていきます。例えば殺害ですと、目撃をしていた証人を聞いてその人から事情を聞くといったような事を続けていくわけでございます。そして大体一日で審議を終わります。証拠の調べた物を朗読して聞いたり、捜査資料の結果を聞いたり、足りなければ現場で見た人を証人として呼んで来て、そこで話を聞いたり、被告人から直接どんな事をやったのだと話をしてもらったり、そういう事を踏まえて大体そこで結論が出る、事実関係が全て揃います。その日はそれで終了したとしますと、翌日は評議という事で、今迄審議をした結果に基づいて、裁判官と裁判員とが部屋にこもっていろんな資料を基にいろんな意見を出す、

					本当にこの人がやったという事でいいのか、どうなのかという事を検討していく事になり、その結果大体その日のうちに評議が纏まって、翌日判決に向けての準備をし、午後から判決の言い渡しというような事になってくるので意外に簡単な手続きで進んでいく事になります。ただこの間の集中度は極めてすごいものですから、皆さん本当に一生懸命聞いて頂いて、終わった段階では、皆さんああ疲れたという感想を述べておられますが、ある意味で本当に充実感のある緊張感を感じられたのではないかと思われます。審議では２０分やったら５分の休憩、３０分やったら１０分休憩という事でおりおり休憩を取りながら一息入れて、又気持ちを切り替えて次ぎにやるというような事で集中を途切らせず、又気持ちを切り替えて休憩を取りながらやらせて頂いているのが現状でございます。裁判員裁判の精神的負担と申し上げましたのは、実は東北のある管内で裁判員をやっていた女性の方が、死体の写真とかそういう物を見ていわゆる、ＰＴＳＤ（心的外傷ストレス障害）を発生されたという事で、それはこのシステムが悪いのだという国家賠償の裁判を起こしている事件がございます。まだ進行中でございますがそういう事態がありうるという事です。で実際に殺人事件等の審議をするという事になれば、どうしても亡くなった事を前提にしても、本当にその人が包丁で刺したのか、刺さないのかという事になりますと、刺さった傷の角度とか位置とかそういったものを確認した上でその人が本当にやったかどうかを見ざるをえないという事で、場合によればそういった写真を見なければならない場合もあるわけなんですが、それに替えられるものとして、例えば図であるとか、データに解析したものにするとか、実物を見ないでも勿論可能になるわけで、そういった精神的にトラウマを抱える事のないような証拠のだしかたを裁判所ではいろいろ工夫をしてやっているところでございます。仮にどうしても見なければならない事件があります。それは勿論あるんです。そういう場合には、裁判員に選任される前の段階で実はアナウンスしております。今日これから行う栽培員手続きではそういった普通の人なら見たくない写真が証拠として出されておりますが、大丈夫ですかという事をお聞きします。そしてその上でいやそれはちよつと耐えられそうにないという事であれば、お話をして頂いて裁判官と若干の意見交換をした後通常ははずしております。という事なのでそういった事に耐えられないような方が裁判員に無理遣り参加させられるというような事は実際あまり考えられないと思いますので、その意味で精神的な負担を抱えかねない方に対する工夫も、以前より進んで来たのかなと思っております。加えて裁判官や裁判所職員も普段から裁判員裁判の進行中は、いろいろと周りから見ておりまして、具合が悪そうとか、顔色が悪いといった時はそこで休憩を取ったり、何か不具合がありましたかとお話しをしたりして、いろいろとケアーをするという事をやっております。また裁判が終わりましてからも、裁判員の精神的なケアーに関するいろいろなサポートシステムがありますので、そういったものを利用して面談とか電話によるアドバイスを受けるとかそういった事も出来るようになって来ております。まだ完全に充分かと言われると、いろいろとまだ検討すべき事は多々ございますが裁判所といたしましても、こういった精神的なケアーについて工夫を重ねているところでございます。最後に本日ご出席頂いた学員の皆様の中には、会社の経営者あるいは事業主として多くの被雇用者を雇ってる方もご出席されているのではないかと思います。　私からのお願いでございますが、もし従業員の方等から裁判員に当たったというご連絡がございましたら是非気持ちよく送り出して頂きたいと思っているところでございます。というのはこれまで何人かの裁判員の方からお話しを伺っておりましたが「出席するのに大変苦労したんだよ」とよく聞きます。それは皆さんは責任を持った仕事をされているわけですから、そう簡単にぱっと言われて一週間も会社を抜けていいのかというと、それはかなり辛いところがあるわけですから、会社の中でもいろいろと工夫を重ねて頂きながらやっております。これまで裁判員制度がうまく回ってきたのもそういった事業主を含めた皆さん方のご協力・暖かいご支援があってこそこの裁判員制度がうまく回ってきたのです。今後、もしそういう機会がありましたら是非暖かいご配慮をして頂けたら有り難い事だと思っております。只この期間にこいつを抜かれたらうちの会社は潰れるよという事情があれば、それは是非おっしゃって下さい。裁判所もその話を聞いて、そういう事情があるのならば無理ですねという事でその方を裁判員の候補者からはずすという事を現実に実施しております。ですから裁判所はその実情を伺った上で合理的な範囲内でやれる事、やれない事を考えながら実施しているところでございますのでその点も合わせてご了解を頂ければうれしいなと思っております。裁判所としましては、これから裁判員制度をしっかりと社会に根ざしたものとして更に育てていき、あるいは制度を更に創って行かなければならないと考えておりますので、今後ともご協力を頂ければ有難いと存じます。実は裁判所しましては、こういった広報を積極的にやらなければならないと思っておりますので、皆さん方のグループあるいは地域。あるいは会社の事業所単位で結構でございますので、裁判員制度についてもう少し勉強したい、情報が欲しいなという事があれば、裁判所の職員は当然の事ながらご要望に応じて派遣をした上で説明会等を実施させて頂く等の企画を今進めているところでございます。もし可能であれば現役の裁判官を派遣します。実際にされている刑事裁判官ですから「自分はこんな事をやって、こんな事に苦労した」というような事を含めたお話しも出来るんだろうと思っております。一定の範囲であればそういった事に対応する事は可能であると思っております。またツールとしてＤＶＤ等裁判員についてのいろんなグッズもございますので、そういうものも活用させて頂きながら裁判員についてご理解頂きながら、これから将来にわたってこの裁判員制度が定着していくためのいろんな工夫の礎となればと思っている次第で

					ございます。裁判員制度について、そんな始めから、頭から嫌がるようなものではないよと、参加して、体験して、本当によかったという事を言って頂ける制度である事を前提に今後とも裁判員制度についてご理解・ご支援を頂ければ有難いと思っております。」 　続いて第３部の懇親会に入りました。当支部顧問の金井重博氏（昭和３８年・商・（株）富士メガネ名誉会長）から「去年の春迄北海道と東北地区の同窓会の副会長をさせて頂きました。本日は非常に多忙の中、久野会長、そして北海道・東北担当の小畑副会長にお出で頂きました。会員１０１名の出席は全国規模でもこのようにたくさんの同窓が集まった支部総会は珍しいと思います。そういう中で今後皆さん学員同士助け合って、皆さんのライフスタイルのいろんな形で協力して中央大学、学員会、札幌支部そして皆様方のご多幸・ご健勝を祈念して乾杯の音頭を取らせて頂きます。日頃ご協力を賜りましてありがとうございます」ご挨拶と乾杯の音頭で宴に入りました。ご来賓の久野会長から「今日札幌地裁の所長さんが大変高い見地から裁判員制度についてお話しになり私も大変参考になりました。さて先般皆さん方に大変なご迷惑をお掛けしましたが、学員会に対する大変な訴訟がございました。相手は３６人の弁護士が間にいたわけであります。こちらは１０人でしたが、東京地方裁判所も高等裁判所も全てその裁判を無効としました。学員会が全てについて正しいという結論を得ました。裁判官の皆さん方は確かに正しい裁判の判決を下すのだと思いました。中央大学も新たに国際化の中で生きていかなければならない時が来ました。前々から申し上げましたように本学には残念ながら資産がありませんので都心には展開出来ません、しかしそのためには、国際的に大学の地位を上げていかなければなりません。今本学がやるべき事は、国際的に優れた先生を多摩に２０人位呼んで来て人的な投資をして、本学のグレードを上げる事だと思います。本学が繁栄する事が基本であり、中央大学を卒業した皆さん方を含めた中央大学の結集力をどこまで持って行くかが基本だと思っております。慶応大学は現在卒業生の支部が９２０ありますが、中央大学は２３０支部しかございません。この慶応の国際的な同窓会組織に本学が勝つような対応をしていかなければならないと思っております。先程檜森支部長さんがご挨拶で、北海道の大学の卒業生の支部連絡会をおやりになるという事でありますが、その心の交流こそ本当に大学の繁栄に繋がってくるんではないかと思います。日頃から皆さん方には大学あるいは学員会等に大変なご理解・ご協力とご支援を賜っている事について心から厚くお礼を申し上げます。とにかく勝たねばならないと思います。大学も国際競争に勝つためにはどうしなければならないかという事が大事であります。この度本学の理事長に最高裁判事の深澤さんが選出されました。私は深澤さんを信頼しておりますのでご推薦申し上げ、そして本学の改革のためにはこの理事長が必要だという事で強力に推薦しました。どうか皆さん方この深澤先生はすばらしい方ですので、今後ともご理解・ご協力を願って本学改革のためにいろいろなご意見を学校なりあるいは我々に頂く事を念じましてご挨拶に替えたいと存じます。」、続いて小畑学員会副会長から「私の顔とこの雰囲気を見て北海道・東北担当の副会長という事は、信じがたいと思いますけれども、世の中には信じられない事がたくさんありまして、この仕掛け人は、金井さんが男鹿のなまはげに非常に関心を持って頂きまして、私がなまはげだと言っても信じなくて２～３年前にお越し頂いてご案内した事がきっかけで北海道・東北担当の副会長をおおせつかった次第です。今本学の駅伝チームが北海道で合宿をしておりますが、私は野球も好きですが、どちらかというと体育系のものですからやっぱり中央大学は駅伝です。それで大事な事は駅伝というのが世界の共通語になってまして、襷を繋ぐという事が、支部でも、親子でも、会社でも非常に大事な事だと思っております。そういう事で、本日お集まりの皆様に来年の支部総会へ呼んで頂く事をお願い申し上げ、又駅伝に応援をして頂く事をお願いしてご挨拶とします。」懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み、会員同士が名刺交換をされたり、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。今回新たに会員となった学員は、総勢１１名でそれぞれ壇上に立ち、自己紹介と５分程度の挨拶を頂きました。 ・上野　範幸氏　（昭和５３年・文）上野社会保険労務士事務所 ・大川　卓也氏　（平成２２年・文）北海道大樹高等学校 ・奥田　正昭氏　（昭和５１年・法）札幌地方裁判所 ・奥村　徹氏　（平成５年・経済）日清製粉（株）札幌営業部 ・田中　英和氏　（平成１３年・法）みずほ証券（株）札幌支店 ・田森　亘氏　（平成１２年・商）ほけんの窓口グループ（株） ・楢木　共明氏　（昭和４９年・法）ハミューレ（株） ・藤　俊哉氏　（平成１８年・法）浄土真宗本願寺派永福時 ・村田　雅彦氏　（平成１１年・法）弁護士法人小寺・松田法律事務所 ・渡邊　英貴氏　（平成１８年・法大院）渡辺法律事務所 ・岩井　貴之氏　（平成９年・商）（株）ＪＴＢ北海道 　会の最後は、恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入り、全員が輪になり、肩を組み合ってそれぞれ３番迄フルコーラスで熱唱し、誰もが過ぎし学生時代へ思いを馳せている様子でした。結びは、舟橋副支部長が壇上に立ち「本日はお忙しい中お集まり頂き有難うございました。久野会長の迫力あるご挨拶に圧倒されましたし、小畑副会長のとてもユーモア溢れるしかも秋田からわざわざ当支部総会のために、秋田の有名な荒又酒造の銘酒をお持ち頂き有難うございました。本当に中央大学の仲間は、とても有難く、嬉しい存在であります。また１２月の忘年

					会に皆様と元気にお会い出来る事を楽しみにしております。」 　最後に、久野会長、小畑副会長、金井顧問が壇上に立ち三三七拍子で締めを行い和やかに終了し、散会となりました。尚、支部総会へ札幌市役所白門会より飲み物の寄贈がありました。
		9	6	第49回ゴルフ大会の開催（小樽支部との交流ゴルフ大会）	本年度２回目は、北広島市にある「札幌リージエント倶楽部トムソンコース」において開催されました。小樽支部との親睦・交流を兼ねた本大会は、３回目に当たり、小樽からは関口正雄支部長（昭和４７年・法・関口正雄法律事務所）、米山八郎氏（昭和３４年・商・（株）温泉後楽園・相談役）の２名のご参加を頂き、当支部からは西山眞吾会長（昭和４１年・商・西山製麺（株）・相談役）、檜森聖一支部長（昭和４５年・法・（株）北海道二十一世紀総合研究所・代表取締役社長）以下１２名で総勢１６名の４組となりました。久しぶりに紅一点富樫靖子氏（平成７年・商・富樫正浩氏夫人（平成５年・商・公認会計士富樫正浩事務所））の参加を頂き和やかな雰囲気の中、前半のアウトコースを午前８時２１分にスタートしました。当日は真夏並みの気温と蒸し暑さでしたが、ゴルフには良い日よりでした。 　恒例により競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は当支部の工津輝雄氏（昭和３９年・商・（株）エミック・代表取締役・アウトコース４２　インコース３８）、準優勝は小樽支部の米山八郎氏（アウトコース４３　インコース４７）がそれぞれ獲得し西山会長から賞品と副賞を、他の入賞者にも賞品と全員に参加賞を手渡しました。またベストグロス賞は工津氏が合わせて獲得しました。その他にニアピン・ドラコン・大波、小波・平和賞等々の景品を盛りだくさん用意しました。西山会長から「当支部の大会は高齢化も進み、年々参加者が少なくなって来ているので、小樽支部との交流大会は、今後も継続していきたい。」又関口支部長、檜森支部長からもそれぞれご挨拶を頂きました。続いて優勝者の感想、また今回初参加の富樫ご夫妻の靖子様からは、「子育てが一段落しましたので、主人共々参加しました」、また伊藤宏二氏（昭和５６年・理工・ＺＥＫＫＯ　ＩＮＣ．代表取締役）、寺田昌人氏（昭和６１年・商・寺田公認会計士事務所）からは、「楽しい会なので来年も是非参加したい。」との挨拶をそれぞれ頂きました。 会は終始和やかな雰囲気で進み、次年度の再会と健闘を期して和気あいあいの内に散会しました。尚、関口小樽支部長からゴルフボール、檜森当支部長から優勝者への副賞とゴルフボール、会員の高橋恭平氏（昭和４８年・理工・（株）タカラ専務取締役）からワイン、同じく田代信一氏（昭和５６年・文・（株）京王プラザホテル札幌・リスク管理担当支配人）からはお菓子の詰め合わせを景品としてご寄贈がありました。
			19	第２回中央大学学員会全道支部交流会の開催	昨年第１回の会合の際、２回目は旭川で開催する旨の決定を頂いておりましたので、旭川グランドホテル１７階シヤンドール会議室において午後５時より当支部より檜森聖一支部長・西原幹事長、函館より平沼冠三支部長、小樽より関口正雄支部長、帯広より後藤裕弘支部長、地元旭川より八重樫和裕支部長・武田勇美幹事長・上村ゆうじ副幹事長・安藤泰愛会計幹事出席のもと開催しました。 　冒頭檜森支部長から「本日はお忙しい中、全道各地からご出席を賜り有難うございます。当支部としましては、明るく、元気で、仲良く交流をしていこうと考えておりまして、これからも全道の各支部さんとはいろんな機会をとらえて交流を進め、現役の学生達のためにも、あるいは卒業生のためにもより一層交流を広げて参りたいと考えております。」続いて西原幹事長司会のもと議事に入りました。 　議案第１号「平成２５年度支部活動について」 各支部から別紙によりご報告を頂きました。 「札幌支部」 ①　支部ゴルフ大会の開催（年３回、参加人員４１名）。②父母連絡会札幌支部総会への参加。③学術講会の開催（参加人員１３４名）。④支部総会の開催（参加人員９７名）。⑤第１回学員会全道支部交流会の開催（参加人員１３名）。⑥第８１回全日本アイスホッケー選手権大会へ出場の本学アイスホッケー部の応援参加。⑦支部年末懇親会の開催（参加人員８４名）。⑧札幌市役所白門会総会・新年会への参加。 「旭川支部」 　冒頭、武田幹事長から「支部に登録している学員は２５０名位いるが、総会等の案内を出しても出席者が少ないので事業もなかなかやれない。」 ①　父母連絡会道北支部総会への参加。②第２５回大学対抗親睦ゴルフ大会への参加。③学術講演会の開催（参加人員３８名）。④支部総会の開催（参加人員２３名）。⑤第１回学員会全道支部交流会への参加。 「函館支部」 　冒頭、平沼支部長から「支部に登録している学員は１００名位いるが、総会等の案内を出すと出席者は２５～３０名程度と少ない。」 ①　父母連絡会函館支部総会への参加。②支部総会の開催（参加人員２２名）。③第１回学員会全道支部交流会への参加。④父母連絡会函館支部新年会への参加。⑤函館東都リーグ幹事会への参加。⑥支部新年会の開催（参加人員１８名）。⑦函館東都リーグ新年会への参加。 「小樽支部」 　関口支部長から「昔は小樽も相当力があり、中大の卒業生も多くさんおられたのですが、学員のほとんどが６０歳を過ぎて高齢化が進んでおります。若い人が小樽に定住して支部の集まりに

					参加する事が難しい状況にあります。平成１２年当時は８０名位の学員が在籍しておりましたが、現在は３０名程度の学員から年会費を頂いております。」 ① 花見会の開催。②中大・日大対抗のゴルフ大会への参加。③支部総会の開催。④東都２１大学交流会への参加。 「帯広支部」 後藤支部長から①支部総会の開催（参加人員１９名）。②第１回学員会全道支部交流会への参加。③支部新年会（箱根駅伝感想会）の開催（参加人員１７名）。 「釧路支部」 中村釧路支部長は都合により欠席されましたが支部活動報告書によると、①支部定期総会の開催（参加人員１４名）。②第１回学員会全道支部交流会への参加。③支部新年会の開催（参加人員１３名）。 各支部の活動報告に続いて、武田旭川支部幹事長の司会進行で八重樫旭川支部長のご挨拶の後懇親会に入りました。会は終始和やかな雰囲気で行われ各支部間の情報交換も出来ました。会合の中で①学員の転勤、転居等による異動情報を所管の支部へ連絡して欲しい。②支部交流会主催による全道大会を２～３年を目途に開催してはどうか。③本交流会は毎年札幌で行い、数年置きに地方で開催する事になりました。最後は安藤旭川支部会計幹事の締めの乾杯で閉会となりました。
		12	10	支部年末懇親会の開催	師走に入っても雪が少ない日が続く最中、恒例の支部年末懇親会が午後６時から京王プラザホテル札幌の３階「扇の間」において檜森支部長以下８７名の会員が集い開催されました。約２時間３０分お互いの近況を語り合いながら、母校の更なる発展に向けて奮闘を誓い合いました。司会進行は、鈴木舞（(有）ミュージック企画）さんにお願いしました。 冒頭、支部長から「本日は寒い中また選挙でお忙しい中、たくさんの学員会の皆さんのご出頂き有難うございます。支部長に就任してから２年目になりますが、元気で、明るく、仲良くという非常に単純なスローガンをモットーに皆さんと頑張ってきたつもりですが、まだなかなか思い通りにはいっておりません。よろしくお願い致します。挨拶は、短く幸せは永くという教育をいつも受けておりますが、次いで本学の今年のトピックスをご披露します。 ① 当支部学員の渋谷幹男氏（昭和３６年・法・渋谷司法書士事務所）が秋の叙勲で黄綬褒章を受章。 ② 第９１回東京箱根間往復駅伝競争予選会において本学は７位に入賞し８６回連続して出場。 ③ 平成２６年度の司法試験の本学の合格者は１６４名で早稲田大学（１７２名）に次いで第２位。 ④ ８月１７日岡山県倉敷スポーツ公園野球場で行われた全日本大学準硬式野球大会の決勝で本学準硬式野球部が２年ぶりに日本一。 ⑤ ９月５日～７日に横浜国際プールで行われた第９０回日本学生選手権水泳競技大会において本学が男子総合優勝。 ⑥ １２月５日に大阪府立体育館において行われた２０１４年全日本大学バレーボール選手権大会の決勝で、本学が１８年ぶりに最多１３度目の優勝。 来年も皆さんと元気で明るく仲良く学員会の活動を続けていきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。」続いて来賓の上田文雄札幌市長からもご挨拶を頂きました。 「市長になりまして１２年が経ちました。学員の皆様方には特段の関心をお寄せ頂き、またご支援を頂きまして本当に有難うございました。今年を振り返えりますと、国際芸術祭を７２日間７月１９日～９月２８日迄開催させて頂きまして概ね大好評といいますかあるいは成功したと言われ終わる事が出来ました。これは今年だけの事業ではなくて、今年やったからということではなくて平成１８年に私が市長に就任して３年目に「創造都市札幌」というものを宣言させて頂きました。成熟した都市におけるこれからの持続可能な発展を考えた時に、多様な価値観をみんなで認め合い、そしてそれを刺激し合って、創造していく、いろんな活動をする中でそういう創造的な発想というものが一番大事であると思います。 例えば、われわれの札幌ではいろいろと工夫をして参りました。雪がたくさん降る、じゃまになるものでありました。これを克服しなければならないという発想から、それを利用するにはどうしたらいいのかと発想を転換するということで大きな雪祭りが出来、あるいはそういう発想が、利雪という事を促し、そしてこの街が発展をしていく、これは大きな発想の転換でありまして、まさに創造的な発想がなければ、雪祭りはこういう形にはならなかったであろうと思われます。そういう意味で創造性を刺激するのにはどうしたらいいのかという事になりますと、それはやはり芸術・文化とうものが非常に大きな役割を果たすであろうという事で芸術・文化を大事にして、特に現代美術という分野になりますとある物をいろんな観点で見て、それをわかっても、わからなくても、なんだろうなと思う事によって、創造性をあるいは物の見方の角度を変えてみるという事が可能になる、刺激をするそういう分野であります。現代美術というものをテーマに国際芸術祭を「創造都市札幌」の延長線上において象徴的な事業という事で取り組みをして頂いているところであります。街中でいろんな催し物がありましたので、どこかでご覧になっていると思いますが、４７万人程の方々が鑑賞して頂いたという事で大変嬉しく思っているところであ

					ります。この事業は３年に一度開こうと思っておりますので、また２年～３年後にこの催し物を開催したいと思っております。是非多くの皆様方にさっぽろの街をこれからイノベートして、革新していく時の物の考え方、発想の仕方が豊かになるように、是非きっかけ作りになればいいなと思っているところでございます。つい先日第４回の定例市議会の冒頭に、１１月２７日ですが２０２６年のオリンピックを札幌が再びチャレンジしようという事で、これは市民合意をとりつけて、いよいよ機は熟したという事でオリンピックを、もう一度札幌でやろうという事を決意させて頂きました。１万人アンケートを取りましても札幌の人達は、三分の二以上の方がオリンピックをやろうと、いろいろお金がかかる事があるけれども、しかし札幌のために、子供達のためにもこれはすばらしい事業なので是非やろうという声をたくさん頂きました。私どもも様々な困難を乗り越えて行くことを覚悟しながら取り組んでいこうと考えております。 　困難を乗り越えるという事は、そこに様々な力が必要であります、特に市民の皆様方のその結集力といったものが図られる、乗り越えていく力それは市民力といえると思います。これからの人口減少、あるいは超高齢社会などさまざま、われわれが今まで経験した事がない困難にぶちあたる事だろうと思います。それを乗り越えていくのは、行政の力だけではとうてい出来ません、市民の皆様方が行政と一体となって、あるいはそこで活躍をされている様々な企業の皆様方と協力をしながらこの打開をしていく力をつけていかなければなりません。困難を乗り越える力を鍛えていく、鍛え抜かれた市民力を我々は育てていく、獲得をしていくそんな道のりとしてオリンピックという大目標を掲げて、これから走っていきたいと考えております。是非頑張り抜くようなそんな市政になります事を心から期待しております。そして今日迎えました一年を締めくくる時期になりましたけれども、私に取りましても、１２年の間市長として、わが学員会の忘年会に出席させて頂きまして、多くの皆様に本当にご支援を頂きました事を心から感謝を申し上げたいと思います。これからはフリーの立場で出席させて頂ければうれしいなと思いますし、多くの先輩の皆様方そして同僚、後輩の皆様方と共に語り合い、この札幌が住みよい街になるように、そして我々も生き生きとこの街で生活が出来る、そんな活動が出来る、そんな一つのチャンスにこの会が役立って頂ければければと思っております。檜森支部長にはこれからもますます頑張って頂きたいと思いますし、私共も本当に、ここに集い学生時代同じ釜の飯を食ったという関係もあります、同じ大学で同門で育った事を大事にしながらこれから頑張っていきたいと考えております。長い事ご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。」続いて第１部の卓話「心に残った事」に入りました。講師に大口順子氏（(株）札幌オフィスワーク・代表取締役）を迎え以下のようなお話しを頂きました。 　「私は、現在札幌オフィスワークの仕事とか、司会や研修の仕事、私自身はもう現場には立っておりませんが、また１１年前からペット事業も手がけており、お陰様で今ペットは大変ブームですから楽しい仕事でございます。ほかにペットのウェアーの仕事もさせて頂いております。私の家族は、大変温厚な夫と子供達は独立しておりますけれども、可愛いペット三匹と暮らしています。夫は大変寡黙で真面目な人です、話がこみ入ってくると「無口で不器用だから」と自分の事を必ず言います、その時私はそれ以上何も言えませんので、只笑ってしまうだけです。そんな家族に支えられ今日の私があるのかなと思って感謝しております。私が起業したのは４２歳の時です。今年で２３年を迎えます。この年迄こうして働かせて頂ける事は、大変有難いなと思っております。年金が少ないからと言って、どこかで働きたいと思ったって、口ばかり達者で誰も使ってくれないと思います。今は自分で働く場所を自分で創って、そしてそこで働いている事に何時も感謝しながら働いております。毎日が楽しいです。初めから起業をしたかったわけではなくて、どっぷり専業主婦でした。２０代の前半に結婚したものですから、何にも解らないで、主婦をして、お母さんをして、そのころは、今みたいに便利な時代ではありませんでしたので、なんにもありませんでしたので、おむつは全部洗わなければならないし、毎日洗濯です、今みたくパンパースのような便利な物が全くあるわけではないですから、もう全て手作業、全て手作りで、離乳食のはてから全て手作りでした。子育てで忙しかったですし、自分の事は後回しでした。流石が洗濯板は使っていなかったのですが、全自動ではないわけですから、本当に忙しい日々でした。夫はというと、おむつかえを一度もしてくれた人ではないですので、私はその事に対しては、何の不平、不満もなかったですし、あたりまえだと思っていました。だから主婦をやっていく事に、家の事をやっていく事に何の疑問も感じないで過ごして参りました。 　私の姑は、スーパーウーマンでして、８年前に９４歳で亡くなりましたが、とにかく何でも出来る人でした。出来るといったら、何でも一から作りだすわけです。それで姑が亡くなる前に、いろんな事をちゃんと聞いて置いていけなければならないと思って、数年前にメモ用紙を持ちながら「お母さん、いろいろ聞きたい事があるのだけれど、教えて欲しい事があるのよ、お味噌の造り方、どうやって造るの、麹の造り方は、全部メモしたのです。昔、水飴を造って子供達によく食べさせていた事をよく聞いていたものですから、いろいろとメモしました。」すると姑がいきなり「今頃どうしたの、この時代に、何でもあるじゃない、そんな便利な物があるのだから買った方が安いよ、面倒な事はしなさんな」と言われたものです。姑にしてみたら、大変苦労な時代を過ごしてきたわけですから、そんな事を考たくもなかったのだろうと思います。 　でも振り返ってみると、何でも自分で作り出せる、自分でやれるという事は、生きる力に繋がるのではないかと実感いたしました。

					私は夫の都合で地方で暮らしていました。子育てもそちらでやっていました。家庭はそれほど楽じゃなかったものですから、安いお給料でかつかつでやっていました。それで節約するのが自分の仕事と思っていましたから、何とか節約する方法はないかと何時も考えていました。それで、一冬、灯油を買うお金を節約しようという事になりまして、薪ストーブを買いました。丁度、近所に建築家さんがいまして、そこから、どこかの住宅を解体した廃材を貰いまして、自分で鋸を挽いて、一冬暖房代を節約した事があります。自分としては、灯油の節約位大した気にはならなかったです。今思えば、いい経験だったと思います。 そんなどっぷり主婦の私が何故起業したかという事ですが、まだこの頃は２０代でして、若い時にある会社の経理課に勤めていました。経理課時代の上司が後にその会社を退職し会計事務所に転職しました。ある時その上司が訪ねて来て、仕事を手伝ってくれないかと声を掛けられましたが、その時は子供も居たし、働きに出るなんていう事は想像も付かないし、今は子育てが楽しいし、それからこの環境も替えたくなかったという事もありましたし、それから両立は、きっとどこか無理が出るであろうし、負担が誰かに掛かるだろうと思ったものですからお断りしましたが、元上司が何とかならないかという事で、時間から時間まで勤める事は出来ないが、自宅でやる事であれば、大丈夫だという事で引き受けました。子供達が寝ている間にやりましたから、家庭では働いている姿を子供にも主人にも見せた事はありませんでした。今も昔も子育てしながら働くという事は、本当に大変な事なんです。勤めに出ると子供は、大人の段取り通りに動かないものですから、進まないんですね、今日は仕事頑張ろうと思っても、急に熱が出たとか、幼稚園、保育園の行事があるとか、学校の行事があるとか、自分の本心とは別に、休まなければならない、仕事を残してでもやむなく早退しなければならないとか、そんな事がたくさんあるものですし、これが全部お母さんに来ているものですから、ひとりで働きながら、子供の世話をするというのは、そういう意味で大変なのだなあと思います。家事につきましては、今は指一本で出来る事ですから、わりと家事は楽だろうと思いますが、そういう事だろうと思います、子供達が帰って来ても夕方になると、やはり昼間会っていないから、ぐずぐずしてからみつく、お母さんはご飯仕度をしなければいけないし、するとイライラします。そういう事なんだろうと思います。だから、今父親参観って言われたり、イクメンなんていう言葉が飛び交っていますが、そういう事に繋がるのかなあと思います。私は、自分は零細企業なものですから、産休で休まれても補充が出来ません。何故なら戻ってきても、補充した人を辞めさせるわけにはいきませんので、だからといって余剰人数を抱えるほど力はないものですから、私の会社では子連れで出勤してもらっています。私自身も子供を育てた事があるので、何となく解るのです、その時期に親の側にいたいのだろうなという事、だからみんなで協力すれば、そこはなんとか乗り切れるし、人を入れなくても、私は、ともかくクリア出来るなという事がありまして、今このような事をしています。 何年か仕事をし、子供達も大きくなって、少しアルバイト賃が貯まって来ました。私は節約家ですから、あまり浪費はしない方ですので、そのお金を貯めました。それで、このお金を何か自分ために使ってみてもいいのではないのかと、ふと思ったのです。一歩踏み出してみました。実は、私は人前で話すのがまったく苦手で、非常に上がり症の上、失神しそうになるのです。それで、このお金でスピーチの勉強をしてみようかなと思いまして、アナウンスアカデミーに入りました。一生懸命に勉強しました。楽しかったです。人間って自信がつくと、試したくなるものですね、どこかでやってみたいなと知らず知らずのうちにアンテナを張っているのです。なにか発信しているのです。そうした時に、当時は地方におりましたので、選挙のウグイス嬢として乗ってくれないかと誘いがありました。習った発声でやるものですから、自分としても手応えがありました。次に地方の結婚式場でスカウトされました。「結婚式の司会をやりませんか」とやった事はまったくないですし、まして早く結婚したんですが、友人達もまだ結婚はしていませんでしたから、そんな場面にも出席した事もありません。それで一度見学させて下さいと言って、テープレコーダーを持って、二人ぐらいの司会者さんのやっているところを録音させて頂き、家に戻ってから一所懸命自分なりに原稿を作って、自分なりの表現でシナリオといいますか、流れを作りました。それを何百回となく練習しました。別にオファーが来てるわけでもないのに。自分が次に立てるわけでも全くないのに練習しました。そうしましたら、次のチャンスがやって来ました。結婚式の前日に司会者さんが倒れたという事になりまして、穴があいたと、結婚式場から急遽「どうだい、やってみるかい」と話が来て、その時は震えましたが、やりました。その当時はコーラス隊みたいなロングスカートが流行っていまして、足はかくかく、ガタガタ自分で震えているんです、でもロングスカートで隠れているからちょっとわかりません、かた、かたと震えながら穴埋めをやりました。私の姑がよく言っているのですが、「泥棒を捕まえてから縄をなうような事をしてはいかん、泥棒が逃げちゃうよ」常に前倒しで準備していて、チャンスがきたらすぐ逃さず掴みなさい」という事を言っているのだ思いますが、これは今でも私の教訓です。その後司会の方も、２，０００ 組はやったと思います。本当にたくさんの結婚式を司会させて頂ました。たくさんの幸せな場面にふれ合って、わたしもとっても楽しい心地になる、いい仕事だったと思います。ところが、だんだんベテランになってきて、慣れてくると、エンドユーザーはお客様なのですが、私達にとってのお客様は、ホテルとか結婚式場なんです。ある日、そこの担当者から「大石さんのところ、若い人いないの、ちょっと若い人をいれてよ。」私も含めて勉強したいという何人かスタッフもいましたので、その人達も一緒になって高齢化になりますよね、こ

					れにはちょっと考えさせられました。私にも言いたいのだろうが、言えないんですよね、その時に自分の幕引きは、自分で決めなければならないのかと考えました。だけれどこの子達もかわいそうだなと、こんなに上手なのに、ある年齢になったらだんだん干されて、仕事がだんだん細くなっていく、まだまだこれからなのに、はいあなた年だから、これで終わりです、かわいそうだなあと思いました。だから何か夢を与えたい、次の道もあるんだよ、私が道を作らなきゃと思ったんです。それが研修という事業とか研修講師をやって、人前で話せるという技術、特技ですかね、これを生かせるような事をしようと、これが起業の動機です。ここで一応法人化しました。しかし滑走路は長いんですね、だからやはり従来の結婚式の仕事だとか、経理事務の仕事とか全部合わせながら繋いでいきました。仕事はいろんな事をしましたけれども、どんな仕事も本当に無駄な事はなくて、学ぶ事がとっても多かったです。 　今から１５年位前になりますが、ある結婚式で、結婚式に合わせて挿入曲を入れますよね、入場の曲とか、キャンドルの曲だとか、それがスタッフの若い男の子が、何時もと違ってばたばたやっているので、どうしたのと聞くと「大石さん知ってる、今日ね中国人のお嫁さんなんだよ」、「知っているさっき、聞いたけれど」、そしたら、私達、結構打ち合わせがないものですから、いきなりやるものですから、情報が２～３時間前にもらってやるので、ぶっつけの仕事をやってたものですから、数が多かったものですから、「知っているかい、僕、昨日聞いたんだ、それでねお父さんも、お母さんも、親戚も、兄弟も誰も来れないんだって、入国手続きの何かの関係で来れなかったんだと、お嫁さんたったひとりなんだって、在日中国人の人がお見合いをさせて、農家に紹介して、お嫁さんになったんだって、日本のお嫁さんになるという事で、日本の花嫁衣装を着て、たった一人なんだって、ところが日本語はわからないんだってさ、僕それを聞いて、すごく可哀相になって、昨日の夜テープ買ってきた、そのころヒット曲には、全部中国バージョンがあったんですね、彼はそれを選んで来て、歌詞をみても、全部中国語なので、意味がわからなくて控え室にいる在日中国人のところに行って、この文章の内容で結婚式にふさわしいかどうかをひとつ、ひとつ目を通して、チェックして貰いました。その事でばたばたと、走り回っていたんです」それでいざ新郎新婦が入場してきました時に、今のヒット曲が中国語できれいに、流れて入ってきました。なんとも感動しました。それでお嫁さんの不安そうな顔が、一変にファーッと表情が明るくなったんですね、安心したという顔でした。不安がスーっと抜けたという顔をしていました。会場の雰囲気もとってもいいもので、来賓の方の挨拶も興奮してしまって、地域を束ねているえらい方が挨拶して〇〇さんもう日本に来て、お嫁さんになったからには、私達みんな地域一同で、あなたの事を守りますと言うつもりが興奮してしまって、あなたの事をわたしが守りますと言ってしまつたのです。その位伝わったと感じました。言葉ではなかった。みんなが思った気持ちがこれに伝わったなあ。いい結婚式でした。実は、担当したこの若者もアルバイトだったのです。与えられた仕事をこの通りやって下さいよと、すれば済む事です。何にも苦労する事はないです。それをあえて、自分で考えて、やっぱり喜んで貰いたいとか、安心して貰いたいとか、満足して貰いたいとか、そんな気持ちで動いてやったんだろうと思います。そこの結婚式場は、アルバイトでも一人一人に結構、責任と権限を与えているので、多少テープを買う位の予算は、後で請求すれば、貰えるんだそうで、それで与えていた。やっぱり、そこの結婚式場自体がみんな、全体が一つの方向を向いて動いていた。目的意識がみんな一緒だったから、目指すところは一つですね、結局、いいものという事でそれになったんだろうと思います。その結婚式場は、お客様の希望は、叶えるだけ、叶えるんです、大体叶えない事はない。やれる事はやってあげようというところなんです。ですから、一組、一組が全部違うのです、パターンが、だからスタッフも、私達外注も、緊張感あふれているのです、毎回緊張しなかったらやれないくらい息がぬけない。人間というものは、安きに流れて楽な方向がいいに決まっているんですけれども、でもそういう緊張の中で、やり遂げた時は、充実感てあるんですね。やり甲斐、喜びも、やったぞと言う喜びも感じられるいいものでした。 　１２月の１０日位になりますと、私は何時も思い出します結婚式があります、式場がすごく込んでいました一本目、２本目を担当してまして、一時間ごとに、どんどんいって、切り返しがあるのですね、一本目も終盤になってきた時に、２本目の担当者がぱあっと入って来ました、「大石さあーん」泣いているんですね」、「どうしたの」と聞くと、「２本目の新郎が、死んじゃったの」、「えーっ」、これ新聞に載っていましたけれども、随分前の事ですが、新郎が結婚式場へ来る時に、ワイシャツか何かを買おうとして、お店に寄ったんですね、今この時期、道路が滑るでしょ即死でした。ワァワァ泣いているわけですよ、「どうしょう」と思った時に、スタッフも結構若かったものですから、取り敢えず金屏風を外しましょう、テーブルのお花全部さげましょう、キラキラしたものは、一回さげてというふうにして、受付では、受付したのですが、お金は取らなかったんです。一部は友人の中には、この事を知っている人がいまして、この話が広まって泣いている人もいました。取り敢えず全員テーブルに付いて頂きました。そして新郎のご両親は、現場に走ったものですから、新婦のご両親が、事情を説明するので、司会をして下さいと言われたのですが、全然声にならないのですよ。今声を出したら、嗚咽になりそうでした、泣き、泣き地声で、その事を言って、ご両親から説明を受けたんです。誰も帰らないのです、シーンして、友人達のテーブルでは、泣きじゃくっていますし、困ったなあと思いながらも、私も泣きながら「今日は、こういう結婚式をする積もりだったんですよとか、クリスマスが近いからスタッフが、

					全員サンタクロースの格好をするように用意をしていたんですよ、プレゼントも用意して、くじ引き大会もあって、きっとやったら盛りだくさん楽しかったであろう、結婚式どんなに楽しみだったか話しをしました。そういうふうに進めようと思っていました。残念だったと話をしました。それでもみんな帰らないので、困ったなあと思っていたら、入り口の方からお嫁さんが、白いドレスを着て、友達に抱えられ、泣きながら入ってきました。「ああどうして来たのだろう」と思って、ご両親の側まで行ったんですね、そうしたら、お嫁さんは、どうもお腹に赤ちゃんがいたようなのですね、そして入って来たのです。 お父さんが「娘は、今こうして花嫁姿をしてる、これで最後かもしれない、明日は喪服になります。皆さんこれからも、どうぞ応援してあげて下さい。」と最後の挨拶でした。会場は、みんな涙、涙で本当に今でも、忘れられない結婚式でした。 　今思う事は、この外注の私の提案に、みんな同じ方向を向いていましたから、一斉に動いてくれたからです、こうやろう、ああやろうと、そうだね、そうだねと目的意識がみんな一緒だったから、コミュニケーションが出来ていたからという事もありました。　　ですから私は、外注であろうが、アルバイトであろうが、契約社員であろうが、手を抜かないで、一所懸命仕事はすべきだろうと思います。どんな仕事でも、経験する事、体験する事が自信となって、自分の力に変えますね。と何時も思っておりました。 　その後研修講師のお仕事も、どんどん増えてきました。結婚式の現場はだんだん退く事になりました。けれどもいろんなテーマで研修させて頂きましたが、一番学習効果があがったのは、自分だったと思います。本当に勉強しますからね。新入社員研修もそうです。毎年新入社員研修をやっておりますが、研修の時にああそうだった、ああそうだったと思うんですね、だから何時もビカピカの新入社員には、「挨拶は、先手必勝ですよ、職場に行ったら、一番先に元気な声でお早うって、元気に、にこにこと言うんですよ」、でも半年も経たないうちに、誰もしなくなるんですね。ホローアップの時でも、どうしてしないのと聞きますと、先生に言われて、挨拶したのだけれども、返事返ってこないんだよ、「お早うございます。」と言っても、あまり顔も見てくれないって、そしたらだんだんしなくなるんですね、やっぱり。それで、私は言いました「挨拶は、自分ためにするもんだから、そんな挨拶もしない人と一緒になったらだめだよ」と言うのだけれども、やっぱりテンション下がりますよね。職場、風土って大事だなあって思います。そして言葉の力ってとても大きくて、人っていうのは、ちょっとした事で傷ついて、ちょっとした事で元気になったり、勇気を貰ったりします、だから人の心って、心の底から突き動かされるような言葉にぶつかった時に、やる気だとか、その気が涌いて来るのかなぁってと思うのです。私の時代は、新入社員研修なんてあまり無かったものですから、やった事はありませんでした。自分が勉強するまでは。でも今、最近の方達は、みんなよく出来ます。学校で受けて来ますので、それから面接の仕方、ばっちりマニュアルがありますので、ものの見事にやります。ちゃんと答えます。職場あれフェアーじゃないですよね、入社したらガラっと別人のようなんです、あの元気はどこに行ったの、あのはい、はいっと言っていたのは、なんだったの。あれってフェアーじゃないなと思いました。後にそれを見破る方法を、勉強会もありましたけれどもそんな風に思います。だけれども、マナーはしっかり出来ているのですが。それをどういう風に、自分の内面から引き出して使っていくかという事が大事だろうと思います。今マナーが出来ない人っていうのは、私のように昔習った事がない人とそれから縁が無い仕事をしている人とか、役職についている人とか、年齢の高い人ですね。マナーも大事なのですが、仕事は心ですね。心じゃないかと思います。心って見えないものですね、仕事の中で私が感じた事なのですが、一度、これも結婚式の時なんですが、新郎のお父さんという人が、やはり人前で話せなくて、打ち合わせの時にも全然話せなくて、息子さんが、お父さん、大丈夫かい、お父さん大丈夫かいと何回も聞いているんです。これに対してお父さんはちゃんと書いてきたから、大丈夫、大丈夫だよ、ちゃんと書いてきたから、大丈夫だよと、いよいよ結婚式の当日、ご両親のご挨拶という事で、お父さんが登壇しステージに立って背広のポケットの中からメモを取り出そうとしたのですが、無いのです。ぎりぎりまで練習していて、控え室に忘れて来たんですね。無いという事になり、ものすごいしゃべれないお父さんです。それをわかった新郎が、ふっと横を見ると、お父さんがもじ、もじやっているのです、「どうした、どうしたとつぶやいているのが聞こえるのです。忘れた。大丈夫かとやっているのです。そして、しばらく経ってから、お父さんが、大丈夫だ。」となにを言うのかと思ったら、そっとマイクの前に一段出て来ました。「皆さん，今日は、息子と嫁の為に、忙しい中を、有難うございました。次いでこちらの方を見て、有難うございました。本当に有難うございましたと、三方礼をやったのです。それだけですが。会場は拍手喝采です。あれ忘れて正解でしたね。「本日はお忙しい中、遠路はるばる」とやり始めると全然伝わらない、ありがとうという言葉を、身体で表現する、声で表現する、おじぎをした、全身、いわゆるボディランゲージですね、全身でありがとうという気持ちが伝わってきた。私達も感動して、一所懸命手をたたいたのですが、そんな、やっぱり心に響くっていうのは、言葉じゃなくて、全部眼です、眼の色、顔の色、表情、身体、態度ですね、言ってみれば声のイントネーションも入ってくるでしょう、だからそんな事を研修の時は、若い社会人に、「そういうところを、一所懸命心を込めるっていうんだよと、だから込め方が、わからなかったら、こうやったらいい、ああやったらいいと教えた事を今でも思い出します。今日のテーマは、「心に残ったこと」という事で、感じるままに話しまして、自分

					で経験をした中から、こんな事もあったなあ、でもそれもやっぱり仕事に繋がっているよな、経験っていっぱいするべきだよなあ、恥も、失敗も掻くべきだよなあと思いながら、感じるままにお話しをさせて頂きました。」 講演の終了後第２部の懇親会は舟橋副支部長（昭和４７年・商・舟橋公認会計士事務所）の乾杯の音頭で懇親会に入りました。懇親会は、終始和やかな雰囲気の中で進み、会員同士名刺交換をされたり、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶回り、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで見受けられました。しばらく歓談の後、司会者から新規入会者の紹介があり今回は、８名が入会されそれぞれ自己紹介を兼ね５分程度の自己ＰＲをお願いしました。 ・伊藤　宏二氏　（昭和５６年・理工）ＺＥＫＫＯ　ＩＮＣ. ・植田　克巳氏　（昭和５７年・法）日本中央競馬会札幌競馬場 ・千葉　崇晶氏　（平成１５年・商）千葉崇公認会計士・税理士事務所 ・寺田　昌人氏　（昭和６１年・商）寺田公認会計士事務所 ・中村　真一氏　（昭和５７年・商）（株）ライフプラザパートナーズ札幌Ｆ業部 ・西山　隆司氏　（昭和５６年・商）西山製麺（株） ・松井　宏衛氏　（昭和５５年・商）バイエル薬品（株）北海道営業所 ・宮﨑　正直氏　（平成１６年・法）廣部・八木法律事務所 本会の目的は会員同士のより一層の親睦を深めるものであり、アルコールが入った所で恒例のビンゴ大会に入りました。酔いが回ったせいか、なかなかビンゴがでませんでしたが、目玉の京王プラザホテル札幌提供の「食事券」２点は、熊谷一也氏（昭和５７年・商・カメイオート北海道（株））、佐々木教雄氏（平成３年・経済・（株）北洋銀行経営企画部経営管理課）、同じくカレースープセットは、廣川一彦氏（昭和４０年・法）、同じく「お菓子」は、井上春海氏（平成２年・経済・井上春海公認会計士・税理士事務所）、小笠原重喜氏（平成２年・経済・北海道総務部法人局法人団体課公益グループ）がそれぞれ獲得しました。 今回は、本学のマーク入り中大グッズ「中大湯のみ」、「中大マグカップ」、「ステンレス製２重マグカップ」、「テディベアセット」、「校歌 CD」、「ハンカチセット」等の景品を支部で用意し「ビンゴ」の掛け声で、会場内も一気に盛り上がりました。 懇親会の最後は、恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入りました。新規入会の８名の会員が壇上に上がり、それぞれ３番までフルコーラスで熱唱し、惜別の歌に至っては、全員輪になり、肩を組むなど誰もが過ぎ去りし青春時代へ思いを馳せている様子でした。結びは、長谷川副支部長が壇上に立ち、三三七拍子で盛会のうち和やかに終了し、散会となりました。尚、札幌市役所白門会より飲み物の寄贈がありました。
2015 年				創立 130 周年	中長期事業計画「Ｃhuo　Vision　2025」を公表。
	27	1	28	札幌市役所白門会新年会への参加	厳冬の中、平成２７年札幌市役所白門会（会長：長谷川雅英＝総務局行政部連絡調整担当部長、会員数：６８名）の新年会が、上田市長、ＯＢと現役職員合わせて３３名の出席のもと、ホテル札幌ガーデンパレス４階「真珠の間」において午後６時１５分から開催されました。当支部からは檜森支部長、西原幹事長が参加しました。 今回は、新年会に先立ち、上田文雄市長（昭和４７年・法）による「市役所白門会の後輩に向けて」と題した講話や市長への質疑応答が行われました。その後長谷川会長の開会の挨拶、檜森支部長の挨拶に続き、「ブラボー札幌」の歌に合わせ、市長による乾杯の音頭で懇親会に入りました。最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯唄い上げ、知野　学副会長（平成３年・法・市長政策室創造都市推進担当部創造都市推進担当課長）の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。恒例となっている二次会は、一次会での盛り上がりそのままに盛況のうちに終了しました。
		5	7	支部三役会議の開催	北海道経済センター３階特別談話室において、午後１２時より檜森支部長、柴田・舟橋・永井・長谷川副支部長、西原幹事長出席のもと開催致しました。 議案第１号：「平成２６年度事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長から別添資料に基づき報告了承されました。 議案第２号：「平成２７年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」幹事長から別添資料に基づき説明し本年は来る９月４日（金）に学員会主催による学員ネットワーク拡充・強化の一環として「白門ミーティング北海道・東北ブロック会議」を函館において開催する事に決まった旨報告了承されました。 議案第３号：「平成２７年度支部定時総会について」幹事長より説明、当日は大学本部より深澤武久理事長、学員会本部より久野修慈会長、小畑悟副会長を迎え下記日程により開催する旨の提案が出され出席者全員了承しました。 尚総会は下記の日程に決まりました。 ①　日　時　　平成２７年８月６日（木）１８：００～ ②　場　所　　京王プラザホテル札幌３階　「雅の間」 ③　会　費　　懇親会費６，０００円　。支部年会費２，０００円 尚、総会終了後　卓話「海外における日本食文化ついて」 講　師　西山隆司氏（西山製麺（株）代表取締役社長　昭和５６年商卒） 議案第４号「学術講演会の開催について」

					幹事長より「本件については札幌市教育委員会、札幌商工会議所、協同組合中小企業振興センターから後援、本学父母連絡会札幌支部から共催の承諾を頂きました。ついては本講演会のＰＲと参加者の動員を図るためポスター、チラシを制作し下案の要領で周知をしたい」旨報告し了承されました。 ① Ａ１のサイズのポスターを３０枚、Ａ４サイズのチラシを２０，０００制作する。 ② 札幌商工会議所・協同組合中小企業振興センターの会員向けに毎月配布している資料の中にチラシ１８，５００枚を入れ参加者を募る。 ③ 学員会札幌支部会員向けにチラシをＤＭにて送付し参加者を募る。 ④ 札幌市営地下鉄の掲示板にポスターを貼り市民向けにＰＲし参加者を募る。 北海道新聞等を中心に市民向けＰＲ版に掲載し参加者を募る。
			30	第 50 回ゴルフ大会の開催	本年度第１回のゴルフ大会（通算５０回記念大会）は五月晴れの中札幌南ゴルフクラブ駒丘コースにおいて開催されました。西山会長、檜森支部長参加のもと１２名の参加申し込みがありました。 当日は、３組と少ない人数ながら午後１２時にアウトコースをスタートしました。絶好のゴルフ日和に恵まれ楽しいゴルフ大会になりました。競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会をおこないました。 優勝は、舛田雅彦氏（昭和５４法・札幌総合法律事務所・オウト：４２　イン：４２）で、同氏はベストグロス賞も併せて獲得しました。また準優勝は、檜森聖一氏（昭和４５法・(株）北海道二十一世紀総合研究所・アウト：４４　イン：４６）が獲得しました。尚ベストグロス賞は舛田氏の他に工津輝雄氏（(株）エミック　アウト：４５　イン：３９)）も獲得しました。 今回は５０回を記念して檜森支部長から１点、西山会長から１点、高橋恭一氏から５点、出戸一成氏（昭和３５経済・マックスバリュ北海道（株)）相談役）から１点、西原幹事長から１点、田代信一氏（昭和５６文・(株）京王プラザホテル札幌・リスク管理担当支配人）から３点の寄贈がありました。尚景品は大会の副賞として、優勝者を始め大波賞、小波賞、平和賞、飛賞等参加者全員に当たるよう利用させて頂きました。 懇親会は終始和やかな雰囲気で進み、最後に事務局から次回７月１８日（土）のゴルフ大会、７月２３日（木）開催の「中大学術講演会」、８月６日（木）の「札幌支部定時総会」への参加要請を願い和気あいあいのうちに散会しました。
		6	20	中央大学父母連絡会札幌支部総会並びに父母懇談会へ出席	ホテルロイトン札幌において開催の「父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会」へ西原幹事長が出席されました。 当日は在校生の父母１５０名程が参加されました。午後１２時３０分より総会の議事に入り、熊坂和也（昭和５９理工・(株）ビームオン代表取締役）支部長の挨拶に続き「２０１４年度事業報告・決算報告」、「２０１５年度事業計画案・予算案・役員改選」が審議されました。 その結果、新支部長に山下裕司氏、副支部長に百井元幸・小沢知文の両氏、他新役員が選任されました。 引き続き午後１時１０分より「父母懇談会/進路・就職懇談会」が開催され、理工学部部教授の樫山和雄氏からは「大学の近況について」、経済学部事務室課長の池上京子氏から「学業・学生生活について」、キャリアセンターキャリア支援課長の池田浩二課長から「最新の進路・就職事情にについて」お話がありました。次いで企業担当者・卒業生等による就職アドバイスに深瀬聡氏（昭和５８商・）終了後は希望者に対し個人相談会、懇親パーティー（希望者）も開催され父母の交流が深まりました。
		7	18	第 51 回ゴルフ大会の開催	ゴールド札幌カントリークラブにおいて午前７時１５分集合。台風１１号の余波を受け生憎の曇天の中、西山会長以下１９名の参加のもと注意事項の説明の後７時１５分にアウトコースをスタートしました。途中から霧雨になりましたがインに入って雨も上がりゴルフ日よりになりました。 競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は西山会長（昭和４１商・西山製麺（株）アウト４３　イン４７)、準優勝は村上一元氏（昭和３９文・(株）五英商事（株）　アウト４５　イン３９)、ベストグロス賞は工津輝雄氏（昭和３９商・(株）エミック　アウト３８　イン４１）が獲得し、会長から優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与しました。　今回初参加の若田正己氏からは「楽しいゴルフ大会で同門の皆さんと回る事が出来ました。次回も是非参加したい。」 次回は９月１２日（土）札幌リージェントゴルフ倶楽部トムソンコースにおいて開催する旨会長から参加を呼びかけ、和気あいあいの内に散会しました。今回副賞の景品の寄贈者は下記の通りです。 ・工津輝雄氏（(株）エミック）　優勝、準優勝２点 ・出戸一成氏（昭和３５経済・マックスバリュ北海道（株)）１点 ・檜森聖一支部長（昭和４５法・(株）北海道二十一世紀総合研究所）１点 ・西原幹事長（昭和３９商・(株）メディアプラン）２点 ・西山眞吾会長（昭和４１商・西山製麺（株)）５点 ・柴田龍氏（昭和５６理工・(株）北洋銀行）１点 ・奥村徹氏（平成５経済・日清製粉（株）札幌営業部）２点 ・田代信一氏（昭和５６文・(株）京王プラザホテル札幌）３点 ・植田克巳氏（昭和５７法・日本中央競馬会札幌競馬場）２０点

		7	23	学術講演会の開催	本学主催、学員会札幌支部･父母連絡会札幌支部共催、札幌市教育委員会･札幌商工会議所･(協)中小企業振興センター後援による学術講演会が北海道経済センター８階Ａホールにおいて午後２時から開催されました。 講師に佐々木信夫氏（学校法人中央大学経済学部教授）を迎え「人口減少時代の地方創生－もう１つの視点－」と題した講演に札幌市民、商工業者，学員、父母連絡会会員、音更町・当別町・石狩市・北広島市等地方自治体の職員も参加され１００名近くが熱心に聴講されました。 講演に先立ち舟橋健市学員会札幌支部副会長の開会の続き講演に入りました。 「ご紹介を頂きました佐々木信夫でございます。 北海道は久しぶりでございまして、3 年くらい前に全市町村長 179 名の方々とご一緒に、どこかの大きいホールで講演会をしたことがございますが、高橋はるみ知事もその時お見えでございました。 「北海道制と言う道制は無くなったのではないでしょうか？」 知事さんを驚かしておきまして、本人は大変慌てておりました。 言っている意味が全く分からないかもしれませんが、都道府県という制度の道と言うのはいったい何でしょうかと？ 北海道の場合は北海都とか北海県とか北海府と言う歴史がございませんので、それは函館県とか根室県という時代はありましたけれども、北海道と違って地名で定着をしている、ただ日本で都道府県と呼んでいる意味では道は一つしかございませんけど。 それと今日、最後に若干、地方創生の関連で申し上げると、今政府が進めている地方創生は、一つの伝統的な自由民主党型の地方創生のやり方、25 年前の竹下内閣の「ふるさと創生１億円」、遥かに今やっているよりもあの方が優れていたかなと思いますが、自ら考え自ら行う事業で市町村の規模に関係なく、1 億円ずつ資金を配って考えて頂くと、まあこういうことが 25 年前に行われ、小渕政権、小渕内閣においてはそれらしいことがまた、「プレミア振興券」という形で今発売が始まっておりますが、「地域振興券」というものが、15 年前に小渕政権で行われた。 半年間で年配の方、子供達は 2 万円、そうでない方は 1 万円という範囲で、地域でお金を使うようにと、こういうことが行われて。 6 年前からは「ふるさと納税」、これ北海道は大変熱心でして、私も総務省の研究機関でもありますが、地方自治研究機構というところで、昨年は、「ふるさと納税」というものは日本でどれだけ行われ、何処にお金がどう動いているかっていう研究会を 1 年間やりまして、概ね 145 億円程度であります。 個別のところは、1 億円確保したとか、経費が 3 分の 1 かかったとか色々個別の数字はございますが、日本で「ふるさと納税」で、この 6 年間で平均をしますと 145 億円程度のお金が動いています。 程度のお金が、と言うと何かたいしたことの無い話をしているように聞こえるかもしれませんが、たいしたことがあるのか、たいしたことがないのか、少なくとも地方創生という一つの戦略の中で語られるほどの事では実はない、という風に申し上げざるをえないのですが、この「ふるさと納税」の制度が今度、更に 2 倍に拡大をすると言うことが、現在の安倍政権で始まったと、ふるさと納税は住民税の 2 割までは「ふるさと」と思えるところか、或いは「好きなところ」に納税出来る。 概ねこれで 300 億円くらいのお金は動くと、概ね大都市圏から、北海道、沖縄を含めて地方都市圏に金が動いていくという意味では、自主的な一つの納税行為でありますので、それはそれで一つの面白い仕掛けでありますが、こういう伝統的ないわゆる「ふるさと創生地域振興券」、「ふるさと納税」、さらに「プレミアム振興券」、「優待券」のようなもの、こういうもので日本の本当に地方創生と言うことが、特に人口減少という日本の 20 世紀以前には経験したことのない動きが始まっておりますので、その程度の話で良いのかどうかと言うことを、もう一つの視点と言うところで申し上げて実はみたいと思います。 それで、じつは唐突に北海道というものは無くなったのですか？と言う話を申し上げて、それを解説しないと物事は始まらないと思いますので申し上げますと、北海道という制度は戦後出来たある意味行政制度でありまして、北海道内の 14 の支庁、支庁というのは首長ではなくて、支庁制度まあ北海道庁のある意味ブロック出先機関の様な形で、支庁制度を置いている制度を道という制度でまあ呼んでいる。 少しホットな話題で申し上げると、大阪が都になろうとした。 住民が止めたと言うのが、5 月 17 日の住民投票でございましたが、橋下徹氏らとこの 3 年間私も一緒に、一所懸命大阪に迎えられました、住民の方々にもタウンミーティングと称する 500 人規模の説明会を街頭も含めて何度もやりました。 関西のテレビでもラジオでも色々お話を申し上げました。 この顛末はこれからちょっと話題として申し上げるとして、都と言うのは、北海道が道は北海道しかないのと同じように、東京都しかしかないわけでありますね、あと京都府と大阪府という２府があるわけで、それ以外は 43 県であります。 これって何でしょうか？と言うことを少しだけ考えてみたい訳ですが、都というものについては、いわゆる普通の府県で有りますが、府県の仕事に市町村が行っている広域の行政を府県に移

					して、水道、下水道、交通或いは港湾という、まずはこういう話でありますが、でそれを移してある意味府県が広域政策の中心である、普通の県でそれは当たり前の話でありますが、大都市を抱えたところで実は東京都はそれを広域行政として県に当たる区がやっている。 ただそれだけではありませんで、今度は内部の昭和 18 年まで東京市であったところでありますが、東京市を東京都と合体して実は特別な自治体を作っている、特別区と呼んでいますのが、23 の特別区になっている。 実は戦前は特別区ではありませんが、東京は 35 区、もっと古くは明治 22 年から日本の市制町村制が始まり、明治 23 年から府県制度も始まりますが、東京は、内部は 15 と言う札幌で言いますと行政区に近いものがあった。 それを昭和 4 年に杉並、世田谷等当時の郡部で有りますが、5 郡 62 町村、東京のコアになる小さい東京市の 15 区時代から昭和 4 年に拡大をして、世界と戦える東京を作るのだと言って人口を広げてですね、それで 20 区に実は 62 町村を 20 区にして旧 15 区と合わせまして東京は一旦 35 区になっております。それが昭和 4 年から昭和 22 年戦後まで続いた体制でありましたけれども、それを昭和 22 年にほぼ半分に、例えば大森区と蒲田区を一緒にして大田区とかですね、あまりセンスの良い付け方ではないと思うのですが、大体二つの区を一緒にして公選の市長が居る、公選の議会を持つ限りなく市に近い、しかし市とは違う特別区という制度を取っていると。 実はこの特別区という制度を県の中に置いているところを都と呼ぶと、これは昭和 22 年以降ずっと東京しか有りませんで、全く想定をしていなかったわけですが、3 年前に実は日本で、札幌も実は北海道が区になろうとすれば出来るのですが、その可能な制度を国会は議員立法で大都市地域特別設置法という法律を 3 年前に議員立法で可決をして、それを受けて実は大阪府は大阪都になろうとしたと言うことであります。 逆に申し上げますと、大阪都を作るために実は国会で大都市地域特別設置法を議員立法で可決をしたと言うのが正確な言い方でありますが、ただそれは大阪のためだけの法律を国会が作るというわけにも行きませんので、実は日本で 8 地域、札幌とか仙台とか広島とか概ね単独でも良いのですが、今単独で 200 万以上の市というのは、横浜と名古屋と大阪だけでありまして、ただ法律は 200 万以上になるように隣接の区域と合併をした場合はその区域に特別区を設置できると、ただそれは市の中に特別区を作るわけではなくて、市を廃止して市に変わって特別区を作ると。 こういう制度が他でも使えるようにしたと、これはいったい何を意味するのかと、大阪の特殊事情も有りますけれども、880 万という大阪府の中に 270 万の大阪市という中心部に今伝統的に明治 22 年から横浜、名古屋、京都、大阪、神戸そして東京と 6 大市が存在してきたのも日本ですけれども、そのまあ東京市は昭和 18 年に東京府と合体をして消えておりますが、70 年遅れて大阪市を廃止して 5 つの特別区と、それから 880 万全体を大阪府に変えて大阪都にしようと、そのことによって衰退著しい関西の経済の再生を図ろうと、そのコアになる特に大阪の活性化を図ろうと言う戦略の基に行政の仕組みを変えようとしたのが大阪都構想でありまして、98%まで到達したところで法律に書いてある通り住民投票によって最終的に結論を出すと。 これは多分順調に行けば、順調かどうかは分かりませんけれども、憲法改正に関わる国民投票というものは、少なくとも安倍政権は想定をしておりますね、まあそれの一つの地域版としての実験でもあったと、いう風に見ている人達は居るわけで、最終的に 69 万票対 70 万票、答えが反対であれば大阪都構想が実現したわけでありますが、70 万票が反対票で 69 万票が賛成票であった。 たった 1 万票ではありますけれども、それによって 5 年間積み上げてきた大阪都構想、大阪市を廃止して特別区にし、更に大阪府を大阪都に変える、従って日本は東京都と大阪とが並び称する形で 2 局構造を作っていこうと言うことはストップした、終わったとは申し上げませんがストップした。 今年もまもなくでありますが 11 月の 22 日に大阪府知事選挙と大阪市長選挙のダブル選挙が想定されています、決まっています。 ここが大阪の乱の最後の戦いの場になるでしょう、多分。 橋下さんはもう出ないと言っていますので、来月 8 月 6 日に個人的に大阪にお伺いをして、夕食をともにすることなになっていますが、これからいったいどういう風におやりになるのか聞きますけど、今のところ本人は政界からは引退をする。 多分嘘だろうと思いますが、そういう気分で有ったと、5 月 17 日テレビでご覧になった方はまさに名記者会見であったと見たかもしれませんが、「こういう形で政治家を辞めるのは政治家冥利に尽きる」と意味不明な事を言ったと思いますが、多分ものすごく疲れたはずなのですね。顔には出ていませんでしたけれども、私は特別顧問を 3 年間ですけれども、5 年間の彼らの設計の動きを見ますと、特に大阪市議会、大阪府議会これがなかなか過半数を支持する勢力を持っていないものですから、水道、下水道、交通、府立大学、市立大学統合、さらに大阪市の港湾局、府の港湾局、こういうものの合体を条令案として 5 度提案していますけど全部否決でありますね。 それを認めますと、一気に今度はこの都構想の骨格である特別区制度、大阪市廃止に一気に政治勢力が流れていくと言うことから、どうも地元の議会はそれを止めるという政治闘争しか実はやっていなかった。 お話はちょっとずれたかもしれませんが、その話はその話でたくさんございますけれども、少

					なくとも都という制度は内部に特別区という独特の制度を持っている、これは公選の区長公選の議会はあるけれども、たとえば札幌市はちょっと大きいので、これは政令指定都市で特殊でありますが、普通の北海道の場合 35 市が有りますが、札幌を除く 34 市、或いは中核市になっている函館市を除いても、33 市ございますけれども、一般の市よりも若干特殊性があるとしますと、広域的な行政については、もちろんそれは都がやっているわけですが、固定資産税、今市町村の財源というのはごく単純化して居るわけです。 民間でお仕事をなさっている方が半数以上今日お見えですので申し上げますと、単純に二つしかないですね財源というのは、市民の方々が納めてくれる住民税、もう一つは資産に課税をしている固定資産税この二つしかない。 それでは都道府県の場合は実は単純に言えば 3 つしかない、大きく言えば 2 つなのですが、いわゆる県民税、ここで言いますと道民税、みなさんの個人の所得に課税をしている道民税、県のレベルの住民税ともう一つは、法人事業税、法人住民税という法人 2 税、つまり法人の方々の所得に課税をしている利益に課税をしている、この 2 つしか都道府県の場合に財源はない。 国の場合はご承知の通りですね、基幹 5 税といったら所得税、法人税、消費税、さらに酒税、たばこ税、これから多分金がなくなってきていますので、消費税の値上げも 10%の先も色々シナリオはありますけれども、そう簡単に選挙を通じて国民は認めるとは思いませんので、多分一番これから上がっていくのは相続税、相続税は国税になっている訳であります。 相続税を毎年納めるという方はおられないわけでありますが、しかし全体で言いますと、相続税も主要基幹 5 税に加えて基幹 6 税になってしまう可能性がある、ですから相続税対策は早めにおやりになった方が良い。 面白い話があるんですよ、マイナンバー制度っていうのが始まりますね、あれは何のためにやっているか？いろいろ行政上は便利になるとか言っていますが、単純に言えば、「十五三一（とうごうさんぴん）」と言われた、いわゆる一般のサラリーマンの方は 10 割所得を捕捉されていますが、パチンコ、病院、更に農業、10 割捕捉されているところもあれば、5 割しか所得が捕捉されていないところもあれば、3 割しか所得が実際は捕捉されていないところもあれば、1 割しか捕捉されていないところもある。 これを限りなく 10 割捕捉しようと、それによってある意味法律に基づけばそれは当たり前なのですが、課税を強化しようと言う、こういう狙いが大きい背後にございます。 それは別に税の公平な負担と言う意味では今一番サラリーマンの方が、1940 年の戦時体制に始まった、日本の典型的な中央集権大成の一つは、皆さん当たり前のように思っておられますが、源泉徴収制度、これは戦費を確実に確保するために、会社のレベルで働いている会社の給与係に税務署の仕事を実はお願いして、給与を払った段階で税金を計算して税務署に納めて頂くという、世界に冠たる源泉徴収制度が出来たわけでありますね。 それ以来ずっとサラリーマンの方々は 10 割ほぼ捕捉されているわけですが、実際に確定申告なり、青色申告なりをする事業主の方は必ずしもそうなっていないわけで、仕事によっては色々、業種によっては色々と、これを相当程度正確に把握していくと言う、それだけの目的ではもちろんありませんけれども、マイナンバー制度が始まりますね。 税対策について面白い話をしている人が居ましてですね、今日税務署の方が居ないでしょうからあえて申し上げると、新聞・テレビも居ないとして、申し上げるとですね。 一千万円ずつ札束を、皆さんお金持ちですからいくらでもあると思いますが、真空パックにして頂いて、銀行でもやってくれるのだそうです。 真空パックに入れて仮に 5 千万なら、5 つの束を真空パックでお持ち帰りになって、それでタンス貯金でもなく、もちろん銀行預金にしますと全部それは把握されますので、庭に埋めると、なんだそうです。 やっていますよ、やっていますよと言ってもこれが一般に広まっていきますと、多分それを狙ってくる。 昔聞きますと、密造、お酒ですよね、お酒は非常に貴重であった頃、お酒は個人で造ってはもちろん今でもいけませんけれども、酒樽は竹藪の中に密造したものを埋めておくと、言うことをやった時代があったようですね。 税務署が調べに来るので、掘っても分からないのは竹藪だと、というのは根が非常に良く張っていますので、そう簡単に見つからないと、ここほれワンワンみたいな話ですが、なかなかこれからですね、この税なり個人の資産に対する課税の問題というのが、厳しい状況になっていきそうであります。 何のお話からずれたかと言えば、実は国税の主要 5 税プラス相続税、都道府県の場合は、いわゆる道民税と法人の事業税と法人住民税、とりわけ法人事業税、市町村の場合は市民税と固定資産税、特別区制度から話がずれていきますので、特別区制度とは東京 23 区で使っていますけれども、この固定資産税をここで言いますと府県の財源にするわけであります。 府県が全部使うわけではなくて、いわゆる水道、下水道、消防等広域行政と言われる部分を都がやっていますので、45%を都がその財源として固定資産税の中から頂いて、55%を 23 区に還元すると、ただ還元するだけではなくて、この貧乏な区と豊かな区と言うのが、それは札幌の中でも行政区ですけれどもあると思うのですね。

					貧乏なところに手厚く、豊かなところにはお金が行かないようにして、いわゆる例えば東京ですと 850 万の旧東京市区域に住んで居る人達は、負担は色々だけども経済力は地域によって違うけれども、受けられるサービスは同じであることが望ましい。 従ってサービスは統一か共通に受けられる様に財源調整するという度に、特財源調整制度と言っておりますけれどもその制度として 55%使っていると、大阪もこれをやろうとしたのですね。 もう一つ府と言う制度はなんでしょうか。 明治 23 年に日本の 47 府県制度が始まった時府は 3 つ何ですね、東京府と京都府と大阪府であります。 昭和 18 年に東京府と東京市が合体して東京府はなくなって東京都になったと。 ただ府と県は何の違いも無いです。 ただなぜ明治 23 年に府と呼んだかと言うと、政治的に重要な都市を抱えているところは府と呼ぶと、ですから東京市と，京都市と大阪市、当時で言いますとこれは都政治的に重要な都市であるとの認識を基に 3 府 44 県大成が始まり、戦後北海道は道になり、1 道 1 都 2 府 43 県制度になった。 冒頭に北海道は無くなりましたねと申し上げたものはですね、実は数年前に道庁の方が居られればご存知でしょうけれども、14 の支庁、支庁といういわゆる道庁の総合出先機関について、地域振興局という風に名前を変えているのですね。 これは高橋はるみさんにパーティーの席で申し上げたら、「私は法律違反をしたかしら？」と言ったのです、「その通りですよ」と言ったのです、「それは大変な事をしたのではないですか？」言ったのです、半分冗談ですけれども。 しかしそれはやっぱり北海道道庁の職員も優秀な方が居られる訳でありまして、いわゆる北海道の条令で、支庁を地域振興局に変える、従って読み替えるだけの話でありまして、事実上支庁という制度は形の上では残っているのですね。 そうでなければ北海県と言わないと多分辻褄が合わなくなっているはずでありますが、そうでないです。 そこで話を進めます。 せっかく皆様の手元にレジメを用意しましたので、実は第 31 次地方制度調査会これはまあ行政関係者しか重要な機関だと思って頂けないかもしれませんが、2 年単位で総理の諮問機関ですけれども、地方制度を変える時に 30 名の大きい調査会でありますけれどもそこで一旦、諮問に対して答申を作って、通常国会で中央次地方を改正すると、こういうことを繰り返してきているわけであります。 たとえば平成の大合併については、北海道 179 市町村はほとんど変化しなかったですね。 それは、北海道は面積も広いし北海道の判断でそうなさったのでしょう。 ただあの種の例えば平成の大合併を進める、そこに財政支援を付ける、或いは合併した当初は議員の任期は延長できる、まあこの種のいわゆる制度設計は基本的にその地方制度調査会の中で議論した上でそれで法改正をするというこれを繰り返して来ている訳であります。 今回テーマになっているのは、「人口減少時代の地方行政体制のあり方」なんです。これは大きいテーマですよ。 日本の人口というのはご承知の通り、レジメの途中から出て参りますけれども、短期的な人口予測は、短期的というか最近の昨年 5 月以来話題になっている人口予測は 3 つ位有るのですよね、一つは増田リストと言われる増田寛也さん達が日本創成会議という一応民間の団体でありますが、装いは民間の団体でありますが、それを受けて政府は色々な対策を考えると言う意味では、上手く使っている感じがしますけれども、この 2040 年には日本の 1718 市町村、正しプラス一部政令市の人口が減る区が入っていますけれども、1800 弱の市区町村の半数が消滅可能性のある自治体であると、これを増田リストと言ったわけですね。 2040 年というのは 25 年後ですから、25 年後に日本の市町村の半分が消えると読んだ方が居るわけで、消滅可能性都市と言うのは正確に言うと、その 2040 年に現在よりも人口が半分以下になるところ、もちろん 0 になるところもあるのですよ、予測としては、0 になるところは、予測の中では 1 万人よりも人口が少ないところの減り方が大変大きいので、0 になるところも無いわけではありませんけれども、実際は半数以下になるところが消滅可能性都市、それが日本の市町村全体の半分を占める、とりわけ 1 万人未満の人口規模の小さいところほど減り方が大きいと、こういう予測が出たのが一つございますね。 それ以外に国土交通省、総務省等々から、そこまでは過激ではないけども予測が出ている。 概ね人口は 8 千万人位になるであろうと、2100 年 85 年後 8000 万人位になるだろうと、政府としては 1 億人で止めると。 今日は政治家の方が居られたかどうかですね、私も政治学をやっている一人でありますが、政治家の本能というものを見ますと、闘争心、権力欲があるとか色々と属性としては上げることが出来ますけれども、一つは人口が減ることについては、非常に拒否的な反応をするという性質を持った動物であります。敢えて申し上げれば。 政治的動物の特徴として、そこで日本でどういう現象が起こるかと言えば、人口減少が始まったのが 2008 年なのですよ、何も去年から騒ぐ必要は無い、2008 年から始まっている。

					なぜ去年から騒ぎはじめたかと言うことを敢えて申し上げれば、これは先般参議院の国の統治機構に関する調査会に参考人として呼ばれて、兵庫県の知事と私 2 人呼ばれまして、参議院の 30 名の議員の方々と 3 時間議論をする時間がございました。 来週の水曜日は民主党に呼ばれておりましてですね、民主党はここの出身の逢坂さんとかいう方々がやっているようですけれども、それは最近の地方自治法改正すべきものは何か？と言うことを話せっていうことのようなのですが、その統治機構に関する調査会で議論になって、ここだけの話ですが、と言って多分議事録から外れた部分で、何でこの急に人口減少を問題にするようになったのですか？と、もう一つ地方創生、地方創生と安部さんが言っていますけれども地方創生というのは、日本は昔からやっているわけで、それは地方再生と言ったかも知らんし、地域再生と言ったかも知らんし、ふるさと創成と言ったかも知らんけれども、それは言葉の一つのマジックであってですね、何とかこの東京一極集中とか 3 大都市圏に過収集すること、あるいは北海道で言えば札幌一極集中状況にならないように、なるべく人口が分散するようにと言うことをずうっと田中列島改造の頃からやってきたでしょう？ それをあえてなぜ地方創生とおっしゃるんですか？と聞いたのです。 そしたら「安部のミクスの一環だ」と、こういう答えが自民党の議員さんから、相当ポストの高い大臣を年々も経験した方がそうおっしゃったのですね。 そして何ですかと言ったら大胆な金融緩和、今やっていますよね、公定歩合政策はとれませんので 0 金利で日銀は民間にお金を貸しても 0 金利で貸すしかない状況でこれは利かない、そこで今何をやっていると言えば、年間 80 兆から 100 兆円、日銀がまあ多分日銀の育ちの人から見れば禁じ手をやっている訳で、国債を買っている訳でありますね。 皆さん個人で国債をお持ちの方も居るでしょうけれども、多くは実は日本は銀行が国債を買っている訳です。 皆さんが三菱 UFJ 何とか銀行に預けたお金が、個人で国債を買わなくても北海道の三菱 UFJ が政府の発行している国債を買っている。 これを実は日銀が買い始めて、日銀が買うって事は通貨を発行するところが買っていますので、この 80 兆から 100 兆円の規模でお札が余計に出回っているわけですね。 でありますので狙いは物価を 2 %程度上げて、それが上手く回り回って企業の収益にも繋がって、もっと言えば回り回って賃金の値上げにも繋がって、それで企業が元気になって人々の生活が豊かになっていけば良いってのが、安部さんの描いている安部のミクスでありますすね。 金融ともう一つは財政出動、もうこれは何度も繰り返してきた、日本の場合ですね。ちなみに、後で申し上げますが、1991 年の日本のバブル経済が崩壊して以後、バブル経済って言うのは 1985 年から 91 年ですから、91 年の日本の国債発行残高は 300 兆円なのです。 300 兆円、で当時も GDP500 兆円経済ですから、皆さんの資料には 95 年からのデータを載っけてございますが、ほとんど日本の経済はここ 20 年間、15 年間データは掲げておりましたけれども、500 兆円経済はそのままなんですけれども、世界の中でどういう風に相対的地位が下がってきたかをご覧頂くためのデータですけれども、そこに出てこないものとして、国債発行残高は 300 兆円しかない。 つまり記憶にあるでしょうけれども例えば国鉄、北海道の国鉄が JR 北海道になった、いわゆる国鉄の解体、それから少し遅れましたけれども、電電公社の解体、ＮＴＴですね、更にたばこ専売、塩専売、アルコール専売、いわゆる 3 公社を民営化した。 それが昭和 56 年から 58 年まで続いた、あの目刺しを食べながらと言った、土光敏夫さんを中心とする土光臨調という第 2 次臨時行政調査会の答申に基づいて、増税無き財政再建をやるという目標の下に、まず 3 公社の民営化を図った、もう一つは強い地方行政改革をやった。 その後実はバブル経済を起こして、内需を拡大すると言うことを中曽根政権がやるわけですが、今よりももっと大胆ですよ、ですから泡の経済を起こすために、そういう狙いであったわけではもちろんないんですけれども、1985 年、1990 年がバブル経済のピークだとして、その頃何が言われたかと言えばですね、ものすごく日本列島全体の地価が値上がりをするわけですが、日本列島の総地価でアメリカ大陸が買えると、長谷川徳之輔とかまだ生きておられると思いますが、よくぞ言ったと思いますけれども建設経済研究所専務理事、その後明海大学不動産学部長、ぴったりの学部を作ったと思うのですが、そのそういういわゆる土地の値段がものすごく急騰して、大都市から上がり政令指定都市に波及をし、更に県庁所在地の土地の値段が上がり、最後、夕張もそれで被害を受けていますけれども、リゾート、リゾート法を定めてリゾート地域に投資をすると言う風にお金が動いていくわけですね。 その投資先を失って 6 年で日本のバブル経済は崩壊をしているわけです。 しかしその 91 年崩壊をした 91 年段階で日本の国債発行残高、累積債務残高は 300 兆円になります。 500 兆円経済の中で 300 兆円の借金、これはヨーロッパに行きますと健全な財政の国と、ヨーロッパのＥＵに加盟出来る条件を定めた、マーストリヒト条約に書いてある、健全な財政の国しかＥＵに入れない、まあ入った後おかしくなる国はありますよ、イタリアであり今回はギリシャですよね。 そういうところはあるとして、ドイツでもフランスでもイギリスでもご覧になると、ほぼ 60

					前後で推移していると、アメリカでもＥＵに入っていませんけれども健全な財政の国は、その国の GDP 国民が働いている総生産の 6 割程度の借金残高を持っていれば返せると、こういう判断で健全な国。 この健全な財政の国の状態は実は 1991 年、バブル経済崩壊後の日本では出来上がっているのです。 そういう意味では増税無き財政再建をやるという、土光敏夫氏でもこの一つの強い行政改革は成功しているのですね。 ところがその後、日本の経済はずっと 500 兆円ですよ、大きくはなっていないんですが、借金だけは、来年は景気が良くなる、来年は景気が良くなる、来年は景気が良くなると言って、この 20 年間その金融は金融として別ですが、財政出動はずっと続けて参りましたね。 それがしかも当たり前のような形になった、例えば今年の予算、少し景気が良いのでと言っていますけれどもですね、ここ 3 年位を平均してみますと、95 兆円という国の歳入の規模、歳出も同じでありますが、歳入の規模の 50 兆円から 55 兆円は借金でしょう。 そこからさかのぼる 3 年半の民主党政権の時は更に、税金よりも借金の報が多いと強く言われた戦後のいわゆる復興期にも当たるような状況であると、管政権の頃言われた訳ですけれども、そうでなくても現在を見てもですね、96 兆円ですがざっくり 95 兆円税収が 52～3 兆円ですね、で霞ヶ関埋蔵金及び使用料、手数料含めて 5 兆円で 58 兆円、96 兆円のうちの残る 48 兆円が借金でしょう、借金。 これもかつてのように道路とか橋とかいわゆる社会資本の整備、公共施設とかそういうものを整備するために建設国債を大量に発行すると、これはまあ 20 年 30 年 40 年掛けて、次の世代の方々まで負担をして頂くという意味では、まあ住宅ローンを組むようなものでありますので、これは法律上認められ、大量の建設国債を発行した時期はあります。 現在それは 6 兆円くらいです、残る 40 兆円くらいは赤字国債でありますね、つまり 40 兆円常に足りないわけです。 それが当たり前の予算編成になって、ついに 1000 兆円を累積債務残高が超えたと。 この 20 年間で日本は 300 兆円から 1000 兆円まで債務残高がふくれあがった、これ実はは国の話をしているだけで、更に地方債の発行残高が 200 兆円有りますので、併せて 1200 兆円。 そうするとヨーロッパの健全な財政の国の物差しから言いますと、500 分の 1200 ですから 60%どころの話ではなくて、240%、夕張は大変厳しい状況ですね、それは再建にがんばっておられますが、日本の政府の状況というのは政府に物差しがないだけに何もおっしゃいませんけれども、夕張よりもよりもっと厳しい状況でありますよ。 そこでですね、財政出動をあたかもお金があるように、いろんな使い方をしていますが、40 兆円は赤字国債、これを少なくとも 0 にするようなことをやらないと実際はダメでありますが、それでも既に 1000 兆円、背後に累積債務が有るわけで、単年度の収支を併せてみても 1000 兆円は誰が返すんでしょうかと、でそういう中で、実は安部のミクスの 3 本の矢というのは成長戦略と言っているわけであります。 大胆な金融緩和と金融政策と大胆な財政出動としてその間に願わくば成長戦略、実は地方創生というのは、この安部のミクスの効果が地方に及んでいない、地方とは何処を指すかですね、色々な指し方はありますけれども、たとえば東京、名古屋、大阪、三大都市圏を除いたところを敢えてそういう呼び方をまずここでするとすればですね、その地域に及んでいない北海道にも安部のミクスの効果は及んでいないと、そういう強い批判があると、そこで地方創生でですね地域は今一所懸命がんばっています、やがてこれがその成長の芽を生み、いわゆる日本の再生に繋がっていくんだと言う、この成長戦略の一環として地方創生が位置づけられているんですね。 これはやっぱり経済の再生のための地方創生と、これは必ずしも、例えば今人口減少で問題になっている、どうすれば人口はこの国で減ることを食い止めることが出来、人口が増えるのでしょうかと、そういう話とは必ずしも結びつかないんですね、経済、経済と言って経済が豊かになれば、国民の生活が豊かになるとずうっと経済大国日本を目指してやってきたこの国が、経済は確かにアメリカに次ぐ世界第 2 位の経済の規模になったのは、皆さんのレジメの 2 枚目にあると思いますが、1995 年の段階をご覧になれば、もっと早いですよ、昭和 43 年にドイツを抜いて世界第 2 位の経済大国日本が誕生していますが、500 兆円経済の規模になった時期で見ますと、不都合な真実と書いてありますが、これは経済界でお仕事をなさっている方は常識かもしれませんが、正確なデータをとれるとこだけ掲げておきましたけれども、1995 年から 2010 年、5 年前迄です。 ただこの 5 年間がそれほど別に経済が成長してないですよ、間違ったアナウンスが行われているのは、景気変動と経済成長を混同した発表の仕方があまりにも目に余るんですね。 対前年度何%伸びています、それじゃ 5 年間遡るとどうですかっていう話はしないのが今の状況ですので、15 年間をとってありますが世界経済全体は 1995 年から倍に拡大しております。 世界の GDP は合計しますと 2 倍に拡大しております。アメリカも実はアメリカ経済というのは 95 年段階から世界の 4 分の一はアメリカ経済だと、現在でも 1%減った数字になっていますけれども世界の 4 分の一はアメリカ経済、つまり 15 年間でアメリカ経済は 2 倍になっている。 それで、中国は 3%しか世界に占める経済規模がなかったものが現在では 10%だ。

					8倍、15年間で8倍経済規模が拡大した、ただ国民が日本の10倍以上ですから一人あたりの国民所得から見ますと、日本より豊かになったという話は全くないのですが、ただ国家としてみますと、大変経済成長著しい国になりますね。 こういう時代が日本の昭和 40 年代の高度成長期にもあった、ロシアは 1%しかなかった国が3%、韓国は2%の2%ですから、2倍の成長を維持してきたと、ところが日本というものはそれだけ、900兆円もの国債、地方債も含めて借金をつぎ込んで内需を支えたけれども、公共事業等で支えたけれども、実は500兆経済のまま成長は1倍ですので世界に占めるウェイトは18%から9%に下がった。 しかも経済大国は軍事大国になるという法則を、その通り歩みだしているのが中国ロシアでありまして、日本はそうならないようにと言って、たぶん戦後憲法で歯止めをかけた、しかしこれを外すかもしれない、それは周辺が変わったのでそれに合わせる形でないと日本を守れない、「戸締り論」という言い方を安部さんは最近盛んに国会で述べていますが、まあ憲法改正まで行くかどうかはわからないのですが、憲法9条の改正まで、狙いに安保法制をとりあえず法制改正をやろうということでしょうけれども、60日ルールから言うと、たぶん今の国会の状況からいうと、参議院がどんなに抵抗しようが60日、否決しようがしまいが、たぶん9月20までの延長通常国会の中では、衆議院3分の2の多数で再議決をして、安保法制11本の法律は可決をすると。 従って今後どういう状況になって行くかを見なければいけませんが、日本の経済状況はこういう状況であります。 確かにそれは、経済成長のための地方創生は必要だろうと思いますが、ただこれから申し上げるのは、地方創生、地方創生と言う伝統的な、いわゆる「ふるさと創生一億円」でも、「地域振興券」でも、「ふるさと納税」でも、「プレミアム振興券」でも結構でありますが、果たしてどれほどの効果があるのでしょうか？ 実際この人口減少で統一地方選は統一地方選で色々問題課題はありましたけれども、無競争当選が多くなりまして、3割近い実は日本には今、都道府県の議員さんが 2660 名居られます、で35000名の市区町村の基礎自治体の議員さんが居られます。 ざっくり申し上げますと2割くらいの方々が選挙の洗礼を受けないで、いわゆる無競争当選という制度は、選挙制度として例外として存在はしますけれども、5 人に一人が無競争当選であるという、仮面を付けた代表者と私は申し上げていますけれども、0 票議員、0 票議会、つまり 1 票も投票していない訳ですね。 何が問題かとい言えばですね、話が行ったり来たりして申し訳ないのですが、選挙のことだけ申し上げておくと、投票箱、投票箱とはただの箱ではありますが、あれは一つのその代表を選ぶ儀式の箱でありますね。 何の変哲もない箱でありますが、みなさんが一般の市民の声として、紙に書いて代表はこの人が良いと言って入れますよね、これを民（ミン）の声、民（タミ）の声と言う風に表現している人が居ます。 それを投票箱に入れる、何の変哲もないマジックボックスが、突然投票箱を空けまして開票をしますと、天の声になると言っている訳であります。 例えば40名立候補されて25名が当選者だと、この25名が当選者だと決まった瞬間にその方は公共の意志決定をして良いと、資格を手に入れるわけでありますね。 皆さんの投票を受けて初めて、マジックボックスをくぐってそういう資格を得るわけです。 その儀式がないわけですね、無競争当選というのは、そうしますと2つの不幸な事態が起こるわけで、この中には居られないと思いますので申し上げますと、当選した人、当選と言われてもそれはせっかく立候補したのだから当選をみんな目指してやっているわけでありますので、大した選挙もなくて良かったと思って居るかもしれませんが、自分の足場には1票も無いわけですよね。 何票を代表し誰を代表して議会で発言しているかという根拠がないわけであります。 もう一つ、バッジを付けて歩いておられますが、私たちはあの方を当選者として当選させた覚えは無い、と来るわけであります。 そうすると、有権者から見ても代表ではない、仮面を付けた代表者と言われても本当の意味で代表という一つの民主主義の儀式は得ていない、従って正式な免許証は貰っていない。 これをテレビで、ＢＳ11と言うテレビが割と深堀で良くやっていますので、2回やりまして、ちょっと調子に乗ったわけではないのですが、無免許運転の状態ではないでしょうか？と言ったのです。 そしたら私を名指ししたわけではないのですけども、「先ほど番組の中で不適切な発言がございました」とアナウンサーが謝っていましたけれどもですね、それを指したかどうか知らないですよ。 まあしかし多分、無競争当選をした人からクレームが来たのかもしれませんね。 我々は何で無免許運転だというかと、あれはけしからん！と言った可能性はありますけれども、まあしかし実際、運転をして良いと誰も認めていない、こういう制度が実は今回 18 回目でしたけれども19回目4年後、20回目8年後これを想定していきますと日本の地方議会、日本の地方議員の半数は、消滅自治体は問題にしていますけれども、議会そのものの半数は実は今申し

上げた様な、民主主義の装置ではないものになる。
　実は地方制度調査会のもう一つのテーマはこれでございまして、地方選挙制度、地方議会制度をどうするか。
　これは構造的に矛盾があるんですよ、もはや日本の制度はまあそれは土曜日、日曜日、夜間に議会を置きなさいとこういう提案は一つありますよ、でもそれですと女性の方は行きたくないという話にもなりますし、みんな忙しいですからですね、結局ですね 8 割以上がサラリーマンである社会に於いて、一般のサラリーマンが議員に実質上なれない仕組みになっているというのが日本でしょう。
　これはヨーロッパ、アメリカと全く違うわけでありますね。
　これだけいわゆる事実上母集団を 2 割ほどに絞り込んで置いた上に、高齢者の議員しか多く居ないとかですね、自営業者しか居ないとか、こういう話をしてだんだんそれがこう細りながら、特に都道府県の選挙、都はありませんでしたが道府県の県議選では一人区はほとんど無競争であったのです今回、ですから道府県議会議員の 3 割近くが無競争当選なのです、これはほとんど一人区なのですね、と言うことは昨年の衆議院選挙の結果を見るようなものなのです。
　一人区というのはそういうことで一人の選挙区から一人が選ばれると今こう言う仕組みでありますね。でどうしたら良いのでしょうかと言った場合に、やっぱりその会社に勤めながら公共の意志決定に参加できるという制度を一般的に労働法制に含めて考えない限りですね、この流れが細るだけであります。
　しかし、その地方議会というものが大した存在でないと見ておられる方が居るかもしれませんが、ただこの日本の 500 兆円経済の今 3 分の 1、160 兆円が公共活動なんです、その 160 兆円のうち 3 分の 2 は、3 分の 1 は公共活動 GDP 全体のですね、それの 3 分の 2 は地方自治体が実は意志決定をしているのです。
　特に 2000 年以降の地方分権改革以降は議会が全ての意志決定者なのです、それ以前は国が決めたものを知事市町村長に委任をして、8 割処理するという機関委任事務制度の下で議会が 2 割程度実質上の決定権は無かったのですけれども、今は 10 割有ります。
こう言う中で国民全体を見ますと 160 兆円のうち、100 兆円、都道府県市町村併せて 100 兆円の部分については、地方議会が決定しちゃうのです。
　国は 95 兆円の予算規模があるじゃないかと、数字が合わないような感じがするように思われるかもしれませんがこう言う話なのです。
　実は国は 95 兆円、地方は都道府県市町村を併せて 100 兆円なのです資本財政は、併せますと 195 兆円ですよね、で 500 兆円経済の中で 195 兆円が公共かって言うと実はそうではなくて、35 兆円が重なっているのです。
　国から地方に移されているお金が補助金と交付税で 18 兆円と 17 兆円、併せて 35 兆円がダブるカウントされていますので、地方側で 100 兆円でカウントして国側の 95 兆円から 35 兆円を引くわけです。
　そうすると国が 95 兆円、地方自治体が 100 兆円ですね。
　これを、仮面を付けた代表と思われる方々の意志決定にゆだねて本当に良いか？民意を反映した意志決定が行われていくのでしょうかと考えますと、国政でも色々やっていますが、島根と鳥取を一緒にすると現場ではかんかんに怒っていますけどもですね、北海道は議席数が増えたのでしょうかね？
　などなどですね、しかし実際は 10 増 10 減ですから、242 名の参議院の数を減らさない形で、5 倍の投票格差があればもう何とか 3.0 倍以下に押さえ込むという、単純な作業でありますね。
　まあそういうことをしかし国会では延々と議論してようやく決着が付いた、とまあこういうことをやっておりますけど。
　さあそこで色々と申し上げました、意志決定の機関もそういういわゆる戦後 70 年経って投票率も 45%になり無競争当選状況が非常に広がってきていると、経済については申し上げたとおり大変お金を使ってきたけれども、対全体は大きくなっていないと。
　そこで人口減少と地方創生なのですが、人口はこういう勉強会ですから増田リストとか国交省とか、総務省が言っている数字は中期的なところまでは言っていますが、実はこう言う話なのです、日本は明治維新 150 年前、そこからさかのぼること 800 年間大体 1，000 万人なんですよ、日本国民というのは、農業の時代で馬舟徒歩ですから、1000 万人時代が長くて、開国をして明治維新から明治政府が出来る内閣制度が明治 18 年、国会が明治 23 年、市制町村制が明治 22 年、府県制度が明治 23 年ですね。
　概ね 20 年かかって近代国会日本が始まるのですが、そこで 3500 万人に増えているんです、開国効果なんですね、まあいろんなビジネスが始まる、いろんな知恵を海外からも学習して日本を、そして農業の国から変わりはじめる。で、その明治政府が出来て第 2 次世界大戦で若干人口を減らす、大変大きい苦難の状況を一旦味わいますけれども、それでも 7000 万人なのです、人口としては。
　戦後昭和 22 年頃、1947 年新しい憲法始まった頃、2 倍になっているのですね。
　明治政府が出来て半世紀で 2 倍、で戦後 7000 万人が 2008 年、7 年前に天井を打ったと言って、概ね 13000 万人、2 倍ですよね、60 年間でほぼ 2 倍になった、つまり倍、倍、倍と来たと、ざ

					っくり言うと 20 世紀は、日本は人口大爆発の世紀であったと、多分歴史上はそういう風に位置づけられるでしょうね。 しかし明治政府が出来た、或いは皆さんの市町村制度、府県制度が出来た頃、125 年前ですけれども、遡って考えると 3500 万人が 4 倍にふくれあがった、これが例えば 2100 年に 8000 万人だという予測を、ほぼ多分人口学者から言うとこれを 1 億人で維持するとなかなか難しいんですね、8000 万人受け入れた方が良いまずは、問題その減り方の歪みとですね、その有るところに集中して有るところが非常に過疎化していくというこう言うこういう歪みをどう問題を処理していくという問題は残るとして、人口の絶対減そのものは 8000 万人でも問題は無い、例えばですよ、それでも明治時代よりは 2 倍の人口ですよね。 何が問題がないかと言えばですね問題は無いわけではないですが、1 億 3000 万人が暮らしやすいように、北海道もそうですが道路を整備し、様々な施設を整備し住宅を整備しましたね、これを 8000 万人が使える社会というのは多分 GDP500 兆円経済を人口 3 分の 1 減ることを頭脳の優秀な国民ですから、これを活性化させることによってハイテク技術によって 500 兆円経済を、これから 85 年間維持出来るとすれば世界で一番豊かでクリーンになるのですよ。 今までのように人口が増える時代は経済のパイも大きくしなければ行けなかった、で人口が減っていく時代は放っておきますと多分経済は縮小すると言うまあこう言うものの見方をしていますけれども、ここで何ですね、ここでどうすればハイテク技術というのは一つの例ですけれども、日本全体が活力あるこう言う国の状況になって行くだろうかと言うことを申し上げますと、実は日本型州構想の話をしなければ行けないんですが、今のやり方を連綿と続けても短期的にはそれはお付き合い申し上げても悪くはないですよ。 例えば 10 カ年の各市町村に或いは都道府県毎に地方創生計画を戦略的に作れと言っていますね。 良くできたところには交付金を少し割り増しをすると、更にうまくいったところには表彰もすると言ったところが有るかもしれませんけど、しかしこれは毎度お馴染みのってーところがどうしてもありましてですね。 結局大阪をやってみてもそうなのですが、このネックになっているところがあるわけで、日本の場合何をやってきたと言えば、分散型の国土を作ろうとして頑張ってきたことは間違いないのです。 何も東京一極集中状況は今が問題で合ったわけではなく、ズーと戦後言われてきていることは間違いない、ただこれ止まらないんですね、止めようとした、止めようとした一つの切り口とは、あの昭和 40 年半ばの田中列島改造ブームの頃の日本列島改造論です。 あれは象徴されたものです。あれは田中角栄氏が書いたことになっていますけれども、彼が自由民主党の幹事長の時、昭和 40 年頃ですね、出たのは 47 年ですけれども昭和 40 年頃、都市政策大綱というものをこれから作ろうと言って、自由民主党の総力を挙げて官僚を巻き込んで作ったのが、インフラの整備を中心とした職住近接型社会を狙いとする 3 大高速網の整備と高速道路ですね、新幹線、それは札幌までは来なければ行けない、早くですね、ほっとくとあれ九州の方が一生懸命ですよ、先週は九州に行きましたけれども鹿児島からこう繋がりましたね博多に、どうやら長崎新幹線も出来るのですね、更に彼らが言っているのは、今度はこの大分側のこの何とか経路、要するに九州をぐるぐる回るように新幹線をやろうとか言っているのです。 確かにですね九州は今調子が良いのですよ。沖縄を除いても九州 7 県の出生率は一番高いんです日本の中で、10 番うち 5 番までは、沖縄入れると 6 番までは九州なのですね九州は出生率は高い、それと市場は東シナ海と日本海を睨んでみますと、中国、インド、東南アジアと言うこれからの大市場に一番近いのです。 こちらの方はロシアを相手に戦うと言う意味では悪くはないですよ、環太平洋の時代はほぼ成熟した状況になるでしょう、むしろこれからのび白が大きいのは日本海及び東シナ海側ですよね。 そういう事もあって九州は一所懸命ですね、ほっときますと 3 本目の新幹線が入ってきますので、とりあえずここは函館まで来るとして、札幌新幹線は急がなければ行けない。 急ぐ意味はですね、実は日本のインフラ整備はジェット空港と高速道路と新幹線網、そして高度情報通信網の整備は、まだ残っているところはあるけれども骨格はほぼ出来上がってきていますね。 何が出来上がってないかというと、これをハードインフラの整備と申し上げると、ソフトインフラの整備なのです。 神経系なのです、意志決定の仕組みはそのままなのです、ですから逆の効果が出てきた、つまりより早く、人、もの、金、情報が動くようにしたものですから、それをする意志決定の仕組みいわゆる中央集権体制のまま、東京はそのままおいてありますので、どんどんどんどん東京に集中する形になってきていると、これは多分田中角栄氏らが想定をした職住近接、工場分散をして、近くで働けば東京に出稼ぎに行かなくても良いという、こう言う社会を彼らは想定をしながら言っているわけでありますが、そうならなかった。 そこで、これからもう一つのいわゆる大きい改革としては、本当にこう日本を 8000 万人でも 500 兆円経済で世界の中で一番豊かな国にしていく、本当の意味の地方創生をしていくためには、

					いわゆる垂直型の国家の仕組みではなくて水平型なのですね。 皆さんの北海道についても、これはなかなか北海道のここまでの動きから言いますと、相当中央政府に依存をしてきた歴史もありますので、とは言ってもですよ、中央政府はもうまもなくお金がない、まもなくお金がないというのは、ギリシャのようになるかどうかという話はない方がもちろん良いんですけれども、1400 兆円の貯金を食いつぶしているわけです、今 1200 兆円の借金で国民一人一人に代わって銀行を通じてですね、政府がお金を吸い上げてきていますよね、でこれは返さなくて良いお金ではありませんので、つまり地方にいろんな形でお金を分配する力はなくなっている日本は。 この広域のけいいき毎に働く稼ぐ仕組みを考えない限りですね、この国ってものは再生しない、いかに東京に依存しても再生しないのだろうと思うんですね。東京都って言うのは国土面積のたった 1.0%、これに 1300 万人国民の一割が集中していますね。少し拡げて一都三県、東京圏と言われるところが 3.6%、ここに今 3500 万人、ほっとくと 5000 万人になると言っていますが、こういう国って言うのはお隣の韓国のソウル一極集中と日本だけなのです。 これはまあアジア型近代化を達成した国の一つの姿でしょうけれども、成熟した国の形ではない、そこで今安倍政権の一時議論の有った日本を州に変えていこうという議論はほとんど封印されています。 私がちほうする調査会の中で人口減少社会に対応した地方行政体制のあり方は、盛んとこれから出て参りますのは市町村の連携ですよ、連携。 特に政令指定都市と中核市を核に、中核市というのは北海道ですと函館ですね。 中核市も特例市、中核市を一緒にしましたので、20 万以上の中核市を核に、その隣接の市町村と連携協定を結んで、地域作りと同時に公共サービスを担保する、これが今から 10 年、15 年前ですと合併の話だったんですね。 合併ではなくて連携で行こうという話であります。 ここに連携協約を結んで一つの連携中枢都市圏というのを作って、人口が減っても公共のサービスが担保され、さらに色々な資源をブレンドして活性に役立つような地域作りが行われるようにと言う、こう言う仕組みを一所懸命やろうとしているのが、地方創生本部もそうですが、仕組みを考えている方の地方制度調査会の役割は、それは多分 12 月に答申で出ています。 そこに色々と交付税等の措置はあるのでしょうけれども、これはずらっと並びますとですね、北海道は札幌市、函館、もうちょっと広げて 10 万から 20 万に届かないところが 5 つか 6 つ可能性としてもちろんありますけれども、日本列島全体で見ると 20 万以上の規模で政令指定都市 70 万以上に届かないけれども、中核市と称するところが 80 有るのです。 それと政令指定都市が札幌から熊本まで 20 有りますよね。 100 都市 25 万くらいから 35 万くらいまで拡げて連携をする。 まあ 100 万なり 150 万のところはさらに拡げて 200 万くらいに連携をしてですね、これで大体国民全体の 75%位はカバーできると言うこう言う計算になる。 問題はそこから外れていく 25%はどうでしょうかと。北海道は大変面積も広いですし、大都市がそんなに各地域にバランス良く居座っているところではありませんので、しかも調べますと現実に 179 市町村のうち 143 市町村が過疎地域の指定を受けていますよね、過疎地域。過疎地域は別に悲観する話では無いのですが、いろんな条件がある意味不利な条件を持っている地域が相当多いと、多分こういうところをどうするかと言った場合に、そういう連携中枢都市圏、これは成功するかどうか分からない、その先に現地でいろんな声を聞きますと一旦連携した上でその次に合併の話が来ませんかねと皆さん非常に考えるものですからなかなか連携協約に判を押さない。 そうではないと言っても、誰も断言出来るものもないし、よく考えますと、例えば 20 市町村で真ん中に一つ中心市があってそこにまあおんぶする形になりますよね、実際は中心市に。 それはまあ病院にせよいろんな機能を中心市におんぶするとして、20 の市町村長が居て 20 の議会があって、20 の財布があって、20 の計画があってそれで 100 の仕事は連携協約によって 5 都市に依存しましょう、と言った場合に本当にうまく行くのでしょうか？と。 それならどういう形が一番良いのか分かりませんが、完全な合併が良いのかもっとこう密度の高いですね、ヨーロッパ型の連合庁のいるような形のですね、緩やかな合併体が良いのか、それは色んなこれから工夫があるかもしれませんけれども、だんだん一つの型紙になって行かないと物事はどうも上手く動いていかないような感じはしますけれどもですね。 ただまあこう言う 75%位はそういう中心市である、連携中枢都市圏であると、でそこから外れたところで本当に離島、群島とか中山間地域でないところは、生活定住圏 5 万人位を核に小さな定域を作れないかと、更に最近言い出しているのは、道の駅を中心に道の駅に色んな機能を集めることは出来ませんかねと。 それでも増田リストから言うと 2040 年には現在人が住んでいるけど人が住まない地域が 20%位、人口空白地帯が出てくる、そうした場合そこには道路は通っているけれども人は居ないと、荒れてきますねやっぱり、空き家もある、空きビルもある、廃屋がだんだん色んな意味で動物が住み、もしかして犯罪の巣になる可能性もあるので、それは誰が管理するのですかと言った場合に、人が住まないところに自治体が無くなりますので、管理自治体のような制度を定めてある程度体力が有るところが、人口が居ないところの自治体を管理するという指定まで必要ではないで

					しょうかと、この辺の議論まではしているのですがもちろん答申には出てこないと思いますが。 　そこでですね、そこでこうやって今市町村、市町村を何とかって言う事が今盛んに議論しているところです。地方創生も市町村ベースでやっている。 　ただ骨格はやっぱり明治 23 年以来、馬舟徒歩の時代の、まあ北海道は単独の国で良いわけで有りますが、州で良いのですよ、179 市町村長とお話をした時に地名の話から北海道の道はどうなりましたかね？って話とですね、知事さんとやったときの、北海道はやっぱり地名でしょう、行政制度の北海道という道、道制は事実上無くなっていますからそれはそれで良いとして、北海道州、九州は九州で有るわけですね、九州は遠慮して九州府と言っていますが、今の府と言うのは成り立ち上府県制度が有りますので、九州州と北海道州で良いと、呼び名がそうなりますと日本は道州制と言う呼び方が必要なくなるんですよ、無くなるんです。10 州、2 都市、2 都市州と私は申し上げておりますけれども、日本を概ね、ＪＲの単位か電力会社の単位かですね。 　まあ北海道、東北、そんなに違和感は無いですよ、九州と、こういう風に呼んで広域的な活動をしている、ただここで府県の壁が非常に厚いですから、これを外した上で一つの広域の州政府を単位として、それぞれの 10 州なら 10 州が水平的に競争する関係を作っていくと。 　これで北海道は、九州ですとオランダ、現在オランダですけれどもですね、九州 7 県にばらばらになっていますとオランダという意識は無いのですが、九州は一つという風に考えますとオランダを超えるのはそう難しくないのですね。 　北海道は 40 年前に、松下幸之助さんが色々言っているところから言いますと、こう言っていますよね松下幸之助さんは、廃県置州の話をしながらですね。 　北海道は国家であったかと言う問題設定をしていますけど、この北欧諸国、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、デンマークよりは南に位置していると、しかも今地球は温暖化していますので、全体的にそう気象条件はですね、厳しさが和らいできていますが、気候風土も良く様々な条件はこれらの国々よりも優れていると、恵まれていると、人口もこれらの国々と北海道は大差ないと、ところがどうかとスウェーデンは一人あたり国民所得世界第 2 位とその他の国も 20 位の日本より全て上にあると、もし北海道が独立国なら、つまり北海道は中央政府の規制にがんじがらめになり補助金、交付税に依存する体質が強くなり、そうした制約から創意工夫によって自立する気概を弱めていると、もしこうした制約がないなら北海道は北欧諸国をしのぐ発展した国になれる。 　これは絵に描いた餅かどうかっていう話をしますと、日本の切り札というものは、もう少し中央政府の官僚のなかにアイディア無いですよ、実際そんなに高等な人間が集まっているわけではない。 　今や現場を抱えたところにしかないんです、現場を抱えたところにしか。 　で、ここにやっぱり優秀な人が更に集まって、権限と財源を持って、それから民間が力を出さなければ行けないわけで、今回地方創生の一つ良い点はですね、官官官民民官学金と言っているわけです、金というのは初めて出てきた。 　いわゆる民間企業とそれから役所ですよね、色んなレベルの役所、それから大学、大学も天下国家のためっていうよりは地域のために色んな事をやる、北大だってそうなの、日本全体の大学であるけれども北海道の大学だ。 　それから金融機関ですよ。 　お金の流れを変える工夫というものをしながら、それをいかす工夫というもののノウハウを持っているのはやっぱり金融機関だと。 　このスクラムを組む形で、一方もう少し大きい州のくくりにくくった上で、対外的に競争する。 　国内的にもそうでありますが、対外的に全部外務省をくぐし国をくぐさないと何も出来ないというこう言う仕組みではなくて、それぞれの州政府がロシアとも中国ともインドとも交流できる形ですね、交易できる形で日本を発展させて行くしかないんでないでしょうかと。 　これは多分 2020 年の東京オリンピックに間に合わせるようにそういう議論をしようと言いましたけれども政府はやらない、やらないのですが 2020 年以降は日本は大不況になりますよ、これから。 　新国立競技場に 2520 億円？今日も帰ったらテレビでコメントしろと言われていますけど、コメントしたってしょうがないあんなもん。 　半分で出来るかもしれない。 　テレビに出てきた建築家が絡むと高くなるのですよ、某安藤忠雄氏が絡むと高くなるのですよ。それは大阪で困っている、橋下さんも困っている。 　彼が出てくるプロジェクトはものすごく高いんですよ、今、丹下健三も黒川紀章も有名な建築家は亡くなりましたね。 　彼は独学でのし上がってきた立派な方ですよ、ですけれどもどうもその辺が、お金についてはまあ非常に高い。 　本人は見積には関わっていないと言って、決めただけだと言っていますけれども、決める段階で全てが決まっているものですからですね、それはあんまり信用できないんですが、多分国立競技場でも、多分半分になるんじゃないでしょうかね。 　それで良かったと言うことになるのでしょうし、なぜあの段階で白紙撤回するかっていうの

					は、やっぱりそういうメカニズムが見えたことをですね、外に出る前に消したと思うんですよ。 　これは私の全くの推論でありますので、そうだという風に断言は出来ませんけれどもですね、いずれにしましても一つ、一事が万事そうであるように、例えば野田政権が尖閣諸島を買った、買うまで良いけれども、その後は日中関係を悪化したもので既に何とも出来ない状況になって来ているように、日本の中央政府のいわゆるガバナンス、統治能力というのはそんなに皆さんが頼るほど強いものではなくなっている。 　信ずるのは自分の足で立っている地域を信ずるしかないのではないかと。 彼らを利用しながら賢く簡素な地方政府を作りながら、なるべく増税をしないで、みんなでお金がまわるような社会を作っていくというのがこれからのもう一つの視点の地方創生ではないかと思います。」
		8	6	平成 27 年度定時総会の開催	連日厳しい暑さが続いている最中、午後６時より京王プラザホテル札幌３階「雅の間」において、本学本部より林勘市常任理事、学員会本部より大木田守副会長、東北・北海道ブロック担当の小畑悟副会長、山下祐司父母連絡会札幌支部長をご来賓に迎え檜森支部長以下１００名の会員が集い開催されました。約２時間１０分お互いの近況を語り合いながら母校の更なる発展に向けて奮闘を誓い合いました。 　司会の進行は西原幹事長が行いました。議事に先立ち支部長から「本日は何かとお忙しい中平成２７年度札幌支部の総会並びに懇親会に多くの会員の皆さんのご出席を頂きまして本当に有難うございます。 　札幌支部長として私も２年目になりますが、私は元気で、明るく、仲良くやろうという事をモットーにして幹事長、副支部長さん方達と一生懸命頑張ってやって参りました。 　お陰様で以前になかった道内の各支部との交流も定着して来ております。また今年の９月には学員会本部、大学本部の主催で函館に東北地区の各支部の皆さんと道内の各支部からもみんな集まる事、父母連絡会ともより一層関係を深くして仲良く今やっております。 　我々のもともとの目的であります現役の中央大学の学生さん達仲間を応援する、それから卒業したわれわれ仲間がどこで会っても、声を掛けられるような、声を掛け合うような、あるいは後輩達の就職にも何らかのお手伝いが出来るような体制をつくっていこうと少しずつではありますが、進んで来ているのではないかと思っております。皆さん何とぞひとつそれぞれの立場で協力をしていただければ有難いと思っております。」と挨拶があり支部会則第１０条３項に則り支部長を議長に第１部の総会には入りました。 　第１号議案「平成２６年度事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長から資料に基づき報告し、次いで会計監事の高橋恭平氏（昭和４８年・理工）から監査報告があり諮った結果出席者全員異議なく承認されました。 　第２号議案「平成２７年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」幹事長より資料に基づき説明し諮った結果異議なく承認されました。 　続いて第２部の卓話「海外における日本食文化について」に入りました。 講師は西山隆司氏（昭和５６年商・西山製麺（株）代表取締役社長）にお願いしました。講演の要旨は次の通りです。 　「海外では日本食ブームと言われておりますが、今日はラーメンにしぼってお話しをさせて頂きます。前半は札幌ラーメンが出来上がる誕生、そこにはいろんな秘話なり人間ドラマもございますので少しご披露させて頂き、後半の方で今海外ではどんなラーメンがブームになっているのか順番に話しを進めていきたいと思います。 　話しだけではなんですので、写真を見ながらの方が解りやすいと思いますので少しスライドをご用意させて頂きました。私は勉強の方は、全然駄目でございましてどちらかというと右脳派人間なのでイメージとか、図形とか、雰囲気で捉える人間なので、写真などもご用意させて頂きました。手前共の会社の概要を申し上げますラーメン専門の西山製麺でございます。会社は昭和２８年に創業致しておりますが、実は手前共はラーメン店の屋台の自家製麺の部門からのスタートをしております。写真をご覧下さい、今二条市場にダルマ軒という店がございますが椅子に座っているのが叔父、立っているのが私の亡くなった父です。昭和２４年富山県の出でございます。親父は満州で農業でもやろうかと考えていたようですそんな事で田舎の貧しい農家だったと聞いております。 　長男が実家を継ぎ後はみんな家を出て行かなければならなかったと聞いております。ところが終戦を迎えて行くところがなくなり北海道へ出て来たと聞いております。当初は屋台のラーメン店ではなかったのですが数ヶ月北海道に居た時に、私の祖父（孝幸）がどうもお前の従兄弟のやっているラーメン店が非常に忙しいようだ、お前ひとつ手伝いに行ったらどうだという事で昭和２４年に円山公園の出店の屋台ですが、写真のように昭和２４年か２５年頃屋台を牽いてスタートをしていたようです。当時大陸の方からいろんな方が引き揚げて来ましてラーメンの屋台もいろいろと札幌市内でも増えてきたようです。 　皆さんラーメンを造る事が出来ませんので、自家製麺の屋台の麺を私の親父が造りまして、近くの今のラーメン横町のはしりの店でお分けしていたというのが会社のスタートです。 昭和２８年に叔父の方がちょっと札幌を離れる事になり、変わって私の親父が自家製麺の屋台の製麺部門だけを独立して西山製麺所という事で南３条西８丁目に店を構え、私もここで育ちまし

					た。これが会社のスタートの歴史でございます。 事業内容ですけれども生ラーメンの他いろいろな品目がございますが、最近は開業支援コンサルタント、例えばラーメンがまったく素人の方が店を開きたい、あるいは最近では海外で営業している方が非常に多いのですが、当初寿司を開業したが増えすぎて来たので、ラーメンでもう一度仕切り直しをかけたい、ラーメンの事は造り方も何も解らないので教えて欲しいという相談が大変多うございまして開業支援コンサルタントも含めた製麺のメーカーという事で、全国的にも特徴ある分野でやっているところでございます。 昭和３０年（１９９５年）ございますが札幌ラーメンの特徴であります卵が入って多加水熟成で、ちぢれて、あしこしの強い生ラーメンを親父が開発しました。何故こんなラーメンを造ったかというと後ほどお話しますが、昭和６２年（１９８７年）ですけれども、大変有難い話ですが、札幌市教育委員会で小学校３年生の教科書の中に「私達の札幌、ラーメン工場の仕事」という事で当社の会社を取り上げて頂きました。もうこれで２８年近く掲載され、市内の小学校の皆さんが勉強されておられます。 昨年ですが札幌市内の９５％の１８５校あまりの小学校の工場見学を当社が受けさせて頂いております。その後２００６年チャーシュウの素を製造したり、ここ最近でございますが一昨年ドイツに法人を設立、昨年にアメリカに法人を設立しております。上の方の写真が先程の教科書です。真ん中の写真はラーメンのテストをやっているところです。全国にはいろいろと麺類がたくさんございますが、歴史の旧いところでは讃岐うどんがございます。信州のそばも歴史がございます。 ラーメンで一番歴史があるのは九州あたりですが、札幌の小学校ではラーメンのテストをするのだよと言いましたら、嘘だろうと言いますが、この写真を見せますとビックリされます。それだけ札幌ラーメンというのが、ひとつのお店が造った味でもない、メーカーが造った味でもない、言ってみれば札幌市民の皆様方が造り上げていった一つの食文化であると思います。 だからこそこんな事で我が町の現地工場にラーメン店が出て来たり、これは札幌独特の産業であります。下の写真はプレゼンテーションルームでして手前共の会社の開業支援の部屋でございます。こんな事も用意した変わったメーカーでございます。 続いて札幌ラーメンの誕生について少し話をさせて頂きます。うどん、蕎麦の歴史という事で、うどんが一番歴史が旧いという事で奈良時代遣唐使が伝えたという事で讃岐うどんが一番旧いかと思います。蕎麦は縄文時代の土器からも発見されておりますが、蕎麦掻きの様な状態でありまして、現在のような蕎麦は鎌倉時代に入ってからと聞いております。 ラーメンはその後でございます。水戸黄門の徳川光圀が食べたという説もありますが、江戸時代の末期に長崎の出島から入ってきたという事が一般的になってきております。日本のラーメンの全てのルーツは長崎チャンポンという事です。 ところで札幌ラーメンの歴史はどうなっているのかと申しますと、大正１２年に北大前の「たけや食堂」でラーメンが出されたという文献もございます。出されたラーメンは今のラーメンと違って中華蕎麦のようなラーメンという事です。今の札幌ラーメンになったのは戦後でございます。札幌ラーメンの特徴でありますが、スープがこってりして、ちんたんだ。このスープは昭和２３年頃に出来上がっております。 今は店の方は廃業されておりますが、時計台ビルの前にありました「龍鳳」を経営していました松田さんという方が引き揚げて来まして、札幌に来て私共の叔父の西山仙次にラーメンの造り方を教わりお店を開業され昭和２３年の初め頃の話だろうと思いますが、ある時どういう加減なのか、スープを造っていてその晩火を止め忘れたのか、どうしたのか解りませんが、翌朝店の方に出て来てみたら、こってりしたちんたん系のスープが出来上がっていました。そのスープをお客様に出した所大変喜ばれたという事です。多分火力の強いスープであればうまくいかなかったと思いますが、非常に火力の弱いスープで当時はエネルギー事情も悪かったという事もありますのでじっくりと炊き出したという事でちんたんのスープが出来上がったという事で札幌ラーメンの一番最初のスターでございます。「龍鳳」の松田さんという方がスターされております。それから札幌ラーメンの特徴でございますが、調理方法に一つ特徴がございます、中華鍋を使う、フライパンで野菜を炒めて盛りつけをする、これ札幌ラーメンの特徴でございます。みそラーメンを造られて有名な「味の三平」大宮さん、有名な方でございますが、実はその前に中華鍋で野菜を炒めたというのが昭和２６年頃に始めておられます。別に仕事をされておられましたが、昭和２５頃にラーメン店に転身されたと聞いております。 何で野菜をフライパンで炒めて盛り付けをしたのか、というところなのですが、これは「あじの三平」のみそラーメンを造くられた有名な大宮さんは満鉄の機関士で大連にお住まいでした、幼い頃大連に居たという事で、中華料理を目の前で見ていたようですね、中華料理はフライパンでワァッと火をあおって作ります、火がバァッと上がります、それをラーメンの方に取り入れたかったと話をされておりました。私は何度もその話や昔話をいろいろと聞かされました。本当に「味の三平」大宮さんとは家族同様のお付き合いをさせて頂きました。 私は隆司と申しますが「隆司ちゃん、何でフライパンで野菜を煽るのかというと」聞かされたのは、「目の前で火が揚がると美味しく感じるのだよ、もうすぐ出来上がるんだと、音が出る、映像で火が出る、匂いも出る、これらが鼻に入ってくる、そうすると口の中から唾が出てくる、

					美味しい物は更に美味しく、美味しくない物も美味しくなるんだ」という話をされていたのを記憶にございます。 　一昔前まで地産地消という言葉がよく使われましたが、札幌では当時小学３年生でもラーメン工場とか玉葱とか農業について勉強するのですね。　当時は　札幌でも玉葱をたくさん生産していましたし、農業をしている人達もたくさんいました。地産の野菜を使って煽ったという事です。もう一つお客さんの前でパフォーマンスのショーを見せたかったのです。それが目的だったのです。今新聞、雑誌、テレビとかラーメンといいますと漫画なんかでも先程申しました屋台の店です、お客さんの前で、常連さんですと会話が弾みますが、常連さんでないお客様が黙ってラーメンが出来るまで待たせなければならないですので、何とかお客様に待たせる間楽しんで貰う事が出来ないのかと、いう事で同じようにフライパンで野菜を煽った、調理のショーをお見せしたという、「あじの三平」の大宮さんが話をされておりました。そのあとの話として野菜を煽ったのを具材として造る事によって、平面的なもの作りから立体的になったとか、あるいはこってりしたスープがあったんで野菜をいれる事によって非常に消化がよくなったとか、彩りも良くなったとかそんな話もございます。それらは全て後付の話でございます。最初はお客さんにフライパンのショーをお見せして、常連さんでも、初めてのお客さんでもラーメンが出来上がる迄楽しんで貰おうとやったのが最初だったと聞いております。 　それから次ぎに昭和２８年頃から考え出されました「あじの三平」の大宮さんが造られたみそラーメンのたれでございます。北海道は非常に味噌料理も多く、何とかして味噌の味つけのラーメンが出来ないものかと昭和２８年頃に研究開発されたようです。 　丁度手前共の会社も創業が昭和２８年でございます。私の亡くなった親父とは本当の兄弟のようなお付き合いをさせて頂いたと聞いております。一緒になって手前共の会社の麺を担当していたわけでございますけれども、黄色くて、ちぢれが強く、足腰の強いラーメでございます。みそラーメンの開発と同じように併せて行ったと聞いております。なんでみそなのか申しますと、もっともっと麺にカロリーベースを一食として、主食として、間食するラーメンではなくて、一食としてカロリーベースの高い、ご満足頂けるラーメンを造りたかったのです。北海道では味噌を使った料理が非常に多いですので、何とかしてみその味付けのラーメンが出来ないものかとみそに着目したわけでございます。 　当時でございますが、昭和２０年代の後半でございます、札幌にもいろんな中華の方々もおられました。噂話を大宮さんから聞いたのですが、「大変だったのですあの頃は、みその味付けのラーメンを造り始めて、その噂が広まって、今までみその味付けのラーメンはないと、世の中には無いと、もしそんな美味いラーメンが出来上がっていたら、もう既にラーメンのスタートである東京なりそれから九州なりでみそラーメンが出来上がっているはずだ。そんな満鉄の機関士で引き揚げて来た人間が、みその味付けのラーメンそんなもの出来るはずがないじゃないかという噂も行ったようです。」大変なご苦労もあったようですけれども。最後の決め手は香辛料であったようです、こってりしたスープが出来上がっていたそれからフライパンの中にラードを入れ野菜を炒めますので、また油が入ります。こってりしたスープがあって、油分があったので、味噌という和の世界を中華の世界の中に結びつけるものが香辛料の葫とか、生姜とか、札幌ラーメンは非常に葫とか生姜が効いておりますので、味噌の世界と中華の世界を結びつけるいい結合の素材になったと聞いております。 　ですから東京とか大阪のような都会ではみそラーメンは出来なかったと思います。みそ汁の昆布味しか出来なかったと思います。札幌であったからこそ出来上がったのがこのラーメンの特徴でございます。今まで四つお話をさせて頂きましたが実は、札幌ラーメンは全国でも一番、最後発のラーメンでして昭和３０年頃にメニューに載ったと聞いております。 　私は昭和３３年生まれの５６歳ですからまだ７０年あまりでございます。そんな風に全国的にあるいは世界的に日本のラーメンと言いますと、九州の豚骨ラーメンもございますが、もう一つは札幌のラーメンと出て来ます。九州の豚骨は明治時代初期からありますから、札幌のラーメンは昭和の戦後ですから何でこれだけ有名になったのか、皆様から自分の事のように思われる食べ物になったのか、大きな特徴はお話しましたこの四つのわけでございます。普通の食べ物ですと一つのお店なり、シェフがされる仕事なのです。ですから美味い物が出来上がっても秘伝の味だとか、自分の味だとか言って出さないのです。だから一つのお店だけで終わってしまいます。これに対して札幌のラーメンの特徴は、全部ばらばらなのです、いろんな方が造って来たのです。という事でみなさん方の対話が生まれて来たというのもございます。それから一つのお店で有名なシェフの料理というのは、自分で料理を始めますと悩みますね、悩んだ時には、自分の師匠に聞けるのです、師匠が教えてくれるのです。ところが札幌のラーメンの場合は戦後皆さん引き揚げて来た方々が造られた食べ物でございますので、師匠が居ないのです、悩んだ時に誰に聞くかといいますと、お客さん聞かざるをえないのです、という事で五つ目は、お客様と店主との対話の中で生まれ来たわけです。だからこそなおさらの事札幌の市民の方は、札幌ラーメンは一体誰が造ったのだと言いますと、ラーメン店を始められた方は俺が造ったのだと言います。 　あの店の味は実は俺がね（店主）相談した時にいろいろとこうしたらいい、あるいはああしたらいいという事で札幌ラーメンの食べるお客様ですが、ラーメンに対する思いがちょっと他のエリアとは違う、だからこそこれがザァッと広がって行ったのだと思います。

					面白い話がございます「サッポロ一番を造っているサンヨー食品社長」の井田さんですが昭和４０年の頭と聞いております、「あじの三平」の大宮さんのお店に来られたようです。それまでは長崎チャンポンのサンヨー食品でした。その即席麺のメーカーの社長が、お店に来た時に初めてみそラーメンを初めて口にして「これは美味いと」という事で、井田社長が大宮さんに「実は私はこういう者です。群馬の方で即席麺を造っている会社でございます。私は味噌ラーメンの即席麺を造りたい、味噌ラーメンの粉末スープを造りたいのです、ついてはそのみそラーメンのたれを私にくれないか」と言ったそうです。普通だったら誰もあげませんよ、ところが大宮さんは、よしわかったと言って社長にビニール袋にたれを入れて渡したそうです。井田社長はそれを早速持って帰り分析して、日本で始めて粉末味噌の即席麺の味噌スープを造ったのです。その後会社名をサッポロ一番に変えたそうです。そんな話にもある位本当に札幌の方は、互助会精神があるのか、助け合い精神があるのか、いい面でも、悪い面でもそんな中で生まれて来たのが札幌ラーメンなのです。 また北海道の気候風土がこってりとしたスープを受け入れたというのも背景にあるのではないかと思います。さて昨今海外の方でも非常にラーメンが大ブームでございます。手前共でも最近は非常に多くなっておりますが、実は売上げベースでまだまだ会社の売上げから申しますと分母は低いのですが、昨年は１億２千万円程でございました。 今年は１７０～１８０％位伸びを見込み、多分２億円くらいに海外の売上げが乗るかと思います。今大ブームでございますけれども、実は今からかなり前ですが、１９８５年位まだバブルの前でございます、海外へ日本の百貨店がたくさん進出して行った時代です、ハワイの方へ白木屋さんとか、香港へ大丸さんとか、いろんなところから海外の物産展で日本のラーメンの茶屋を出してくれと手前共に要請がありました。それ以来１０年あるいは１５年と引き合いが長くございました、手前共も出て行ったわけでございますが、結構これが大評判でございまして札幌ラーメンの特徴先程申しました「フライパンの中で調理をする」のです。当時鉄板焼きで、紅花さんがお客さんの目の前でステーキを焼く時にパット火が上がりますね、こんなようなパフォーマンスがあったと思いますが。お客様の目の前で火を上げて調理をするラーメンという事で、このような事は世の中にはないので非常に好評を博して、長く続いて行きました。 それから成長期の初期になりますか、２０００年の頃から香港、シンガポール等から日本のラーメンの専門店を開業したいというお客さんの引き合いが増えて来ました。という事で先程の開業支援の部屋を創ったわけでございます。 素人の方にラーメンを教え、簡単に言えば７０点位まで無料で教えます。 １００点満点教えても自分の魂が入らないと教えた事にはなりませんからお金も取りません。ですから７０点くらいまでしか教えません。後の３０点は自分の魂を入れて下さいと言っているのです。お金を取ってラーメンを教えて繁盛しなかったら、金を払っているのに繁盛店にならなかったから何とかしてくれって来ますから。という事でお金は取らないのですが、そんな教え方をしております。後、海外の方に食材を生かす為の調理師だと、なんぼ日本のいい食材があっても、生かさないと日本料理になりませんのでそれを含めて開業支援の部屋を用意したという事です。 現在ですが１９の国と地域に出店しております。一昨年はヨーロッパの方に手前共１００％の法人を作りまして、こちらで作ったものを（現地では生産しませんので）アメリカの方で製麺のテストをした事がありますが、日本で作ったものと同じ物は出来ません、気候・風土・水が違いますので、あくまで日本で作った物を海外に持っていくというスタンスで今はやっております。本物のラーメンをやろうという事でやっております。 ヨーロッパの法人の方へはこちらで作った物を小樽から釜山経由でスエズ運河を通って冷凍のコンテナで持って行っております、またアメリカの方へは去年作ったところですが今のところホールディングにしております。 ホールディングにしてお客様にもお店に少し出資をしたり、経営の参加をしたりしているところです。スタートはアジアの方が早かったのですが、何故かヨーロッパが先になり、アメリカが先になったとよく皆さんから言われますが、売上げだけを目的であればアジアが先で、次ぎにアメリカで、その次ぎがヨーロッパだろうと、市場規模から言うとそんなものだろうと、経済のイロハを西山社長はわからないのかと、よくお叱りを受ける事がありますが、ご縁が遠くにあったからというのも一つあります。それから日本の食文化なり食材についての価値を認めて貰らえるという観点から申しますと、ヨーロッパの方が非常に日本に対してその価値を認めて貰えます。アジアは今大競争になっておりますので、という意味で札幌の食文化、札幌市民が育てて頂いたラーメンを大事に高い値段でというわけではありませんが、その価値を高めながら売っていくというエリアの順番から申しますとヨーロッパ、アメリカ、アジアが順番かなあと思っているわけであります。 国内事情を申しますと、少子化の影響で非常に厳しい状況でございますが、勿論軸足はこちらでございますが、海外市場で文化、食文化を味わうという事をヨーロッパに出てわかりました。さてラーメンの値段でございますが、よく皆さんから言われます「海外ラーメン高いですね」とよく言われます。私が思うには、海外が高いのではなくて日本が安すぎるのです。 日本からの食材を使った値段でございますと、大体アジアでは、１，２００～１，４００円位、

					アメリカが１，４００～１，６００円、ヨーロッパに行きますと１，４００円というのが大体フランス・ドイツあたりがこの値段ですが、高いところでは２，０００円がベルギー、ロンドンに行きますともっと高くなり２，５００円に、スイスでは２，７００～２，８００円位になります。 　中東のドバイになりますと３，０００円くらい、ちょっと高すぎると思いますが大体１，５００円くらいが海外における日本のラーメンの文化価値、食の文化の価値だと思っております。現地の製麺の値段は２００～３００円安いというのが現地のながれです。海外では多くの国でラーメンという言葉が既に認知されております。寿司と同じようにラーメンでございます。それから今から４０年前には海外では皆さん箸の勉強をされたように、今では皆さんラーメンを啜っているのです。驚きです。 　去年か一昨年ですが、ドイツに行った時に、ドイツのパートナーの社長が言っておりましたが「最近ドイツ人はラーメンを啜るんですよ」私が「啜るのですか」とい言い返す、私が「啜る事は多分難しいですよ」と言う、ただ音を立てているだけです。 　ドイツ人が５～６人で店に入って来るのですね、みんなラーメンが大好きですから、ドュセルドルフで手前共の麺を使っているのは、６～７店ございますがラーメン大好きなので、店の中で皆さんラーメン談義をしながらラーメンを食べているようです。日本とまったく同じです。その中で一人が音を出して啜るのですね、ずるずると啜るんです、理屈じゃないですこの世界は。そうすると皆さんがふっと見て、「お前今ラーメン啜ったな」と言うのです。啜ったら鼻高々ですよ、まだラーメン啜れないの、お前ら今ラーメンの事を語っているけど、ラーメン啜れるようになってから語れよと、まだラーメンの事を語るのは、早いと会話をしながら食べているんですよ。これ現実です。そこまで日本の食文化の価値が認められて来ております。今アメリカでもかなり啜っております。 　ですがなかなか啜られない方も多いのでレンゲが大きくなっております。 　まさにそんな時代に今来ているという事です。下の写真です、左が香港のお店です。真ん中がシンガポールのお店です。シンガポールは大体今ラーメン一杯１，３５０～１，４００円位です。今から１２～１３年前から始めておりまして当時はシンガポールドルで６５円位でしたね。６０円の前半でした。今はもう９５円ですか、ラーメンも上がっております。下の写真はワシントンD.Cのお店です。このお店は２階が居酒屋になっております。昼は大行列というお店でございますが、夜になりますと居酒屋に皆さん上がります。それから最後に締めでラーメンを同じ店で食べます。席が空いたら呼んでくれよ。こんな話です、下に降りてきてラーメンを食べて帰られるという事です。 　ラーメン店の客単価は夜の時間帯になりますと１０，０００～２０，０００円です。これが向こうのラーメンの事情です。居酒屋とラーメン店がほとんど一緒になってしまいます。これで今大成功されているのが九州の一風堂さんです。次の写真は左がドイツの手前共のパートナーのお店です。実はこのビルの上の方に手前共のドイツの法人の事務所があります。お客さんの店の中にお借りしております。右側がベルギーのお店です。下は先月オープンしたばかりです。フランスの郊外の日本人がまだ２０人位しかいないという郊外のお店です、日本人の方ですけれども今お店は大行列という話を聞いております。 　下の真ん中の写真がミラノ万博の会場の写真です。今日本館が大人気という事を聞いておりますが会場内にラーメン店が２店あります。その２店の麺を手前共が提供させて頂いております。下の右側の写真ですウラジオストックのお店です７月にオープンしてばかりです。ラーメン一杯６００ルーブル（１，３００円位）です。上の写真をご覧いただいたらお解りになりますが、ヨーロッパのお店はカフェで、食事をする時は皆さん外で食べるのですね、北海道とよく似た気候風土でからっとしているので外で食べた方が美味しいというような食スタイルがあるという事です。それから中東でございます。こちらも一昨年ハラルにテスト的に進出しました。今ドバイの方にラーメン店を１店出し食べて頂いております。これは向こうのお客様から送って頂いた写真なのですが、それを見て吃驚しました、あの格好をしてラーメンを食べるのかと、豚を食べられないのではないか、豚は抜いております。美味しく仕上がっております。 　ただ吃驚したのは、皆さん方箸を上手に使って食べているのです。昨年ドバイに行って来ましたが、寿司屋は大変多いですね、ですから日本食の数も多いです。という事で皆さん箸の使い方が上手いものです。ラーメンもこれから広がって行くと思います。ドバイへの進出は、正式なハラルの認証ではなくて、ドバイ政府の機関に認証されたという事です。エピソードがありまして、味噌と醤油はアルコールが出てくるのですね、ハラルにも味噌と醤油があります。 　当初出したものが、微妙にアルコールが出ていまして、その時にドバイ政府の認証機関からお客様（店主）が呼ばれまして、微妙にアルコールが出ているので駄目だと言われたのですが、そのお客様は日本の味噌ラーメン店をやりたいものですから「日本の味噌・醤油は歴史のある食料であり食べ物なので、製造過程ではアルコールを使っていませんが、製造後に微量のアルコールが出て来るのです」とドバイ政府に話され「アルコールが出ない菌を殺した味噌・醤油もありますが、ドバイの方は本当に日本のラーメンを食べたいのですか、死んだ味噌・醤油を食べたいのですか、生きた味噌・醤油を食べたいのですか」と聞いたところドバイの役人の方が「本物を食べたいからいいよ」という形で認可されたのがドバイです。マレーシアハラルはまだ認可されておりません。

					現地法人は手前共１００％出資しております。「中小企業の我々がコンサルタントにも相談しないで、１００％出資の現地法人を設立したのか」とよく聞かれますが、私共は現地に行って、現地のラーメン店さんと一緒に組んでやりました。手前共が現地に出ることによって、お客様のメリットが多いとわかると、本当にいろいろと相談に乗り、手伝ってくれます。私も現地に行きまして全ての情報を取りました。弁護士・公認会計士・司法書士の先生方もご紹介して頂　きました。アメリカ法人の弁護士の先生は、中央大学の出身です。銀行口座等もご紹介して頂きました。今は資材を置いておりません。全部蔵入れ、蔵出しという事でお客様に委託料を払っております、お客様の事務所の中に机を一個借りてやっております。という事でなかなかこれ雇用という事になりますと、日本より現地の方が難しいようですので、解雇という事になりますと大変な事になります。 いろんな保険の手続きとか、手前共のような中小企業なんかはわかりっこないですから、とりあえずスタートをさせて今は勉強中という事です。下の写真はドイツ法人の手続きをしているところです。右側の写真はドイツ銀行との口座開設という事で、非常にフレンドリーな銀行でした。私が行って全部サインを致しました。 コンサルタントも通さないという事ですので、行政の皆様方にご支援を頂いております。 中東の方にもいろいろと行政の皆様にご支援を頂いており、真ん中の写真は経産大臣が手前共に来られてハラルでご出席頂いたときのものです。 それから石破大臣にも食べて頂きました。欧州の方ですが、現地も日本のおもてなしの産業を誘致しておりますので、実はドイツ本国から助成金を貰いました。申請用紙がドイツ語なのです。ドイツ語では書けないから、要らないと言っても、ラーメンの拠点を作って貰ったのだから、うちの公社の実績にしたいからと言うので公社に全部書いて貰いまして、３，０００ユーロ位ですけれども（４００，０００～５００，０００円）助成金と登記証を頂きました。 アメリカの方も札幌の総領事に手前共の会社の方に来て頂きまして書類に印を頂きました。今後の事でございますか、ラーメンも寿司と同じように二極化が始まるのかなと思います。手前共の会社は本物のラーメンを、日本で作った物を海外に持って行って、もし札幌市民の方で手前共のラーメンがお好きな方が、海外で食べられても、やっと美味い物が食べられる、「ナンチャッテラーメン」とは違うな、さすが西山さんだと、こんな事をするのが、手前共が今やるべき事かなと思い、今海外でやっている事です。今後も皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら中央大学の卒業生として、恥ずかしくない社会人として頑張って参りたいと思います。」 続いて第３部の懇親会に入りました。当支部顧問の和田丈夫氏（昭和３５年・法・和田丈夫法律事務所所長）から「皆さんしばらく振りです。と申しますのは檜森さんにこの支部長職を禅譲致しましてその後他の予定とかち合って、この総会を失礼した事がございますが、幹事長からご指名を頂いた機会にこうして口達者なところで出て参りました。只今は西山社長さんから本当にもじ通りグローバルですね、地球規模インターナショナルじゃないんですね、グローバルなラーメン食文化のお話を非常に興味深く伺いました。本当に有難うございました。 先ず東京からお見えのお客様、それから父母連絡会の方も暑いところお運び頂き有難うございました。西山さんのこれからのますますのご発展を祈念致しますが、これを前提に我が母校、それから白門会の今後のますますの発展とご出席の皆様方のご健勝をお祈り致しまして、声高々に乾杯を致したいと思います。ご唱和をお願い致します。」ご挨拶と乾杯の音頭で宴に入りました。続いてご来賓の林勘市常務理事から「昭和４８年法学部卒業でございます。現在キヤンパスの施設担当、国家試験対策、そして学員会の担当をさせて頂いております。 昨年の６月に新しく深澤理事長の元で新体制がスタートし、１１月には総長・学長の酒井正三郎先生に就任頂きました。今年の５月には評議員会の議長に元日弁連会長の山岸憲司先生に就任して頂きまして、深澤執行部としては２年目を迎えたところでございます。 この一年間を振り返りますとスーパーグローバル創生支援大学索引型２３校の選に漏れまして、大変皆様にご心配をお掛けし致しました。大学の計画が徹底した国際化ではなくて、中途半端な取り組みの目標数値だったという事で落選致しました。また今年の１月には箱根駅伝でも本選でシード権を取れずに終わりました。大変皆様にがっかりさせました。青山学院がクロスカントリーコースを造って急激にタイムを伸ばしたという事がありましたので、学員の皆様からのご寄付を頂戴致しまして、現在本学の陸上競技場の外周コースの一角にクロスカントリーコースを造設して工事に入りました。学員皆様の物心両面に亘るご支援が選手一人一人に伝わって、きっと頑張ってくれるものと期待しております。 また最近本学の志願者が減少してきて非常にブランド力にかげりが出ているのではないかという事でありますが、しかし現在の学生の皆さんは一所懸命頑張っておりまして国家試験、特に司法試験では本年度択一合格ではありますが９名の差をつけて、早稲田に差をつけて現在１位でおります。 ９月８日には最終合格者数が発表されますが、１位、２位を早稲田と争うというところにきております。また公認会計士試験も昨年は７名の差で早稲田に抜かれて３位におりますがもう一歩で早稲田を抜くところ迄きております。 特に皆様ご承知の経理研究所が非常に良い教育をしておりまして昨年も大学一年生で公認会計士試験に合格しております。内訳を申し上げますと、一年生で１名、二年生４名、三年生１０

					名、四年生１０名合計でばりばりの現役で２２名合格させております。非常に早期合格は経理研究所で鍛えているお陰であります。現役の学生は一所懸命頑張っております。 　最近はマーチの一角に並ばされていまして、マスコミでもマーチから中央がまっさきに零れるのではないのかという所まで揶揄されておりますが、決してそうではなくて非常に質の高い学生が現在も頑張っております。 　そのあたり、でもやはり志願者減の傾向を何とか食い止めて、中央大学のブランド力Ｖ字回復を果たすために現在中・長期計画を立て１０月末を目途に策定中でありまして、何とか未来の中央大学、本年は創立１３０周年に当たっておりますが１５０周年、２０年後には早稲田、慶応と互角に戦っているあるいは、それらを越えているような中央大学に持っていきたいという事で頑張っておりますので皆様からのご支援を今まで以上に賜りますようお願い申し上げます。」 　　続いて大木田守学員会副会長から「先程、檜森支部長がとにかく札幌支部は明るく、仲良く、楽しくとこれが正に学員会の方針でありまして、そういう楽しい会がいいですね。札幌支部の総会は久野会長が楽しみにしておりまして、今回伺う予定でしたが、７月２４日からＴＴＰの交渉でハワイに行っており、８月２日に帰国しましたが仕事が山積しておりどうしても出席が出来ませんので、私が代理で参りました。 　学員会の支部は全国に２３８支部ありますが、その中で設立が１００年以上の支部が２１支部あります。札幌支部は１８９８年８月１８日に札幌支部は誕生しております。明治３１年全国の支部の中で８番目に出来ております。今年で札幌支部が誕生して１１７年ですから、３年後は設立１２０周年になります盛大にお祝い下さい。 　本学も本年は創立１３０周年でございます。先程林先生からも大学のご報告ありましたが、私は１０月２５日ホームカミングデーを今年担当している立場からその内容についてご報告させて頂きます。卒業後５０周年の皆様をご招待しておりますが、北海道から１名参加する事を聞いております。 　ホームカミングデーにおいては、創立１３０周年の記念の特別企画を立てており、掻い摘んで申し上げますと１０月２５日（日）午前１０時から深澤理事長から今後の本学の中・長期構想についての骨子をお話し頂き、続いて酒井正三郎総長・学長、久野修慈学員会長の挨拶があります。本年は１３０周年に当たりますので、来賓の方等、政界、財界、法曹界そして文化、スポーツ、芸術の代表の方も招待する事になっております。 　その時に今年３月に卒業した白門２０１５年支部のスタートを祝って既存の８０支部がのぼりを持って集まります。また式典では本学の１３０周年に相応しい、「中央大学の未来へ～私の提言」というテーマで記念論文を募集し、賞金の額も１３０周年に相応しい１３０万円を最優秀者に渡す等のイベントをいろいろと考えております。ついては本日お集まりの学員各位におかれても是非ご応募して頂きたい、どんな厳しい提言でも結構でございますのでよろしくお願い致しますます。 　もう１つ「中央大学とオリンピック」というテーマで特別企画を立てております。当日は遠藤利明氏（東京オリンピック・パラリンピック担当大臣・昭和４８年・法）にご出席頂くほか木村憲治氏（日本バレーボール協会会長、ミュンヘン五輪金メダル、昭和４３年）の講演「オリンピックと私」、秋山俊行氏（東京都副知事、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会副会長、昭和５２年・法）の講演「世界一の東京オリンピックに向けて」、また「アカデミック企画」として山田正氏（理工学部教授、河川・水門研究室）、石川幹子氏（理工学部教授、環境デザイン研究室）両氏による対談「東京が動く～白門力で東京再生を」、また「寄席の世界を楽しむ」と題して柳家小団治師匠（昭和４２年）、桂やまと師匠（平成１１年），春風亭朝也さん（平成１４年）、林家つる子さん（平成２２年）出演による落語「笑いからはじめよう白門ファミリーの輪」等。 　続いて小畑悟氏（学員会東北・北海道ブロック担当副会長）から「実は２年半前に金井さん（学員会顧問、昭和３８年・商）から学員会の副会長をやれと命令されまして、このような立場になっておりますが、なった以上は母校のために一生懸命努力しそしてまた私共の同窓会・ＯＢ会の為に結束を固めて頑張っていきたいと思っております。また私の爺さんが明治時代に札幌で落盤事故で亡くなっておりますものですからこれも縁かなと思っております。いろいろとお世話になりますがよろしくお願い致します。 　もう一つお願いがあります秋田は何もないところですが、新正というお酒が大変有名です、その荒又酒造会社の女社長は中央大学の出身です。またそのご主人も本学出身でして、本日はこの銘酒を持って参りましたので皆さんでご賞味頂ければと思います。」懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み、会員同士が名刺交換をし、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。 　今回新たに会員となった学員は総勢１６名で壇上に立ち自己紹介を兼ねそれぞれ挨拶を頂きました。 　・大高　英男氏（昭和３９年・商） 　・大山　裕司氏（平成２７年・商）ＳＭＢＣ日興證券（株）札幌支店 　・倉知　康男氏（平成３年・商）　新日本有限責任監査法人札幌事務所 　・黒坂　頌胤氏（平成１７年・法）　司法修習生

					・小北　和雄氏（昭和４８年・商）　札幌商工会議所 ・小水　基弘氏（昭和６３年・法）　（株）コミーズ ・谷口　雅子氏（昭和５９年・法）　谷口雅子公認会計士事務所 ・戸張　博之氏（平成３年・法）（株）日清製粉グループ本社総務本部 ・新見　雅也氏（平成５年・理工）　第一生命保険（株）道央支社 ・二階堂　はるか氏（平成２４年・経済）　北海道文化放送（株） ・西川　宗助氏（平成２７年・法）　北海道建設部住宅局住宅課 ・原山　知寿子氏（平成７年・文）　十勝毎日新聞社札幌支社 ・半田　武大氏（平成１７年・商）　カワモト白衣（株）札幌営業所 ・宮腰　侑希氏（平成２６年・経済）恵庭市保健福祉部福祉課 ・村木　一行氏（昭和５５年・法）　北海道保健福祉部 ・村田　康広氏（平成７年・法）　（株）アークス総務部グループ 会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入り、全員が輪になり肩を組み合ってそれぞれ３番までフルコーラスで熱唱し、誰もが過ぎし学生時代へ思いを馳せている様子でした。 結びは柴田副支部長が壇上に立ち「今日は本当に大勢の皆さんにご参加頂きまして先ずは有難うございました。何時も締めを仰せつかっているのですが、この校歌、応援歌から本当に３０年前私でいうと３８年前位になりますが、ワープして青春時代を思い出すというか、血が騒ぐというか、皆さんもそうだったのではないかなあと思います。 恐らく５０年前、６０年前を思い出している諸先輩もいらっしゃると思いますけれども、有難うございました。いや本当に元気で何よりだと思います。最近札幌支部は檜森支部長に代わられて参加者の世代が代わってきたのか、今日参加されている方も見ましたら非常に若い方が増えているような気がします。 私のポジションはどちらかというと、偉大なる先輩から私が次世代に繋ぎ役の世代かなと思っております。若い世代の人は是非頑張って頂いて、この偉大なる先輩の功績を継いで行くという事ですね。先程お話しがありました通り当支部も３年後には創立１３０年を迎えます。 恐らく我々の世代でいうと、もう二つ位上の世代の歴史があるという事ですので、本当に繰り返しになりますけれども、是非偉大なる先輩の後を引き継いでいく次代の皆さんに頑張って頂きたいと思っております。 まあしばらくは檜森支部長が老骨に鞭を打って頑張ると言っておりますので一つ応援をして欲しいなあと思っております。恐らく白門、中大というのは気質からいうと質実剛健だと思います、男らしさという事ですね。では最後は一本締めで気合いを揃えて行きたいと思いますのでよろしくお願いします。」 懇親会は和やかに終了し、散会となりました。尚総会へ札幌市役所白門会より飲み物の寄贈がありました。
		9	4	白門ミーティング北海道・東北ブロック会議への参加	中央大学学員会では、学員ネットワークの拡充・強化の一環として、平成２６年度より地域ブロックごとの「白門ミーティング」を開催していますが今回は、北海道・東北ブロックを対象に実施され、当日は函館市にあるロワジールホテル函館を会場に行われました。 当支部からは、檜森支部長、柴田副支部長、西原幹事長が出席致しました。道内からは他に、函館の平沼冠三支部長以下３名、小樽の内藤重雄副支部長以下２名、旭川の八重樫和裕支部長以下２名、帯広の後藤裕弘支部長以下２名、釧路支部の中村圭佐支部長が出席されました。 東北からは青森県支部の葛西勝尚支部長、宮城支部の村上青史支部長以下２名、秋田県支部の柴田一宏支部長以下３名、山形支部の舟山政紘副支部長以下２名、山形庄内支部の柴田東副会長以下２名、福島白門会支部の佐久間順副幹事長、郡山白門会支部の佐藤正廣副幹事長以下２名、会津支部の金子恭也幹事長、いわき白門会支部の桑名基勝幹事長が出席されました。 中央大学から林勘市常任理事、また学員会本部から久野修慈会長、金井重博顧問、石渡光一・大木田守・小畑悟・高嶋民雄・三和彦幸・安田征史各副会長、清野強事務局長、豊田裕浩課長が出席されました。 第一部の意見交換会は、冒頭清野事務局長の進行で行われ、小畑副会長（北海道・東北ブロック担当）の開会挨拶、久野会長の挨拶、林勘市学校法人中央大学常任理事の挨拶がありました。開催趣旨説明並びに意見交換会の進行は高嶋副会長（学員ネットワーク担当）が行いました。 会議は事前に学員会本部及び大学に対する質問・意見・要望並びに他支部の参考になると思われる事業・活動を掲載した「アンケート」を基に進められました。 出席された東北・北海道の各役員からは「アンケート」以外にも、支部が抱えている課題や各支部間の情報共有をはじめ、学員会本部及び大学に対する忌憚のない意見・要望等も活発に出され、大変有意義な会合でした。 続いて第二部の懇親ミーティングは、久野会長の挨拶、地元を代表して平沼函館支部長の挨拶があり、金井顧問の乾杯で懇親会に入りました。 清野事務局長の司会で進められ、全国でも有名な江差追分で日本一になった民謡歌手による余興もあり、終始和やかな雰囲気の中で行われました。東北の支部との交流は、初めてであり、お互い人脈も作る事が出来ましたので、一過性のものとして終わらせる事なく、今後も交流する機会

					を作っていきたいと思います。会の最後は、安田副会長の閉会の挨拶で終了しました。
			12	第 52 回ゴルフ大会の開催	本年度３回目は昨年に続き北広島市にある「札幌リゾートゴルフ倶楽部トムソンコース」において開催されました。小樽支部との交流を兼ねた本大会は本年で４回目を迎え小樽からは関口正雄支部長（昭和４７年・法・関口・鷲見法律事務所）、佐野英昭氏（昭和５４年・工・環境工房（株）代表取締役）の２名にご参加頂きました。当支部からは西山眞吾会長以下１４名で併せて参加者は１６名となりました。あいにく当日は曇天で時折霧雨が降りましたが前半のアウトコースを午前８時２１分にスタートしました。 コースの後半には雨も上がりゴルフには絶好の日和になりました。恒例により競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は当支部の工津輝雄氏（昭和３９年・商・（株）エミック代表取締役）がアウト４３、イン３７で回り、準優勝は伊藤宏二氏（昭和５６年・理工・ＺＥＫＫＯ　ＩＮＣ．代表取締役）がアウト４３、イン４０で回りました。西山会長から賞品を全員に手渡しました。尚ベストグロス賞は舛田雅彦氏（昭和５６年・法・札幌総合法律事務所）がアウト３９、イン３８で回り獲得しました。その他にニアピン・ドラコン・大波・小波・平和の各賞を盛り沢山用意しました。 西山会長の挨拶に続いて関口支部長から「小樽支部も会員の高齢化が進み当支部のゴルフ大会の参加者も少なくなって来ているので、札幌との交流大会には来年度も継続して参加したい」旨挨拶、優勝の工津氏から優勝の弁、小樽支部の佐野氏からお礼の挨拶を頂きました。 会は終始和やかな雰囲気の中で進み次年度の再会と健闘を期して和気あいあいの内に散会しました。尚関口支部長から小樽の地ビール、檜森支部長から紅茶、当支部顧問の出戸一成氏（昭和５６年・経済・マックスバリュ北海道（株）相談役）から前回に続いてバッグ、同じく田代信一氏（昭和５６年・文・（株）京王プラザホテル札幌リスク管理担当支配人）からはお菓子の詰め合わせを賞品としてそれぞれご寄贈頂きました。
		12	9	支部年末懇親会の開催	温暖化気候の影響のせいか、師走に入っても市内は雪が少ない毎日が続く最中、恒例の支部年末懇親会が午後６時より京王プラザホテル札幌３階「雅の間」において檜森聖一支部長以下１００名の会員と、ご来賓に本学父母連絡会札幌支部長山下裕司氏をお迎えし開催されました。約２時間３０分お互いの近況を語り合いながら母校の更なる発展に向けて奮闘を誓い合いました。司会進行は成田寿美子（(有）ミュージック企画）さんにお願いしました。 冒頭檜森支部長から「支部長になって丸２年になります。スローガンは元気で、明るく、仲良くやろうという事で本年は道内各支部との交流、父母連絡会札幌支部との交流、そして東北地区の各支部との交流を進めて来ましたが、なかなか思い通りにはいきません。また本日ご出席されたメンバーをご覧になったように高齢化が進み若い学員の入会が少ないという事で皆さんのご指導・ご協力を頂きながら、来年度はもっと若い人達もたくさん入会して頂き、あるいは女性にも入って頂き更に交流の輪を広げていきたいと考えておりますので、何とぞご協力を賜りたいと存じます。 さて本学の近況を申し上げますと、明治１８年に英吉利法律学校として創立されて以来本年は１３０年を迎えており、この間卒業生は５４万人を超えております。 ① 平成２７年度の司法試験合格者で本学は１７０名と久し振りにトップの座に返り咲きました。 ② 去る１０月１８日（日）開催されました東京箱根間往復大学駅伝競走の予選会で８位に入り、来る１月２日～３日に行われる「第９２回箱根駅伝」での優勝を目指し８７回連続し９０回目の出場を果たしました。 ③ 去る１１月９日本学の中・長期計画の一環として２０２２年を目途に法学部を現在の多摩キャンパスから都心部の後楽園キャンパスに移転する旨の新聞発表がありました。 ④ 本学の男子バレーボール部は、関東大学リーグ戦で春・秋を連覇し１２月８日（日）全日本大学選手権の決勝で筑波大学を３対０のストレートで破り２連覇を達成し、全日本最多の１４回の優勝を飾りました。またラクビー部が久し振りに正月に行われる大学対抗選手権に出場する等々文武両道に頑張る事は非常にいい事だと思っております。来年は４名の副支部長、

					幹事長と一緒に学員会活動をもっともっと活発にし、交流をより深める事に頑張って参りますので皆様のより一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。学員の皆様には来年こそもっともっといい年でありますようこ祈念致しまして挨拶とします。」 続いて第一部の卓話「ものづくりと地域のかかわり」に入りました。講師に染谷昇氏（昭和４９年・商・ソメスサドル（株）代表取締役）を迎え以下のようなお話を頂きました。 私どもは、１９６４年（昭和３９年）に創立した会社でございます。 昨年度、５０周年を迎えた年でございまして、ささやかながら祝賀会をやらせて頂きました。その時に観て頂いた DVD をご覧頂いた後で、お話をさせて頂きます。時間は７分間でございます。 DVD をご覧いただいた通りでございますが、今年は創業以来５１年目を迎えました。私は、その５１年のうち、約４０年間ソメスサドル（株）に関わって参りました。私は５代目の社長になります。６年前までずっと東京の営業所で仕事をしておりましたが、代表取締役に就任したことで本社に戻ったわけです。私の故郷でもありますので、４０年振りの U ターンになりました。 ソメスサドルの前身は、オリエントレザーという会社で、５１年前に歌志内で誕生しました。皆様もご存じと思いますが、歌志内は炭坑で栄えた典型的な企業城下で、私も子どもの頃の勢いある時代を記憶しております。何か湯気が上がっているようなそんな街でございました。歌志内は、炭鉱夫と呼ばれるような人たちや東京の本社から人事異動でくるエリート社員や家族などが暮らしておりました。私の父親も北炭にお世話になり、家族で社宅に住んでおりましたが、私も小さい頃から様々な環境の人と触れ、異文化、炭鉱文化と言ってもいいような地域で育ちました。 昭和３０年代の半ばには、残念ながら国のエネルギー産業の変更といいますか、石炭を掘ること事態がかなわなくなってきた時代になりました。これは歌志内が市に昇格して間もない頃でした。当時は４５，０００人位の人口でしたが、先ず北炭が閉山になり、住友系の炭鉱はありましたが、どんどん縮小の途をたどり、小学校が一つ無くなるくらいに疲弊するのが、あっという間でございました。 そんな時代、このオリエントレザーという会社が誕生したのです。地元の炭鉱離職者の再雇用と北海道に点在していた馬具職人が職にあぶれる時代でもあり、その職人たちが歌志内に集まり、炭鉱離職者に技術指導をし、馬具を輸出する目的で、オリエントレザーは創立しました。これは当時、上場２部の商社であります野崎産業という会社が全てを取り仕切って製造が始まりました。歌志内市も株主になり、公共性の高いところからのスタートでありまして、創業から７年間位は非常に順風満帆だったようです。 残念なことに、１９７１年のニクソンショックという予想もつかない経済変化がおきました。固定レートで１ドル３６０円だった円が、変動相場制になって一気に１ドル２００円台になって円の価値が上がったのです。しかし輸出企業にとっては、これほどダメージを受けたことはありませんでした。残念ながら、オリエントレザーも会社そのものを存続する事が非常に難しくなり、事実上の倒産に近い状態に追い込まれました。昭和４０年の後半でございました。 実は初代、２代目と札幌出身の方が代表者であったのですが、３代目に私の父親が引き受けたことで、私と兄、兄弟二人が関わることになりました。それ自体、今思い起こしますと不思議な縁を感じますし、よく４０年間この仕事に関わって来たなと感慨深いものがございます。 私の父親は、企業誘致の際に中心的に関わった一人でした。再建者の商社の方からパブリックな要素の高い企業でもあり、何とか存続する方向でということでかなり時間をかけて協議をしたと聞いております。結果としては、存続するということであれば、「染谷さん、社長を引き受けてくれませんか」ということで、私の父親に白羽の矢が立ち、要請を受け入れたと 聞いております。私はその頃、大学３年生から４年生になる時でございました。まさかそんな事にはなると夢にも思っていませんでした。そんな経緯を辿って、私の父親はかなりの債務を引き受けて継承したのです。しかし、社長を引き受け就任して、すぐ倒れまして６７歳で亡くなりました。少し大げさかもしれませんが、私は、父親の遺志を継ごうという思いもありまして、現在に至っております。 歌志内が炭鉱で栄えておりました頃は、非常にスポーツが盛んで、どんなスポーツも結構レベルが高かったわけなのです。ウインタースポーツも盛んで、スキー選手もたくさんいました。私はその環境の中で育ちましたので、気がついたらアルペンスキーをやっておりまして、小学校、中学校、高校と迷いなく続けておりました。 高校卒業から進学という段階になったところで、私としては成績も残せたし、東京の大学を志望してはいたのですが、スキーを続ける考えはありませんでした。したがって、中央大学に進学するという選択は、私の引き出しにはありませんでした。インターハイが終わり長野から帰ると、私の高校時代の恩師と、地元の市役所に勤務していた中央大学スキー部の先輩の二人が、私の自宅に来られました。これは、私の人生の大きな分かれめで、「昇、スキーをやらないというけれど、大学進学してスキーは続けるべきだ」と中大進学を強く勧められまして、思い悩みました。当時、まだ父親も元気でしたので相談したところ、今でも、なかなかいいアドバイスを貰ったなあと記憶しておりますが、「昇、それは自分で決めたらいい。父さんは、どっちを選んでも応援

					するから決めるのは自分だ」とそんなに口数の多い父親ではありませんでしたが、アドバイスしてくれました。時間がない状況でしたが、スキーを続けようと決心をしました。 　しかし、中央大学に入学できるという自信はなかったのですが、運良く入学することができまして、併せてスキー部に入り、４年間の合宿所生活を送りました。これは自主運営型の合宿所でありまして、４年間かなりストィックな生活をしておりました。このスキーを続けたことで、学業の方はさほどではありませんでしたが、４年間で様々な経験をし、大きな事故に二度も遭遇することになりました。 　大学に入ってすぐに北アルプスの立山で遭難をしました。これはいち早く雪の上でスキーを滑るという目的で、１１月の始めから後半まで合宿するのが恒例でありました。しかし、その年は山の厳冬期が早くて一週間位荒れてなかなか下山ができなかったのです。その日は、山小屋の戸締りをして下山を開始したのですが、そこでまた大荒れ、猛吹雪に見舞われました。一緒に下山しました同志社大学の山岳スキー部の仲間１４名の内７名が残念ながら亡くなりました。これは私にとっても、非常にショッキングなことで、何でこんなことになったのか、スキーをやらなければよかったのかなあなど、かなり思い悩んでいたことを忘れることはできません。 　そして、３年の時でした。例年通り１２月は八方尾根（オリンピックのあった）で合宿をしておりました。黒菱ゲレンデという所に中央大学山岳部の山小屋がありまして、そこで練習をしておりました。これも予期せぬ事故でした。私の一年後輩、私が一番可愛がっておりました後輩でした。彼がスキーの練習の途中で転倒し、木に激突して亡くなってしまったのです。ほぼ即死でした。その日は、２メートル以上の長さの滑降用スキーを慣らすのに、初めて滑った日でした。練習日ではなかったので、チームで滑っていたわけではなく自由行動でした。私は何時も後輩と行動を共にしていましたので、彼と一緒に小屋を出てオリンピックの滑降コースを一本目滑りました。前の日は大雨で、ぐちゃぐちゃの雪でした。練習にならなかった事を覚えております。翌日、ゲレンデはアイスバーンでした。新雪がアイスバーンになっていたのです。それで一本目は一緒に滑ったのですが、滑っているとスキーがブレてしまって、身の危険を感じましたので一本目で私はやめたのです。ところが彼は、二本目も滑って転倒し、事故にあってしまったのです。何で、声を掛けてあげられなかったのだろうと、悲しいというか、残念というか、悔やんでも悔やみきれない思いでした。 　スキーも一生懸命やりましたけれども、大きな事故に二度も遭遇したことが、４年間の大学生活を通して、自分の人格形成というものに大きな影響を与えたことは間違いございません。 　話は前に戻りますが、３代目の社長を引き受けた父親でしたが、丁度その時がその事故にあった後だったと記憶しております。輸出が１００％の企業でありましたので、これはもう国内マーケットに打って出るしかないというのは当然のことでした。当時、私は学生でしたが、郷里が大好きで、何か役に立てることがあるかもしれない。きっと将来、マーケットの面でも、東京が中心になるだろうとの思いもありました。父親にこの仕事をさせてほしいと、名前だけでいいからと伝え、東京で始めることを決意しました。 　大学卒業後、今の仕事をすることを前提で別の会社に就職し、一年で退職して仕事を始めました。当初は当然ながら馬具をつくっておりましたので、馬具製品を国内で売ろうと、馬のいる所を調べ、全国をまわって歩きました。日本中央競馬会さんには、大変お世話になりました。しかし、２０代の前半、いわば駆け出しの者にとっては、中央競馬会に馬具を持っていって買ってくれるだろうかと不安でしたが、馬事公苑などにも足繁く通いました。なかなか注文は貰えませんでしたが、少しずつ修理をさせて頂けるようになりました。 　間もなくして、馬事公苑の中にあった競馬学校が千葉県の白井に移りました。その頃から、少しずつ競馬学校の教官の方々とコミュニケーションができるようになりました。生徒さんが使われる鞍を「こういう物を作って欲しいのだけれど、作れるだろうか、染谷さん。」とこんな声を掛けられるようになり、徐々に一緒に開発をし、製品を作り上げることができるようになってきました。 　今となっては、日本唯一の馬具メーカーといわれておりますが、よくここまで続けてこられたなあと実感しています。騎手や競馬関係者の方々が、私どもの、ものづくりに対して期待を寄せ、製品を使っていただけたことは、信頼される馬具を提供しようと愚直にものづくりしてきた結果だと思っております。 　あの有名な騎手、武豊さんも競馬学校時代の生徒の頃からよく存じていますが、あの頃からオーラがありました。デビュー時から今に至るまでずっと私どもの鞍を使って頂いております。中央競馬会には１２９名の騎手 がいますが、７０～８０％の騎手の方に私どものレースサドルを使って頂いております。また、武さんのご紹介もありまして、世界の超がつく有名ジョッキーも結構使って頂いております。有難いことでございます。 　しかし、実際には馬具だけでは、輸出だけをやっていた企業にとっては、非常にバランスを欠いておりました。私も東京で馬のいる所をずっと回っておりましたが、ビジネスとしては厳しいなという思いがありました。 　海外の事例として、エルメスに代表される、過去に馬具を作っていた。あるいは、馬具を作っていたメーカーが押しも押されもせぬ世界のブランドになっているということは、一応素人なり

					に知識はありました。可能性は５％あるいはそれ以下かもしれないけれども、一般の革製品づくりを目指してみようとそんな強い思いになりました。馬具の製造、販売をしながら、一般の革製品の製造、企画開発という事を少しずつ手がけて行くようになりました 。これも１０年くらいの歳月がかかりましたが、最初の製品は無骨で、堅くて、重くて、さっぱり評価の対象にならなかったのですが、私は駄目もとで、有名百貨店や当時の有名ブランドにすすんで営業を続けました。不思議なもので駄目なりに足を運んでいますと、少しずつアドバイスをして頂けるようになってきました。 　当時は、相手先ブランドの仕事も手がけていたのですが、北海道警察のピストル・ホルダーも作っておりました。これは馬具づくりと似ておりまして１０年程お世話になりました。それも貴重な経験でしたが、いずれにしましても、馬具の製造技術の革製品が大前提です。しかし、名実ともに一流と評価されるブランドになるには、これから１０年も２０年もかかるのだと覚悟しております。 　現在、社員が１０３名おりまして、その内の半数は生産部でものづくりに従事しております。平均年齢は３５歳で、大体地元で生まれ育った社員ばかりでございます。まさに地域密着型といってもいいのではないかと思います。 　馬具の製造、販売と同じように力を注いできた一般の革製品におきましては、現在、直営店の４店舗、百貨店が中心のインショップで、トータル１０店舗を運営しております。卸売りもやってきましたが、現在の販売体制を以前から目指してきたのです。その直営とインショップ事業規模が売上げの半数を占めるようになりました。これは私どもがブランディングを意識して参りましたので、この比率をもっと高めていきたいと考えております。 　皆様にとって、革製品は、馬具は特殊な道具ですが、必ず靴やお財布、鞄、バッグ１つや２つはお持ちだと思います。革は主材料が牛です。成牛ですね。かつては北米の原皮を日本で鞣し、鞣したものが日本製として認められ、それが流通してきました。近年は、残念ながら中国の旺盛な需要でバランスが崩れて、なかなか原皮も入手しづらい状況です。現在、日本では約１００万頭が鞣されています。半分は北米、半分は国産の牛が流通しております。 　この牛の皮は肉の副産物ではありますが、大切な素材です。アメリカでは、運動もさせず、短期間で成牛のサイズまで成長させ、２年未満で屠殺されています。かつてのような自然放牧をして屠殺されておりません。あまり公表されておりませんが、餌として肉骨粉も使用されていす。また、女性ホルモンや抗生物資が使用されているという事実もございます。私は、３０年前、馬具の革は、強度がないと大変なことになるので、強度のある革を求めておりましたが、なぜ国産の革は丈夫ではないのだろうかと疑問をもち、いろいろと調べていった結果、実はそういう飼育方法をとっているということがわかりました。経済効率優先の短期的な育て方は、自由化になっても食肉は危険です。男性が中性化してきたと言われますが、多分、女性ホルモンの影響ではないかと、まことしやかに囁かれているのです。それは、決して間違いではないという思いをしています。 　現在、生産体制として、約５０名の技術職社員が砂川市の工場で働いてまして、同じ屋根の下で馬具のチーム、一般革製品のチームに分かれております。そして、大体３～４名のチーム編成でものづくりをしております。流れ作業というものは殆どありません。勿論、先程の DVD にも出ておりましたが、裁断をしたり、革を剥いたりするのは、機械を使わないとできませんが、その他の作業は、ほぼ手作りでございます。３～４名という編成は、長い間の経験でそうなったのですが、これは一人の職人・技術者が一つの商品を作り上げるために最後まで手をかけることは、技術を身につけるために一番いい方法だということが解ったからです。現在でもそのイズムは継続しておりますし、これからも基本的には変わることはないと思います。 　また、生産を支えている重要な一つの業務として、砂川市を中心に４０～50 軒の家庭内職と呼んでいる生産体制があります。これは、小さい子どもがいる方、あるいはお年寄りを抱えている方が、（家庭の主婦が多いわけですが）自宅で、手縫い専門、ミシン専門、あるいはコバ（エッチ）を磨くなど、ものづくりの一端を支えています。 　私は、ものづくりというのは、人づくりであると確信しております。かつてのような職人という世界も、私は決して嫌いではありませんが、徒弟制度というか、親方の背中を見て覚えなさいということが過去にありました。しかし、それでは時間もありませんし、今の若者にはあまり合いません。したがって、エンジニアという表現が当たっているかどうかはともかく、丁寧に指導し、時には、ミーティングをして、何故なのかと、どうしてなのかと追求をしていくことが、製造の現場においても、とても大事だと感じております。そして、コミュニケーションも大事にしております。 　この地域で、ものづくりをしながら、人づくりをする。人づくりは時間もかかり、とても大変なことでが、そんな価値観を継承していきたいと考えております。 　先日、砂川市で女性たちの手作り品のバザーがあったのですが、とても盛況でした。ものづくりが好きなんですね。人口比に対して、ものすごく多いのにびっくりしました。多分、手芸などをする人が多いのは、冬が長いこともあるのではと思います。 　ものづくりの好きな人が集まり、ヨーロッパが発祥の働く者同士が共同で事業主として対等に働く、ワーカーズコレクティブのような発想で、長時間は働けないけれど、できる時間を使って

					完成品を作り上げる共同の事業をすすめたいと思っています。砂川市の空き家を利用して、ものづくり が好きな方に集まってもらい、技術指導は私どもの社員がして完成品をつくり、会社が責任を持って引き取るという仕掛けを考えております。これは、私のライフワークのような気持で、取り組み始めるところでございます。こういうことが、もう少し定着していきますと、もっと違った形で地域に貢献していけるのではないかと、そんな思いでおります。 　最後に少し自慢話になりますが、最近、地方創生の話をよく聞きます。砂川市も同じでございまして、ふるさと納税を展開されています。一昨年の実績が年３００万円でございました。昨年の９月に砂川市の方から「染谷さん、エントリーしませんか」と、声をかけて頂きました。その時「でも、それは食べるものが中心でしょう。革製品は向かないのではないですか。」と、私はやんわりとお断りをしました。その後、また担当者の方が来られましたので、「それでは、今出せる商品というか、可能なものを何点かピックアップしてためしにやって見ましょう」と１０月から始めたのですが、何と昨年の実績は６，０００万円になりました。６，０００万円のうち８０％の方が、返礼品としてソメスサドルの商品をお選び頂きました。びっくりしました。選んでいただいた方の約５０％は、東京を中心とする首都圏の方です。 　新年度になりまして、引き続きお世話になっておりますが、若干商品の内容は変えております。今年は、もう沈静化していくのだろうという思いでいましたところ、むしろ拍車がかかっているといいますか、今年はまだ終わっておりませんが、１億円は優に超えるだろうと、と言われております。これまた、返礼品の比率の約８０％がソメスサドルの商品をお選び頂いております。とても有難い事でございます。私はここまでになるとは思っておりませんでした。 　返礼品は、私どもで発送しているのですが、私の下手な自記筆ですけれども、『ふるさと納税へのご協力のお礼と当社を選んで頂いたことへの感謝。そして砂川市の近くにお越しになられたら、会社にお立ち寄り下さい。工場をご案内します。』というようなメッセージを添えて送っておりましたが、あまりの数の多さに腱鞘炎になりまして、今は文章を印刷してサインだけに留めることにしました。こんなソメスサドルでございますが、これからも、ものづくりを通じて、地域に貢献していきたいと考えております。今日は、お話をする機会を頂きまして、ありがとうございました。 　講演の終了後第２部の懇親会に入りました。村木副支部長（昭和５５年・法・北海道保健福祉部）から「只今ご紹介頂きました北海道庁の村木と申します。先程支部長から話しがございましたが、中央大学の法学部がまた再び都心に回帰するという事ですが、また先程染谷社長からお話がありましたが、地方創生という事で都市集中が問題になっておりまして地方の再生をどうやっていくか北海道政の中でも大変大きな問題でございますけれども、戦後から約４０～５０年かけて北海道の人口が５７０万人まで伸びましたけれども今現在５４０万人という事で増田元総務大臣が発表したレポートによりますと北海道の中で約８０％位が地方消滅になってしまうという事ではありますけれども、北海道庁で先般纏めました人口ビジョンというものがございますが、なにもしなければ人口が４２０万人弱と単純な 推計ではありますけれども、それはそうはさせないと４８０万人位の人口を維持出来るように頑張っていこうと考えております。 　先程染谷社長から紹介がありました、砂川市の事例がまさに地方創生のモデルとなるような事で私も感心しておりました。今まさにそういう事を全道的に展開していこうというのが街、人、仕事づくりの政策でございます。アベノミクスで一段目の矢、二段目の矢という事で今６本程矢が放たれておりますけれども、最近の矢の３本の内の２つは子育てでありますとか、介護の奉仕であるとかいう事でございます。ますますこれからも北海道の人口が増えて、皆さん方の職業が突然小売業ですとか製造業となりますと人口が売上げのベースですから人口減少に早く歯止めを掛けて頂けるようにそれぞれの企業でも頑張って頂ければと思います。本日お集まりの皆様方これからますますのご健勝さらにはわが母校の中央大学のますますの発展を祈念いたしまして乾杯をさせて頂きますのでご唱和をお願い申し上げます。」 　懇親会は終始和やかな雰囲気で進み会員同士名刺交換を行ったり、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶回り、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで見受けられました。しばらく歓談の後司会者から新規入会者の紹介があり、１１名の新会員が壇上でそれぞれ自己紹介を兼ね５分程挨拶を頂きました。 ・一戸　麻里（平成２３年・経済）アフラック札幌総合支社 ・石井　健　（昭和４７年・経済）（株）イシイフーズ ・稲岡　脈雄（昭和５５年・経済）ほくでんサービス（株） ・後木　美緒（平成２６年・商）北海道経済部地域経済局中小企業課 ・川尻　寿彦（昭和５７年・商）（株）札幌副都心開発公社 ・作間　豪昭（平成７年・法）渡辺英一法律事務所 ・佐藤　昌之（昭和４９年・経済） ・白井　邦孝（平成９年・商）北海道恵庭南高等学校 ・高市　有希帆（平成２３年・法）（株）読売新聞東京本社北海道支社

					・田原　光恵（平成１９年・法）北海道空知総合振興局保健環境部 ・堀内　翼（平成２５年・法）明光義塾真駒内教室 　本会の目的は会員同士のより一層親睦を深めるものであり、アルコールが入ったところで恒例のビンゴ大会に入りました。 　酔いが回ったせいかなかなかビンゴが出ませんでしたが表ビンゴ、裏ビンゴ等の景品も出席者全員に当たるように支部、会員からのご寄贈もあり、「ビンゴ」の掛け声で会場内は一気に盛り上がりました。 最後にビンゴ大賞は、作間　豪昭氏（平成７年・法）が獲得しました。 　懇親会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入りました。 　新規入会の１１名の会員は壇上で、また出席者はその場に立ち３番までフルコーラスで熱唱し、惜別の歌に至っては全員が輪になり、肩を組むなど誰もが過ぎ去りし青春時代への思いを馳せているようでした。 　結びは舟橋副支部長が壇上に立ち、出席者全員「よーい」の掛け声により一本締めで締め、盛会の内和やかに終了し散会となりました。 尚、年末懇親会への飲み物・景品等の寄贈者は下記の通です。 ・札幌市役所白門会 ・田代信一氏（昭和５６年・文）京王プラザホテル札幌 ・植田克己氏（昭和５７年・法）日本中央競馬会札幌競馬場 ・高橋恭平氏（昭和４８年・理工）（株）タカラ ・吉川雅彦氏（昭和５９年・経済）（株）オンワード樫山札幌支店 ・工津輝雄氏（昭和３９年・商）（株）エミック ・松井宏衛氏（昭和５５年・商）バイエル薬品（株）北海道営業所 ・前田和男氏（昭和６０年・法）第一生命保険（株）北海道営業局
2016 年				上海理工大学に海外拠点設置	上海理工大学に海外拠点（第３号）設置
	28 年	1	29	札幌市役所白門会新年会への参加	厳冬の中、平成２８年札幌市役所白門会（会長：長谷川雅英＝教育委員会生涯学習部長、会員数：６８名）の新年会が上田文雄前市長、ＯＢと現役職員あわせて２４名出席のもと、市内にあるホテルオークラ札幌３階「アセンション」において午後６時１５分から開催されました。当支部からは檜森支部長、西原幹事長が参加されました。 　今回は新年会に先立ち、決算総会が開催され議案として①平成２５～２７年度決算報告、②役員改選が審議され諮った結果出席者全員異議なく承認されました。 　尚新会長に有塚広之氏（昭和６３年・法・市民まちづくり局公共交通担当部長）、副会長に水野雅人氏（昭和６３年・法・豊平区役所保健福祉部保険年金課長）、幹事長に押切栄人氏（平成１１年・法・西区役所保健福祉部保護三課保護三係長）が選任されました。懇親会は現幹事長の小松諭知氏（平成１３年・法・財政局財政部財政課予算担当係長）の進行によって行われ長谷川会長の挨拶、檜森支部長の挨拶・乾杯の音頭で宴に入りました。 　新入会員２名の紹介並びに挨拶、係長昇任者の紹介並びに今後の抱負についての挨拶等もあり、会は終始和やかな雰囲気の中で進み，会員同士が杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。 最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を力一杯唄い上げ、新副会長の水野雅人氏の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後恒例となっている二次会は、一次会での盛り上がりそのままに盛況のうちに終了しました。
		4	19	支部三役会議の開催	北海道経済センター3 階特別談話室において、午後 12 時より檜森支部長・柴田（代理）・舟橋・村木・有塚広之副支部長（昭和 63 年・法・札幌市市民まちづくり局公共交通担当部長）、西原幹事長出席のもと開催致しました。 　議案第 1 号　:「平成 27 年度事業報告並びに収支決算報告について」 　幹事長より別添資料に基づき報告了承されました。 　議案第 2 号　:「平成 28 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」 　幹事長より別添資料に基づき説明し学員ネットワーク拡充の一環として、「第 3 回学員会全道支部交流会」を小樽市において下記により開催する旨の提案があり了承されました。 　① 日　時　　平成２８年８月２６（金）午後４時～ 　② 場　所　　オーセントホテル小樽 　　（小樽市稲穂２丁目１５－１　　℡（0134－27－8100） 　議案第 3 号　:「平成 28 年度支部定時総会の開催について」 　幹事長より当日は大学本部より深澤武久理事長、学員会本部より久野修慈会長、小畑悟東北・北海道担当副会長を迎え下記日程により開催する旨の説明があり出席者全員了承しました。 　総会は下記の日程に決まりました。 　① 日　時　　平成２８年８月９日（火）　午後６時より 　② 場　所　　京王プラザホテル札幌 3 階「扇の間」 　③ 会　費　　懇親会費６，０００円　　支部年会費２，０００円 　尚、総会終了後恒例の卓話は（株）大丸松坂屋百貨店執行役員札幌店長　香川暁子氏（昭和 56 年・商）による「女性のキャリアについて」と題したお話を頂く予定。

					議案第４号　:「学術講演会の開催について」 幹事長より本件については札幌市教育委員会、札幌商工会議所、協同組合中小企業振興センターの後援、本学父母連絡会札幌支部の共催の承諾を頂いており、本講演会の PR と参加者の動員を図るためポスター、チラシを制作し下案の要領で周知をしたい旨報告了承されました。 ① Ａ１サイズのポスターを２５枚、Ａ４サイズのチラシ２３，０００枚制作する。 ② 札幌商工会議所･協同組合中小企業振興センターの会員向けに毎月配布している資料の中に２２，０００枚を入れ参加者を募る。 ③ 学員会札幌支部会員等向けにチラシをＤＭにて送付し参加者を募る。 ④ 札幌市民向けのＰＲとして､札幌市営地下鉄の１５の駅の掲示板にポスターを貼り参加者を募る。 北海道新聞、毎日新聞、読売新聞等を中心に市民向けのＰＲ版コーナーに掲載し参加者を募る。
		5	21	第 53 回ゴルフ大会の開催	本年度第１回のゴルフ大会（通算 53 回）は連日真夏日が続いている最中、札幌南ゴルフクラブ駒丘コースにおいて開催されました。西山会長、檜森支部長参加のもと１０名の会員から申込みがありました。 当日は午後１２時１２分にアウトコースをスタート、気温も２９度近く０迄上りましたが適当に風があり絶好のゴルフ日和に恵まれ楽しい大会になりました。恒例により競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会を行いました。 優勝は高橋恭平氏（昭和４８理工・(株）タカラ・アウト：４７　イン：４２）で同氏はベストグロス賞も併せて獲得しました。また準優勝は若田正己氏（昭和４８法・アウト４８　イン：４９）が獲得しました。今回は檜森支部長、出戸一成氏（昭和３５経済･マックスバリュ北海道（株））、田代信一氏（昭和５６文・(株）京王プラザホテル札幌リスク管理担当支配人）の３名から景品の寄贈がありました。懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み優勝者の高橋恭平氏の弁、今回初参加の佐々木教雄氏（平成３経済・(株）北洋銀行）の弁に続いて、最後は事務局から次回７月２３日（土）開催の第５４回ゴルフ大会、７月１５日（金）開催の「中大学術講演会」、８月９日（火）開催の「当支部定時総会」への参加要請を願い和気あいあいの内に散会しました。
		6	19	中央大学父母連絡会札幌支部総会並びに父母懇談会へ出席	ニューオータニイン札幌において開催の「父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会」へ当支部より檜森支部長が出席されました。当日は在校生の父母１４０名が参加されました。午後１２時３０分より総会に入り、山下裕司支部長の挨拶に続き「２０１５年度事業報告・決算報告」、「２０１６年度事業計画案・予算案・役員改選」が審議されました。その結果新支部長に百井元幸氏、副支部長に小沢知文・平石知輝の両氏他新役員が選任されました。 引き続き「父母懇談会」が開催され、経済学部教授の北沢格氏からは「大学の近況について」、商学部事務室の米川竜弘氏から「学業・学生生活について」、キャリアセンター松岡亜希子氏からは「最新の進路・就職事情について」お話がありました。 次いで染谷昇氏（昭和４９年・商・ソメスサドル（(株）代表取締役）からはご自身の生い立ち、会社の経営方針等についてお話しがありました。終了後は希望者に対して個人相談会、懇親パーティ（希望者）も開催され父母の交流が深まりました。
		7	15	学術講演会の開催	中央大学主催、学員会札幌支部・父母連絡会札幌支部共催、札幌市教育委員会・札幌商工会議所・（協）中小企業振興センターの後援による学術講演会が北海道経済センター8 階Ａホールにおいて午後 2 時から開催されました。講師に宇佐美毅氏（学校法人中央大学文学部教授）を迎え「池井戸潤作品はなぜヒットするかー『半沢直樹』『下町ロケット』などに見る現代性ー」と題した講演に札幌市民、札幌商工会議所会員、学員、父母連絡会会員 133 名が熱心に聴講されました。 講演に先立ち檜森学員会札幌支部長の開会の挨拶に続き講演に入りました。 「只今檜森支部長から紹介されましたが例年開催される講演会は難しいテーマのお話が多いようですが、今日は学術講演会という名前に恥じるようなあまり難しくない話を、学術的でない話しをさせて頂こうかと思っております。中央大学は法学部が看板でして、法科の中央とよく言われますし、実学の中央と云いまして世の中の役に立つ人材を育てるということが、中央大学の建学の精神がそもそも実地応用の礎を養う、実地応用という事で、社会で本当に役に立つそういう人材の基を鍛えるのだという事が中央大学の建学の精神なのですが、私残念ながらあまり建学の精神に貢献しておりませんで、あまり実学ではないと云いますか、全然実学ではないと申しますか、中央大学でも柔らかい方の研究をしている人間が居るのだという事で知って頂ければいいかなあと思っています。 今私はご紹介頂いたように文学とかドラマの研究をしているのですが、そういった事でいろんな所に声をかけて頂いたりします。それでいろんな所に行くのですが、授業もこんな感じなのですが、いっぱい学生が来てくれているので、よっぽど私の話が面白いのだろうな、人気があるのだろうかと思うと「先生の授業はドラマがいっぱい見られていい。」毎回感想を聞くのですが「今日先生の話ちょっと長かったかなあ、来週はもっと短くして下さい、ドラマをもっと沢山見せて下さい。」言われたりしますので、私の話が面白いのではなくてドラマがきっと面白いのだと思うのですけれども、そういった事をしている関係でいろんな所に呼んで頂いたりします。 授業の様子をつい最近テレビで取り上げて貰いました。テレビ朝日系列ですので、こちらですと北海道テレビ放送になると思います。こんな風な授業をしている事を、折角ですから中央大学

の宣伝も兼ねて少し見て頂こうと思います。こんな風な事をやっておりまして、いろんな所でテレビの研究者というよりはドラマの伝道師というつもりでいるのですが、いろんな所で声を掛けて頂きまして今回のような講演会に呼んで頂いております。

講演会に呼んで頂きますと地方に行けますので、その地域のただ観光するだけではなくてドラマに因んだ場所に行ったり、そういう事も勿論させて頂いております。札幌はついさっき飛行機で着いたばかりですのでまだ何処にも行っておりません。隣が時計台ですのでこれから行こうと思っております。

例えばこれが岩手県の盛岡で講演会に呼んで頂いた時ですが、盛岡といえば私の中では「どんどんハイツ」という朝ドラの世界なのですが、そこも勿論行きますし、やはり「あまちゃん」の久慈市ですね、ドラマ研究者の血が騒ぐと云いますか、海女さん達が潜っているところまで行って来ました。

最近ですと福島県のいわき市ですね、映画「フラガール」の街ですから行って来ました。これも研究の一環なのです。という事で中央大学の実学志向の中でこういう研究をやっている人間なのです。勿論観光もしますし映画やドラマに因んだ場所にも行きますが、行ったら当然美味しいものも食べます。

つい 2 週間前に山形県の鶴岡市に行って来ました。これ藤沢周平の出身地ですが、庄内藩の飛島で取れる生牡蠣は夏が旬なので食べてきました。これも研究かな、ちょっと難しい微妙な線引きなのですが地元の事を知るという意味で、これも研究ですしいいのかなと思っています。

今全国でゆるキャラが地元興しでいろいろとやっておりますが、有名なのは熊本県でしたら「くまもん」、群馬県の「ぐんまちゃん」、愛媛県に行ったら「みきゃん」がいますが。という事でいろいろと仕事であちこちと呼んで頂いては、それに因んだ観光もし、美味しいものを食べ、テレビに因んだ場所にも行っております。

ふと考えてみると仕事であちこち行って実は何か遊んでいる、プライベートに楽しんでいるような感じもするので、やっている事は舛添都知事と殆ど変わらないのかなあと感じもしますし、公私混同だと云われそうな気もしますが、全然違うのです舛添さんと違って私は自分の金で払っています。

そんなような事でいろいろドラマの件であちこちと呼んで頂いておりますが、今回は札幌に呼んで頂いたのですが、札幌と云えば映画で云えば「探偵はバーにいる」という舞台ですし、それから札幌だけじゃなくて北海道全域と云えばテレビドラマと北海道と云えば「北の国から」等有名なドラマが沢山ありました。そういった地域でもありますので、私も北海道でいろいろと勉強してネタを仕入れて帰りたいと思っております。

今日のテーマは池井戸潤という事で、池井戸さんは小説家ですから、池井戸さんがドラマを作っているわけではなくて、池井戸さんの作品を様々なテレビドラマ化している。今日はそれのお話しをさせて頂きたい。大きく分けて 4 点についてお話しをさせて頂きます。

1. 池井戸潤小説とテレビドラマ化作品
2, 池井戸潤ドラマの特徴と『半沢直樹』の意義
3. テレビドラマ史と作品を支える時代
4. まとめ：テレビドラマは時代を映す

「論点 1. 池井戸潤小説とテレビドラマ化作品」

池井戸さんは、昭和 38 年生まれで慶応大学を出てから三菱銀行に勤め退職してからいろいろと本を書くようになりました。銀行員を経験した後執筆活動に入り様々な小説を書いております。2010 年に『鉄の骨』で吉川英治文学新人賞、2011 年に『下町ロケット』で直木賞を受賞されております。

この方のどんな作品がドラマ化されているのかという事ですが主なものは『鉄の骨』、『七つの会議』、なんと言っても一番有名なのは『半沢直樹』ですねそれ以外にも『ルーズヴェルト・ゲーム』、『花咲舞が黙っていない』、『ようこそ、わが家へ』、『民王』、『下町ロケット』などこんな作品が次々とテレビドラマ化されております。なかでも草分け的な存在として『七つの会議』というドラマがありまして『日本経済新聞』の電子版に連載されたものなのですが、この作品が 2013 年にＮＨＫで 4 回に亘ってテレビドラマで放送されました。

これは非常に重厚ないいドラマでしたが、実は『半沢直樹』とほぼ同じ時期に 2013 年の夏（7 月～8 月）に放送されておりますが『半沢直樹』に比べてこちらをご覧になっていた方は少ないのではないでしょうか、視聴率的には全然違います。同じ池井戸の企業ドラマではあるのですが、こちらは非常に重い内容といいますか、重厚な話なのでちょっと地味な感じはします。『半沢直樹』ほど人気にはならなかったと思います。『七つの会議』の方は、会議の場面が多く、原作の方は短編で一つ一つ完結しているのですが、ドラマの方では東山紀之さんが演じている主人公に、焦点化するというドラマになっております。

『半沢直樹』は 2013 年の夏期に放送され、このドラマの前半 5 回は東京中央銀行の大阪西支店を舞台に、不正融資を暴く半沢直樹（堺雅人）を描き、後半は東京に移り、営業第 2 部次長となった半沢のホテル再建や金融庁検査における活躍を描いております。このドラマは平均視聴率 28.7%で、最終回は 42.2%という驚異的な高視聴率を上げました。

因みに視聴率というのは、ビデオリサーチ社という会社が調べた関東地区を採用するというの

					が基準になっておりますが、これまた何と言いますか範囲が絞られているので、実はドラマによっては、関東地区はほどほどだけれども、関西は良かったとか、北海道地区はとても人気があったとか、いろんな地域差があるので一概に計れないのですが、一応ドラマの世界では、ビデオリサーチ社が関東地区で調べたものとなっているという事でご了解を頂きたい。こんな事で大変なヒットになりました。『半沢直樹』の大ヒットがあったものですから、この後池井戸さんの小説が次々ドラマ化され、『半沢直樹』やられたら倍返しだ、倍返しというのは原作の小説の中では、ほんとに僅かしか云っていないのです。たいして出てこないのですがドラマの方はすっかりこれが決めゼリフに、水戸黄門様の印籠みたいにこれが決めゼリフになったという感じがします。こういったヒット作があったものですから、この後次々と池井戸さんの小説がドラマ化しまして『ルーズヴェルト・ゲーム』というのが先ず放送されます。これは電子部品メーカー青島製作所とその会社と社会人野球チームを舞台に、社長・野球部長・部員を描いたドラマです。原作は複数の人物を主人公に描いているが、テレビドラマでは社長の細川充（唐沢寿明）を中心に描いている。 『半沢直樹』ほどの大ヒットではないのですが、平均視聴率は 14.5%、最終回は 17.6%ですから今の民放のドラマの中では充分高視聴率で成功したドラマと言えると思います。「どうして『半沢直樹』みたいにヒットしないのでしょうか」とよくテレビの方とか、新聞社の方に聞かれたのですが、同じ原作者のドラマだから何時もヒットするとは限らないと思います。いろんな要素がありますので、こちらはどちらかというと主役が社長なので、同じ社長といっても『下町ロケット』位ですとまた別なのですが、唐沢さんが社長の役をやっているのですが、どちらかというと企業の経営という感じで、多くの視聴者にとって身近な題材という感じはしなかったのか、というところもあります。勿論充分民放のドラマとしては成功なのですが、『半沢直樹』ほどにはならなかった。企業の経営の問題とそこの会社の社会人野球チームがそれぞれの苦難をどうやって乗り越えていくか平行して描かれているドラマになります。 この『ルーズヴェルト・ゲーム』はドラマとしては、充分成功し視聴率的にも成功なのですが『半沢直樹』ほどの大ヒット作にはならなかった。それから同じ池井戸さんのドラマはこの後次々作られまして、『花咲舞が黙っていない』この作品も池井戸さんの原作です。こちらの方は『花咲舞が黙っていない』という小説はなくて池井戸さんの小説の中で『不祥事』、『銀行総務特命』をドラマ化しているのが第 1 シリーズです。 『花咲舞が黙っていない』は 2 回に分けてテレビドラマでシリーズ化されましたので第 2 シリーズの方は『銀行仕置人』、『銀行狐』とかこういった小説をドラマ化しております。『花咲舞が黙っていない』の方は複数の小説の内容をミックスして一つのドラマとして、連続ものとして放送されました。 このドラマは、東京第一銀行の臨店班、花咲舞（杏）と相馬健（上川隆也）を中心に描いております。 こちらも『半沢直樹』のような大ヒットではありませんが、現在の民放ドラマは視聴率が 15%取れたら大成功ですので第 1 シリーズ 16.0%、第 2 シリーズ 14.5%の平均視聴率が取れておりますので民放のテレビドラマとしては視聴率的には、大成功だと思います。 池井戸さんの一番新しい小説をドラマ化したのは『下町ロケット』ですが、これは 2008 年から 2009 年にかけて連載されていたのが第 1 部にあたりまして、続編はテレビドラマを放送している時に平行して朝日新聞に第 2 部を連載する、普通は、連載して小説が出来上がってからドラマ化をするのですが、これは小説の連載とドラマの放送が平行しているという非常に珍しい実験的な放送のやり方をしたドラマです。これは昨年 10 月から 12 月にかけて放送されまして『半沢直樹』ほどではありませんが、『ルーズヴェルト・ゲーム』・『花咲舞が黙っていない』を上回る平均視聴率 18.5%を取り、最終回は 22.3%の視聴率になりました。このドラマは、精密機械製造の中小企業である佃製作所が舞台。佃製作所は小さい企業ではあるが非常に技術力の高く、社長の佃航平（阿部寛）を主人公に、ライバル企業との特許権をめぐる争いや巨大企業・帝国重工との関係を描いた作品です。 これらのドラマを見て来ますといろいろな世界がある事はあるのですが、大企業もあり、銀行もあり、中小企業もあり、会社の野球部もあるという事でいろいろではあるのですが、何かそこに共通点みたいものがあると皆様はお感じになられたと思います。次はそのあたりのところに話を移していきたいと思います。尚、論点 2 以降は講演の内容を割愛して要点のみ掲載する。 「論点 2 池井戸潤ドラマの特徴と『半沢直樹』の意義」 1. 池井戸潤小説ドラマ化の特徴 ・ 池井戸潤は銀行小説から出発したが、その後様々な作品を書いている。特徴は多様。 ・ サスペンス系の『ようこそ、わが家へ』や、政治を扱った入れ替わりもの『民王』などもあり、それらの小説もドラマ化されている。 ・ どのテレビドラマも大ヒットの高視聴率となっているわけではない。『半沢直樹』は特別な作品。ただし、多くのテレビドラマが視聴率面で苦労している中、池井戸作品は手堅く人気を集める。 ・ 『半沢直樹』の驚異的高視聴率など、特に銀行・企業を扱った作品への支持が目立っている。

					2. 銀行・企業を扱う池井戸潤ドラマ ・ 『半沢直樹』、『花咲舞が黙っていない』、『ルーズヴェルト・ゲーム』、『下町ロケット』には、銀行・企業の社員や社長が苦難に負けず努力し続け、最後に成功をおさめるという共通点がある。 ・ 『半沢直樹』東京中央銀行の融資課長・半沢直樹は上司の不正の責任を押しつけられる。 ・ 『花咲舞が黙っていない』東京第一銀行の臨店班・花咲舞は、各支店の不正やハラスメントに直面する。 ・ 『ルーズヴェルト・ゲーム』苦境の企業野球チーム。 ・ 『下町ロケット』中小企業佃製作所社長・佃航平は、ライバル企業 から特許権で訴えられる。 3.『半沢直樹』はなぜ受けたか ・ 『半沢直樹』は「**サラリーマン時代劇**」 ・ 「善悪」「役割」をわかりやすく描く。 ・ 池井戸の原作小説よりも「会社を裏切り半沢に責任を押し付ける上司」 「半沢の邪魔をする嫌味な金融庁検査官」のキャラクターがドラマではかなり濃くなっている。 ・わかりやすさに加え視聴者から「共感」「憧れ」という、異なる二つの感情を同時に引き出すことに成功している。 4. 半沢直樹への「共感」と「憧れ」 ・ 半沢直樹ほどの状況（上司の犯罪の責任を押し付けられる）はあまりないとしても、「上司に恵まれない」「望まない仕事を押し付けられる」といった状況は、組織で働く人間なら誰にでもある。→「**共感**」 ・ しかし半沢直樹のように露骨に上司に逆らうことは通常はできない。それをやってのけて大逆転で上司の悪をあばき、成敗する半沢に溜飲を下げる→「**憧れ**」 5.『半沢直樹』が受け入れられる背景 ・ 時代劇がテレビからなくなり、安定的な娯楽作品が不足している状況。 ・ 1 話完結事件ドラマ（刑事物・犯罪もの）の全盛で、「共感」できるキャラクターを持つドラマが不足している状況。 ・ 働く女性の増加で「サラリーマン社会」「組織で働くこと」を自分に置き換える視聴者が増加している状況。 ・ 男女ともに楽しめるドラマ作品の必要性。 「論点 3 テレビドラマ史と作品を支える時代」 1.『半沢直樹』はいつでも支持されたか ・ 「テレビドラマ史」を考えると、多くの視聴者を引き付けたドラマには、時代との関係、支持される必然性があると考えられる。 ・ 「家政婦のミタ」が東日本大震災年に支持されたようにテレビドラマと時代との関係を考えることもテレビドラマの研究の役割。 ・ 『半沢直樹』を含む 2013 年以降のドラマの状況は 1990 年代後半のテレビドラマの状況と似ているのではないか。 2. 1990 年代後半という時代 ・ バブル経済期 1980 年代後半、バブル崩壊期 1990 年代前半に続く時代。 ・ バブル経済期のヒット作 『抱きしめたい』（88 年）『愛しあってるかい』（89 年）などのトレンディドラマ。 ・ バブル崩壊期のヒット作 『家なき子』（94～95 年）や『この世の果て』（94 年）といった貧困や不幸を描いたドラマが注目された。 3. 1990 年代後半のテレビドラマ ・ ハブル経済期の底抜けに明るい作品やバブル崩壊期の救いようのない暗さの作品は見られなくなっていく。 ・ 1990 年代後半は例えば『ＧＴＯ』（1998 年）や『彼女達の時代』（1999 年）などの作品が注目された時代。 ・ 作品の雰囲気はまったく異なるが、どちらも状況の困難さや価値観の迷いに「立ち向かう」物語という意味で共通点がある。 4.『彼女達の時代』 ・ 1999 年、フジテレビ系列 ・ 岡田恵和脚本。 ・ 出演：深津絵里、水野美紀、中山忍。 ・ 仕事や恋愛に行き詰まる 3 人の OL が出会い、励まし合って進む過程を描く。 ・ 一方でリストラ男性社員も描かれる。 ・ 働く意味、人生の意味を考える「自分さがし」物語。 5.『ＧＴＯ』

					・　1998 年、フジテレビ系列 ・　藤沢とおる漫画作品のテレビドラマ化。 ・　脚本：遊川和彦。主演；反町隆史。 ・　2012 年、リメイク作品（ＡＫＩＲＡ主演）。 ・　元暴走族リーダーの型破りな教師が生徒達の心をつかんでいく物語。 ・　自分の夢を大切にする、友達を信じるといったシンプルなメッセージをぶつける。 6. テレビドラマとその時代 ・　高度経済成長期；「スポーツ根性ドラマ」（努力する→豊かになる→幸福になる） ・　バブル経済期：「トレンディドラマ」（幸福は達成済みという幻想） 「明るく軽くおしゃれ」が価値　暗いことは悪 ・　学校ドラマは何時の時代にもあるが... ・ 70 年代までは受験競争と闘う ・ 80 年代は校内暴力と闘う ・ 90 年代は表面化しないいじめ等と闘う ・　それぞれの時代背景をドラマは反映する 7. 1990 年代後半と現在のテレビドラマ ・　どちらもテレビドラマ作品の内容に似通った傾向が見られる。 ・　経済絶頂期のトンディドラマやどん底期の暗い作品とは異なる傾向が見られる。 ・　ややシンプルすぎるが力強いメッセージを発する→『ＧＴＯ』や『半沢直樹』 ・　そこに「困難を克服する新しい希望の光を見たい」という願いがこめられている、と考えるべきではないか。 「まとめ　テレビドラマは時代を映す」 1.『家政婦のミタ』と『半沢直樹』 ・　近年のテレビ視聴率は（ドラマに限らず）低下傾向。その中でこの『家政婦ミタ』（2011 年）と『半沢直樹』（2013 年）は驚異的高視聴率をあげた。 ・　考えるための実験。この作品の放送時期が逆だったら、どうなっていただろうか。 ・　この思考実験は証明不可能。ただし同じ脚本家や原作者の作品でも同じように大ヒットするわけではない。そこには何らかの理由があると考える必要がある。 2.『家政婦のミタ』『半沢直樹』と放送年 ・　『家政婦のミタ』が放送されたのは、東日本大震災の年 2011 年の 10～12 月期。 ・　『半沢直樹』が放送されたのは、震災から 2 年が経ち、その衝撃から立ち直りかけた 2013 年 7～9 月期。 ・　『半沢直樹』のメッセージは強いものの、もし 2011 年に放送されていたらやや軽薄に見えたのではないか。信念と努力であらゆる困難が克服される内容は、いささか都合良すぎると見えたかもしれない。 3. 1990 年代と現在の相似性 ・　どちらも経済のどん底期から立ち直ろうとする（ただし立ち直りきる前）か。 ・　経済の好調期、どん底期にはそれぞれの流行やテレビドラマの傾向がある。 ・　どん底から立ち直ろうとする時期には、シンプルだが力強いメッセージに希望を託そうとする傾向が生まれる。 ・池井戸潤の企業小説は、そうした人々の心の奥にある願いを形にしてくれる。 4. テレビドラマは時代を映す ・　テレビドラマは身近な娯楽。難しく考えて見る必要はまったくない。 ・　しかし、今生きている人びとの心の奥にある（まだ気づいていない）感情や願いを反映して、ドラマは成り立っている。 ・　それをあらかじめ計算することは困難。しかし、社会現象化するような大ヒット作の要因を後から分析・考察する事は可能。 時代との関係を分析・考察することは、テレビドラマ研究の重要な役割。」
			23	第 54 回ゴルフ大会の開催	本年度第 2 回の大会は西山会長以下当日 2 名の追加申込があり計 15 名参加のもと、近郊の北広島市にある「ゴールド札幌カントリークラブ」において開催されました。当日の天気予報では、札幌は 27 度の真夏日という事でしたが、現地は 23 度と時折風も吹き、絶好のゴルフ日和に恵まれ楽しい大会になりました。恒例により競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会を行いました。優勝は伊藤宏二氏（昭和 56 理工・ＺＥＫＫＯＩＮＣ．アウト：45　イン；44）、準優勝は西山会長（昭和 41 商・西山製麺（株）アウト：44　イン：43）またベストグロス賞は工津輝雄氏（昭和 39 商・（株）エミック　アウト：42　イン：40）がそれぞれ獲得し、会長から優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与しました。優勝者の弁に続いて、今年度帯広から札幌支部に入会し今回初参加の辻田真人氏（昭和 45 法）からは「楽しい大会で同門の皆さんと回る事が出来ました。次回も是非参加したい。」旨挨拶がありました。続いて事務局より 8 月 9 日（火）支部総会、9 月 10 日（土）開催の小樽との交流ゴルフ大会への参加を呼びかけ、和気あいあいの内に散会しました。今回景品の寄贈者は下記の通りです。

					・工津輝雄氏（昭和 39 商・（株）エミック） ・出戸一成氏（昭和 35 経済・マックスバリュ北海道（株）） ・檜森支部長長・柴田副支部長・西原幹事長 ・田代信一氏（昭和５６文・（株）京王プラザホテル札幌）
		8	9	平成 28 年度定時総会の開催	連日蒸し暑く厳しい暑さが続いている最中午後 6 時より京王プラザホテル札幌 3 階「扇の間」において本学本部から深澤武久理事長、山中温理事・事務局長、秦匡宏総務部担当副部長、学員会本部から久野修慈会長、東北・北海道担当の小畑悟副会長、百井元幸中央大学父母連絡会札幌支部長、若松謙維参議院議員をご来賓に迎え檜森支部長以下 118 名の会員が集い開催されました。約 2 時間 20 分お互いの近況を語り合いながら母校の更なる発展に向けて奮闘を誓い合いました。 司会進行は西原幹事長が行いました。議事に先立ち支部長から「本日は暑い中、お忙しい中 118 名の学員の皆様にご出席を賜り有難う御座いました。また本日は学校法人中央大学からは深澤先生、山中理事・事務局長、学員会から久野会長、同じく東北・北海道を担当して頂いております小畑副会長、小畑さんには毎回ですが、秋田の銘酒荒政をお持ち頂いておりまして、本日もご覧のように沢山ご寄贈頂きました。本当に有難う御座います。それから学校法人中央大学の総務部担当副部長の秦様、また大変お世話になっております中央大学父母連絡会札幌支部長の百井様、それに参議院議員の若松先生をお迎えしております。 今日は講師として先月まで（株）大丸松坂屋の執行役員札幌店長としてご活躍されておられました香川店長さん、ご栄転されまして今は執行役員東京店長にご就任されております。今日は「女性のキャリア」についてのお話しを頂くことになっております。私は支部長になって３年目に入りますが、私のモットーは単純でございまして元気で、明るく、仲良くこの支部をやっていこうという方針で幹事長を筆頭に 4 名の副支部長さん方と一緒にこの会をやってきております。お陰様で日頃ゴルフ会も含め、何時もいろんな会には 100 名を超す学員皆さんのご出席を頂き支部の運営にご協力を頂き有難うございます。心よりお礼申し上げます。」と挨拶があり支部会則第 10 条 3 項に則り支部長を議長に第 1 部の総会に入りました。 第 1 号議案「平成 27 年度事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長から別添の資料に基づき報告し、次いで会計監事の高橋恭平氏（昭和 48 年・理工）から監査報告があり諮った結果異議なく承認されました。 第 2 号議案「平成 28 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」 幹事長から資料に基づき説明し諮った結果異議なく承認されました。　総会終了後当支部顧問の渋谷幹男氏（昭和 36 年・法・司法書士渋谷務所） から本学の現況についての質問があり、支部長から本件については深澤理事長のご挨拶の中で答えて頂く事で本人は了解致しました。深澤理事長は 10 日にご予定があり帰京する事になりご挨拶を頂く事になりました。 「札幌支部は、明治 31 年（1898 年）当時はまだ中央大学という名前ではなく、東京法学院という時に設立をされたそうでございます。それから本日まで 118 年創立の趣旨は、母校の興隆と発展に寄与する事を目的とするとホームページで拝見いたしましたけれども、文字どおりそういう貢献をして頂きながら学員の皆様方の交流を含めて発展をされてきた事についても心からお祝いを申し上げたいと存じます。本年度の中央大学の受験者の数でございますが去年よりも 6,329 名増えまして 75,275 名でした。その中で北海道からの受験者は 2,071 名でした。これは全国の都道府県の中で 8 番目に多い人数でした。 それから在学生が 579 名で、これもやはり都道府県のなかで 6 番目に多い人数です。運動部の活躍の方を見てみますとスケート部アイスホッケー部門において部員 80%が北海道出身の学生だそうです。昨年は全日本学生選手権、春、秋のリーグ戦で連覇を致しまして三冠を達成したと大変すばらしい成績を上げてくれました。中央大学が札幌を中心とした北海道出身の方々によって支えられているという事について大変心強くまた有難い事だと感謝をしているところでございます。 さて今期の理事会は平成 26 年 5 月中央大学のガバナンスの再構築を主たる任務として任命をされました。平成 26 年 7 月に中央大学基本問題調査・改革委員会が出した意見書に記載されてある事項を実行して、中央大学のガバナンスの再構築をするというのが課せられた任務であります。そしてその報告書に 6 つの事項が記載されてあって、そのうちの理事会運営規則、執行役員会規則、役員の倫理規定、役員の懲戒規則、さらには公益通報に関する規則この 5 つを策定致しましてそれに基づいて運営をして参りました。残った 1 つは理事の選任のあり方という事でありますけれども、これは一番難しい事でありまして大変な事だと認識をしておりますけれども、とにかくなるべく早い機会にそれについても結論を出そうという事で先月はその事だけを議題にした臨時の理事会を開いて、8 月中にはチームを結成してそこで具体的な叩き台を作ろうという事で現在努力をしているところであります。お陰様で学内の風通しも良くなって大分落ち着いて来ているという認識を持っているところであります。 さて昨年中央大学は創立 130 年を迎えました。2025 年までの 10 年間に、その 10 年目が来た時に中央大学がどういう姿でいるべきであるかと、そういう事を念頭に置きまして中・長期事業計画（ＣＨＵＯ　ＶＩＳＩＯＮ　2025）を策定いたしました。その柱の 1 つは新学部を設立して魅力のある総合大学にする。1 つはグローバル化に備えた教育の充実を図る。更にもう 1 つは多摩

					のキャンパスを充実すると共に文化系の学部の一部を都心に展開をするという事であります。 　更にもう１つはスポーツの振興・充実を図ろうという事であります。この中・長期事業計画実現のために現在総合戦略推進会議、運営準備会というものを創りまして具体的な形を少しでも早くお示しをしたいという事でこの夏の間もその作業に従事しているところであります。 　またスポーツについてはスポーツ振興強化推進会議を設けまして優れた選手の獲得と育成更には2020年のオリンピックに20名の本学関係者を送り出したいそしてそのためにもスポーツの施設をどうするかという事を検討しようという事で検討を始めているところであります。中央大学にとって特別な意味を持っている箱根駅伝でありますけれども、最近の結果は皆様ご存知の通り悔しい思いをされているとは思いますけれども、今年のリオに向けてその必要のために練習に励んでいた藤原正和選手、中央の OB ですけれどもホンダのチームでやっていたのですが、怪我をしたために現役を引退するとそして引退後直ちに中央大学の箱根駅伝の監督に就任致しました。就任直後から寮で選手と一緒に寝食を共にして練習に励んでいるとそのためにチームの雰囲気も変わってきたと聞いております。大変真面目なストイックな方であります。今までのやり方とは違って多少の抵抗があっても、自分の考え方でやりたいと申しております。ご本人は学生マラソンの日本記録の保持者であり、現在でもその保持者でありますがそういう経験を生かして中央大学の駅伝を何とか復活させたいという事で努力をしてくれているところであります。 　監督が代わったからといって直ちに選手が強くなるという事はなかなか難しいとは思いますが、近い将来必ず箱根駅伝の古豪であった中大が復活してくれるだろうという事を強く期待をしているところであります。 　そして先程申し上げました中・長期事業計画実現のためには相当な資金が要る訳でありますけれども 125 周年の記念事業の時に大変皆様にはご協力頂いてまた今回その中・長期事業計画のためにお願いをしなければならない大変心苦しい訳でありますけれども 10 年先に中央大学のプレゼンスを高め社会に誇れる中央大学にするために是非ご協力のお願いを致したい。既に白門飛躍募金というのを設定致しまして皆様にお願いをするところでございます。どうか中央大学関係者全ての力を結集して、オール中央の力を結集して 2025 年には天下に誇れる中央大学にしていきたいと考えておりますので是非ご協力のお願いを致したい。」続いて第 2 部の卓話「女性のキャリアについて」に入りました。講師は香川暁子氏（昭和 56 年・商・（株）大丸松坂屋百貨店東京店　執行役員大丸東京店長）にお願いしました。講演の要旨は次の通りです。 「私は 4 年 4 ヵ月札幌店長を務めさせて頂きました。北海道の皆様、札幌支部の皆様には大変お世話になりました。本当に有難うございました。 　私は同じ会社で卒業以来ずっと仕事をして参りましたので百貨店業界の限られたキヤリアしか持ち合わせておりませんけれども、その中で私自身が経験してきた事、あるいは大丸札幌店で取り組んできた事等をお話しさせて頂きたいと存じます。 　私は 1981 年大丸東京店に入社致しました。その当時はまだ松坂屋とは合併しておりませんでしたので大丸入社でございます。入社当時から玩具売り場、所謂百貨店の主流ではなくて玩具売り場からスタート致しました。 　その後主に婦人雑貨関係の売場マネージャーとかバイヤーの経験を積ませて貰いました。その後 2002 に年大丸札幌店開設準備室の婦人雑貨部長という事で 2002 年に一度札幌に来まして、ですから札幌は 2 回勤務をして足かけ 10 年札幌に住んで根っこが生えてしまっている状況です。2002 年に札幌に参りまして翌年当時大丸の経営構造改革、第 1 次営業改革の集大成と言われました札幌店のオープンを経て 5 年半の勤務の後 2008 年から大丸大阪梅田店次長・営業推進部長として、当時大阪駅の大改造がございました。それを機会に弊社の第一次営業改革、第二次営業改革、その次ですが新百貨店モデルの具現化という事で 2011 年の梅田店のリニューアルオープンを携わりました。当時梅田店は大阪駅にくっついている細長い、ひょろ高い 15 階迄売場がある百貨店でございました。それを面積を 1.6 倍に広げて既存の床、天井も全部やり直すのですが、営業は 364 日一日も休むなという百貨店業界の中では無謀とも言われる工事を 4 年間やりましてその工事が終わってグランドオープンをして 1 年間は当初想定した最高入店客数が 1 ヶ月続いてしまったというエレベーターの前でお客様が何時まで待たせるのだ。すぐに来いと呼び出されるとか、エスカレーターに人が乗りすぎて止まってしまうとか、駅の恐ろしさというのを経験して、駅で百貨店をやるのは大変だなあとつくづく思っておりましたら、2012 年に札幌店長をやれという事でまた駅の店長で札幌に戻って参りまして、この度人事異動が出ましたらまた駅の店長で、東京駅の店長という事で何て言うのでしょうか、ターミナルと縁の切れない経験を積んで来て今回北海道を離れる事になりました。 　私が入社しました 1981 年当時からそして今もですけれども百貨店というのは、一般的にお客様も女性が多いのですが、そこで働く者の大体 7 割位が女性でございます。当然お買い物をされるお客様も 7～8 割は女性で、入店客数を取りますともう少し男性の比率は高いのですが、お財布を握っているのはほとんど女性とそういう業界でございます。百貨店の館の中で働く人間といいますのは、百貨店自体の人間以外にもお取引先から派遣されている方あるいは、例えば物流関係を担っている方、警備を担っている方、清掃を担っている方等いろんな会社の人間が集まって百貨店が成り立っているのですけれども、お取引先の方を別としましても、私共大丸松坂屋百貨店及びそのグループ会社を併せた従業員の男性・女性の割合を申しますと、大体男性 4 割・女性

					6割なのですけれども、管理職となりますと女性の比率は10%までに下がります。札幌店は比較的に女性の管理職は多いのですが、札幌店単体で見ましても、部長マネージャーの内20%が女性ですけれども、でも20%です。一方で実際現場を支える売場のリーダークラス、所謂管理職予備軍を集めますと圧倒的に女性の比率が高くなります。女性が8割位になります。札幌店でも本当に実務能力が高くて、メンバーを纏めて。新人を教育して、それから一番百貨店で大切な接客を通じてマーケットと常に向き合っているのはこの人達です。ところがこの中から管理職・マネージャーにステップアップしていく女性を見いだすのがなかなか難しい。非常に悩ましい所です。理由はいろいろ考えられます。一つには過去に永年に亘って人材育成や教育（ジョブローテーション）において、暗黙の内に男女差を付けてきた事の影響というのを未だに引きづっていると思います。 私が入社した当時約40年弱前ですけれども、男女雇用機会均等法が施行される前でして、先程大丸東京店入社と申し上げましたけれども、女性はそれぞれの店舗採用、ところが男性は本社一括採用でした。あの当時は初任給にも男女格差があって当たり前でした。所謂学卒男子の初任給は幾ら、女子は幾ら、短卒は幾ら、高卒は幾ら、短卒・高卒は男女差はないのですが、大卒だけが男女の給与格差、初任給の格差がありました。その中で大丸は珍しく当時から男女同一給与でして、それで私が大丸を選んだ理由だったのです。 　新入社員研修のメニューまでもが違っていた時代でした。当然配属後のローテーションや与えられる業務も自ずと男女で異なりまして、大体新入社員はみんな営業部に配属されるのですが、配属されても女性は販売一筋でして、5年10年は当たり前、ところが男性は本当にちょっと販売をかじると半年も立たない内にいきなり係長の下について売場管理を学ぶというのが普通でした。今となっては笑い話なんですけれども、私自身が入社5年目位でしょうか日本百貨店協会の中堅女子社員研修に参加する機会がありまして、当時講師の女性が当時百貨店業界初の女性取締役と言われた某社の方なんですが、その方から「あなた達仕事を続けるのなら、定年まで百貨店で勤めたいのなら、男のように考え、淑女のように振る舞い、犬のように働きなさい」と言われまして非常にショックを受けました。その後売場のマネージャー、部長ですとか経験してくる中で言いますと、お客様とのトラブル所謂苦情ですね、苦情対応に出て行きましても、同じ話にならないと責任者を出せとみたいな事を男性のみならず、女性のお客様からも言われ続けたものです。百貨店業界に限らず日本の企業はまだまだそうした時代に育った人達が、経営ボードを占めているといいますか、マネジメントラインの大部分を担っている過去の遺産みたいなものがまだ引きずられているという事は否めないと思います。 　企業では雇用機会均等法を経て男性も女性と同じように教育の場を与えられるようになりました、しかし実践の場が同じように与えられていないと感じます。そういう視点で見れば、最近の女性の活躍を重視する安倍首相ですとか、それを後押しをしていくいろんな経済団体の要請を受けて女性の登用に数値目標を置いて取り組む企業が増えてきております。これは女性の活躍の場を広げるという意味で大きな前進だとは思います。いついつまでに管理職に占める女性の比率を何%までに上げるとか、取締役等の役員に何人の女性を登用するとか、こういった取り組みで先ず活躍をする場を与えられる女性が増える事これは同じ女性として大変嬉しい事であります。 　ただ働く女性の一人として、こういった取り組みに対して微妙な違和感を覚えるというのも事実です。女性の活用は女性を管理職にする事とイコールでないと私は思います。係長になり、課長になり、部長になり役員になる事だけが、本当に女性のキャリア・アップなのでしょうか。同じ仕事をするならば、働くならばそこにやりがいや、充実感、達成感が感じられる仕事がしたいというのは誰しもが思う事です。私達百貨店で働く人間のやり甲斐は、売上げが上がる事であり、お客様から「ありがとう」と言って頂く事なのです。そしてやり甲斐の積み重ね・達成感というのは、ある意味麻薬みたいなもので一つの達成感を得たら次は、もっと大きな仕事、もっと違った仕事にチャレンジしたいというのが人間だと思います。その積み重ねの結果としてキャリアは後からついてくるのではないかとそんなふうに私は感じています。ですから別に管理職にならなくてもやり甲斐のある仕事、仕事を通じて達成感を積み重ねて活躍する女性、輝く女性が大勢いる企業、組織にするために何をしなければならないのか、今何が出来るのか、その議論も女性の管理職登用と同時進行で進めていかなければならないと思います。 　大体女性と言うと語弊がありますが、女性は欲張りで、ついあれもこれも仕事も、子どももと考えます、一方で身体は一つ、一日は24時間しかないわけです、ですから自分のライフサイクルの中で、結構長いライフサイクルの中でその時どきに、優先順位づけをせざるを得ません、これまでは仕事6割プライベート4割でエンジョイをしてた人が、子育て7割になって仕事が3割でプライベートはゼロになる、あるいは今は仕事よりも、出産・子育て・親の介護などその時どきで状況が変わって優先順位が変わっていきます。パートナーや親の協力度合い、行政の支援、働く企業の制度や仕組み等こんな事も影響していく事でしょう。それでも仕事をゼロにしたくはないという女性のライフサイクルの変化に伴うその時々の優先順位付けの変化、これに合わせて柔軟に働き方や業務設計を変化対応していく事、それが企業や組織にも今必要だと思います。少子高齢化で労働年齢人口が減り続ける中で、スキルやノウハウを持った人達を勤務時間が数時間短いからといって切り捨てる、それに代わる新人を一から育てるコストというのは膨大です。 　そう考えるとこれからはますます柔軟性を持って女性を活用出来る、女性が活躍出来る企業・

					組織が生き残っていく時代になると感じています。私共でも育児勤務制度を使ってお子さんが小学校に入学するまで短縮勤務を選ぶ女性達というのは大勢います。特に札幌店は開店から丁度 13 年経ちましたので、その当時採用した若手が今みんな子育ての真っ最中です。 子育て中でもキャリアを途切れさせたくないという前向きの人達です。その彼女達と話をして聞かされるのは、子育てをしながら仕事を続けるのは確かに大変です。でも一番のストレスは、お店が一番忙しくなる 4 時、5 時この時間に先に帰らなければならない事、急に子どもが熱を出して突発でお休みをしたり、早退をしたりこういう事で一緒に働く周囲の人に迷惑を掛ける事だと言います。 周りから文句を言われるわけではないし、みんな理解してくれる、だから尚更心苦しい、本当に私は仕事を続けて良いのでしょうか、こんな中で 3 年程前に札幌店では育児勤務者全員で、新しいチームを創りました。ミッションは、お得意様営業部、所謂百貨店の外商の新規口座開拓、丁度その年から全社で外商強化という事で新規口座開拓に積極的に取り組み始めたタイミングで、それぞれの店で開拓チームを創ってスタートしました。 立ち上げ当初札幌店は外商に関してまったく素人のそれも短縮勤務のメンバーばっかりで、本当に大丈夫なのかと外野から大分ヤジを飛ばされました。でもスタートからの一年間札幌店の開拓目標達成率は全店でダントツの一位でした。またお得意様営業部の業績も他店に比べて大幅な増率をたたき出して 3 年間で売上げを倍に、口座数を 3 倍にまでしてくれました。一方で彼女達に聞きますとチームのメンバーがみんな子育て中のお母さんばかりなので短縮勤務の引け目を感じないですむという事が大きかったようです。子どもの病気は、フォローし合うのが当たり前、お互い様です。開拓活動は自分でスケジュールを立てて、お客様を訪問するというのが基本ですから、自分の働き方を自分でコントロール出来る等育児勤務を続けていく中で一番のストレスが緩和されているようです。そしてなによりこの成果を生み出したのは、育児をしながらでも札幌店で働き続けたい。店と仕事に強い愛情を持っている人間がお客様の所に足を運び勧誘するこういう事に尽きると思います。またこのメンバーが育児勤務を終了して、フルタイムで売場に復帰した暁には、多分開拓活動で得たお客様のご意見やニーズを品揃えやサービスに反映して新たな視点でより良い店作りに貢献してくれるものと期待しております。百貨店は比較的女性の勤務年数が長いというふうに言われますが、5 年 10 年と勤務年数を積み重ねて中堅と言われる女性達から面白い仕事が回ってこない、楽しい仕事が貰えないといった不満を結構最近耳にするようになりました。これを聞かされる度に私自身はカチンと来るのですが、世の中そうそう面白い仕事や、楽しい仕事があるわけではないです。そうではなくて大変な仕事、困難な仕事をする事を開き直って楽しみなさいと、頑張っている自分を褒めて、やりきった達成感をこそ楽しみなさいと返しております。私は待っていても面白い仕事、やり甲斐のあるという仕事は絶対に回ってこないと思っております。棚ぼたで楽しい仕事や、面白い仕事が貰えるという事は稀です。万に一つ棚ぼたがあったとしても少なくとも自分の足で棚の下まで歩いて行って、口を開ける位の努力は必要です。そしてもっとやりがいのある仕事、達成感を得られる仕事をゲットすればキャリアは自らアップしていくはずです。ところがどうしても日本人特に女性は謙譲の文化といいますか、慎みの美学といいますか、何となく周りが察して声を掛けてくれるのを待つというか、自分から名乗りを上げて厚かましく思われたくないという気持ちが積極的に前に出る事を躊躇させているように感じます。この辺をうまく取り除いてチャンスを与えてやらないと、なかなか女性は育たないと思っています。よく私は後輩の女性に言うのですが「出る杭は打たれます。でも出過ぎた杭は誰にももう打てないのですよ、そんなつもりで仕事に臨みなさい。」 大丸松坂屋でも自己申告制度、公募などいろいろな受け皿となる仕組みを作ってはいるのですが、まだまだ全社組織全体の活性化みたいなものには至っていない、非常に残念な事です。これを本人の問題だと、やる気があるのなら、能力があるのなら自分で手を挙げるはずだ、あるいは女性だけ優遇するのはおかしいと言いきってしまう事は簡単です。確かに正論でもあります。しかし一方で少子高齢化による人口減少、労働力不足はもう目の前に迫っています、待ったなしです、これからも元気な日本であり続けるためには女性が働き続ける事が必須ですし、一方で出産、子育ても必須です。 それを実現していくためには、国や行政の支援も、もっともっと充実させなければなりませんし、企業もそのために制度や仕組みをきちんと整えなければならないと思います。そこには当然当事者である働く女性の声が反映されていなければ意味がないと思います。であれば女性が影響力のあるポストに就かなければならないでしょう。いろいろ越えなければならないハードルはあると思いますが、今はスピード求められています。 最近ダイバーシティという言葉が経営戦略を語る上で非常に頻繁に使われるようになりました。ダイバーシティの中で最近話題になっているのが、L・G・B・T、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスセクシュアル最近読んだ雑誌によりますと、カミングアウトしていない隠れL・G、B・Tも含めると左利きの人と同じくらい世の中に存在するそうです。女性の活用くらいで手間取っていたらダイバーシティ・マネジメントにほど遠いと言えるかもしれません。私自身働く女性の一人として今置かれている立場で精一杯、後に続く後輩達を前から引っ張り後ろから背中を押して、共に活躍の場を広げていきたいと思っております。それが元気な日本に繋がって行くのではないか最近とみに思うところであります。」

					続いて第3部の懇親会に入りました。当支部顧問籏本道男氏（昭和35年・商・公認会計士籏本道男事務所所長）から「実は、私商売は公認会計士という職業をやっております。これは昭和28・29年当たりの公認会計士試験の合格者の実績を見た時に、一橋と中央大学とが交互に一位だったのです。それで私は中央大学の商学部だけを受けたのです。そして1960年に卒業しました。その頃はずっと中央大学がトップだったのです。それからやや経ちますと今度は慶応、早稲田が会計士試験に入って参りました。そして最近は慶応が断然強いですね。大体合格者の120名位が慶応で、早稲田が90名位、中央は60名ちょっとです。そしてその後に明治が57･8名ですぐそばまで来ている。本当は明治との差はまだまだあったのですが、明治がお茶の水に高い校舎を建てましてから俄然変わって参りました。司法試験の方は今日頂いたパンフレットを見ますと、今年の短答式試験の合格者は341名で中央と早稲田がトップだそうです。それだけに商学部関係ももっと頑張らなければならないなという事です。それで1960年に大学を卒業しまして、それからもう56年経ちますけれども、とにかく中央大学を出たという事が大変私自身の誇りになって生きて参りました。でこれからもまたそういう事だろうと思いますので、何とか皆さん力を合わせて中央大学を盛り上げなければならない、そしてまた学校にはそれなりにやって頂かないと考えますので、これからも元気で頑張りましょう。 そういう意味で乾杯しましょう。ご唱和頂きたいとと思います。」 続いて久野学員会会長から「北海道を支えているのは、本日お集まりの学員の方々だと私は確信しております。皆さん手を繋いで一つ北海道から理事長が出るような形で持っていかなければならないと思います。私もこの大学の仕事を長い間やって参りまして、本当にこの大学の本質をどうやって変えられるかが今度の勝負だと思っております。私も、先程深澤理事長が話されましたが、この理事の問題について極めて疑問に思ってきたわけであります。トップがしっかりしてない事にはどうしょうもならないという事であります。私はイトーヨーカ堂の鈴木さんを理事長に選びまして、選んだ時は8ヶ月間派閥争いで決まらなかったわけであります。その時に中山学員会会長と一緒にこの鈴木さんを担いだわけであります。この鈴木さんもこの大学は駄目だという事でお辞めになって私がその後を引き継ぎをしたわけです。 あらゆる問題がありますから誰かが強くやらない限りは改革が進まない。しかし強くやればやる程大学の自治権とか何とかこういう事で排除されて来るわけであります。しかしそれ自体は終わっている訳であります。この事が大事だと私は思っているわけであります。私は昨年札幌支部の総会に出席出来ませんでした。実は私はその時Ｔ．Ｐ．Ｐ交渉に参加しておりました。このＴ．Ｐ．Ｐに参加しまして北海道の農・畜産業をいかに守っていくかという事、そしてその中における北海道経済をどう維持するかについて北海道中央農協、あるいはホクレンさんと一体になって対応してきたわけであります。その国会が10月から始まります。その内容はいろいろな問題を抱えていると思っております。これをどういう形で将来に向かって解決していくかという事が極めて需要な時が来ましたが、大学も同じであります。 国際的な競争にどうやって勝っていくかという事に対する強い信念と実行力がなければならないという事であります。先程深沢理事長が中・長期計画を昨年纏めて出発したという話がございましたが、その中・長期計画を纏める協議委員会がございました。委員会は4時間半ああでもない、こうでもないという議論がございましたが、私はもう理屈はいいのだと、今日決めるのだという事で決めさせたわけであります。しかしこの中・長期計画をどうやって前に進めて行くかという本当に実行力のあるマネジメントが出来る先生なり理事が誕生しない限り前に進まないと私は思っております。今やどこの大学でも必死になって、お客様の立場に立ってあらゆる面を宣伝広告啓発しているわけであります。この大学のオープンキャンパスにしましても、大学挙げてお客様に来て頂きたいという時代が来たわけであります。そのためには大学の評価が高まらなければならないわけであります。日本の農業と同じようにマーケット・アウトでいけば競争力がなくなってしまうわけであります。中央大学あるいは日本の大学の場合はほとんどがマーケット・アウトでお客様の立場になんにも立っていなかったわけであります。日本の農業だけじゃなくして大学もお客様を大事にしてお客様が評価される本当の大学にしていかなければならないという事であります。私がやって来た事に誰も理解をしない中央大学と明治大学では年間50億円の収入がちがうわけであります。10年間で600億円位違う、それで競争に勝てないわけであります。それをどうやって勝てるように持っていくという強い信念のマネジメントをする人、大学の先生なりが死に物狂いでやらない限りここにお集まりの学員の皆様には、答える事は出来ない状況になると思っておりますから、私は憎まれても、憎まれても厳しく、厳しく対処して学員の皆様が卒業された大学が本当の大学になるように、本当に強く出ておりますから、どうか皆様方もそういう点で中央大学に対して厳しいご意見をどんどん出してもらわなければならないと思っております。それを本当にやりきれるかどうかという事であります。今中央大学は夏期休暇には入っております、職員も8日～18日まで10間は休みだと、そんな事は今許されないのではないですか、我々は休んでいる暇がないわけであります、年間賞与6.8ヶ月で8日～18日まで休みだとそんな馬鹿な事で、皆様方に寄付をお願いする事は出来ないと思います、大学の人達も公用車を廃止する、人を減らす等最大の努力をして皆様方に大事な本当に協力をして貰わなければならないわけでありますから、この辺が本当に全先生方、職員のかた方が認識をしない限り大学を変える事は出来ないと思っております。どうか皆様方今後とも宜しく学員会にお力を貸して頂

					きたいと思います。明るくて、前に進んで競争に勝てる本当の大学は、どうあるべきかという事を公開討論する位でなければならない。今日理事長が来ましたが、大学の理事と今日お集まりの皆様方を含めて公開討論をして、その中で意見を求めていく位の勇気ある経営者が必要だと申し上げて挨拶に代えたいと思います。」 続いて東北・北海道担当の小畑副会長から「今日のパーティは非常に拙いんですよ。たいてい大学からは誰も来ないのです。私久野会長の代わりにこの 3 ヶ月で山形、郡山、盛岡いろいろ廻りました。久野さんもいらっしゃらないし、理事長もいらっしゃらないので、私、でかい顔して大学の現況、これから大学はどうあるべきか、講演会はどうあるべきか、今日は何にも話せないのです。それで唯一話すのは、お持ちした荒正という酒に関してお話しします。 実は荒又酒造会社の奥さんも、旦那も中央大学の出身でして、この荒正を檜森さんに頼まれて 50 本持って参りました。私荒又酒造から頼まれたわけではないのですが、北海道のお酒も美味しいと思いますが、この荒正のシックスを飲んで楽しんで貰いたいと思います。」 ご来賓の最後は参議院議員の若松謙維氏から「私は商学部昭和 53 年卒業でありまして、現在公認会計士・税理士そして行政書士もやっておりまして、会費ばかり払っている会員です。実は先週末に復興副大臣を退任致しました。昨日退任式をやりまして今日札幌の皆様の元に駆けつけて参った次第です。 国会白門会というのが国会の中にありまして、その近況報告をさせて頂きたいのですが、現在国会には中央大学卒業生が 29 名おります。順番的に申しますと一番多いのが東大、慶応、早稲田、日大、5 番目が中央、6 番目に京都大学であります。そういう意味では中央大学は国政の中でも中心的に仕事をしております。国会白門会の会長は高村先生、平和安全法制で頑張られた方、更には今回退任なられましたがオリンピック担当大臣の遠藤さん、そして私も副会長をしておりますが同じく副会長の今津さんとで頑張っております。 そういう事で国会でも何とか中央大学の盛り上がりのために頑張っております。現在総長・学長の酒井先生は商学部でありますので新たな観点から中央大学の発展のために頑張って頂きたい。特に法学部の東京へのカムバックという事もあるのですが、今高齢社会に対応した学部づくりをされているという事であります。 私も今丁度ユニマット・リタイアメント・コミュニティという団体の役員をしておりましてまさにそのモデルが千葉にあります。酒井学長と一緒に視察もさせて頂きました。いずれにしても中央大学は本当に私達の時代では質実剛健という合い言葉に本当に今いろいろな面で失われた日本を再生するのは間違いなく中央大学だと思いますが皆様如何でしょうか、国会議員として頑張りますのでどうぞ一緒によろしくお願い致します。」 懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み会員同士名刺交換をし、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。 今回新たに会員となった学員は総勢 10 名で壇上に立ち自己紹介を兼ねそれぞれ挨拶を頂きました。 ・大峠　栄治氏（昭和５８年・法）ヤマサ醤油（株）札幌支店 ・小野寺　徹氏（昭和５９年・商）日本地建（株） ・栗山　大樹氏（平成２５年・法）北海道総務部総務課 ・佐々木　是将氏（平成１８年・商）（株）ビジネスコンサルタント札幌営業所 ・嶋田　貴年氏（平成５年・法）北海道総務部法務・法制文書課不服グループ ・鈴木　盛之氏（平成３年・経済）北海道あすかぜ高等学校 ・田島　誠治氏（昭和６２年・理工）日本ユニシス（株）札幌支店 ・田中　良介氏（平成２年・法）　北海道テレビ放送（株） ・辻田　真人氏（昭和４５年・法） ・森　達哉氏（平成２４年・経済）札幌市子ども未来局子育て支援部保育推進担当課認可担当係 会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入り、全員が輪になり、肩を組み合ってそれぞれ3番までフルコーラスで熱唱し誰もが過ぎし学生時代へ思いを馳せている様子でした。 結びは舟橋副支部長が壇上に立ち「ラジオでクリスチャン系の番組のコマーシャルだったと思うのですが、どんなに美しい言葉であってもその人の心から出た言葉でなければ相手には伝わらない。とイントロであったような事を覚えております。とてもいいお話しだったと思います。また 12 月 6 日に皆様にお会い出来る事を楽しみにしております。」懇親会は和やかに終了し散会となりました。尚、札幌市役所白門会より飲み物の寄贈がありました。
		8	26	第 3 回中央大学員会全道支部交流会議の開催	小樽にあるオーセントホテル小樽 3 階「入船の間」において午後 4 時より当支部より檜森支部長、西原幹事長、小樽より関口正雄支部長、内藤重雄副支部長、松田亙幹事長、函館より平沼冠三支部長、旭川より八重樫和裕支部長、帯広より石川政彦事務局長、釧路より中村圭佐支部長出席のもと開催しました。 檜森支部長から「お忙しいところお集まり頂きありがとうございます。本日の会議はここで何かを決めるというよりも支部の連携を図るために懇親する事も大事だという事で開かせて頂きました。」の挨拶に続いて西原幹事長の司会で議事に入りました。

					議案第１号「平成 27 年度支部活動について」 各支部から以下の通りそれぞれご報告を頂きました。 「帯広支部」 石川事務局長から ① 本学より林勘市常任理事、学員会本部より久野修慈会長出席のもと支部総会を開催（参加人員 20 名）。 ② 「白門ミーティング北海道・東北ブロック会議」へ出席。 ③ 支部新年会（箱根駅伝感想会）の開催（参加人員 19 名）。 ④ 学術講演会を４～５年おきに、通算して１０回開催。 ⑤ 平成３０年に支部創立５０周年を迎えるが、記念学術講演会の開催と記念誌の発行に向けて準備をしている。 ⑥ 本部より助成の「支部活動支援費」を活用して昨年会報１号、今年２号をカラーA4 判で制作し学員に配布したところ好評を得ました。 「釧路支部」 中村支部長から ① 支部定期総会の開催（参加人員 16 名）。 ② 「白門ミーティング北海道・東北ブロック会議」へ参加（支部より中村支部長出席） ③ 支部新年会の開催（参加人員 20 名）。 ④ 中央大学父母連絡会釧路支部総会へ参加（支部より中村支部長出席）。 「旭川支部」 八重樫支部長から ①中央大学父母連絡会道北支部総会へ参加（支部より 4 名出席）。 ②第 27 回大学対抗親睦ゴルフ大会へ参加（支部より 5 名出席）。 ③「白門ミーティング北海道・東北ブロック会議」へ参加（支部より八重樫支部長、武田幹事長出席）。 ④ 支部総会の開催。（参加人員 22 名）。 「小樽支部」 松田幹事長から ① 第 9 回日大・中大対抗ゴルフ大会への参加（支部より 3 名出席）。 ②「白門ミーティング北海道・東北ブロック会議」へ参加（支部より内藤副支部長、上山義達氏出席）。 ③支部総会の開催（参加人員 17 名）。 ④札幌支部との交流ゴルフ大会へ参加（支部より関口支部長、佐野英昭氏参加）。 ⑤東都 21 大学の集いゴルフコンペへ参加（支部より 4 名参加）。 ⑥東都 21 の集いへ出席（参加人数 45 名、支部より 10 名出席）。 「函館支部」 平沼支部長より ①中央大学父母連絡会函館支部総会へ参加（支部より平沼支部長出席）。 ②支部総会の開催（参加人数 18 名）。 ③「白門ミーティング北海道・東北ブロック会議」へ参加（支部より平沼支部長、山村孝幹事長、他 1 名出席）。 ④中央大学父母連絡会函館支部新年会へ参加（支部より平沼支部長出席）。 ⑤函館東都リーグ新年会へ参加（支部より 3 名出席）。 ⑥支部新年会の開催（参加人数 18 名）。 「札幌支部」 西原幹事長より別添の平成 27 年度事業報告について報告が行われました。会合の中で各支部共通の懸案事項として ①会員の高齢化。 ②新規入会者の減少。 ③総会・新年会への若い会員の参加が少ない。 ④支部財政の問題。 ⑤白門飛躍募金協賛への協力。 続いて内田小樽支部副支部長の乾杯で懇親会に入りました。 会は終始和やかな雰囲気の中で行われ各支部との情報交換・交流を図る事が出来ました。最後は関口小樽支部長の締めの乾杯で閉会となりました。

					尚、次回は帯広市で開催する事で全員了承しました。
		9	10	第 55 回ゴルフ大会の開催	本年度 3 回目は昨年に続いて北広島市にある「札幌リージェントゴルフ倶楽部トムソンコース」において開催されました。小樽支部との交流を兼ねた本大会は本年で 5 回を迎え小樽から佐野英昭氏（昭和 54・理工・環境工房（株）代表取締役）一人の参加となりました。当支部からは西山会長以下 15 名参加頂きました。当日は前半のアウトコーススタート時はあいにく曇天でしたが、途中から晴れて来て絶好のゴルフ日和となり楽しい一日となりました。 恒例により競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は当支部の伊藤宏二氏（昭和 56・理工・ＺＥＫＫＯ　ＩＮＣ．代表取締役）がアウト 40、イン 43 で回、準優勝は工津輝雄氏（昭和 39・商・（株）エミック代表取締役）がアウト 38、イン 43 で回りそれぞれ獲得しました。尚ベストグロス賞は舛田雅彦氏（昭和 54・法・札幌総合法律事務所所長）がアウト 38、イン 41 で回り獲得しました。その他ニアピン・ドラコン・大波・小波・平和の各賞と盛り沢山用意しました。 西山会長から賞品を全員に授与し、「来年も是非参加して頂きたい。」と挨拶、また優勝の伊藤氏から優勝の弁、小樽の佐野氏からもご挨拶を頂きました。 会は終始和やかな雰囲気の中で進み、次年度の再会と健闘を期して和気あいあいの内に散会しました。尚檜森支部長、柴田副支部長、西山会長、準優勝の工津氏、高橋恭平氏（昭和 48・理工・（株）タカラ専務取締役）、当支部顧問の出戸一成氏（昭和 35・経済・マックスバリュ北海道（株）相談役）、田代信一氏（昭和 56・文・（株）京王プラザホテル札幌リスク管理担当支配人）からもそれぞれ景品をご寄贈頂きました。
		12	6	支部年末懇親会の開催	師走に入っても市内は雪が少ない毎日が続く最中、恒例の支部年末懇親会が午後 6 時より京王プラザホテル札幌 3 階「扇の間」において檜森支部長以下 102 名の会員と、ご来賓に本学父母連絡会札幌支部長百井元幸氏をお迎えし開催されました。司会進行は大野真奈さんに（(有）ミュージック企画）お願いしました。 開会に先立ち檜森支部長から「今年は、想定外だとか予定外の事が何度も続いた年でありました。例えばＥＵからイギリスが離脱するとか、アメリカの大統領がこれを予想していた人もいるのでしょうか、予想外で株が大暴落するのかと思っていたら株が上がっているとか、全く金融屋の私達にも想像もつかないような事が起こりました。また年末ぐらいになりますと来年はどんな年になるのかという事が話題になるのですが、全くよくわかりません、私共経済研究所ですが、来年は予想がつかない年になります。最後は私何時も申し上げておりますように、元気で、明るく、仲良くやっていくしかないのかなと思っております。今年の本学の近況を申し上げますと ①残念な事に、陸上競技部は 10 月 15 日（土）開催された第 92 回東京箱根間往復駅伝競走の予選会で 11 位に終り、惜しくも本戦出場を逃し連続出場も 87 回で終りました。 ②平成 28 年度の司法試験の最終合格者数が本学は 136 名で 4 位となりました。(1 位は慶応 155 名、2 位早稲田 152 名、3 位東大 137 名） ③第 68 回全日本大学準硬式野球大会において 2 年振りに優勝 12 回目の日本一になりました。 ④本学バレーボール部は、12 月 3 日（土）開催の全日本大学学生選手権で 3 連覇を達成し全日本最多の 15 度目の優勝を飾りました。 ⑤創立 140 周年を迎える 2025 年に向けた 1　複数の新学部の創設、2　文系学部（法学部）の都心キャンパスへの移転、3　グローバル化推進、4　スポーツ振興事業を基本方針とする「中長期事業計画」を昨年策定しました。また本計画実現の事業資金に充てるため「白門飛躍募金」を新設し本事業の遂行することになり、学員各位にご協力を仰ぐ事になりました。募金目標額 100 億円（10 年間） ⑥当支部学員、昭和 45 年法学部卒業の真鍋俊彦氏（学校法人北邦学園・相談役）が秋の叙勲で瑞宝小綬賞を受賞されました。 ⑦当支部学員、昭和 56 年理工学部卒業の柴田龍氏（(株）北洋銀行・代表取締役副頭取）この度第 36 期札幌商工会議所副会頭に就任し本道経済振興の発展ためにご尽力頂くことになりました。 ⑧本学と北海道が就職の連携協定を結びました。

					最後になりますが、来年が皆様にとって良い年でありますように、また皆様がご健勝で、学員会札幌支部がますます活発にそして隆盛になりますように祈念致しまして私のつたないご挨拶といたします。」 続いて卓話「国の財政について考えましょう」に入りました。講師に籏本道男氏（昭和 35 年・商・公認会計士籏本道男事務所）を迎え以下のようなお話しを頂きました。 「あまり堅い話になるといけないからと思いますので、それと私自身所謂商業簿記といいますか、企業会計についてはもう相当長くそればかりやっていた人生なのですが、ここで最近どうも国の財政についてしっかりとした話ではなく借金がありすぎて危ないぞとか、あるいはなかにはヨーロッパの各国に比べれば日本なんて優秀な国なんだといったお話しが、いろいろと飛び込んで来るのですが、しかしどれが本当なのか良く理解が出来ていないのですが、私も今回初めて国の財政、国の貸借対照表を見まして、意外にそれが皆さんに知られていないのです。これは会計に携わる者としては何とかこれを皆さんに少しでも知って頂いた方がいいなという事で今回これをテーマにお話しをさせて頂く事に致しました。 普段、我々が見るのは国の予算なのです。今これから財務省から概算の額が出まして、それに更に各省庁からあれこれ注文がつくというのが予算なのです。私今回初めて財政法を読んだのですが、財政法の 4 条に国の歳出、所謂国が金を使う時には公債または借入金以外の歳入をもってその財源にしなさい。 公債または借入金以外の歳入というのは税金なのです。ですから国の財政というのは税金でやりなさいという事なのです。しかし但し書きがありまして公共事業あるいは出資金、それから貸付金の財源については国会の議決を経た金額の範囲でやりなさい。こういう事で後で出て参りますが、建設、何かを造るというような場合には堂々と国債を発行出来るのですが、どうも今期はお金が足りない、だからそこで金を集めないといけないという事になりますと特例国債、今の 4 条の後半の但し書きでそういうものを国の承認を得てやりなさい。 それから財政法では事業年度は 4 月から 3 月末迄と決まっております。それでいて、決算を会計検査院に送るのは翌年度の 11 月 30 日迄に送りなさい。 例えば今平成 28 年ですが 28 年 3 月末でもって 27 年の決算は終わっておりますが、ところがこの数字については、今年の 11 月 30 日迄に会計検査院に送りなさい。ですからそれから初めて会計検査院が検査に入る、あるいは国会で決算の審議も始まるという事で大変ゆっくりとした話です。これには会計法というのがございまして実に面白いのですが、会計法 1 条に 1 会計年度に属する歳入歳出（出入り）所謂出納に関する事務は政令の定める所によって翌年度の 7 月 31 日迄に完結しなければならない。事業年度は 3 月末迄ですよと言っておきながら 7 月末迄に完結しなければいけませんよという規定があるのです。ですからその間何を一体やっているのかと申しますと、実際支払あるいは受け入れは 5 月末迄やるようなのです、そしてそれだけでは駄目でして、7 月末迄に全部決着を付けなさい。これなかなか難しい規定だと思います。それを出納整理期間と言っているようです。 我々は 4 月、5 月の 2 ヶ月だけが出納整理期間だと思ったのですが、法律では実際お金が動くのは 2 ヶ月なのですけれども後 2 ヶ月以内にしっかりとした会計をやっておけという規定になっております。それだけに私共官庁会計と云っておりますけれども、それの出納整理期間というのは大変難物なものでして、それで 10 年前に夕張市が 350 億円の赤字を出して財政破綻をしたのですが、この時に何故 10 年間もあの夕張の財政で 350 億円の赤字をどうしてわからなかったのか不思議だったのですが、それで当時調べたところ、一般の会計とそれ以外に特別会計があり、夕張市はスキー場をやったり、ホテルをやったり特別会計がありましてこれを 3 月 31 日にピシッと合わせると解るのですが、4 月から 5 月迄の間にお金の出し入れがあるのです。」云ってみれば特別会計が 350 億円の赤字になっているのですから、4 月から 5 月の間に 350 億円借りる。 そしてそれから合わせて市に返すのが 350 億円を返すのですから市の方は貸していたのが 350 億円返済になったのです。それから特別会計の方は借りてきて前の分を返した。結局その辺で行ったり来たりしているだけで 350 億円の粉飾が行われた。その結果 10 万人ちょっとで作った借金を今人口 7 千人位でしょうか、その人達で払うと言っているわけですから、大変な思いをしているようです。 ただ出納整理期間というものは大変曲者でして、私共の商売から申しますと、決算とくに会社の決算で 3 月決算というのは、二月以内に法人というのは税金を払う事になっておりますから、3 月決算というのは 5 月末までに申告するわけです。上場会社であろうがなかろうが申告しなければならない事になっております。じゃあ 5 月、このお金は何時の部分なのだろうか。私の記憶では昭和 52 年までは 3 月決算というのは 5 月に入るから、これは当時の出納整理期間は、収入については 4 月に切っていたのです。ですから 5 月に入ったのは翌年度分になっていたのです。ところが昭和 53 年でしたか予算を組んでる時に、どうも足りない、これは大変だ、財政欠陥を興すという事から 3 月決算で 5 月に入る金をそこまでも引っ張り込もうと、5 月に入って 3 月で決算が終わっているのだから 52 年度に入れようではないかと 1 ヶ月入れたのです。 ところが会社は 3 月決算が非常に多いのです。ですから会社の決算書の 3 月決算の数字が一番多い時に、昭和 52 年から 53 年の時に財政欠陥を埋めたという歴史がございます。今でも財務省の方では、3 月決算は 5 月に入った金は全部旧年度の予算に入れております。ですから最後に 6

					月 1 日にならないと 3 月 31 日迄の決算数字がいくらになるかわかっておりません。こういう事でずるずると非常に決算が遅くなっているというのが実態だろうと思います。 それとやはりずっと見て見まして 1 頁目に平成 28 年度の一般会計予算を付けておりますが、現在行われております今年の 4 月 1 日から来年 3 月 31 日迄の予算です。予算の規模としては 96 兆 7,218 億円それから歳入の方もそうですよとなっております。さてそこで歳入の方を見ていきますと、実は日本の歳入は、57 兆 6,040 億円これが今年の 4 月から来年の 3 月迄の収入予算なのです。これには所得税、法人税、消費税、その他とあるわけでございまして税金だけで 57 兆円ですよ。その他を入れまして全部で 56 兆 6,040 億円ですよ。 ところが実際に使うお金は基礎的財政収支対象経費と書いてありますが、社会保障が 31 兆 9,738 億円、公共事業が 5 兆 9,737 億円、文教及び科学振興が 5 兆 3,580 億円、防衛がやっと 5 兆円に載ったという事で 50 兆 0,5 41 億円、その他として食料安定供給、中小企業対策、エネルギー対策、恩給等で 9 兆 4,690 億円、地方交付税・交付金等で 15 兆 2,811 億円と、ここまでで 73 兆 1,097 億円ですから既に税金が足りないのです。この数字を見ていただければ 16 兆円位税金が足りないのです。 これで更に国債費の支払いが 9 兆 8,961 億円、最後の償還の期日が来て返済しなければならないのが 13 兆 7,161 億円あり、そしてこれらを穴埋めするために所謂国債を発行するのですが建設公債が 60 兆 500 億円これはそれにきちんと見合う資産を買ったりあるいは他の建設公債で理由の立つものを取得するわけですが、それ以外に赤字でしょうがないからと出てくるのが特例公債です。 これが法制度があるものですから、なんだかんだと云いながら赤字でもやっていっている。実際現実は本当は 57 兆 6,040 億円で食べられれば一番良いわけですが、なかなかそれでは食べられない。それでこれは予算だからそれはいいわと、しかし実際国会で大騒ぎするのは、もうこれから今月から、来月からずっと予算を、平成 29 年度の予算をどうするかという事で、という事は 4 月 1 日からしか新しい予算は絶対使えませんから、それまでに何が何でも予算を通さないとならないわけですから、それが 1 年遅れの、しかし 28 年度の予算に関わる決算は来年 3 月 31 日で終わるのですが、決算の数字については翌年の 1 月に出せばいいのです。実にゆっくりとした話です。という事は締めが 7 月末ですから。それから 1 月末までに出せばいいという事です。 しかし予算については、租税収入はこれしかないあるいは社会保障は幾らだという事でいろいろと云われますので、これからも大騒ぎになるはずなのです。現在既に社会保障費が相当高くなっておりますので、これらについては連日新聞等に出ているようです。さてこの予算を見ると日本はいかにも金がなさそうなので一体日本の国の財政はどうなんだという事ですが、二つに分かれています。借金が 1,000 兆円もあって大変なのではないか、まして日本の生産力は 500 数十兆円なのです、その 2 倍も借金があるという事はこれは大変だ。ですから 2 年もすると日本の財政は持たないよという本までも出ております。 さて、最近出た中央大学の後輩が書いた本も、これはアメリカやヨーロッパよりも日本の方が立派なのだという事で褒め讃えている本も出ております。 さて 2 ページ目の国の財政状態所謂貸借対照表ですが、これが作られるようになったのはそもそも今から 12 年前、平成 15 年からですが、26 年度末という事は、27 年の 3 月 31 日迄ですから、28 年の 1 月末迄に確定している。本も出ておりますから 26 年度末が一番早い。最近の数字だと思います。 さてここで 26 年度末には資産合計は 679.8 兆円なのです。負債の方は 1,171.8 兆円ですから差し引きして 492 兆円の債務超過になっております。ですから普通の会社ですと純財産という言葉を使いますが、純財産がこれだけ足りないのです。ですから 492 兆円のマイナスなのですよと。それから一方借金は相当多いのです、それで特に借金の方は、負債の方を考えて見ますと政府の短期証券が 26 年度末で 99.2 兆円、公債が特に建設国債、特例国債、財投債その他と 884.9 兆円あります。借入金が 28.9 兆円ですからここで云ってみますと政府の短期証券、公債、借入金を足しますと 1,013 兆円になるのです。ですからこの 1,013 兆円を見まして日本の借金は 1,000 兆円を超えているという事で大騒ぎをされているようなのですが、確かにここ 10 年間順調に借金も増えておりますので、しかし 1,171 兆円あるから日本の国は大変だと云っておられますけれども、この中である、例えば資産の方の有価証券で 139.5 兆円ありますがこれは何かと云うと、日本郵政の株式を持っていたりあるいは外貨証券所謂為替変動があるものですから外貨系の証券も買い込んでいて、それでドル相場を見ながら一部売ったり買ったりされているのです。そういった事で何時も 139.5 兆円は売れる財産です。貸付金の 138.3 兆円ですが、これは地方公共団体に貸したりあるいは政策金融機関に貸し出す。運用寄託金というのは日本の年金というのは、現在掛ける人は掛けて、頂く人は頂いているとたくさん財源があってそこから金利相当を年金で払うという事ではありません。 毎年、毎年働いている人の給料を見ながら、調整されている。ですからそれがたまたま最近ずいぶん社会保険、厚生年金等も変えていかなければならないという議論が多いのです。そう云ってみますと国の 1,013 兆円の借金というのは、返す財源がない、ないと云いながらもまあそういうものもありますから即 492 兆円が不足だからすぐ倒産するような事ではない事とお解り頂けると思います。ただ大変苦しい。

					次の頁を捲って見て下さい、会社で云いますと、損益計算書なのです。業務費用計算書というのは費用関係です所謂人件費。社会保障給付金あるいは補助金、地方交付税交付金、減価償却、支払利息、こういう事でどうしても必須な 138 兆円ですよ。次いで資産・負債差額増減計算書がありますが前年度 26 年度の期首では、資産・負債差額で債務超過額は 490.4 兆円だと、それらについて本年度の業務費用の通り 138.3 兆円掛かりました。その 138.3 兆円に対して財源となったのは、租税等収入、社会保険料を入れて 115.4 兆円しかありません。だから 22.9 兆円の赤字なのです。これが 26 年の 3 月末迄の決算の数字なのです。この赤字もずっと毎年コンスタントにあります。これに前期の赤字をプラスしてそれから資産の評価差額あるいは為替換算差額、為替もこの時は大分高くなっておりましたので 14 兆円程プラスになっております。これが所謂 26 年度末で債務超過額が 492 兆円だという数字になっております。 ですから考えようによっては確かに 492 兆円の日本は債務超過ですから大変ですねと、ただし最近の公債はほとんど 60 年債ですのでという事は、先ず建設国債は何か作ってそれに見合う国債を出しているわけですから大体が、国の扱いとしてはこういう資産類は耐用年数 60 年位で計算しているので、そんなおかしなあれではないのだと言ってはおりますが、しかし大変な決算だとお思います。要するに 1,013 兆円の借金は間違いなくあるけれどもただ債務超過は 492 兆円だけですよとご理解を頂ければと思います。 続いて北海道の財政に移りますが、北海道は 27 年 3 月 31 日現在で資産総額が 10 兆 5,036 億円です。負債総額が 6.兆 6,237 億円で結果的には純資産合計額は 3 兆 8,7986 億円で北海道は充分債務超過にはなっておりません。3 兆 8,000 億円のプラスです。これが札幌市になりますと 27 年 3 月 31 日現在で資産総額が 3 兆 8,565 億円あります、そして負債総額が 1 兆 2,308 億円ですから、割合からしますと純資産合計は 2 兆 6,257 億円という事で札幌市の財政は大変良いという事で立証出来ます。それから合わせて札幌市は平成 13 年からこういう貸借対照表を作ってオープンにしております。そして関係・関連団体で連結の会計も平成 14 年から実行しております。国の財政状態は平成 15 年からですからそれまでは全く予算表しかなかったのです。決算書はなかったのです。それで随分苦労してやっと作ったのです。それで苦労するのは固定資産なのです。そもそも複式簿記ではありませんから、いくら出ただけの記録しかないのです。複式簿記になりますと何の為に、何を取得するために幾ら出たと残っているのですが、それがないものですから随分苦労して纏めたようです。これが平成 27 年、28 年、29 年の 3 年間で全国の市町村はみんな財産目録を作りなさい、それから複式簿記で記帳して下さい。それから発生主義でやって下さい。こういう 3 つの条件が付きまして再来年の 3 月 31 日まで全国の各市町村が貸借対照表作り、財産目録を作るという事は、貸借対照表の基になる頭を作るわけですから、それ今までそういう認識はなかったのですから、それを作れといってもなかなか大変です。それをおやりになる筈です。 それである市でとにかく外注したいと、過去の財産目録作りを外注したいけれどもどうだろうかと相談に見えたのですが、私は外注するのは結構だけれども、外注する事によって市の人で充分マスター出来る人がいないじゃないか、とそれでは困るから 1 週間でも 2 週間でも手伝って上げるから、職員の教育を先ずやった方がいいと申しましたら、さすがその市はそういう事が上まで行ったと見えまして、職員の簿記の研修をやる事になりましたと云って来ました。 やはり複式簿記の考え方というのは大切だという事が大分解ってきたのかなと思っています。最後に今年 3 月決算のトヨタ自動車（株）の数字を入れてあります。 本体の決算書を 1 頁目は資産です。資産合計が全部で 16 兆 1,002 億円あります。2 頁目は負債です。負債合計は 5 兆 2,407 億円です従って純資産は 10 兆 8,594 億円所謂 16 兆 1,002 億円の内 10 兆円まで自己資本なのです。 ですからアメリカあたりでよくリコール問題が起きて 4 千億円や 5 千億円にいくかもしれないという想定記事が出ますと、皆さんさあ大変だと騒ぐのですが、そうじゃないですね、本体が 10 兆円からの内部留保をしっかりと持っておりますので、5 千億円や 6 千億円いきましても、3 年や 5 年はあったとしてもどうっていう事はないというのが、現在のトヨタ自動車（株）の力なのかと思います。という事で決算書を見ながら比較して見るのも大変面白いと思います。なぜあの会社は、こうなったのか。今有価証券報告書というのは金融庁に出しています。上場会社は勿論ですけれども、それ以外に株主の数が多いとかという会社はみんな決算が終わって、3 月決算でしたら 3 ヶ月後 6 月の末に金融庁の方に全部出しております。それをネットで私共は見ることが出来るのです。それを見ながらあれこれと考えたり、何かするのも非常に参考になるかと思います。それで、これからはそう意味で、今まで貸借対照表は国に関係なかったのだけれども、国だって、地方公共団体だって貸借対照表から先ずスタートしましょうという事でなければならないのかと思います。」 続いて第 2 部の懇親会に入りました。舟橋副支部長（昭和 47 商・舟橋公認会計士事務所）「籏本先生、只今は貴重なお話し有難うございます。私北海道、札幌市の純資産がプラスという事初めて知りました。当然赤字だと思っていましたので。本当に今日は皆様とは年 2 回しかお会い出来ませんが、お集まり頂き有難うございます。 これから 2 時間位ですがどうぞ楽しい一時をお過ごし下さい、皆様のご健勝を祈念し、来年 1 年間が今年より良い年になりますよう祈念致しまして乾杯をさせ頂きますのでご唱和をお願い致します。」

					懇親会は終始和やかな雰囲気で進み会員同士名刺交換を行ったり、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶回り、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで見受けられました。 しばらく歓談のあと司会者から新規入会者の紹介と年末懇親会への飲み物、ビンゴゲームへの景品の寄贈者紹介がありました。5 名の新会員は壇上に上がり自己紹介を兼ねそれぞれ 5 分程ご挨拶を頂きました。 ・今井　恵理（平成 14 年・法）大庭歯科 ・大浦　佳純（平成 22 年・法）弁護士法人佐々木総合法律事務所 ・北山　敬太（平成 1 年・商）千歳市議会議員 ・栗原　重行（平成 11 年・経済）栗原社会保険労務士事務所 ・塩澤　明良（平成 13 年・法）丸エム南建設（株） 飲み物・景品の寄贈者は下記の通りです。 ・札幌市役所白門会 ・工津　輝雄氏（昭和 39 年・商）（株）エミック ・大峠　栄治氏（昭和 58 年･法）ヤマサ醤油（株）札幌支店 ・田島　誠治氏（昭和 62 年・理工）日本ユニシス（株）北海道支店 ・田代　信一氏（昭和 56 年・文）（株）京王ブラザホテル札幌 本会の目的は会員同士がより一層親睦を深めるものであり、アルコールが入ったところで恒例のビンゴ大会に入りました。 酔いが回ったせいかなかなかビンゴが出ませんでしたが、表ビンゴ、裏ビンゴ等の景品も出席者全員に当たるように支部で用意し、また会員からのご寄贈もあり「ビンゴ」の掛け声で会場は一気に盛り上がりました。 目玉のホテルランチ券は、高橋恭平氏（昭和 48 年・理工・（株）タカラ）と出戸一成氏（昭和 35 年・経済・マックスバリュ北海道（株））が、最後のビンゴ大賞は永田誠氏（昭和 45 年・商・日吉建設（株））が獲得しました。 懇親会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入りました。新規入会の会員に檜森支部長、金井重博・籏本道男・出戸一成・工藤武久顧問・柴田龍副支部長等は壇上で、出席者はその場に立ち 3 番までフルコーラス熱唱し､最後の惜別の歌に至っては全員が輪になり、肩を組むなど誰もが過ぎ去りし青春時代への思いを馳せているようでした。 結びは有塚広之副支部長（昭和 63 年・法・札幌市まちづくり政策局公共交通担当部長）が壇上に立ち出席者全員が「よーい」の掛け声により一本締めで締め盛会の内和やかに終了し散会となりました。
2017	29	1	27	札幌市役所白門会新年会への参加	厳冬の最中、平成 28 年度札幌市役所白門会（会長：有塚広之＝まちづくり政策局公共交通担当部長、会員数 67 名）の新年会がＯＢと現役職員合わせて 21 名の出席のもと、ホテルオークラ 3 階「アセンション」において午後 6 時 15 分から開催されました。当支部からは舟橋副支部長、西原幹事長が参加しました。 有塚会長（昭和 63 年・法）の開会の挨拶に続き、舟橋副支部長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。残念ながら上田文雄前市長は急遽出席が出来なくなりましたが会は終始和やかな雰囲気の中で進み、会員同士が杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。 最後は全員で校歌・応援歌・惜別の歌を 3 番まで唄い上げ、水野雅人副会長（昭和 63 年・法・厚別区保健福祉部介護障がい担当課長）の乾杯の音頭で盛会のうちに終了しました。その後恒例となっている二次会では、一次会での盛り上がりがそのままに盛況のうちに終了しました。
		5	11	支部三役会議の開催	北海道経済センター3 階特別談話室において、午後 12 時より柴田副支部長・舟橋・平野正明副支部長（昭和 60 年・経済・札北海道総合政策部・知事室長）、西原幹事長出席のもと開催致しました。 議案第 1 号　:「平成 28 年度事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長より別添資料に基づき報告了承されました。 議案第 2 号　:「平成 29 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」 幹事長より別添資料に基づき説明し学員ネットワーク拡充の一環として、「第 4 回学員会全道支部交流会議」を帯広市において下記により開催する旨の提案があり了承されました。 ③　日　時　　平成 29 年 8 月 25（金）午後 4 時 30 分～ ④　場　所　　ホテル日航ノースランド帯広 （帯広市西 2 条南 13 丁目 1 番地　　℡（0155－24－1234） 議案第 3 号　:「平成 29 年度支部定時総会の開催について」 幹事長より当日は大学本部より深澤武久理事長、学員会本部より久野修慈会長、小畑悟東北・北海道担当副会長を迎え下記日程により開催する旨の説明があり出席者全員了承しました。 総会は下記の日程に決まりました。 ④　日　時　　平成 29 年 8 月 10 日（木）　午後 6 時より ⑤　場　所　　京王プラザホテル札幌 3 階「扇の間」 ⑥　会　費　　懇親会費 7,000 円　　支部年会費 2,000 円 尚、総会終了後恒例の卓話は三角山文庫・代表堂前綾子氏（昭和 42 年・文）による「女性のキャリアに

					ついて」と題したお話を頂く予定。 議案第 4 号　:「学術講演会の開催について」 幹事長より本件については札幌市教育委員会、札幌商工会議所、協同組合中小企業振興センターの後援、本学父母連絡会札幌支部の共催の承諾を頂いており、本講演会の PR と参加者の動員を図るためポスター、チラシを制作し下案の要領で周知をしたい旨報告了承されました。 ⑤　A1 サイズのポスターを 25 枚、A4 サイズのチラシ 20,000 枚印刷。 ⑥　札幌商工会議所・協同組合中小企業振興センターの会員向けに毎月配布している資料の中に 20,000 枚を入れ参加者を募る。 ⑦　学員会札幌支部会員等向けにチラシをＤＭにて送付し参加者を募る。 ⑧　札幌市民向けのＰＲとして、札幌市営地下鉄の 15 の駅等の掲示板にポスターを貼り参加者を募る。北海道新聞、毎日新聞、読売新聞等を中心に市民向けのＰＲ版コーナーに掲載し参加者を募る。
			27	第 56 回ゴルフ大会の開催	本年度第 1 回のゴルフ大会（通算 56 回）は西山会長、檜森支部長参加のもと 12 名の会員から申込みがあり、市内にある札幌南ゴルフクラブ駒丘コースにおいて開催されました。 当日は午前 11 時 30 分にアウトコースをスタートしましたが、生憎前日からの雨天と当日も朝から雨が降り続き、通算 56 回にして初めてハーフで競技を取り止めました。 全員入浴を済ませ、さっぱりしたところで表彰式を兼ねて懇親会を行い、結果優勝者は由良比策志氏（昭和 59 年・経済・（株）北洋銀行・アウト：42　）で同氏はベストグロス賞も併せて獲得、また準優勝は西山会長（昭和 41 年・商・西山製麺（株）アウト 47　）が獲得しました。 西山会長より参加者全員にそれぞれ賞品と参加賞を授与しました。また他にニアピン・ドラコン・大波・小波・平和の各賞が用意され、チーム内でじゃんけんをして勝った人に賞品を渡しました。尚檜森支部長、工津輝雄氏（昭和 39 年・商・（株）エミック代表取締役）、田代信一氏（昭和 56 年・文・（株）京王プラザホテル札幌リスク管理担当支配人）、柴田龍副支部長（昭和 56 年・理工・（株）北洋銀行代表取締役副頭取）の 4 名から賞品の寄贈がありました。 懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み優勝者の由良氏から「初参加で、パートナーにも恵まれ、優勝出来ました。次回も是非参加したい。」との弁、続いて初参加の岡部好浩氏（昭和 63 年・商・（株）北洋銀行）からは「同門の先輩と回り、楽しいゴルフ大会でした。次回も是非参加したい」の弁に続いて、最後は事務局から次回 7 月 22 日（土）開催の第 57 回ゴルフ大会、7 月 31 日（月）開催の「中大学術講演会」、8 月 10 日（木）開催の「支部定時総会」への参加を要請し和気あいあいの内に散会しました。
		6	18	中央大学父母連絡会札幌支部総会並びに父母懇談会へ出席	ニューオータニイン札幌において開催の「2017 年度父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会」へ当支部より西原幹事長が出席されました。当日は在校生の父母 111 名が参加されました。午後 12 時 30 分より総会に入り、百井元幸支部長の挨拶に続き「2016 年度事業報告・決算報告」、「2017 年度事業計画案・予算案・役員改選」が審議されました。その結果新支部長に小沢知文氏、副支部長に平石知輝・山口富士男の両氏他新役員が選任されました。 引き続き「父母懇談会」が開催され、理工学部教授の石井靖氏からは「大学の近況について」、商学部事務室副課長の山川陽介氏から「学業・学生生活について」、キャリアセンター北澤竜一氏からは「最新の進路・就職事情について」お話がありました。 次いで佐々木与三郎氏（昭和 45 年・法・イワクラホーム（（株）代表取締役社長）からはご自身の生い立ち、大学時代の事、これからの若者に求める事等についてお話しがありました。終了後は希望者に対して個人相談会、続いて懇親パーティーも開催され参加した父母の親睦・交流を図る事が出来ました。
		7	22	第 57 回ゴルフ大会の開催	本年度第 2 回の大会は近郊の北広島市にある「ゴールド札幌カントリークラブ」において会員 14 名参加のもと開催されました。前日の大雨が嘘のように絶好のゴルフ日和に恵まれ楽しい大会になりました。恒例により競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会を行いました。優勝は伊藤宏二氏（昭和 56 年・理工・ＺＥＫＫＯＩＮＣ．アウト：45　イン；36）、準優勝は辻田眞人氏（昭和 45 年・法　アウト：41　イン：45）またベストグロス賞は工津輝雄氏（昭和 39 年・商・（株）エミック　アウト：42　イン：39）がそれぞれ獲得し、会長から優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与しました。優勝の伊藤氏から「パートナーに恵まれ優勝出来ました。楽しい大会で次回も是非参加したい。」旨挨拶がありました。続いて事務局より 8 月 10 日（火）支部総会、9 月 9 日（土）開催の小樽との交流ゴルフ大会への参加を呼びかけ、和気あいあいの内に散会しました。今回景品の寄贈者は下記の通りです。 ・工津輝雄氏（昭和 39 年・商・（株）エミック）、西山眞吾会長 ・檜森支部長・柴田副支部長・西原幹事長、高橋恭平会計監事 ・田代信一氏（昭和 56 年・文・（株）京王プラザホテル札幌）
			31	中央大学学術講演会の開催	中央大学主催、学員会札幌支部・父母連絡会札幌支部共催、札幌市教育委員会・札幌商工会議所・（協）中小企業振興センターの後援による学術講演会が北海道経済センター8 階Ａホールにおいて午後 1 時 30 分から開催されました。講師に阿部正浩氏（本学経済学部教授）を迎え「人工知能（ＡＩ）やロボットとこれからの仕事」－これからの働き方はどう変わるか－と題した講演に札幌市民、札幌商工会議所会員、学員、父母連絡会会員 133 名が熱心に聴講されました。講演に先立ち檜森学員会札幌支部長の開会の挨拶に続き講演に入りました。 阿部教授の講演は「将来の予測は不可能！」という真面目かつユーモア溢れる言葉に始まり、しかし過去から現在までを振り返ることにより近未来を予想することは出来る、と話を展開されました。 続いて正面スクリーンには、聞いたことのある有名上場会社名と、中高年には全く馴染みのない IT 系の会社名が映し出され、最近の研究によると日本の労働人口の約 49%が技術的には人工知能で代替可能にな

					るということで、昭和 60 年と平成 22 年との間で製造業や農業で従事者が減少しているなど職業別就業者数の変化の状況を説明され、同時に人が減少していない職種の存在も指摘されました。 IT の普及によりイノベーションの進展が急速で、革新的技術・革新的アイディアが起こり、ソフトやコンテンツの役割が増し、また名画や重要文化財などの複製が容易で本物そっくりの劣化しないデジタル財が増えていることに言及されました。 インターネットのプラットホームが整備されてマッチングがし易くなり、スペシャリストやプロ向けの仕事から初心者向けの仕事までのクラウドソーシングサービスが発展し、雇われない働き方という方向性を示されました。 講演の終わりに、通勤時の優先道路使用などのシェアリングエコノミーに触れ、アマゾンジャパンが配送に個人事業者を活用して宅配便のヤマト運輸を中抜きしようとしていることや、その目線の先にロボットの利用や時間のある一般人に配送を委託するなど、物流のあり方を変えようとしている事にも言及されるなど、時間が足りないくらいに働き方の最先端の話をして頂きました。（舟橋健市副支部長記）
		8	10	昭和 29 年度定時総会の開催	連日蒸し暑く厳しい暑さが続いている最中午後 6 時より京王プラザホテル札幌 3 階「扇の間」において本学本部から大村雅彦理事長、学員会本部から大木田守副会長、小沢知文中央大学父母連絡会札幌支部長をご来賓に迎え檜森支部長以下 100 名の会員が集い開催されました。約 2 時間 20 分お互いの近況を語り合いながら母校の更なる発展に向けて奮闘を誓い合いました。 司会進行は西原幹事長が行いました。議事に先立ち支部長から「本日は暑い中、お忙しい中、たくさんの学員の皆さんに集まって頂きまして有難うございます。当支部も元気で、明るく、仲良くという非常に単純なスローガンで支部長になってから、いろんな交流を進めて参りましたが、お陰様で皆様の大変なご協力もありまして何とかどの行事も活発に人が集まつたり、あるいは交流の輪が広がって来る事が出来ました。本当に有難うございました。本日は中央大学から大村理事長にご出席を頂きました。また学員会からは大木田副会長にお見え頂きました。ご多忙の所本当に有難う御座います。また日頃大変お世話になっております中央大学父母連絡会札幌支部長の小沢様にもお越し頂いております。有難うございました。」と挨拶がありました。続いて下記の学員物故者に対する黙祷を行いました。 ・石林　清氏（昭和 21 年・法）　3 月 19 日死去（当支部特別顧問） ・竹内登記彦氏（昭和 33 年・商）4 月 18 日死去 ・澤村二郎氏（昭和 24 年・経済）6 月 7 日死去 続いて支部会則第 10 条 3 項に則り支部長を議長に第 1 部の総会に入りました。 第 1 号議案「平成 28 年度事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長から別添の資料に基づき報告し、次いで会計監事の高橋恭平氏（昭和 48 年・理工）から監査報告があり諮った結果異議なく承認されました。 第 2 号議案「平成 29 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」 幹事長から資料に基づき説明し諮った結果異議なく承認されました。 続いて第 2 部の卓話「読み聞かせ・堂前流ボランティア」に入りました。講師は堂前綾子氏（昭和 42 年・文・三角山文庫代表）にお願いしました。講演の内容は次の通りです。 「「今日は三角山文庫ってなーに？と思われると思い、お手元に 2018 年で三角山文庫 50 年、そのエッセイのさわりをコピーしましたので読みながら、耳と、目を横目でこちらに傾けて頂けますと幸いです。 札幌とのかかわりを話します。私は新潟県長岡市の出身で 42 年に中央を卒業しました。夫・堂前　暁は歳は一つ上で、学年は一つ下の昭和 43 年中大法学部卒業で、学生時代は歌の神田川の世界でした。先に中大を卒業した私は新潟放送に勤務し、翌年の 43 年に夫がまだ開局前のＨＴＢ北海道テレビ放送に入社し、その年の昭和 43 年 10 月に結婚で札幌に住み現在に至っております。夫が退職し「そろそろ中大の集まりに参加しようかな・・・」と言っていましたが、平成 17 年 11 月 27 日に突如あの世に旅たってしまい、その代わりに私がこの集まりに参加しております。 昭和 43 年秋に自宅の隣のアパート『堂前荘』で私が近所の方に英語を教えたのをキッカケに幼児、小・中学生が来て、いつのまにか寺子屋塾になり、その場所を利用し、夫が日曜大工で机・本箱・黒板等を造り、いらした方々に本の貸し出しと読み聞かせが始まりました。 名称がなく、「堂前さんのとこ」とか「堂前塾」とかそれぞれが言い、名前を付けようと。目の前に見上げる【三角山】があり、そこから三角山文庫と名付けましたね。 昭和 55 年に一条離れた三角山の麓に知人が引っ越した家を買い、家庭図書館とし、毎週土曜ボランティアの方々で読み聞かせと本の貸し出し、ボランティアの方々が布の絵本を制作し来場者にみて頂きました。平日昼と夜はお子さんから大人の方々の文化教室と寺子屋塾で【本と人とのふれあいの場】としました。 三角山文庫の趣旨が・幼児から大人への人間的つながりにこだわり、大人と子どものふれあいを大切に ・子ども一人ひとりの個性を伸ばし、ノビノビ和やかに自然に学びあえる【自主性を重視】 ・子どもには叱る以上にフォローを忘れず、褒め、励ます、自信をもたせる。 文化教室は「普段の成果と張り合いのために」中央区ギャラリーで展示会を毎年開催。 年間行事として秋に【ふれあいガーデンバザール】でフリーマーケットや、文庫内ではそば・おでん・肉まん・あんまんやドリンク・・・地域の方々は勿論市外の方々もいらして下さり、【お子さんから大人の方の縦長なつながり】も出来、夏には『お子さんのお泊まり会』や『陶芸や籐工芸の無料講習会』等アイディアを出し合い行いました。 残念ながら、平成 13 年 2 月に氷の重みで集合煙突が倒れ、建物が壊れ、私の 体調不良も重なり、状況判断も出来ず、4000 冊の本も処分「人生おわりかなー」と持病の鉄分欠乏症。そ

					の後貧血もプルーンなどで少しずつ力がわいてきて、【35 年の三角山文庫のメッセージ】を全国の皆様に伝えたくエッセイ『本があるからよりみちしょう』全国出版。 夫が「三本足の飼い犬のロッキーを散歩に連れて行くと、振り返ってみる人の目が気になる・・・と聞いたので、私は【紙芝居　三本足のロッキー】を書き、市内の九つの区民センターのロビーで展示し見た方々の感想を頂き、それが絵本として全国に【メッセージ発信】しました。その後【紙芝居　すてねこポチとたまのおはなし】も絵本で。テーマいつの間にか【人と動物の共生を願う・・・】 で実話が多いですね～。 2004 年（平成 16 年）【布の絵本と紙芝居持参で出前講演】のゼロからスタートの三角山文庫ですね。　札幌市内外や道内、新潟県長岡市、魚沼市、南魚沼市・・・など 40 箇所以上回り 2005 年（平成 17 年）9 月、韓国のポーハンの短大 Sunlin College 約 150 名の学生にも講演をしました。テーマは「日本の紙芝居と布の絵本」で盛り上がり「言葉を超え、世界は一つ」を実感しました。費用は自前ですから、同期会などの集り　ついでに紙芝居、露天風呂大好きでビジネスホテルではなく温泉ホテルを取ります、二食ついていますしね。『何々ついでに紙芝居』ですね。 出版社が倒産し、跡を引き継いだ出版社も倒産・・・ついに自分で「ボランティア出版」で布の絵本と出版本を作っております。　【ねぇ　みんな！地域猫ってしってる】は北海道新聞出版局協力で制作。 ※三角山文庫布の絵本・作者はながやひろこ氏 ※三角山文庫出版･制作協力は西区山の手福祉推進センター運営委員長であり山の手地区民生委員児童委員協議会の会長でもある遠藤明雄氏。 ※ライブ活動はＦＭラジオカロスのパーソナリティー　ひまわりへレナ氏やシンガーソングライターＮＯＲＩＣＯとディレクター江端氏と石島しのぶ氏。 ※新潟県の紙芝居講演は友人・知人の方々。 周りの皆さんに助けられながらで感謝、感謝ですね。 「いつのまにか堂前さんに、させられているのよねー・・・」と言われつつね。 結構、私は前向きで「ケセラケセラ人生かも」と、絶対無理はせず「自然体が一番」と。どうせするなら楽しく・有意義に、周りには気遣いしながら、余計なことは言わず？ですが、うっかり自分ではわからなくても相手の方の気持ちを逆なでしているかもと思いながらね。注意、注意ですよ・・・ 「今日のメッセージですが【紙芝居・子に語る　三つの坂道のお話し】をしたいと思い持参しています。これは、北一条通左側の北海道神宮を見て、右カーブ西野方面に行く中央区と西区の境の「浄國寺」の坂道と「宮の森珈琲」の坂道と山の手一条と二条の坂道三ケ所に、地区住民が応募で名前を付けた。それを私が創作で絵本にしました。 あっ！以前あった三角山文庫の建物は宮の珈琲の坂をちょっと上がった場所で偶然ですよ､自分でもビックリですね～」　山の手小学校や山の手南小学校の授業の【読み聞かせ】に地域参加で行っています。生徒の皆さんの「おはようございます」､「ありがとうございました」挨拶の良さに私達大人も見習うべきだと思いましたね。 現在は自宅兼三角山文庫ですが、【道民カレッジ】（北海道生涯学習）連続講座として、【三角山文庫の寺子屋塾】を一般方々含め開催中です。これらの活動が出来なくなってもそれはそれでＯＫ！と。「今、自分に出来ることをするだけ・・・」　札幌西高の玄関の掲示【やるときはやる・やることはやる・やれるだけやる】と。　自分自身を鼓舞しながら、その言葉が原点かもですね～」 続いて第 3 部に入り有塚広之副支部長（昭和 63 年・法・札幌市子ども未来局子ども育成部長）が壇場に立ち「今、札幌市役所の子ども未来局という所におりまして、育てしやすい街ということでいろいろと事業を進めているところでございます。札幌で子育てするのが、しやすいという事で人が集まって来るというような事をやっております。 札幌も今幸いにも人口がまだ減っておりませんけれども､全国的に人口が減っているという事でこのまま札幌も減っていくと予測をされております。 そういった中で、中央大学の方に進学される学生を私としては、増やしたいと思っておりますけれども、是非大学で学んだ事を札幌に戻って来て活かして頂きたいと思っております｡それでは皆様ご唱和頂きたいと思います｡」しばらく歓談後、司会者より新規入会者の紹介に移りました。今回新たに会員となった学員は総勢 11 名で壇上に立ち自己紹介を兼ねご挨拶を頂きました。 ・伊藤考一氏（平成 12 年・法）伊藤・大出法律事務所 ・片倉重文氏（平成 19 年・文）千歳市総務部職員課 ・吉川尚人氏（昭和 55 年・商）道銀カード（株） ・小林誠一氏（昭和 51 年・理工）（株）アイム環境ビル管理 ・小山尚人氏（平成 15 年・商）キャリアバンク（株） ・四方学氏（平成 23 年・文）札幌市議会事務局総務課庶務係 ・巽豊氏（平成 12 年・法）千歳市総務部総務課 ・逵本秀久氏（平成 1 年・理工）（株）ＮＴＴデータ北海道 ・中村健一氏（昭和 51 年・法）オフィス中村 ・南知秀氏（昭和 56 年・文）公益財団法人千歳青少年教育財団 ・山田真由美氏（平成 23 年・法）北海道教育大学札幌校 続いて大村理事長から「北海道に来るのは、私は 3～4 回目くらいですが、空港で飛行機を出て直ぐにああ身体が楽だなあと感じました。昨日あたりその前あたり東京は大変な暑さでしたけれども、大変過ごしや

					すい一日を今日は過ごさせて頂きます。 私理事長を拝命しましたのは5月の末でございます。まだ理事長と呼ばれますと一瞬と惑いがありまして誰か他の人の事かと感じる事がございます。 学内の教員が理事長に選ばれたのは48年振りだそうで、そういう意味で他大学では教員が理事長になる事はしばしばあるのですが、本学では長らく外部の有力なＯＢの方が理事長を務めて来られました。 この非常に変化の激しい時代、大学もいわば冬の時代でありまして、18歳人口がどんどん減ってきている、いわば教育産業というのは斜陽産業ですねそういう意味ですね、どんどん市場が小さくなってきている。そういう中でも、しかし大学は全国で700位ありますので、その内半分位は過激な事を言いますと将来潰れてもしようがないかもしれませんが、やはりそうはいっても高等教育、日本の高等教育を支える大学というのは当然必要であります。 中央大学は当然その中に入ってそして今後とも繁栄していかなければならない、皆様の母校中央大学が永遠に続く、これは当然やっていかなければならない事であります。昨年中央大学の中・長期事業計画、ＣＨＵＯ　ＶＩＳＩＯＮ　２０２５　策定致しました。あの原案は総合戦略会議委員として携わり取り纏めたものでございます。その計画づくりだけではなくて、それを遂行していく役割を今回与えられたと、この様に捉えて前向きにこの重責を担うと覚悟を固めた次第であります。 微力ではありますけれども中・長期計画の内容を一つ一つ、一歩一歩実現していきたいと思っておりますので、どうぞ札幌の皆様方のご支援を宜しくお願い申し上げたいと思います。 それから後で学員会の大木田副会長から申し上げると思いますが、今年の10月にはまた恒例のホームカミングデーがございますので、ご都合のつく皆様は是非多摩キャンパスにお出で頂きたいと思っております。 最後になりましたが、この札幌支部のご発展そして皆様方のご健勝をお祈り申し上げまして私の拙いご挨拶とさせて頂きます。今後とも宜しくお願い申し上げます。」続いて学員会の大木田副会長から「本日は札幌支部の盛大な総会おめでとうございます。先程は初めて参加する学員が11名壇上で挨拶されましたけれども大変札幌支部の勢いを感じました。 今大村理事長が挨拶をされましたが大学の教職から理事長になるのが48年振りという、いよいよ中央大学も含めて大学の生き残りの時代に入ったというような事で、学員会といたしましても、大村新理事長を大きく支えて中央大学の再びの発展のために尽くしていこうと何時も久野会長と話しをしております。 先程大村理事長から10月22日（日）のホームカミングデーの話がありました。私も実行委員会の委員長をやっておりますので、その内容だけ簡単にご紹介させて頂きます。昨年は「君の名は。」でヒットした新海誠さんの講演が大変好評でございまして卒業生6,400名の皆さんが母校に帰って来て頂きました。 第一点目今年は第26回という事で目玉は秋元康さんが初めて母校に来て講演をするという事であります。時代の波を見つける人もいますし、時代の波に乗る人もおりますけれども。秋元康さんは時代の波を作っている人なのですね。ＡＫＢ48の事もそうですし、歌詞もたくさん作っておりますし、美空ひばりさんが唄った「川のながれのように」もそうですし、秋元さんの講演が皆さんから大変期待されております。 第二点目の企画は、中央大学132年の歴史の中で様々な歌が生まれて、歌は不思議な力を持っておりまして、中央大学の発展に校歌、応援歌がありますけれども「中央の歌、白門の響き」という事で1時間に亘ってバックに中央大学の歴史の映像を流しまして、様々な校歌、応援歌、「中央の若き日に」を初めとしてそういう歌を1時間流します。 第三点目はいよいよオリンピック迄後3年という事で世界一の東京オリンピック・パラリンピックを目指すという事で昭和42年卒の青山さんに基調報告をして頂きまして、次いでリオの銀メダリスト飯塚翔太選手、パラリンピック大日向さんからも報告をお願いする事になっております。また中央大学としはオリンビックに20名の選手団を出そうという事で、その活躍する皆さんも紹介して是非オリンピックの晴れの舞台で活躍をして頂きたいと考えております。 最後に箱根駅伝ですがいよいよ10月14日（土）に予選会がありますので、この予選会で是非勝ち上がって貰いたいとおもいます。この箱根駅伝を応援するために「箱根駅伝とわが青春」という事で6連覇の時の皆さん、あるいは平成8年に優勝した時の皆さん、藤原監督世代の若い皆さんに青春時代の金字塔である箱根駅伝の様々な事例を語って頂いて中央の魂であるこの箱根駅伝古豪の復活ないという様なものを天下にとどろかしていきたいと、こんな事も考えております。 大村理事長がスタートして中央大学も前へ、前へとこういう合い言葉で進んでおりますので、どうぞ札幌の皆さんよろしくお願い致します。」 懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み会員同士名刺交換をし、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。 会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入り、全員が輪になり、肩を組み合ってそれぞれ3番までフルコーラスで熱唱し誰もが過ぎし学生時代へ思いを馳せている様子でした。 結びは平野正昭副支部長（昭和60年・経済・北海道総合政策部　知事室長）が壇上に立ち「今日今校歌を唄い、皆さんと肩を組んで惜別の歌を唄って、皆さんの絆がより深いものになったなあと思います。 そして今日も新入会員の方が大勢入って頂きましたが、次回に向けましてこの輪をもっと広げていきたいので、皆様方一人、一人中央大学出身の方にお声掛けをして頂きたいなあと思っております。 最後の締めという事ですので、一本締めで締めたいと思いますので、宜しくお願い致します。また12月5日（火）に皆様とお会い出来る事を楽しみにしております。」 懇親会は和やかに終了し散会となりました。尚、札幌市役所白門会より飲み物の寄贈がありました。

			25	第 3 回中央大学員会全道支部交流会議の開催	帯広にあるホテル日航ノースランド帯広 3 階会議室において午後 4 時 30 分より当支部より檜森支部長、西原幹事長、函館より平沼冠三支部長、旭川より八重樫和裕支部長、上村有史幹事長、帯広より後藤裕弘支部長、大塚徹副支部長，矢戸高尚副支部長、石川政彦幹事長、釧路より中村圭佐支部長出席のもと開催しました。 檜森支部長から「お忙しいところお集まり頂きありがとうございます。本日の会議はここで何かを決めるというよりも支部の連携を図るために懇親する事も大事だという事で開かせて頂きました。」と挨拶、続いて西原幹事長の司会で議事に入りました。 議案第 1 号「平成 28 年度支部活動について」 各支部から以下の通りそれぞれご報告を頂きました。 「帯広支部」 石川幹事長から ①現在本支部の会員は 81 名おります。昨年は総会に本学より林勘市常任理事、学員会本部より久野修慈会長出席のもと開催（参加人員 28 名)。・平成 28 年度事業報告・収支決算報告に続いて 29 年度事業計画・収支予算（案）の承認。・大塚徹副支部長、讃岐武史幹事より活動報告。・新入会員 2 名の紹介。・出席学員の近況報告等が行われた。 ②第 3 回学員会全道支部交流会へ石川が出席 ③平成 30 年に支部創立５０周年を迎えるが、記念学術講演会の開催と記念誌の発行に向け検討している。 ④本部より助成の「支部活動支援費」を活用して昨年会報 1 号に続いて、今年 2 号をカラーA4 判で総会等の写真を中心に制作し学員に配布する予定。 「釧路支部」 中村支部長から ①支部定期総会の開催（参加人員 15 名)。 ②第 3 回学員会全道支部交流会へ中村支部長出席。 ③支部新年会の開催（参加人員 19 名)。 ④中央大学父母連絡会釧路支部総会へ参加（支部より中村支部長出席)。 ⑤支部年会費は徴収していない。 「旭川支部」 八重樫支部長から ①中央大学父母連絡会道北支部総会へ参加（支部より 3 名出席)。 ②旭川在住の各大学卒業生との親睦・交流を図る第 28 回大学対抗親睦ゴルフ大会へ参加（支部より 2 名出席)。 ③第 3 回学員会全道支部交流会へ参加（支部より八重樫支部長出席)。 ④支部総会の開催。(参加人員 23 名)。 ⑤会員は現在 202 名。支部年会費は徴収していない。 「函館支部」 平沼支部長より ①中央大学父母連絡会函館支部総会へ参加。(平沼支部長出席) ②支部総会の開催（参加人数 16 名)。 ③第 3 回学員会全道支部交流会への参加。(平沼支部長出席)。 ④中央大学父母連絡会函館支部新年会へ参加。(平沼支部長出席)。 ⑤函館東都リーグ新年会へ参加（支部より 3 名出席)。 ⑥支部新年会の開催（参加人数 23 名)。 「札幌支部」 西原幹事長より別添の平成 28 年度事業報告について報告が行われました。会合の中で各支部共通の懸案事項として ①会員の高齢化。 ②新規入会者の減少。 ③総会・新年会への若い会員の参加が少ない。 ④支部財政の問題。 ⑤白門飛躍募金協賛への協力等が話されました。 懇親会は別会場に移り帯広支部より新たに幹事の高橋常夫氏・今木啓智氏が出席されました。後藤裕弘支部長の乾杯で懇親会に入りました。 会は終始和やかな雰囲気の中で行われ各支部との情報交換・交流を図る事が出来ました。

					尚、次回は札幌市で開催する事で全員了承しました。
		9	9	第 58 回ゴルフ大会の開催	本年度 3 回目は昨年に続いて北広島市にある「札幌リージエントゴルフ倶楽部トムソンコース」において開催されました。小樽支部との交流を兼ねた本大会は本年で 6 回を迎え小樽から佐野英昭氏（昭和 54 年・理工・環境工房（株）代表取締役）一人の参加となりました。当支部からは西原幹事長以下 14 名参加致しました。当日は前半のインコーススタート時はあいにく曇天でしたが、途中から晴れて来て絶好のゴルフ日和となり楽しい一日となりました。 恒例により競技終了後表彰式を兼ね懇親会を行いました。優勝は当支部の工津輝雄氏がアウト 41、イン 41、で、準優勝は舛田雅彦氏（昭和 56 年・法・札幌総合法律事務所、アウト 40、イン 42）がそれぞれ獲得しました。尚ベストグロス賞は伊藤宏二氏（昭和 56 年・理工・ＺＥＫＫＯＩＮＣ．アウト 44、イン 37）が獲得しました。その他ニアピン・ドラコン・大波・小波・平和の各賞と盛り沢山用意し、幹事長から賞品を全員に授与し、「来年も是非参加して頂きたい。」と挨拶、また優勝の工津氏から優勝の弁、小樽の佐野氏からもご挨拶を頂きました。 また今回初参加の中村健一氏（昭和 51 年･法・オフィス中村）、逵本秀久氏（平成 1 年・理工・（株）ＮＴＴデータ北海道）の両氏からも「来年も是非参加したい。」旨ご挨拶を頂きました。 会は終始和やかな雰囲気の中で進み、次年度の再会と健闘を期して和気あいあいの内に散会しました。尚、関口正雄小樽支部長、檜森支部長、柴田副支部長、優勝の工津氏、高橋恭平氏（昭和 48 年・理工・（株）タカラ専務取締役）、田代信一氏（昭和 56 年・文・（株）京王プラザホテル札幌リスク管理担当支配人）、大峠栄治氏（昭和 58 年・法・ヤマサ醤油（株）札幌支店長）からもそれぞれ景品のご寄贈を頂きました。
		12	5	支部年末懇親会の開催	師走に入っても市内は雪が少なく日中は気温が高く、夜は気温が下がり道路は滑りやすい状態がつづいている中、恒例の支部年末懇親会が午後 6 時より京王プラザホテル札幌 3 階「扇の間」において柴田龍副支部長（昭和 56 年・理工・（株）北洋銀行代表取締役副頭取）以下 98 名の会員と、ご来賓に本学父母連絡会札幌支部長の小沢知文氏をお迎えし開催されました。司会進行は昨年好評だった大野真奈さんに（(有）ミュージック企画）にお願いしました。 開会に先立ち柴田副支部長から「本来であれば支部長の檜森がここに立っているわけでありますが、今日は所用がございましてこの場に来られないという事で私が代わりに開会のご挨拶をさせて頂きたいと思っております。 今、司会からありましたけれども本日は本当に足下の悪いといいますか、真冬の中といいますか、まさに忘年会に相応しい気候になりましたが、これだけの多くの皆様にお集まり頂きました事に先ず感謝申し上げたいと思います。お礼を申し上げます。この学員会札幌支部ですけれども、先程幹事長にお聞きしましたところノミネートの数だけでも、750 名いるそうです。生きているのですかと聞くと生きているということです。 亡くなった方は削除しているそうです。そのうち会費を払っている人は何人いるのですかと聞きましたら、250 名という事です。今日は約出席率という意味では 5 割の 100 名ちょっとの方が参加頂いたという事で改めて感謝申し上げます。今日は忘年会という事ですので皆さん是非交流を図って頂きたいと思います。私も今日出がけに幹事長に日頃ご苦労を掛けておりますが、支部のホームページを立ち上げておりまして、ご覧になっておられる方もあると思いますが、見られていない方は是非明日にでも見て頂きたいと思います。 非常に精緻にというか、細かく支部の活動状況が書かれております。直近にいうと、こういう会もそうですし、それからゴルフ会を行ったり、全道の、小樽とか函館、帯広、釧路、旭川にも支部がございますが、そことの交流会もやっておりまして、そういう事もこと細かに写真付きで記録がでております。ちょっと個人情報に抵触するような部分もあるようですけれども、そこは同門という事でお許し願いたいのですが。是非一度ご覧頂きたいと思います。 そして非常に嬉しいのは、今日はここに大先輩もたくさんご参加して頂いておりますが、ここ数年若い方が非常に増えたという事だと思います。新しい血というか、世代がどんどん進む中で若い方が増えて、平均年齢が徐々にですけれども下がってきていると私はそういう印象を持っておりますけれども。組織にとっては非常に良い事だと思っております。これからもみなさんの中でそういう仲間の方がおられましたら、是非お誘い頂いてこういう場所で交流を図って頂ければと思っております。 大きな会合としては、年 2 回 8 月の総会、12 月の忘年会セミナーをはさんでという形になります。私も仕事柄、全道とか銀行に勤めているものですからお客様にお会いしますけれども、結構中央大学出身の経営

					者の方おられます。そこでお互い距離間がぐっと縮まりますので別に仕事に生かすつもりはないのですが、自然と人間の関係ですので、やはり同門というのは非常に話しが、共通の話題が出ます。 私は昭和 56 年卒業ですけれども、丁度大学 2 年から 3 年に掛けて八王子に移転しておりますけれども、先程も話しをしておりましたが、後楽園とお茶の水と八王子、丁度三角関係といいますかそれを経験しております。その日によっては八王子に行ったり、お茶の水に行ったり。丁度我々の世代はそうでしたけれども、おそらくお茶の水を知らない世代も勿論いますし、八王子を知らない世代もおります。大体年齢を見れば推定が出来ますけれども、何かお聞きしている情報によると、また都心に回帰したいという本学の計画がおありのようで、まあ文系の一部、法学部でしょうか都心キャンパスの方に移転するという計画があるようでございます。 これも事務局から是非言えと言われておりますので、忘れない内に言っておきますが、募金の話をしておきたいと思います。 2025 年に、あと 7 年後になりますが、本学が創立 140 周年を迎えるという事でございます。そしてそれの中・長期事業計画を作ったそうです。その中に「白門飛躍募金」という名前で、日本中から、全国の各支部から募金を募るという事のようです。 つきましてはここ数年事務局の方からご案内が行っていると思いますが、なかなか札幌支部は、これだけ富裕層が多い割にはやや動きが鈍いという事でございますのでこの場をお借りして、今日も書類の中に入っていると思いますが一口 5,000 円だそうでございますので 何口かでも許せる範囲で、ちょっとした愛校心を出して頂ければと思っております。 今年 1 年振り返りますと、中央大学、勿論皆さん愛校心もおありだと思いますが、活字で私が記憶にあるところで言いますと 8 月に世界陸上がございましたけれども、男子 400mリレで本学出身の飯塚翔太選手（平成 26 年・法）が決勝に第 2 走者として出場し見事日本に銅メダルをもたらしました。 それから 10 月に皆さん、今年は非常に悔しい思いをした事と思いますが、14 日（日）に行われた箱根駅伝の予選会に見事 3 位で本大会に出場する事になりました。予選から勝ち上がるという足腰が強い、恐らく来年のお正月には皆さん是非見て欲しいのですが何とか上位入賞をはたして古豪復活とか何とかそういうような見出しで是非箱根駅伝を楽しみにして頂ければと思っております。 直近では第 70 回全日本大学男子バレーボール選手権大会の 3 位決定戦が世田谷区総合体育館で 12 月 3 日（日）に行われ、石川、大竹を擁する本学バレーボール部は東海大学を 3 対 0 のストレートで破りました。何かにつけてそういう部分も気にして頂ければと思います。今まではスポーツの話でしたけれども、一番の売りであります司法試験の結果は第 3 位で合格者は 119 名でした。因みに 1 位慶応 144 名、2 位東大 134 名でした。 一位の慶応が 144 名という事で、もう少し頑張れば全部そうなのですね、銅メダルであったり 3 位であったり今年は 3 位に甘んじましたが、今回もこれは 3 位なのですね。今年はこれで甘んじますけれども、来年は 2 位、再来年は 1 位と皆さんの応援を含めて是非狙って、頑張って頂きたいと思っております。 さて今日の卓話でお話し頂けるのは平野正明さんです、北海道庁の知事室長をやられております平野室長です。来年北海道命名 150 年という事でこれもＰＲをしておりますけれども、「その先の道へ」、これは是非覚えて頂きたい、これは今日スピーチをして頂くので私がリップサービスで道庁のＰＲをしているわけですけれども、今日は命名 150 年周年をした松浦武四郎のお話しを頂けるという事でご静聴頂ければと思っております。長々と話しをして参りましたが、是非限られた時間でございますけれども今日皆さんで交流を図って最後には、校歌・応援歌を唄って締めたいと思いますので、楽しい一時をお過ごし頂きたいと存じます。ご挨拶に代えさせて頂きます。本日は誠に有難うございました。」 続いて卓話「北海道命名 150 年と松浦武四郎」に入りました。講師に平野正明氏（昭和 60 年・経済・北海道総合政策部　知事室長）を迎え以下のようなお話しを頂きました。 「皆さん今晩は、只今ご紹介を頂きました北海道庁で知事室長をしております平野と申します。昭和 60 年に経済学部を卒業しました。入学した時から多摩校舎で 4 年間過ごしました。その後、北海道庁に入庁致しまして、地域振興や産業振興、最近では地方創生や道の政策の取りまめなどをしておりまして、今年の 4 月から知事室長をしております。 先ず資料をご覧頂きたいと存じます、最初に覚えて頂きたいことを 7 項目記載してあります。 一つ目は、2018 年（平成 30 年）、北海道は命名 150 年。150 年目でして 150 周年目ではありません。これはこれまでも北海道開拓 100 年、100 年目の時は開拓という言葉が使われていたようなのですが、今は北海道命名 150 年としています。何故か北海道の場合は周年ではなくて 50 年目、100 年目で様々な記念事業をしております。 これは 1869 年（明治 2 年ですけれども）8 月 15 日太政官布告により蝦夷地が「北海道」と命名された年で、来年は北海道命名 150 年ということでございます。 道としては 150 年を記念して様々な事業を進めたいと考えており、二つ目にありますとおり、この事業のキーパーソンを北海道の名付け親でありまして、またアイヌの方々を愛した「松浦武四郎」にしております。 三つ目でございますが、今年の 7 月 17 日から「北海道みんなの日」、愛称「道民の日」というものを制定しております。道の施設が無料になるなど、民間の企業の方々とも連携をしながら、そして市町村と連携しながら事業を展開しております。まだまだ、知名度不足かなあと思っておりますが、この 7 月 17 日は何の日かと申しますと、松浦武四郎が明治政府に「北加伊道」の名称を提案した日でございます。 四つ目は「イランカラプテ」聞いたことがありますでしょうか、アイヌ語の方々のあいさつ「こんにちは」

					の意味で、この言葉をハワイの「アロハ」と同じように北海道で観光客の方々をはじめお迎えする言葉として定着させていきたいといたった取り組みも進めております。 五つ目は2020年4月24日難しい言葉なのですが、「民族共生象徴空間」が白老町にオープンいたします。これは「東京オリパラ」に併せてでございますが東京以北、東北から北での国立博物館としては初の「国立アイヌ民族博物館」、「国立民族共生公園」、慰霊碑といった施設の総称でございます。なかなか親しみにくい名称ということで、これから愛称を募集していく取り組みも進められるところでございます。 六つ目でありますけれども「北海道・北東北の縄文遺跡群」は世界遺産登録を目指しているということでございます。これは北海道独自の歴史、今から約1万5千年前から2万5千年前まで1万年以上縄文時代が続いております。そして北海道にある唯一の国宝も縄文時代の中空土偶です。 七つ目ですが、先程柴田副支部長からもご紹介がありましたが、北海道の新たなキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」これ去年の4月に制定をしております。 英訳は「Hokkaido. Expanding Horizons.」ということで、資料の中にチラシが入っておりその後ろに説明が書いてありますのでご参照いただければと思います。はたして皆さんこの七つご存じだったでしょうか。今日は先ず皆様にこの七つを頭に入れておいて頂ければ、私の話は殆ど終わったなあということでございます。 続きまして命名150年事業とは何なのかについて、武四郎とはなど、ご説明をしていきたいと思います。 北海道の歴史を振り返りますと「北海道には本州と異なる非常にユニークな独自な歴史文化がございます。人類が北海道に住み始めたのは今から約3万年前の旧石器時代、その後先程の縄文時代、続縄文、擦文時代、北海道には弥生時代はなく、そして先住民族としてのアイヌ文化と続いております。 アイヌの方々は北海道の自然の中で共生しながら独自の文化を発展させてこられた方々でございまして、命ある者全てを尊重するアイヌの方々の自然観、また世界観というのは現在も、そしてこれからも尊重すべきものと考えております。 明治以降につきましては他県から移住された方々が道内各地に入られまして、ご尽力、大変なご苦労、ご努力によりまして、また数々のお雇い外国人の知識や技術を借りながら世界的にも類のないスピードで、短期間で近代化が成し遂げられた地域でございます。 そして1869年松浦武四郎が明治政府に提出した意見書を基に北海道と命名されてから来年150年目の年を迎えます。この記念の年に北海道の歴史、文化、先人の偉業をふり返りながら感謝し、道民の皆さんと国内外、北海道ファンの皆様と共に北海道のすばらしさ、様々な交流を広げて北海道が持つ価値を次の50年に繋げていきたいということで事業を展開していきたい、そしてこれからの北海道を支える、特に子供達に向けて記憶に残る事業をしたいと考えておりまして、基本姿勢としまして、未来志向、価値創造、道民一体を掲げております。 事業の構成でございますが大きく分けて二つございます、一つ目は経済界ですとか様々な民間団体から構成されている実行委員会が実施する記念セレモニーになっております。 記念事業の実施期間は来年1月から12月までの1年間でございますけれども、このうち記念式典は来年の8月5日に「北海きたえーる」で開催を致します。またその前後になりますけれども7月14日から8月26日の間150年ウィークとして食やアート、スポーツ、科学など様々なテーマによりまして北海道を発信する取り組みを展開していきたいと思っております。 こういった事業に協力してくれる企業の方々をパートナーと呼んでおりまして、現時点で国内外の118社の皆様にご協力・ご支援を頂いております。例えば、北海道150年関連のテレビ番組の制作など企業の皆様が持つ企画力、ノウハウを生かして頂きながら取り組みを展開していくこととしております。 二つ目は道民の皆様方が主役となる北海道みらい事業でございます。現在、全道各地で約300を超える事業が企画されておりまして、この事業につきましては予算の範囲内ということになりますが、北海道による交付金の支援も予定をしております。今日こういった取り組みを初めて知ったので、それぞれの企業さんでこれから取り組みを考えたいという方につきましては、事務局の方にお問い合わせなど頂ければと思います。 また今年はプレの年でカウントダウンイベントなどによるＰＲをしてきておりますし、この実行委員会のサイトで北海道をＰＲする動画も配信をしておりますので、こちらの方もご覧頂ければと思っております。年明けからはまさに北海道150年ということで大きなものとしては、2月5日に北海道に縁のある音楽や映画、著名人を招いたキックオフイベント、1月19日から25日の間は赤レンガ庁舎でのプロジェクションマッピング、また雪まつりなど様々なイベントで事業を行って参ります。これから順次正式に発表されていきますので注目をしておいて頂きたいと思っております。 次に、本題であります150年事業のキーパーソンの松浦武四郎さんについてコピーを掻い摘みながら、また加えながら説明をさせて頂きたいと思います。北海道命名150年ですけれども、実は松浦武四郎さんも生誕200年に当たるということで出身地の三重県松阪市では生誕200年の記念事業が実施をされます。 松浦武四郎さんについては、一昨年ＮＨＫテレビの「歴史秘話ヒストリー」とか昨年もＮＨＫの番組で取り上げられているなど、少しずつどういった方なのかといったこが全国に広がりつつあるようですけれども、まだまだ知名度が低いのではないのかと思っております。 武四郎自身、晩年には北海道のために一生を捧げたといってもいいと語るほど北海道のために力を尽くしてくれた方でございます。また武四郎の生まれた故郷は三重県の松阪でありまして現在も松阪城址が残っております。 戦国時代この地を築いて来たのは和歌山藩でございますけれども、飛び地だったということで自由な商業

					活動ができて、この松阪の商人は、江戸の日本橋には松阪から出て来た商人達が軒を並べて豪商の町として知られて栄えておりました。その代表的なものは三井家、長谷川家、小津家、永井家といった豪商ですとか、松阪南部の食品卸売企業の国分で知られる国分家など、そういった商人が江戸の経済を支えてきたという歴史があります。 武四郎の故郷には松浦武四郎記念館がありまして、この記念館には現在 1505 点が重要文化財の指定を受けております。 武四郎が生まれたのは 1818 年 2 月 6 日、亡くなったのが 1888 年 2 月 10 日ということで、地元では 2 月が武四郎に縁のある月というもとで、2 月の最後の日曜日に「武四郎まつり」が行われております。武四郎がアイヌの人々と深く交流をしていたことに因んで、毎年北海道からアイヌの方々が招待をされまして、アイヌ古式舞踊や地元の子ども達との交流が繰り広げられております。 武四郎は子どもの頃から旅に対する憧れを持っておりました。生家の前を通る道は伊勢神宮に繋がる古くからの道で多くの旅人が伊勢を目指して全国からやって来て、そういう姿を見て武四郎は旅に非常に高い関心を持ったそうです。 12 歳の頃、文政の「おかげ参り」という江戸時代最大の伊勢詣でのブームが起こりまして、当時の日本の人口が約 3000 万人に対しまして 1 年間で約 400 万～500 万人の人々が伊勢に全国から押し寄せたため、武四郎の家の前を多くの旅人が行き交う姿を見て驚き、そして自らも外の世界に目を向けるようになりました。 その後、武四郎は 16 歳で家出をしたと言われております。三男だったので結構自由な生活が出来たのかと思います。そして 17 歳から日本全国中を周りまして 19 歳で四国八十八箇所の霊場を全て周り、広島では厳島神社を見たりしております。武四郎は常に手のひら位の大きさのメモ帳を着物の中に入れておいて、何時でもいろんな事をメモしたり、景色をスケッチしておりました。このように単にいろいろな所を見て回るだけではなくて、記録を取ったことが後に、北海道に渡った時に大いに生かされていくことになりました。 武四郎が蝦夷地へ渡ることとなったのは、ちょうど 28 歳の時でした。この時、長崎にいたのですが、蝦夷地がロシアによって脅かされていることを知りました。 当時ロシアは冬でも氷らない海を求め、南下政策を進め、蝦夷地を手に入れそこを足がかりにアジアに進出したり、捕鯨のためのマキや水、そして食料を補給する場所を求めているといったことを聞いた武四郎は、ロシアによって脅かされる蝦夷地の存在を初めて知りました。日本を守るためには、蝦夷地が一体どういうところなのかしっかり調べて多くの人々に伝えることが大事なのではないかと考えたと言われております。 そこから蝦夷地の探索がアイヌの方々の案内により始まるわけでございます。資料の２枚目の下の方に地図が書かれておりますがご覧頂きたいと思います。第 1 回目の探査で太平洋側の海岸線を歩いて日高などを通りまして知床岬の先端に到達をしております。 第２回目は日本海側を北上して宗谷に向かいそこから樺太へと渡っております。そして南側を巡って宗谷へ戻ると、今度はオホーックの海岸を歩いて知床へと再び到達し、この 2 回の探査で蝦夷地をほぼ一周しております。 3 度目の探査では北方四島の国後、択捉、歯舞群島、色丹島を巡りまして 3 回の蝦夷地の探査の記録を纏めております。当時 32 歳だったと言われております。調査の中で武四郎が見たのは、松前藩の厳しい政治によりましてアイヌの人々が過酷な状況におかれていることでありました。ロシアから日本を守るためには、そこに暮らすアイヌの人々を守らなければいけないと考えた武四郎は、当時の政治が正しいかどうか世の中に問いかけるような本を作りました。 そういったこともありまして松前藩からは非常に嫌われるようになって蝦夷地への渡航が禁止されることになりました。しかし、その後、アメリカからペリーが来航して日本も開国することになります。そうした時期に幕府はロシアから日本とロシアの国境をどこにするのか強く求められたため、３度の探査に基づく武四郎の経歴により幕府の役人として登用されることになりました。 そして再び、39 歳、4 度目になりますが、蝦夷地に渡ることとなりました。この時は蝦夷地の海岸線を一周して更に樺太へと渡ってアイヌの人々が何処まで暮らしているのかを確かめにシスカ、丁度ここが北緯 50 度線に近いところであるそうなのですが、ここまで探査をしております。そして、そこより北には現在ではウィルタとい呼ばれる民族が暮らし、更に北にも暮らしていたということを指摘しまして、アイヌの方々が住んでいた地域が日本の領土であるということで、北緯 50 度の辺りが日本とロシアの国境であると幕府へ建白をしております。この後、武四郎は病に倒れてしまったのですが、再度 5 回目の探査に出かけます。病み上がりだったため、石狩川、天塩川の流域を船で遡って探査をしてきています。今までは沿岸部の探査でしたけれども、今度は内陸部の方の調査へと行き先を変えました。そして 6 回目、41 歳、最後となる探査では、石狩川の上流から富良野の方へと抜けて十勝岳連峰の峠を越えて帯広へと山越をする、十勝越を本州から入った人では初めて達成をしました。また、この地図もぐにゃぐにゃと内陸の方に線が向かっておりますけれども日高地方の海岸線の川を一筋、一筋調べたり、道東の阿寒、摩周、屈斜路湖、こういった所を詳しく調べて 6 回目の探査を終えております。武四郎が常に用いていたのが野帳（のちょう）というもので資料の 5 頁の右下の方に写真が出ております。長広いメモ帳の束でありますけれども、これをたえず持ち歩いておりまして、そこには地形のスケッチやアイヌの人々の生活の様子、そして本州にはいない動物の絵も描いてありました。 アイヌの人々の村々を一つ、一つ訪ねて名前ですとか、家族構成、年齢なども記録をしております。武四郎はアイヌ語も勉強をしておりました。アイヌ語は文字が無かったのですが、それを日本語に置き換えてこの野帳の中にそれぞれの地域名を克明に記載しております。

そしていろいろとアイヌの方々は商人などに策略などされていたわけなのですが、当時アイヌの人口が急減しているといったことを明らかにしております。こうした内容をとりまとめたものは先程お話した松浦武四郎館に 151 冊ほど残されております。多くの幕末の志士達も武四郎のもとに親しく交流をして日本の将来について語り合っております。この時吉田松陰も武四郎と仲良くしていたということです。そして武四郎は、当時の日本の外交において一番重要な課題であった蝦夷地、樺太、千島列島のことについて最も良く知る人物として評価をされるようになりました。武四郎はアイヌの方々が置かれている状況を克明に記載しておりますが、当時、10 年後には今のアイヌの人口は更に半分以下にまで減ってしまうと、もしこれが間違いであれば、私は自分もこの命をかけて罪を償うといいたことまで記しておりまして、本当に武四郎はアイヌの方々の人命と文化を守るといったことを真剣に考えて幕府に訴えてきました。

そしてアイヌの方々の中にも「こういったような酷い政治が続くようであれば、いっそのことロシアの領土になってしまった方がこんな酷い扱いを受けることもないだろう」という人々の声を聞きまして、今の政治のままでは駄目だと、変えていかなければいけないということで、立ち上がりまして、幕府へも進言をしていくわけでございます。

この松浦武四郎が再び国の役人として登用される中、アイヌの方々を苦しませていた場所請負商人といわれていた制度、これは商人の方がアイヌの方々をいろいろと搾取をする、こういったようなことは止めるように進言をして、一旦幕府も、これではいけないということで松浦武四郎の考えを取り入れ、この制度を廃止しました。武四郎自身もこの新しい時代を迎えてようやくアイヌの人々が安心を暮らすことが出来る社会を造れるのではないかと非常に期待をしていたところでした。しかしこういった取り組みを進めると快く思わない人もおります。彼は当時開拓判官として島義勇と共に札幌の街造り、そして北海道の街造りについて熱く語っていたそうですが、二代目の開拓使長官であった東久世通禧から遠ざけられて、武四郎の意見は聞き入れなくなり、明治 3 年に辞表を出すことになります。この辞表には商人達が東久世に賄賂を送っていたと書かれてありまして、その後廃止されたはずの場所請負商人制度というものが、漁場持ちという名前ですぐに復活してしまい、再びアイヌの人々が苦しい生活を迎えることとなり、武四郎の思うようにはいかなくなってしまいました。

時代が後先になりましたが、明治 2 年明治政府に蝦夷地について、北海道という名前を提案します。その提案については 4 頁の中ほどに「道名」の選定をめぐってといったところに書いてあります。この時武四郎が政府に提出したのは六つの名前「日高見道」、「北加伊道」、「海北道」、「海島道」、「東北道」、「千島道」を提案しております。しかし「北海道」という言葉にはアイヌの人々を尊重する武四郎の思いが込められておりました。

アイヌの人々は古くからお互いを「カイナー」と呼び合って、「カイ」という言葉はアイヌの人々を指す古い言葉でありました。この「北海道」という名前には、日本の北にあるアイヌの人々がもともと暮らしてきた広い大地、北のアイヌ民族が暮らす大地という思いが込められております。

また道内には各地に武四郎の記念碑がありまして，三体の銅像を含めて 60 箇所近い碑が存在しております。こうした状況は、やはり各地に地名を付けたということもあるのでしょう。大変道民に愛されております。そして、北海道の名を提案する時に国や郡の名称を、また境界線、細かな地名も提案をしておりまして、今の振興局の渡島や後志、檜山などの国、また郡の名称といったものの多くが、採用されております。それぞれ渡島国とか、後志国といった国の境界線も武四郎の案に沿ったようなかたちで現在も使われている状況になっております。こうしたことから武四郎は「北海道」の名付け親と呼ばれてきているところです。武四郎の晩年は、一畳の書斎の中で暮らしていたそうで今も国際キリスト教大学に現存しているそうですけれども、一畳敷という珍しい部屋、この中で全国から集めた古い木を用いて部屋をつくるなど、ある意味不思議な魅力を持った人であったということであります。

最後になりますが 5 頁目、武四郎の生き様から学べることとして、

① さまざまな文化や価値観を受け入れる広い心

② 噂や誤った情報に惑わされない真実を見抜く眼

③ どんな困難をも乗り越え、常に先を切り開く力

これらが武四郎の生き方から学べるものとなります。

最後繰り返しになりますけれども、来年命名 150 年を迎えます。本道の独自の歴史、文化、国内外に誇る豊かな自然は道民にとってかけがえのない精神的な豊かさの源でありまして、道民の方一人一人が新しい北海道を我々の力で創っていくという気概を持ちながら北海道の新しい価値、誇るべき価値を共有し、未来を展望していく、そういった来年は 1 年にしたい。国内外はもとより世界中と繋がる 1 年としていきたいと考えております。50 年後、北海道 200 年を担うのは、まさに今の子ども達であります。

これからの時代を担う若い世代の皆さん方に北海道命名 150 年の時は、こういうことをやっていたのだという記憶を刻み、北海道が持つ価値に気づいて更に新たな価値を創っていくチャレンジのきっかけとなったり、子ども達、私達が頑張ってこれからの 50 年の北海道を支えていこうという気概、ふるさと北海道に対する思いを抱いて頂きながら、子ども達の柔らかい頭から生まれる新しい発想が今後の北海道の発展に繋がるような 150 年の取り組みとしていきたいと考えておりますので、皆様方のご協力・ご参加どうぞよろしくお願い致します。」

続いて第 2 部の懇親会に入りました。金井重博当支部顧問（昭和 38 年・商・（株）富士旭光社代表取締役会長）から「皆さん、今晩は只今ご紹介頂きました金井でございます。私は現在満 76 歳になりました。50 年前にこの札幌支部に入れて頂きました。その時声をかけて頂きましたのは、その当時中央大学出身の弁護士で、札幌市長の高田先生が支部長をやったおられた時の札幌市の観光課長をやっておられました、菅

					さんという方がおられましてその方が「あなたも中央大学の出身なら札幌支部に入ってくれと」そういう話がありました。この菅さんは高田市長の娘婿にあたる方で、現在その方が観光課長の時代に創られたのが観光馬車、札幌市内で幌馬車が走っておりますね、あれも菅さんのアイディアです。それから北 24 条に札幌サンプラザというホテルがありますが、これも菅さんのアイディアで造られたと聞いております。 乾杯の音頭という事で学員会の本部に連絡を取り、最近どんな動きがあるのかとお聞きしました。皆さんのお手元にある新聞にありますように本学が箱根駅伝の予選会で 3 位に入ったという事で来年の 1 月 2 日の出場権を得たという事が一面に載っておりますが。 また今年巨人軍のドラフト 1 位に指名されたのが、本学野球部の鍬原拓也投手という事で今後が期待されると思っております。後大学では学長選が理事会承認を得られなかったという事でもたもたしているようですが、副学長以下は決まったようでございます。 それでは中央大学の今後ますますの隆盛と、本日ご参会の学員の皆様方のご多幸と御健勝を祈念して、乾杯の音頭を取らさせて頂きます。」 懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み会員同士の名刺交換を行ったり、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶回り、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで見受けられました。 暫く歓談のあと司会者から新規入会者の紹介等が行われました。 ・安藤　務（平成１年・商）安藤務税理士事務所・行政書士事務所 ・井内　麻鈴（平成２９年・法）北海道環境生活部環境局循環型社会推進課 ・泉　一雄（平成１８年・理工）ＪＸＴＧエネルギー（株）札幌支店 ・井門　義貴（平成２３年・経済）札幌アポロ石油（株） ・井上　裕文（平成１９年・法）一般社団法人共同通信社札幌支社 ・川田　七海（平成２９年・法）札幌市北区保健福祉部保護四課 ・岸　晃太朗（平成２９年・法）札幌市白石区保健福祉部保護三課 ・木村　誠吾（平成６年・商）三栄電機販売（株） ・齋藤　明久（平成１１年・法）ＪＸＴＧエネルギー（株）北海道支店 ・澤本　美紀（平成２９年・法）札幌市東区保健福祉部保護四課 ・田畑　善嗣（平成２９年・法）北海道総務部財政局税務課 ・前嶋　靖（昭和６１年・理工）前嶋社会保険労務士事務所 ・山石　翔大（平成２３年・法）北海道労働委員会事務局調整課 ・渡部　武（平成７年・文）野村證券（株）札幌支店 飲み物・ビンゴゲームの景品の寄贈者は下記の通りです。 ・札幌市役所白門会（飲み物） ・大峠　栄治氏（昭和 58 年・法）ヤマサ醤油（株）札幌支店 ・工津　輝雄氏（昭和 39 年・商）（株）エミック ・田代　信一氏（昭和 56 年・文）（株）京王プラザホテル札幌 ・逵本　秀久氏（平成 1 年・理工）（株）ＮＴＴデータ北海道 ・檜森支部長（昭和 45 年・法）（株）北海道二十一世紀総合研究所 ・高橋　恭平氏（昭和 48 年・理工）（株）タカラ ・松井　宏衛氏（昭和 53 年・商）バイエル薬品（株）北海道営業所 ・西原幹事長（昭和 39 年・商）（株）メディアプラン 本会の目的は会員同士がより一層親睦を深めるのが目的であり、アルコールが入ったところで恒例のビンゴ大会に入りました。酔いが回ったせいかなかなかビンゴが出ませんでしたが時間が経つにつれて、次々とビンゴが出、表ビンゴ、最後のビンゴで会場は一気に盛り上がりました。尚ビンゴの景品は参加者全員に当たるよう支部で用意した景品の他、会員からのご寄贈もありました。 因みに最初の表ビンゴは、知野学氏（平成 3 年・法・札幌市経済観光局）が、最後の裏ビンゴは鈴木暁美氏（平成 10 年・法）が獲得しました。 懇親会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入りました。柴田副支部長、金井重博、出戸一成、工藤武久顧問の他小林千代美氏（平成 4 年・法・千歳市議会議員）が壇上で、その他の学員はその場に立ち、3 番までフルコーラスで熱唱しました。 最後の惜別の歌に至っては全員が輪になり、肩を組むなど誰もが過ぎ去りし青春時代への思いに浸っているようでした。 結びは舟橋健市副支部長（昭和 47 年・商・舟橋公認会計士事務所）が壇上に立ち。参加者全員が「よーい」の掛け声により一本締めで盛会の内和やかに終了し散会致しました。
2018 年	30	1	31	札幌市役所白門会新年会への参加	厳冬の最中、平成 30 年度札幌市役所白門会（会長：有塚広之＝子ども未来局子ども育成部長、会員数 67 名）の新年会がＯＢと現役職員合わせて 23 名出席のもと、ホテルオークラ 3 階「チエルシー」において午後 6 時 15 分から開催されました。当支部から西原幹事長が参加しました。 今回は新年会に先立ち総会が行われ議題として①平成 27～29 年度決算報告、②役員改選が審議され諮った結果出席者全員異議なく承認されました。 新会長に長谷川雅英氏（昭和 58 年・商・保健福祉局長）、副会長に知野学氏（平成 3 年・法・経済観光局国際経済戦略室長）、幹事長に星田剛氏（平成 11 年・法・保健福祉局高齢保健福祉部介護保険課介護予防担当係長）が選任されました。

					懇親会は現幹事長の押切栄人氏（保健福祉局総務部保護自立支援課指導担当係長）の進行によって行われ現会長の有塚広之会長の挨拶、当支部西原幹事長の挨拶・乾杯の音頭で宴に入りました。新幹事２名（三浦裕季氏、四方学氏）の挨拶、新入会員３名の紹介後、特別会員の後呂道徳氏（昭和 46 年・法）から、ご自分の在学時代の事、昭和 46 年４月に札幌市の財政課に勤めながらその年の６月頃に道職員の試験に合格し、その後北海道に転籍した事など地方公務員として 37 年間をふり返りお話しを聞かせて頂きました。 会は終始和やかな雰囲気で進み会員同士が杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や､久し振りの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。 最後は全員で校歌･惜別の歌を力一杯歌い上げ、新会長の長谷川雅英氏よる落語の謎かけで会場を笑いの渦に落とし終了し散会しました。その後恒例となっている二次会は、一次会での盛り上がりそのままに盛況のうちに終了しました。
		5	14	支部三役会議の開催	北海道経済センター3 階特別談話室において、午後 12 時より檜森支部長・舟橋・渡辺明彦副支部長（昭和 58 年・法・北海道環境生活部部長）・ 長谷川雅英副支部長（札幌市教育委員会教育次長）、西原幹事長出席のもと開催致しました。 議案第１号　:「平成 29 年度事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長より別添資料に基づき報告了承されました。 議案第２号 :「平成 30 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」 幹事長より別添資料に基づき説明し学員ネットワーク拡充の一環として、「第５回学員会全道支部交流会議」を帯広市において下記により開催する旨の提案があり了承されました。 ① 日　時　　平成 30 年８月 31（金）午後４時 00 分～ ② 場　所　　京王プラザホテル札幌 （札幌市中央区北５条西７丁目　　℡（011－271－0111） 議案第３号　:「平成 30 年度支部定時総会の開催について」 幹事長より当日は大学本部より大村雅彦理事長、学員会本部より久野修慈会長、小畑悟東北・北海道担当副会長を迎え下記日程により開催する旨の説明があり出席者全員了承しました。 総会は下記の日程に決まりました。 ① 日　時　　平成 30 年８月７日（火）　午後６時より ② 場　所　　京王プラザホテル札幌地下１階「プラザホール」 ③ 会　費　　懇親会費 7,000 円　　支部年会費 2,000 円 尚、総会終了後恒例の卓話は氏（昭和４年・文）による「女性のキャリアについて」と題したお話を頂く予定。 議案第４号　:「学術講演会の開催について」 幹事長より本件については札幌市教育委員会、札幌商工会議所、協同組合中小企業振興センターの後援、本学父母連絡会札幌支部の共催の承諾を頂いており、本講演会の PR と参加者の動員を図るためポスター、チラシを制作し下案の要領で周知をしたい旨報告了承されました。 ① A1 サイズのポスターを 25 枚、A4 サイズのチラシ 20,000 枚印刷。 ② 札幌商工会議所・協同組合中小企業振興センターの会員向けに毎月配布している資料の中に 22,500 枚を入れ参加者を募る。 ③ 学員会札幌支部会員等向けにチラシをＤＭにて送付し参加者を募る。 ④ 札幌市民向けのＰＲとして、札幌市営地下鉄の 15 駅の掲示板にポスターを貼り参加者を募る。 北海道新聞、毎日新聞、読売新聞等を中心に市民向けのＰＲ版コーナーに掲載し参加者を募る。
		5	26	第５９回ゴルフ大会の開催	本年度第１回のゴルフ大会は檜森支部長参加のもと 11 名の会員から申込みがあり、近郊の石狩市にあるシャトレーゼカントリークラブ石狩において開催されました。 当日は午前７時 54 分に前半の西コースをスタートし、後半は中コースを回りました。スタート時は気温が１３度に風もあり肌寒い気候でしたが、後半は晴れて来てゴルフ日和になりました。 恒例により終了後は表彰式を兼ね懇親会を行い結果、優勝者は伊藤宏二氏（昭和 56 年・理工・ＺＥＫＫＯ　ＩＮＣ.・西：43　中：42　）で同氏はベストグロス賞も併せて獲得、 また準優勝は中山正治氏（昭和 39 年・法・フジサービス（株）・西：47　中：47）が獲得しました。 檜森支部長より参加者全員にそれぞれ賞品と参加賞を授与しました。今回は檜森支部長、工津輝雄氏（昭和 39 年・商・（株）エミック代表取締役）、 田代信一氏（昭和 56 年・文・（株）京王プラザホテル札幌）、柴田龍副支部長（昭和 56 年・理工・（株）北洋銀行代表取締役副会長）、西原幹事長の５名から賞品の寄贈がありました。 懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み初参加の越岡智之氏（平成 12 年・法・司法書士越岡智之事務所）から「次回も是非参加したい。」との弁、 続いて同じく初参加の関根貞雄氏（昭和 43 年・経済）からは「同門と回り、楽しいゴルフ大会でした。」との弁に続き、最後は事務局から次回７月 21 日（土）開催の第 60 回ゴルフ大会、 ７月 20 日（金）開催の「中大学術講演会」、８月 10 日（木）開催の「支部定時総会」への参加を要請し和気あいあいの内に散会しました。
		6	17	中央大学父母連絡会札幌支部総会並びに父母懇談会へ出席	ニューオータニイン札幌において開催の「2017 年度父母連絡会札幌支部総会・父母懇談会」へ当支部より檜森支部長が出席されました。 当日は在校生の父母 109 名が参加されました。午後 12 時 30 分より総会に入り、小沢知文支部長の挨拶に続き「2017 年度事業報告・決算報告」、「2018 年度事業計画案・予算案・役員改選」が審議されました。 その結果新支部長に平石知輝氏、副支部長に山口富士男・富樫泰子の両氏他新役員が選任されました。

					引き続き「父母懇談会」が開催され、文学部教授の山科満先生から「大学の近況について」、理工学部事務室課長の大野大介氏から「学業・学生生活について」、 キャリアセンター課長の池田浩二氏からは「最新の進路・就職事情について」お話がありました。 次いで岡部好浩氏（昭和 63 年・商・((株）北洋銀行）からは会社概要、採用状況、企業が求める学生像等についてお話しがありました。 終了後は希望者に対して個人相談会、続いて懇親パーティーも開催され参加した父母の親睦・交流を図る事が出来ました。
		7	20	中央大学学術講演会の開催	中央大学主催、学員会札幌支部・中央大学父母連絡会札幌支部共催、札幌市教育委員会・札幌商工会議所・（協）中小企業振興センターの後援による本学学術講演会が午後 1 時 30 分から北海道経済センター8 階Ａホール開催されました。講師に工藤裕子氏（本学法学部教授）を迎え「ロボットは日本を救う?」－ロボットと共存する社会の課題と可能性－と題した講演に札幌市民、札幌商工会議所会員、学員、父母連絡会会員 105 名が熱心に聴講されました。講演に先立ち舟橋健市学員会札幌支部副支部長の開会の挨拶に続き講演に入りました。 「ご紹介頂きました工藤でございます。私の専門は公共政策、行政学なのですがその中で特にＩＴを使った所謂電子政府などに関わって参りました。2014 年位から工学部の特に情報工学あるいはロボット、感性工学といった専門の先生達といろいろと研究をする機会に恵まれましてその中で今回の話に関係するような研究内容にも最近手を染めております。今日は研究成果の発表というよりは、恐らくロボットと言いますと今日本の将来ロボットに仕事を取って変わられて仕事がなくなるのではないのかとか非常にセンセイショナルないろいろ話題が新聞やテレビを賑わしておりますので、基本的にはそんなに簡単に仕事は無くならないという事から話しをしたいと思いますが、同時に日本が抱えている問題をロボットやＡＩ、人工知能がどの位救う事が出来るのかという事をご一緒に考えたいと思います。 タイトルが日本を救うと書きたいところだったのですが若干確信が持てませんので？クエスチョンマークが付いております。そういう事で今日は日本の問題点と同時に、ロボットと言いましてもロボットと人工知能は非常に範囲が広いので今日はそのご紹介を含めてお話しをさせて頂きます。今日のテーマの紹介といいますか、基本的に問題意識としては、大体こんなような事になります。一つはデジタル化という事があると思います。デジタル化というのは所謂アナログに対するデジタル化なのですけれどもそれがロボット開発の起源に一つは私たちの生活にいろいろとデジタルテクノロジーが使われているという事です。 スマホをお持ちの方であれば日常的にデジタルテクノロジーの所謂恩恵を私たちは受けているという事になるのです。勿論ロボットの開発それから人工知能の開発があります。いずれも今までの法律体系やそれまでの日本の政府が想定していた内容をはるかにこえるような内容が出てきますのでそういった事についても話したいという事が一つ目です。 二つ目の問題意識としてしましては、この分野はご存知ようにアップル社とかそれ以外のＩＢＭとか最近だと宇宙開発なども民間企業が非常に大きな役割を果たしているわけですが、一方で実はこの分野は法律的には穴のいっぱいある、穴があるのではなくて法律が想定していなかった技術が沢山出て来ている分野ですのでそれに追いつくためにも政府の役割が必要だと言われております。また同時に非常に先端技術が国際的に激しく競争している段階にありますので、非常に自由放任的なアメリカと非常に政府や国際機関が規制しようとしているヨーロッパ特にＥＵその間には大きな回路がありまして日本は両者を観ながらどっちにしようかなと迷っているのが現状でございますが、そんな中で今後政府は何をすべきかというお話しをしたいと思います。 それから冒頭にも申し上げましたがロボットが進展していくと 20 年後には私たちの仕事の多くがなくなるかいう懸念が多いのですけれども、それよりはどちらかというと現在ある日本の社会的課題を解決する可能性があるのではないか、同時に日本は今少子高齢化ですので、そういうロボットが人間の代わりになってくれるという事も大事なのですが、もう一つは人間をロボットが代替えする事によってもしかすると日本の生産力等を支えていく逆に新しい産業分野になるのではないかと言われておりますので、今日はこのあたりをご説明したいと思います。 ロボット言ってもいろいろとあるのですが、日本には実は非常に古い時代からロボットの素晴らしい見本がございます。鉄腕アトムです。鉄腕アトムが世の中に発表されていたのは 1952 年から 1968 年で実は現在の日本のロボット工学の先生方、理系のバリバリのロボットをつくっていらっしゃるような方々も幼少期にこれに触発され自分も鉄腕アトムを作りたいと思ったのが、きっかけになっている人が多いと言われております。実はそういう事を研究した本も出ていまして、当時の夢の世界だったものが今ほとんど現実化している事と日本の実はロボット技術の夢を与えた非常に傑作だといわれております。 世界では古い事例としてフリッツ・ラング監督の「メトロポリス」があります。製作時から、当時 1926 年ですのでもう 100 年近く前にも拘わらずこのような美しい映像、映画の中の女性なのですが、非常に美しいアンドロイドを使っています。それから空を飛ぶ車とか映画の中にもそれこそ今まだ未来と考えられるようなものが出来たというＳＦ黎明期の映画ですが、こんにちかなり実現しつつあるいろいろなテクノロジーそれからこういったアンドロイドが引き起こす問題点なども示唆している作品としてよくＳＦ映画の原点にして頂点であるとかこのアンドロイドは映画史上最も美しいロボットというふうに言われているそうです。それから男性で結構好きな方がいらっしゃるのではないかと思いますが、1982 年～1986 年にアメリカのテレビドラマシリーズでナイトライダーというのがございます。この時の車というのは今想定されているいわゆる自動走行車の原型といいますか、夢を描いたものですが、今技術的にかなりこれに近いものが出て来ています。基本的に人工知能が車の動きを制御し、さらに人間と会話をできあがったのはするとか、声によって指示を受けてそれに応対出来るというような事で今のスピーカーなどの技術も想定されていると

					いう意味でなかなか80年代にしては優れた映画であります。 　もうちょっと新しくなりますと2001年にＡ.Ｉ.というタイトルそのものが人工知能というのがありましてこれは実は若干不思議な縁といいますか、不思議な経過があります。 　もともとはキューブリック監督の企画で作くられる映画だったのですが、ご本人が死去したために有名な、こちらも有名なスピルバーグ監督よって監督作品となったものです。実はキューブリック監督は1970年代に映画化する予定だったのですが、その後映画化を事を考えていて実際には出来上がったのは2000年という映画です。人間の形をした人工知能が活躍する主人になっているという映画です。もう一つ最後「Ｉ.ＲＯＢＯＴ」というのが2004年にあります、これは結構日本ではあまりはやらなかったのですが、これもなぜ取り上げたかと言いますと、これは興行成績的には特に日本でははやらなかったのですが、アイザック･アシモフの短編集が原点にあってそういう意味ではロボットが非常にしっかりとした背景をもった原作でありまして、ロボットが殺人を犯す作品を映画化したものですが、基本的には最後のポイントはロボット嫌いの刑事がロボット工学の三原則を使った事件に挑むという事で､実はアシモフは別のロボット長編に非常にヒントを得ている作品という事であります。 　いずれにしましても1920年代から今日に至るまで人工知能とかロボットが活躍するイメージあるいはテクノロジーはいろいろな形で想定されて来たものが､現在ではほとんどこれらの技術がかなり近い形で現実にあるという事で、実際に生活の中にもう既にあるＡＩを見ていきたいと思います。ルンバ（お掃除用ロボット)は場所によってかなり使っている方と使っていない方との差があるようですけれどもお掃除ロボットとしては典型です。 　ペッパー君はソフトバンクのスマホをお持ちの方だと結構ソフトバンクのお店に行ったり､最近では空港とか、あと駅とかいろいろな所にいるのでかなり知名度が増して来ましたがＡＩですね。それからシャープが出したこれスマホなのですが､ロボホンというのがあります。この手の所謂声でいろいろ制御されるとか、それに応えてくれるという意味ではスマホそのものなのですが､ちょっと可愛らしくて動作をしたり踊ったりする意味ではちょっと進んだ形です。最近意外とこれはご覧になった方も少なくて、使用している方ももっと少ないのですがスマホです。 　それから去年から今年にかけて今年の１月11日に発売された最新版のＡＩＢＯ、ソニーがかつて発売をしていたＡＩＢＯよりはすごく動きが自然で犬らしいと､本当に犬みたいな動作をしてくれるだけではなくて、今回のＡＩＢＯは犬と一緒に、犬と関係を持つたり、縫いぐるみと言うとちゃんと肩に掛けたりするなかなか優れものです。 　あとはこれもどの位皆さんお使いか、かなりこれも場所によって実は違うのですが、ほとんどの方のスマホ特にアイホンをお使いの方ですとＳiriが入って来ておりますが日常的にお使いの方はどの位おりますか?挙手をお願いします。すくないですね、声で命令を出来るという意味ではタッチパネルからさらにちょっと進化した形なのですが、最近ですとスマート式スピーカーがたくさん普及して来ているのでＳiriも使われるようになって来ているのですが、意外と日本では使われていないのが現実なのです。 　それからパロという日本が実は特許を持っている一見して縫いぐるみ単なるアザラシの縫いぐるみに見えるのですが､このアザラシは実は人工知能が搭載されていて例えば患者さんが愛撫したり､抱っこしたり、可愛がったりすると､それを覚えていろいろと反応するこのように右側の写真はスウェーデンのカロリンスター病院で有名な病院で小児病棟で使われているのですがペットセラピーですと､どうしても動物アレルギーの患者さんであれば使えませんし、子供さんの患者さんでも安心して使えるという事で使われております。 それから実はアメリカ､日本各地で老人ホーム等ではセラピーとか還元性を保つという意味でお年寄りにも非常に使われているものです｡いずれにしてもやはり人間に反応してくれるというところが普通の縫いぐるみとは違うところでありますので、そういう意味で還元性を築けるＡＩの一つの事例になっております。日本では何故か同じような名前が多いのですが、紛らわしいのですよ、これはパルロといいましてロボットなのです。右側にあるように、お年寄りに例えば「薬の時間ですよ」とリマインドしてあげるとか、実際に薬を持って行くとか簡単ないろいろ動作を家の中で出来るものとして老人ホーム等を中心に使われ､ご自宅で使われてもおります。 　これも日本が世界に誇る特許を持っているものなのですが、ハルというものです。実は単に骨のようなものが腰についているように見えますが、人間の命令例えば足が不自由な方だとか、病気で足が不自由になってしまったとか､怪我の後まだ機能が回復していないとかという時にこれを装着する事で今右に行きたいとか､前進したいとか､左に行きたいとか人間の命令を感知して筋肉に伝えて動きを補助するというものです。これは筑波大学の山海嘉之先生が開発されたものですけれども､これはお年寄りで例えば体の動きが不自由な方にも使われておりますし、アスリート等が怪我をしたりしてその後のリハビリにも使われております。自分の命令で自分の筋肉を動かすその助けをするという事ですので､そのリハビリの過程に非常に有効であるという事も知られている人工知能です。多分骨組みのように見えますがこれも人工知能です。 「ダヴィンチ」手術ロボットです、もうかなりの世界的な大きな病院では導入されておりまして人間の眼で見えないような箇所であるとか非常に複雑な病気や手術に関して活躍しているロボットです｡これ見てお解りのようにドクターは執刀を自分でするのではなくてブースの中に座ってマウスを動かすことで手術用ロボットを動かして執刀をするという形になっていますので､実は医師に要請される役割やスキルが大きく変わってきているという事を示す一つのいい事例であります。 　次は自動走行車ですが、これはグーグル・カーで、最近はアップルなどもアップルマップの作成のために車が世の中を走ったりしておりますが、基本的には自分で自力で運転手なしで走行出来るという。ただ、も

					う既に最近車を買い替えた方であれば例えば駐車する時であるとか、いろいろなところで既にコンピュータが皆様の操作をアシストするというのが普通になって来ています。これらも考えてみますと基本的には人間が判断して自分がリールを回すだけではない、ハンドルを回すだけではない、それ以外の補佐機能が付いて人工知能がかなりいろいろな手助けをしてくれるという時代に入って来ている事を示すものであります。最後に無人航空機（ドローン）です。ドローンはサイズがいろいろで例えばアマゾン等が使っているように物を運ぶ程度の小さい50㎝四方位のものから、アメリカ等いろいろな国が国防上に、安全保障上に使っている大きな飛行機形のものまでいろいろあります。 　これはもう既に現実となっているものでありまして今までお見せしてきたものは、既にロボット、ＡＩ、人工知能として世の中に普及しているあるいは普及しつつあるものという事になっております。改めて人工知能ってどういう定義をされているのかというと非常に変な定義で「人工知能は人工的にコンピュータ上などで人間と同様の知能を実現させようという試みあるいはそのための一連の基礎事実を指す」という事でＡＩと言われているものは人間と同様のものを機械がやってくれるそういう定義になっております。具体的には既にお見せしたドローンとかヒューマノイド、人間の形をしたロボット、自動走行車などが入ります。今日お話しする中心はロボットなので必ずしもここまでの知能、つまり人工知能までないものも含くまれますが、大きな違いとしてはソフトによって決まっている動作をやるというのではなくて、自己学習によって習得していく、成長していくというのが人工知能の特色です。一方今日のお話の中に出てきます他の概念なのですが、結構最近はマスコミやその他メデイアに出てきていますモノのインターネットというものです。実は変な日本語になのですが、ＩＮＴＥＲＮＥＴ　ＯＦ　ＴＨＩＮＧＳあるいはＩＯＴの日本語訳として出てきましたが、意味としてはコンピュータなどの情報・通信機器だけではなくて、世の中にあるすべての物体（モノ）に通信機能を持たせることで、インターネットに接続したり相互に通信することが出来る、それによって自動認識をしたり、自動制御、遠隔計測をする事といわれておりますが、よくこの事例として挙げられるのが賢い冷蔵庫です。賢い冷蔵庫といわれるのは、冷蔵庫が通信機能を持つことで、例えば今もうすぐ牛乳がなくなりますとか、卵が無くなりましたという情報を自分の近くの例えばコンビニやスーパーマーケットに送ると自動的に足りない物が送られて補充されてくる。それは宅配便か何かわかりませんがそういう手段で送られてくるというものなのです。あるいは既に考えられている、応用されているテクノロジーとしてはお年寄りのご自宅特に独居老人の方のご自宅にこういった賢い冷蔵庫を置いておくと毎日冷蔵庫を開けて中のものを取り出しているかどうか、つまり２日位冷蔵庫が一回も開けられていないという事は何か異変があったのでのではないのか、それが近親者に分かるとかそういったものとして使われている。これ実は便利という側面と、同時に例えば皆さんが一週間冷蔵庫を開けていないという事がわかると場合によっては留守だという事もよくない人に伝わる可能性が充分にありまして非常に諸刃の剣となるものでもあります。 これも最近マスコミ等で非常に取り上げられているのでお聞きになった方も多いのではないかと思います。「ＩＮＤＵＳＴＲＹ　４.０」はもともとはドイツ政府が先駆けて始めた概念ではあるのですが、工業のデジタル化によって製造業の様相を根本的に変えて、製造コストを大幅に削減する。つまり工場と工場の間で自動的にいろいろと合意をする事で例えば必要な材料、必要な原料を必要な時に届けてもらい、必要な市場の状況に合わせて、需要に合わせて計算をする。それを物流になるべく合理的な形で乗せてサプライ店を回していくというものですので、基本的に日本が今まで目指して来た在庫を少なくするとか、必要に合わせて生産をするという考え方を究極までデジタル化して自動化しようというものです。 コストの極小化をするという事なのですが、ここでは人間がその動きを誰かが計算したり、コンピュータを動かして考えていくのではなくて工場自体がＡＩ化する事によってお互いに合意点を見つけるという世界までも考えているものです。つまり工場自体が自ら考える工場になるというものであります。 　これは日本政府が言っているＳＯ?ＩＥＴＹ　５．０という概念で実は第５期科学技術基本計画によって日本が目指す未来社会の姿として初めて提唱されたものなのですが、情報社会をＳＯ?ＩＥＴＹ　４．０といっているのでそれに続く一つ社会のあり方というふうに考えております。これはサイバー空間つまり仮想の空間と実際の現実の空間を融合させて経済発展と社会的課題の解決の両方を目指すという事になっておりまして、要はバーチャルの空間というのはいくら技術が進んだとしても、いろいろメリットはあるのですが現実の問題を解決するためには、やはり現実世界が゛ないといけないという事で両者の融合を考えているものになっていると思いまます。 ところが今まで申し上げた事は技術的には特に実験室の中では既に可能になっている技術がほとんどです。ですが問題は実験室から技術が世の中に出て私達の生活の中に入って来た時に、実は今現行の制度や社会システムというのは、全てこの技術を受け入れられるような状態にないというのが今の問題です。それを上げてみたのですが、一つは例えばＩＯＴ、先程のＩＮＴＥＲＮＥＴ　ＯＦ　ＴＨＩＮＧＳ　冷蔵庫、賢い冷蔵庫は同意がなくても情報が流れてしまう。 　例えば私が賢い冷蔵庫を持っていて別に牛乳が無くなろうと、無くならないとそんな事をばれたくないなと思っていても、賢い冷蔵庫を持ってしまうとその情報は世の中にばらまかれる、プライバシーはそうすると無くなります。基本的に私が何時冷蔵庫を開けたかという情報がサイバー空間に氾濫しますのでそれから逃れるためには冷蔵庫の電源を切るしかないという事になります。 　それから問題は事故の責任を誰が取るかという事。先程の賢い冷蔵庫が一週間開けていないからどうもあのお宅は留守ではないかという情報をハッカーが分かったとします。このハッカーは今何をするかといいますと、実際さらに悪い事をしようとしている人にその情報を売るのです。 　例えばカードの情報、皆さんのカードの情報をハッキングしている悪い人たちは、その人たちはやる事が

楽しくやっているのですが、もう一つはお金が目当です。ただ彼らは情報を盗んで皆さんの銀行に行って下すのではなくて、そういう事をしようとしている人に高いお金でパスワードのリストを売るのです。そういう人がパスワードのリストを売ってあるいは空巣を計画している人にあのお宅は一週間留守ですという情報を売ったとします、で実際には空き巣が入って何か盗られたとすると、入った空き巣は現行犯ですから捕まればその人は逮捕されますけれども、その情報を売った人はどういう罪かといいますと、なかなかグレーゾーン、その人は窃盗罪ではないので今の場合にはハッキングした情報を売り渡している罪だけなので、その人がうまくどっかに消えてしまえばその人を追及する事は非常に難しいという事にもなります。それから万一データーの分析が間違っていて牛乳が無くなったというのは間違いであって実は牛乳はたくさんあったのかもしれないのにもかかわらず次々と牛乳が届けられたら迷惑するのですが、牛乳が増えたぐらいではたいした事にはなりませんけれども、スマートなお風呂でとんでもない時にどんどん水が入っていったら水が溢れて大変なことになります。というような事が起きかねないという事です。

似たような事は例えば自動走行車を利用していない人、自動走行車はセンサーによっていろいろな情報を感知しそれによって例えば前の車との車間距離を保つたり、交差点で人がいないか、何がないか、障害物がないかを確認して進むわけですが、自動走行車を運転している人とか乗っている人はともかく乗っていない人や歩行者などの情報もみんな吸収されます。ですから皆さんがたまたま横断歩道を歩いていたり、その歩道を歩いていてもその情報も捉えているのです。

それから判断ミス、これはよく話題になる事ですが、動作ミスや判断ミスをして事故が起こったらどうなるのか、ウーバーが実験していた自動走行車で歩行者が死亡するという事件がございました。そういう時に判断ミスをした時の事故の責任にというのは、センサーが間違っているのかそれに対してどういう速度でどのタイミングで運転しろという事を決めた車が悪いのか、そのソフトウェアを開発した人が悪いのか、そもそも車を製造した人が悪いのか、これまでの製造物責任法では解決出来ないような分野のゾーンがどうしても出て来てしまいます。それから倫理的な問題というのもあるわけです。

例えばトロッコ問題（制御不能となったトロッコが、直進すれば５人、右折すれば１人と衝突する場合、どう判断させるべきか）のように暴走しつつ車が何らかの形で壊れてしまっているのだけれども、歩行者が目の前にいた時に、歩行者を回避することで車がどこかにぶつかって大破して乗っている人が死ぬ方がいいのか、どうするのか、我々の人間的な倫理観ですと歩行者を守ろうという事になりますが、もしそういう車を製造したら必ず乗っている人が死ぬような車になりますからそんな車は誰も買いません。という事になればメーカーはそういう発想の車は造らないと思われますので結局どうするか、つまり実験室の中では出来るテクノロジーであっても現実社会に実際に出て行った時の壁、誤差というものがあります。

それから現行の法制度とか、倫理社会的なルールには必ずしもそぐわないような状況が出た時にどう整備するのかという問題があったりします。それから先程介護ロボットとか手術支援ロボットのお話しをしましたが、ロボットというのは人間と共同して何かをするロボット、フオワークとか共に働くという意味からロボットといわれております。例えばこの時にお医者さんが手術ロボットの操作をする時には自分がメスを持って執刀するのではなくて、コンピュータの画面を見ながらマウスを動かすのがお医者さんの仕事になります。

そうすると実は今迄の医師の免許に必要とされていたスキルや師の知識それからいろいろな経験という問題の全く新たな世界が広がっていまして、こういう意味では実は日本ではまだダヴィンチを使いこなせる先生は少ないという問題もあります。

そうすると職業資格の中身として要請されるものが当然変わってくると言われていますし、実は法曹の世界でも例えば法律の世界でもどんどんＡＩが進んでくると人間の弁護士さんがやるべき仕事とＡＩがやってくれる仕事のすみ分けなども出てきます。

それからスマートハウスについては先程の冷蔵庫ではありませんが事故の責任誰が取るのか、何かハッキングされて自分の家が機能不全になってしまう事もありえます。つまり全てのものと通信されているという事はこういう危険もあります。何か不具合が起こった時にシャットアウトする以外に、つまりパソコンが急にフリーズしたような状態か、フリーズならまだいいのですが、ハッキングされてしまって誰かの勝手な操作で自分の家の電気が点いたり消えたりしたら偉い迷惑な話ですが、そういう事が起こるという事でもあります。一方で今お話ししたのは現実的にこういう問題が起こりかねませんという事ですが、現行の制度との関係でいうと次のような問題があります。一つは契約です例えば誰かと誰か、Ａ社とＢ社が契約するあるいは?さんとＤさんが契約するといったような人間同士あるいは法人同士の契約というのは、今きちんと法律的に存在しますので、契約としてそれがもし不履行があったらその責任の追求も出来ますけれども、ＡＩとＡＩが合意をして何らかの行為をするといってもＡＩは人間でもなければ、法人格もない、そうなるとそもそも契約が成立する要件って何だろうとか、ＡＩはものすごい速度で人間の想像を超える速度で合意をする事が出来ますのでこれは実際フィンテックの世界ではすでに起こっているのですが何万部の一の、何万分の一秒の世界で合意が出来ますので、何時本当に合意が成立したのかとかこれはなかなか特定はしにくいという問題がありますので、万一その契約に何か問題があった時に今の消費者保護では対応が出来ない世界があります。

それから二つ目の民事責任ですが、例えば自動運転の損害賠償責任のように誰が責任を負うのか、それからこういう新しい分野がもし将来自動走行車が普通になった時には、例えば公的な保険制度を導入してこういう事故の時には公的な保険からお金を払いますよとするのか、あるいは民間の保険会社などが私的な商品として対応するのか、あるいはそもそもあるリスクをどう判断するのかという問題があります。私的な商品だと恐らくどういう状況でという事をいちいち保険会社が判断しなければならなくて、それは非常に難しい

					のでもしかすると、全世界で自動走行車が当たり前になるとこういった公的な保険制度というものも考えられる必要がある場合もありうるかもしれません。いづれにしても現在の例えば民法もそうですし、自動車損害賠償保障法とか先程申し上げました製造物責任法では対応出来ない世界が広がって来るという事になります。 刑事責任も同じです先程の泥棒ではありませんが、情報を不正に利用して、その情報を不正に利用する事で何か実害があるような犯罪を起こしたらどうなるのか、あるいはＡＩを不正に改ざんして操作してその結果何か不具合を人やものに与えてしまったというような場合、それどういう刑事責任になるのというとよくわかりません。つまり現行の法律を厳密に適用するとなかなかよくわからないという世界があります。 それから知財ですね、これは既にＡＩは作曲をし、いろいろな作曲の賞を取ったり、文学作品を作って文学賞を、さすがに優勝まではいってないようですが、佳作ぐらいにいろいろなところの文学賞に入ったり、絵を描いたりしています。そうなってくるとＡＩが作ったものは誰に知的財産権が帰属するか、ＡＩに帰属すると言ってもＡＩは人ではないので、ではどうするかという話です。問題は今の法律的に言いますと、知財というのは思想または感情を表現したものとなっております。 そうするとＡＩが作品を作ったり、ＡＩが作詞をしたり、作曲をしたり、文学作品を作ってもそれは過去の文学作品や、作詞、作曲のデータベースから作っているものでＡＩ自身の思想や感情を表現したものではない。そうなると現在の知財で当てはめると多分ＡＩは知財の保有者、帰属者ではないとは考えられますが、ＡＩと人間が一緒になって何か作ったらどうなのかとかそういう問題があります。実はＡＩが例えば収集したデータベースとかＡＩはいろいろなデータベースから学んで学習していくのですが、その学習したデータというのは一体誰の所有権なのかＡＩが自分で集めたとしてもＡＩに帰属するのかどうか非常にむずかしい問題とか基本的にはＡＩに帰属しようがないので、ではどうするのかという問題があります。 それから勿論後は個人情報保護法との関係があります。私達のデータというのが例えばセンサーが一般的になりますとどんどん私達が一々同意しなくてもありとあらゆるデータが取られています。ご案内のように例のフェイスブック事件のように皆さんが自分でフェイスブックにアップロードしたデータや写真やいろいろな事や呟きが結局集められて分析されて例えば2016年のアメリカ大統領選挙の時に扱われたという事になるわけですが、フェイスブックは実は最初に登録をされる時に、いろいろ条件が書いてありましてこれに同意しますか?一応あるのです。皆さん多分読まれていてきちっと同意するというところにクリックするのでシステムの中に入ってしまうのですが、実は今世の中にあるシステムのほとんどは一応皆さんの同意を聞いてきます。 ただ問題はセンサーの世界になりますと、私達が普通道を歩いているだけでその情報が取られているという事になりますのでつまり自分のプライバシーそもそも存在しない。それから既に例えばいろいろな生体認証、顔の形であるとか、指紋とかいろんな認証が増えていく中で私達の情報というのは実は世の中に隠れまわっているという事にもうなっています。そうすると今後匿名に加工された情報はどうなるのかとかルールの異なる外国間、国どうしの取引の時にどうなるのかという問題が出てきまして、実はこの世界ではつい最近なのですが二か月ほど前ですがまだ二か月は経っていませんがＥＵがＧＤＰＲ（Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｄａｔａ　Ｐｒｏｔｅｃｔｉｎ　Ｒｅｇｕｌａｔｉｏｎ）一般情報保護規則というのを導入しました。 これによってＥＵの外あるいはＥＵの中のいろんなデータが、個人情報などがその外に出回らないようにあるいはＥＵの企業と取引のある会社の情報がその取引企業を経由して外に出ていかないようにする事で非常に厳しいプライバシー基準が設けられ、これは実はＥＵが非常に自由なアメリカ型のそしてアメリカの企業が多くＥＵの中でも特に情報のプラットフォームを作っていくという事から出来た規則であります。一方で法律だけではなくていろいろな行政法規との関係というのも出てきます。先程職業資格の話しを申し上げました。例えばお医者さんが今までの医師免許に必要な知識とかスキル、技能に加えて別の種類が必要になってくるというのもそうなのですが、そもそも例えば自動走行車か普通になってきますと運転免許も当然変わらないといけませんあるいはフィンテックが既に進んでいる中では金融取引の許認可とか監督も当然変わってきます。最近ではこの話しですとビットコインでなった仮想通貨の話が日本では今年は大騒ぎをしましたのでにわかに注目されていますけれども、もしかするとその金融取引企業という考え方自体も変わらないと将来には適合しない時代が来るのではないかというふうに考えます。 そうすると実は許認可とか登録監督制度自体が多くの分野で変わらないといけないという事になりますので今迄のような許認可体制では対応出来なくなる。 そうすると実は技術だけの問題でもなければ法律制度だけの問題ではなくて、恐らく世の中にあるありとあらゆる行政機関もこれに対応しないといけないという事になってきます。 それから独禁法とか競争法との大きな齟齬が生じます。実は皆様よくご存じのグーグルとかアップルとかフェイスブックとかこういった大きな情報系の企業というのは本当に比較的に短い期間に世界的な企業になったのです。アマゾンなどもそうです。これらはプラットフォームビジネスといって世界中に同じロジックのビジネスモデルを自分達が作り上げる事で皆が利用する、皆が利用する事によって更に利便性がアップする、そういうビジネスをいいます。典型的にはあと Airbnb などもあります。考えてみれば Airbnb が出来る前には似たようなサービスを提供するサイトというのが世の中に五万とあったわけですが、同じ名前のもとに同じ一個のサイトで世界中の情報が捕捉されるようになれば、ホストも増えますし、ゲストも非常に便利だからそれを使う、ゲストがたくさんアクセスしてくれるからそのホストになろうとする人が増えるという事で最初にそういったビジネスのモデルが出来るとどんどん利用者が雪だるま式に増えるというもので、これをプラットフォームビジネスと通常いいます。 プラットフォームビジネスは短い期間にそのビジネスモデルを世界中にばっと広げるから皆が使うとい

うものなのです。そうしますとよくよく考えてみますと独禁法がもともといっていた事にはめちゃくちゃ合致していない世界でありましていってみれば如何に速い短い時間に世界中で独占するかというのがビジネスの成功を決めている。そういうパターンのビジネスになります。しかしこれはよく考えてみますと例えば電話が発達した時というのは、電話のケースを一人だけ持っていても相手も電話を持っていなければ電話は出来ません。それから電話線が世界中に、あるいは日本中に広がらない限り実は相手がいなければ電話のメリットはないわけです。こういったビジネスは最初に広がる時にどうしても独占状態があってその後、実はだんだん独占でなくなるのが普通なのですが、ＡＩの世界あるいはロボットの世界は非常に進歩が速かったためにほとんどが独占状態になっています。でこれを独禁法に真面目に当てはめると今ＥＵが多くのアメリカ企業と戦っているような形になりましてそれは全部独禁法で駄目なのですよとやると実は活動が出来ないという問題点がありますが、同時に技術的なメリットのためにはある程度の独占状態があった方が実は技術的には更に進むという非常に大きな矛盾を抱えた分野であります。

それから当然この分野がいろいろと今後進んでいくためには条約によって例えば国と国とのいろいろな決め事をしていかなければならない分野というのが当然出てきますが現状ではあまり進んでおりません。

実は全てがデジタル化するという事はいろいろなデータが残る事でもあるのですが同時にデータが次々と新しくなっていくのでそのデータを如何に記録・保存をして後で検証出来るかという問題があります。よく知られているものとしては街角にあるような商店街にある防犯カメラがあります。防犯カメラはデータをある一定期間保存しますがその後はもう一度そのテープを利用してまた新しいデータを保存している。そうしますとものすごく昔のデータというのは実は残っていないわけです。そうするとよりデジタル化が進めば理屈から言えばどこかにその前のデータを保存する事が出来るのですが、そうすると実は大量のデータが世の中に溢れる事になりますのであまり現実的ではない。ただご案内のように今世の中に溢れている防犯カメラのお陰で実はかなり犯罪者が捕まったり、事件の解決の糸口になったりしています。その事を考えると検証の可能性というのをどう保障するかというような事も問題になります。

最後に何度か既に申し上げている事なのですが、実験環境の中で出来る事とそれを社会実装をする時の難しさがあります。先程のウーバーの自動走行車の問題のようにアメリカなどでは公道で自動走行車の実験がかなり出来るようになっていますが、日本では非常に限られた所でしか今まだ出来ていません。しかし技術が本当により完璧になるためには実際の生活環境の中での実験が必要になりますので、この公道実験の可能性というのが問題になります。それから一般的にはこういった問題か法律的あるいは制度的に解決したとしても新しい技術が出て来るとこういう問題があります。そもそも私達一般市民が今後どれだけこういった新しいテクノロジーを世の中で受け入れていくのかという社会的なコンセンサスの問題があります。

それから当然プライバシーなのですが、日本人は非常にプライバシー観念が高い発達した国民ですけれども先ほどのように私達のプライバシー空間というのがどんどん変わっていった中でそれをどこまで許せるのかという問題が出てきます。実はこれに関しては非常に技術が進めば進むほどなかなか一般市民には分かりにくい世界、分かりにくい領域というのが出てきますが、これに対しては例えばＥＵは説明する義務という事で普通の人が分かるような言葉できちんと説明しないといけないという義務規則を作ったりしていますが、それでもやはり開発者と一版市民の間にはかなりギャップがあるという問題があります。それと日本でよく言われているのは人材育成とかが足りないので将来この分野を敬遠する、人がいないのではないのかという問題もあります。

最後に先ほどからＡＩとかロボットは人間ではないし法人ではないと申し上げました。但し彼らが何らかの形で所有をしたり何らかの権利を持つ事がそれによって法律的にすっきりする場面というのはあります。実は企業は法人格という格を持っているので人間と同等に扱えるわけです。そういう意味では実はヨーロッパを中心にロボットに新しい人格、ロボット格みたいなものを与える事でロボットに実際損害賠償を負わせる事は出来ないのでロボットの所有者かロボットの開発者という事にはなるのですが、一応頭の整理としてロボット格を作った方がいいのではないかというような事も言われています。外国ではアメリカがこの分野をやはり牽引しておりましていろいろと決め事とかルールとかを出している。先ほど申し上げたＥＵが2017年１月にやっているＲｉｇｈｔ　ｔｏ　Ｅｘｐｌａｎａｔｉｏｎというのは説明する権利なのですが、説明する義務であって一般国民が説明される権利を持つという意味でありました。更にそもそも今日お話ししてきたような技術や問題はいろいろあるにせよどうなのですか　?社会問題の解決に意味がありそうなのかという話を最後にさせて頂きます。

そもそも今期待されている問題解決と言いますと大体こんな事かなとつまり日本の人口減少社会で人口がそもそも減っているから特にそれが少子高齢化という形で高齢者は増えて子供が少ない同時に他国と比較して著しく移民が少ない，となりますと非常に近い将来生産年齢人口が減少する事で日本の労働力不足，ですから生産性が低くなる事もそうですし、そもそも必要に応じた生産が出来ないのではないかと言われています。それから勿論一方で高齢者が増えるので特に介護人材が不足するというのはこういう人口関係、労働力関係の問題点というのが一つあります。

それからもう一つは所謂向都離村、田舎から都会に人が流入する、流失し流入するという社会的な移動ですね、その中で近年限界集落が増えたりとか、あと2014年には有名なレポートが出まして消滅可能性都市というのが日本のマスコミで非常に話題になり日本全国で問題意識を掻き立てたところです。

要は世界的にも2050年までに世界人口の半数近くの人が大都市に住んでいる事になるだろうと言われていますが大都市への極端な人口集中と地方の衰退というのが一つ問題だと言われています。両方併せましてやはり日本の経済発展が停滞するのではないか、そもそも成長しない人口ですし、それに生産力も追いつかないとすると経済停滞という事が問題だと。映像でイメージを見て頂きますと人口減少社会、少子高齢化、

					高齢者が増えていって若い人が減ってきて人口全体が減っていくという、ちょっとグレーな時代がわかります。一方で出生率どんどん減ってます移民も非常に少ない、諸外国に比べて外国人労働者も、今ちょっと増えていますが、めちゃくちゃ少ない。 これは有名な例の 2014 年消滅可能都市が発表された時の 2040 年には、現在の半数以上の自治体が消滅してしまう。つまりこれはお子さんを作ることの出来る適齢期の女性が現在より半減する自治体の数を数えたものです。つまり女性がいなくなれば再生産が出来なくなるのでその自治体は近い将来子供が生まれないので無くなってしまうという計算をしたものです。 いずれにしてもこれらの問題点というのは結構前から指摘はされて来た問題点でして、日本政府はずうっと手をこまねいて見ていたのかというと結構いろんな政策がありました。しかし良く見て見ますとどれもあまり成功していないというのが現状です。 先ず少子化対策、これはこんなにいっぱい政策をやっています。1989 年に 1.57 ショップつまり合計特殊出生率が 1. 57 になったので要はカップルが二人以上子供を作らないと人口は増えていきませんので、1.57 という事は女性が一生の間に平均して 1. 57 人しか産まないという事は人口がどんどん減っていくという将来が実は 80 年代には分かっていました。それから実にこの短い期間にこれだけたくさんいろいろな政策をやっている、大体でも政策をたくさん打っているという事は前の政策がうまくいかないので新しい政策を打つ、主に厚生労働省ですが、前の厚生省です。労働省は最近ですのであまり責任はありません。 二つ目の問題点の外国人労働者が少ないという点ですが実はこれもそれなりに対策を打ってきました。90 年になって入管法を改正して少し入りやすくしたり、日系ブラジル人労働者を積極的に迎え入れる事で非常に労働者不足に悩んでいる工場などに配置していこうという事がありましたが、実は 2007 年をピークに特に東日本大震災をきっかけに多くの方が帰国してしまってその後少し回復していますが、まだものすごく少ない状態です。 それから 2008 年からは介護人材という事でインドネシア、フィリピン及びベトナムから外国人看護師、介護福祉士の候補者受け入れという事を始めました。 主に本国で既に看護師資格を持っている方を中心に日本で 2 年間病院とか施設で勉強しながら国家試験の勉強をして頂きその間は日本政府が日本語学校も通わせその結果 2 年後に看護師もしくは介護福祉士の国家試験を受けて頂いてというはずだったのですが、実は合格率が非常に低くてこれは結構いろんなところで報道されているのでご承知の方も多いのではないかと思いますが。非常に合格率が低い、これは簡単な理由でして 2 年間で皆さん日常生活はぺらぺらなのですが、病名とかを漢字で記憶しないとこれは普通の若い日本の子でもなかなかむずかしいところで、来て 2 年位でどだい非常に無理な話がございまして残念ながら国家試験に合格しないと実は有資格者ではないのでそのまま介護施設で働いたとしても例えば給料が上がらないなどの問題があります。 それから非常に実は矛盾していたのですが、日本語が上手になるので本国に帰って日本企業の現地採用などで実は日本で介護分野で働くよりずうっと給料は高い、しかも自国に帰えれるという事で残念ながら国家試験に合格したけれども帰国してしまった方も多いので定着率は非常に低いのです。実はこの政策まだ政府は実行しておりますが介護人材の増加の決定打になるほどにはいっていないのが現状です。 それから少子高齢化については随分昔になるのですが、1986 年当時の通産省がシルバーコロンビア計画で第二の人生を豊かに海外で過ごす必要な計画が実はありました。いろいろやったのですがこれもあまりうまくいきません。日本人の高齢者の方が物価の安い海外でより日本よりも豊かな生活をというプロジェクトはそれなりに東南アジアとかいろいろな所でもありましたがそれほど定着していないのが現実であります。 つまりそういう意味ではやはり介護の問題や高齢化の問題を解決するようなものにはなっていないという事になります。 一方で大都市に集中し地方が疲弊するという問題については、これも実は国はいろんな事をこれまでやってきました。一つには首都機能移転というので結構 80 年代古くは 70 年代位から話題としてはあって東京から遷都しょう何処かに都を移そうあるいは全部の機能を東京に置いておくと首都直下型地震があっても怖いし、それで国会は何処か北に持っていって、裁判所はどこに持っていくという転都とか、分都とか、展都とかいろいろアイデアが出ましたが、残念ながらどれもアイデア倒れでした。 実は 1990 年代の前半には国会等の移転に関する決議、法律が相次いて出ているのですが、この後は逆に那須案とかいろいろ出てここに首都が移るのではないかというとそこの土地が高騰したりとか市場はやたらと反応したのですが一向に機能移転が進みませんで、一方で日本の場合には諸外国に比べても極端に例えばビジネスの本拠地というのもみんな東京に集中している、こういう現状があります。 一方で道州制というアイデアも出て参りました。これはどちらかと言いますと経済団体がかなり熱心に研究をして 90 年代それから 2000 年に入っても関西や特に福岡、九州などが熱心に研究はしているのですが進んでおりません。しかし皮肉な事に国では 2006 年にそれまで首都機能移転担当大臣というのがありましたが、そのポストが無くなりまして道州制担当大臣大に名前が変わっています。という事は恐らく日本政府としてはもう首都機能移転というのは頭の中になくてせいぜいやるとしても道州制だよという一つのメッセージかなと思いますが、いずれにしてもこれもたいして今迄有効な政策は打てていないというのが現状です。つまり首都への集中を妨げるあるいは少なくともそれを緩和するような事は成功していないというのが現状です。 一方で自治体は非常に一緒懸命ここ 10 年位やっているのが移住促進であるとか、Uターン、Ｉターン、J ターン、その事務の方が元に戻ってくるのをUターン、それから都会の人が地方に移住するのをＩターンあるいは自分の元出身地の近くまで戻って来るのを J ターンと言いますが、実際によっては非常に有効に

					機能している小さな自治体はあります。ただ全国的なムーブメントになるまでにはいっていないというのが現実ですし、これどちらかと言いますと本当に一人、二人とか何世帯という問題位なのでどちらかというと問題の解決というよりは、その人のライフスタイルの新しい一つの選択肢として田舎暮をしたいとか、自分の故郷に戻りたいという事に留まっているのが現状かなというふうに理解をしています。 　最後にもう一つ地方の疲弊の問題を解決する策として近年日本の自治体で行われて来ているのが、コンパクト・シティというものです。北海道に一番近いコンパクト・シティの例ですと青森ですが、青森市がコンパクト・シティを目指していろいろやってきたのですが、駄目な事に青森市の例はどちらかというと失敗例として知られています。これは富山の事例を出していますが、一般に問題はどこから始まったかといいますとみんな雪深い地域です。 　つまり冬になると雪降しが必要な地域なのです。雪降しは若い人が雪が降りだしてからがんがん降ろさないといけないので、そもそも少子高齢化でおじいさん、おばあさん特におばあさんだけの一人暮らしが増えてしまうと雪降しが出来ない。雪降しを放っておくと家が潰れますので何とかしないといけない、そもそもしかしお年寄りがいろんな所に散らばって住んでいるので、行政が助けて上げようにもそこまで行くのが大変で、そこまで行くために除雪をしなければならないという問題が認識されるようになった結果として出てきた一つの解決策、勿論コンパクト・シティは海外でも事例がありまして所謂分散してしまってスプロールしすぎた町をもう少し中心市街地を活性化しようという事からもくるのですが、日本の場合にはそれにプラス少子高齢化の問題特に高齢化問題がありました。富山の場合にはやはり戦後非常に郊外に拡散していた住居をその間に疲弊してしまった中心市街地に人々を呼び戻してお年寄りなどがトラムを使って30分圏内位で歩いたりトラムを使う事で病院や市役所やいろいろなセンターへ公民館や必要な行政機関に簡単に行けるような街を作ろうという事を企画したのですが、実は皆さんに引っ越しをしてもらわないと実現しないのでなかなか長年住み慣れた家をあけ放って中心市街地に移れと言われてもしり込みする人も多いですし、なかなかこれは進まない一人一人の方を説得するしかないというようなイメージ。青森に比べると実は富山の方が成功事例とは言われているのですがそれでもいろいろと問題はあります。 　国の方はじゃあ何をやったのかという事なのですが、国は1999年から2006年までの7年間に所謂平成の大合併というのを推し進めました。平成の大合併は自分の一個の自治体として自立して行く事は将来的に難しいだろうというふうに判断する自治体を合併させる事によって、ある程度経済力や人口がありかつ行政機関の大きさも少し大きくなるという事を目指して、実際には数はそれまで3300近くあった自治体が今は1720ですから半数近く45%減っているという事で数のうえからは非常に成功したように見えます。ところが問題は、北海道もかなり自治体が減りましたけれども逆にものすごい広大な自治体が出来てしまって実は市役所に行くまでが滅茶苦茶遠くなるとか、あまりにも大きくなったので地域内分権という事で昔のそれぞれの市役所や町役場や村役場を支所にする、だから結果的にはあまり合理化出来ないいろいろな問題を生んでいます。ですからこれも少子化とか高齢化それから地方の疲弊に対して何か有機的な解決策になったのかと言えばあまりなっていないのが現状であります。 　今の安倍政権になってからこの問題というのは政策的にも注目されてきました。一つがいろいろこれもどちらかというとスキャンダルとかまずい事のイメージが強くてそもそもあやしい政策ではないのかと思われているようですが、地方創生政策というのがあります。2014年に安倍政権が提唱致しましてローカル・アベノミクスというふうにも言われています。これは幾つか特徴があるのですが一つには特区構想です。特区を申請する事はこれはいろいろまずい特区がでちゃつてイメージがすごく悪くなったのですが、例えば先程の自動運転に関しては、自分達の自治体の活性化のために例えば公道での実験を許すとか、これ実際にお年寄りの多い地域でユーバーを使ったお年寄りの移送サービスなど所謂タクシーサービスを始めた所もありますし、こういった限られた地域で規制緩和を実施するというのも一つうたっています。 　これ実はとても可能性としては今日お話したような事が小さな段階ではありますけれども、小さな区域ではありますけれども、そこで普通の人の日常生活の中で実験出来る可能性はたくさん持っていたのですけれども、どこかの獣医学部とかそういうところばかりが有名になってしまったのでちょっと目立ってしまったというところです。 　それから実はこの中にはあと情報とか人材支援という事も結構注目されたものでありました。そういう意味で若干可能性があるのですが、これまで大きな成果や今後全国レベルで何か展開をするというところまでには至っていないのが現実であります。今後唯一若干可能性があるのはこの辺かなと思います。 　このように早くは70年代位からいろいろと問題に対してどちらかというと伝統的なやり方つまり政策であるとか、何かの推進戦略とかそういう形で政府がやって来たのがほぼ悉く失敗している中でＡＩとかロボットが何か出来るのかという事を考えてみますと、一つはやはりロボットは労働力の代替にはなります。いろいろな作業が自動化される事で人間がいなくてもあるいは今と同じ数の労働力がなくても同じレベルのサービスを提供する事が出来るという側面がある。ただこれは勿論可能性はあるのですか同時に限界もあります。 　例えば品質をきちんとチェックするという作業は例えば何かの製造ロボット自身では出来ないのでやはり人間がスーパーバイザーにならなければならない。例えば実際もう主婦ロボットというのはあるのです、料理を作るロボットかなりハイレベルな料理が作れます。但し例えば原材料が変わった時にちゃんと対応が出来ているかどうかとか、周りの外部環境にちゃんと合わせた変更をしているかどうか、人間がチェックしないといけない。そうしますと人間が大勢で例えば工場で何か食品を製造するという時の基本的な作業はロボットが代替するかもしれませんが、その品質チェックであるとかいろいろな条件のチェックはやはり人間がするので、人間の言ってみれば人間の役割はちょっと変わるかもしれないけれども、完全失業する訳では

					ない。むしろ足りない労働力の補完にはロボットは非常に有効です。 　リーガルサービスにおいてもロボット・ＡＩが活躍する時代が来ると言われていますし、もう現実になっています。一番評価されているのが人間よりも正確にいろいろなデータを記憶する事が出来ますので過去の判例とかいろいろなデータを入れてあげる事です。 　例えば特に契約書、契約書に齟齬かないかとか、必要な情報が抜けていないかどうかというのを人間が一々眼で読んで眼でチェックするよりも速くかつ正確にそれから人間は間違った情報を見つけたり自分のクライアントに不利な情報はこれだというのを見つけるのは出来るのですが、もともと必要であるだろうけれどもたまたまあるいは意図的に抜かされている情報を見つけ出すという人間の能力としては非常に難しい、ところがＡＩはこういう事が非常に得意です。つまり過去のデータベースをたくさん入れる事で標準的な契約にはどういう事が必要だという事を記憶しているのでこれとこれはありませんと出してくれる。そうすると人間は今までそういったチェックに弁護士さん自身が多大な時間を費やしているのをそれを費やさずにむしろＡＩがこれとこれはこういう問題がありますとたたき出した事をベースにより戦略の形成に集中する事が出来ると言われております。このＡＩは既にデータベースとしてあるいはそのソフトとして開発されていて諸外国では使われているそうですので、もしかするとそういう意味では契約担当、これ実は会社にもとても使われるソフトなのですか契約担当の法曹というのはずいぶん変わってくると言われております。 　実は今日お話した内容というのは新しい産業分野としての可能性を持っています。つまり日本は過去に例えば機械産業で非常に世界に名を馳せその後電子部品とかあるいは電化製品で世界的に覇権を取り自動車で頑張りその後半導体でというふうに来たわけなのですが、いずれも生産です。 　生産にはそれなりの労働力が必要だったりそれがかなり自動化されてもやはり人が必要だったのですが、ロボットやＡＩというのは必ずしも生産するだけではなくてその生産に必要な知識を生むというところが非常に重要な付加価値を持つわけです。そうしますとこれ実はロボット産業と言いますとなんだかロボットを作る事のイメージが非常に先行すると思うのですがそのロボットを作り上げていくまでのあるいはＡＩがＡＩとして機能するまでの教育をしたり、学習を手助けをするというのが実は非常に大きな産業分野になります。 　そうなるとこれ非常に知識集約型の所謂ナレッジ・インダストリーと言われるようなあるいは創造性が要求されるクリエイティブ・インダストリーとしての産業の可能性がある。そうしますと労働集約型よりももっと付加価値の高い産業分野なのでもしかする将来日本人がすごく少なくなってしまって人口が減少しても充分に戦っていける分野になるのかもしれません。 　そうなってくると早い時期に国際競争力をつけていく事が大事になるのですが残念ながらアメリカや中国に非常に水をあけられている状態なのでそのためには何が必要なのか最後に考えて終わりにしたいと思います。 　これは私も関係をしているのですが産業競争力懇談会(ＣＯＣＮ)で今検討していますというご報告になります。日本の産業競争力を高めるためにという事で主に民間企業が中心となりまして国の機関と共同して政策提言を取り纏めたりしている。そういう活動をしているものです。 　数年前からいろいろな分野で活動をしているのですが、今日のお話にも関係する二つのプロジエクトに私も参加しております。今までやってきているのは例えば日本経済団体連合会それから産業技術委員会の担当常務理事と連携して活動を推進したり、産業界出身の議員さんとの交流をしたりそれから関係する省庁にいろいろと圧力を掛けたりという事をやっています。 　今日のお話に関係するものとしては例えばＡＩとＡＩが自分達で合意をして工場のいろいろな生産を最適化していくというような時には実はルールが必要です。その人工知能と人工知能の間で交渉とか協調・連携が行われる事で社会をスマート化すると言われるのですが、ではどうやったらそれが出来るのかという事を技術的にこれはまあ理系の先生方も加わって社会的、法律的な問題という事で法律事務所に勤務している方や私のようなものが関わってこの数年間やってまいりました。 　問題は昨年政府に向けてあるいはマスコミに向けて提言している中で幾つかの問題点があります。一つはやはりこの分野は途中でも申しあげましたが最初に一気に開発をして自分達のモデルを皆に勧めないと更に進んでいかない、つまりいくらすごい電話を開発しても相手も電話を持ってそれでもしもしとお互いに通信をしないと電話という機能が発達しないと同じようにいくらいいプロトコルを作ったりいい技術を持っていてもほかの人もその技術を持ってその技術同士で会話が出来ないと、成立しないと次に進まない。という事はある程度の規模で短い期間に一気に進めていく事が必要というふうになります。そのためにはやはり国や行政機関がそういった基盤を整備する事も必要ですし、あるいはマスコミやメディアを通じて国民に広く知って頂く事で皆さんに使って貰わないと次に進んでいかないというこういうモデルです。 　フェイスブックやアマゾンやあるいはグーグルが非常に優れているのは、最初簡単なプラットフォームを多くの人に提供して、しかも無料で提供する事で皆がそれを使う、皆がそれを使う事でどんどんシステム自身も賢くなりいろんなサービスが使われるようになりそれを見込んで私的な企業が更にそこに投資をするというモデルを作った。それを日本もやらなければいけないという事になります。それでこれは分かりにくいのですがプラットフォームビジネスというのは、最初に囲い込んである一社が頑張ってワッと何かをやると皆がそこに参加するという形なので勝者総取りの力学とよく言われるのですが働いてしまいます。でこのフェイズにおいては独占禁止法を持ち出すと、そもそもプラットフォームビジネスは成り立たないという状況なので、やるのであるのなら頑張って早くやらないと駄目だよね。 　日本の政府のように今までどちらかというと石橋を叩いて渡らないという政策では、多分もう世界の負け

					犬になってしまうという事が分かっています。それから実はこの分野は冒頭に申し上げた事に対する回答になるのですが、一社一社の技術革新というのは勿論重要です。但し民間企業が一社で出来る技術革新とかそれの社会実装というのには限界がありますので、どうしても政府が支援する事で国民が広く使いやすくするとか問題が起った時の調整を誰かが引き受けるという事をしないと次にいかないという残念ながら問題点があります。そのためにも社会制度を整備したり交渉に必要な認証システム、私達が提案をしているのは例えばＡＩにも台帳のようなものを作って、今日本人も住基台帳から今度やっとマイナンバーというのが出来ましたが、いってみればＡＩのマイナンバーみたいなものを作って悪いＡＩはブラックリストに載せる、良いＡＩはこれは良いＡＩとして台帳に載せるという事をしない限り、やはり問題があるだろうと考えております。そういう意味では実はインターネットといっても社会インフラの一つになって私達のほとんどライフラインの一つになっていますが、それと同じようにこういったＡＩのインフラというのも社会基盤にならないといけないのではないかと考えています。 　国としてはですから標準化とか社会制度に関する国際的な協調、先程申し上げましたようにアメリカはどちらかと言うと自由放任型です。ですから政府としてはあまり介入しない、インターネット企業勝手にやってよという感じ、一方ＥＵは非常に規制をして守っていこう、つまり少々守っていこうという姿勢が非常に強い、その中で日本がどうするのかというのは両者を見ながら自分達の立ち位置というのを決めないといけない事が分かっていますし、一方では先の特区のような事を活用してどんどん実証実験をしないといけないというふうに考えられています。 　さて最後にそうすると今日お話ししましたロボットとかはある程度今日本の社会が抱えている労働力不足であるとか、地方の疲弊などに対してある程度解決策を提示はしてはいるのですけれども、一方で提示をされていない問題点というのもたくさんあるという事で、一つはやはり社会的な問題の解決だけではなくてもう少し積極的にこの分野が日本の新しい成長産業になるかどうかというのの分かれ目に今私達は丁度いるのではないかという事です。実は新産業として経済発展に寄与する事が出来ると非常に付加価値が高いので人口が減ってもそれなりの生産性を上げていく事が出来るのではないのかという、実はここがかなり期待をされている領域であります。同時にそのためには政府にもうちょっと頑張ってもらうという事と国際的な協調などでしっかりと役割を果たしていかないといけないと最後の方が若干今心配なところではありますが、中には非常に意識の高い国会議員の方やグループもあるので頑張って欲しいと思っているところであります。」
		7	21	第 60 回ゴルフ大会の開催	本年度第 2 回の大会は近郊の北広島市にある「札幌リージエントゴルフ倶楽部新コース」において会員 9 名参加のもと開催されました。 当日は生憎曇天でしたが後半からは天気も回復し絶好のゴルフ日和になり楽しい大会になりました。恒例により競技終了後は表彰式を兼ねて懇親会を行いました。 優勝は越岡智之氏（平成 12 年・法・司法書士越岡智之事務所　アウト：44　イン：48）が、準優勝は伊藤宏二氏（昭和 56 年・理工・ＺＥＫＫＯＩＮＣ．アウト：41 イン；44）また伊藤氏は ベストグロス賞・小波賞も併せて獲得しました。幹事長から優勝者並びに入賞者全員に賞品を授与しました。優勝の越岡氏から「参加 2 回目でパートナーに恵まれ優勝出来ました。」 尚、過去 60 回開催した大会で若手が並み居る先輩を差し置いてしかも 2 回目で優勝は初めての事で参加者全員が拍手で持って祝いました。 また初参加の木村誠吾氏（平成 6 年・商・三栄電機販売（株））からは「楽しい会で次回も是非参加したい」旨挨拶がありました。 続いて事務局より 8 月 7 日（火）支部総会、9 月 8 日（土）開催の小樽との交流ゴルフ大会への参加を呼びかけ、和気あいあいの内に散会しました。今回景品の寄贈者は下記の通りです。 ・工津輝雄氏（昭和 39 年・商・(株）エミック代表取締役） ・山口潔氏（昭和 37 年・法・(株）ヤマグチモータース会長） ・大峠栄治氏（昭和 58 年・法・ヤマサ醤油（株）札幌支店長） ・檜森支部長・柴田副支部長・西原幹事長、 ・田代信一氏（昭和 56 年・文・(株）京王プラザホテル札幌）
		8	7	平成 30 年度支部定時総会の開催	連日蒸し暑く厳しい暑さが続いている最中午後 6 時より京王プラザホテル札幌地下 1 階「プラザホール」において本学本部から橋本基弘常任理事、 学員会本部から山本卓副会長、中央大学父母連絡会平石知輝札幌支部長をご来賓に迎え檜森支部長以下 100 名の会員が集い開催されました。約 2 時間 30 分お互いの近況を語り合いながら母校の更なる 発展に向けて奮闘を誓い合いました。 司会進行は西原幹事長が行いました。議事に先立ち支部長から「本日は暑い中、お忙しい中、たくさんの皆さんにご出席を頂きまして有難うございます。私は特に難しい事は言いませんけれども 元気で、明るく、仲良く学員会活動をやっていこうという方針で就任してから頑張っているつもりでありますが、日頃皆さんにはゴルフ同好会も含めて大変ご協力を頂きまして有難うございます。 本日は中央大学から橋本基夫常任理事に、学員会からは山本卓副会長にご出席頂きました。また日頃支部活動で大変お世話になっております中央大学父母連絡会札幌支部長の平石知輝様にも お越し頂いております有難うございました。 また本日は学員会本部東北・北海道担当の小畑悟副会長がご出席の予定でしたが、生憎体調が悪く欠席となりました。尚、ご本人から秋田の新政酒造株式会社の銘酒「生?純米・佐藤卯兵衛」を 沢山お送り頂きましたので後程テーブルにお出ししますのでご賞味下さい。」と挨拶がありました。

					続いて下記の学員物故者に対する黙祷を行いました。 ・日浦　力氏（昭和 41 年・法）、佐藤　正義氏（昭和 42 年・法） ・水見　隆夫氏（昭和 45 年・理工）、福士　正夫氏（昭和 47 年・経済） ・二峰　伸勝氏（昭和 55 年・商） 続いて支部会則第 10 条 3 項に則り支部長を議長に第 1 部の総会に入りました。 第 1 号議案「平成 29 年度事業報告並びに収支決算報告について」 幹事長から別添の資料に基づき報告し、次いで会計監事の松浦　覚氏（昭和 48 年・商・マツウラ企画・代表）から監査報告があり諮った結果異議なく承認されました。 第 2 号議案「平成 30 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」 幹事長から資料に基づき説明し諮った結果異議なく承認されました。 続いて第 2 部の卓話「ウェイトトレーニングとウェイトリフティング（今話題の学生スポーツの原点とは）『「…No.1」から「Only1…」へ』に入りました。講師は稲岡脈雄氏（昭和 55 年・経済・北海道ウエィトリフティング協会会長）にお願いしました。講演の内容は次の通りです。 「ご紹介に頂きました昭和 55 年経済学部卒の稲岡脈雄（いなおかなみお）と申します。 先般の某大学アメフト部の危険タックルに端を発した大学運動部に対して、様々な切り口から議論が展開され、報道番組でも数多く取上げられました。僭越ながら、学生時代に運動部に在席した 一員として、そして競技者であった立場から改めて学生スポーツ（大学運動部＝体育会）を見てみたいと思います。 学生時代は目指せオリンピック！でウエィトリフティングに集中しましたが、あえなく玉砕しました。北海道電力を退社後、現在は北海道電力の子会社のほくでんサービスという会社に 勤務しながら、ライフワークとしてウェイトリフティング競技の競技力向上､普及の裏方として北海道協会の会長を仰せつかっております。 当協会は小さな団体ですので、役員登録料として、役員分担金を納めて、道や市からの補助金と併せて何とか運営しております。ですから会長の一番の仕事はお金を出すこと、でも、 口は出すなということです。 さて、皆さん、ウェイトトレーニングはご存知かと思います。すぐ浮かぶのがバーベルを使ってベンチプレスとかやるトレーニングです。 ウェイトリフティングは御存じですか？ そうです､オリンピックで三宅選手がメダルをとった競技です。三宅大先輩の話をするとこの卓話が物凄く長くなるのでやめます。ウェイトトレーニングは大きく三つ分けることができます。 一つ目はバーベルやマシンでボディービルダーのいわゆる筋肉を美しく整えるトレーニングです。今、老若男女問わず細マッチョブーム、アンチエイジングブームだそうです。 テレビでも素晴らしくシェイプアップされた映像の CM を良く見ますし、サプリメントに至っては様々な栄養素の様々な会社の TV ショッピングが TV 番組を賑わしています。 二つ目はパワーリフティングです。いわゆる力をつけるトレーニングです。 すぐ浮かぶのがベンチに仰向けになってバーベルを腕で押上げるベンチプレスやバーベルを背中に担いで屈伸するスクワット、床に置かれたバーベルを引き上げるデットリフトの ３種目合計重量で争う競技です。 先日、札幌大学のご依頼でトレーニングの講義をさせて頂きました、講義後、野球部の選手から、ウェイトトレーニングのベンチプレスをやって肩を痛めた、どうしたらよいかと 質問がありました。私は元来より野球の選手はベンチプレスによるトレーニングは少しでいいと思っています｡なぜならボールを投げる主人公の筋肉は胸の筋肉でないからです。 そこで、彼にはシーズンオフの冬期間に一緒にトレーニングしましょうと回答しました。 といった具合に、まだまだウェイトトレーニングに対する理解が十分でないような気がしております。ということで、トレーニングの話になると俄然仕事とは比較にならないモチベーションが 湧き出る今日この頃です。 バーベルやマシンのトレーニングは筋肉のパーツ主体に鍛えます。 そして三つ目は、ウェイトリフティング（重量挙げ）のトレーニングです。 重量挙げの競技は床に置かれたバーベルを頭上に挙げて支えるスポーツですので、一部の筋肉では物理的に挙がりません、全身の筋肉の総合力､「パワー」と「スピード」と「勇気」が 必要になります。 つまりすべてのスポーツの基本がこのトレーニングに整っています。よって、トップアスリートは重量挙げのトレーニングメニューを標準的に採用しています。 平昌オリンピックの TV ニュースを見ていると活躍したスケートの選手やジャンプの選手のトレーニング風景が映し出されていましたが、まさに重量挙げのトレーングメニューをやっていました。 本日はウェイトリフティング（重量挙げ）に無理やり学生スポーツ（大学運動部＝体育会）の原点を絡めて見たいと思います^^; 根性だとか気合とかいわゆる「スポコン」＝「運動部の体質」みたいな風潮があります。4 ページの中段以下をご覧ください、重量挙げの現役選手の一般的な練習量は 90 分で 延重量約 20 t の仕事をします。簡

					単に言うと 100kg を 90 分で 200 回差し挙げたり、引っ張り挙げたりする物量です。 　単純に１分に 100kg を２回以上です。このような練習を十分にこなしての大会での勝負となりますので、とても気合と根性だけでは物理的に無理です。データ、知見、識見に基づく合理的な トレーニング方策とモチベーション管理に基づく緻密なトレーニングメニューでの運動能力の強化が必要になります。 　運動能力といえば、例えば、スポーツ競技で綺麗なフォームはどうやって作られると思いますか？そうです繰返し、反復トレーニングです。しかし、もっと大事なものがあります。 それはそのフォームを支えるパワーです。筋力であったり強靭な体幹であったりです。綺麗なフォームはパワーです！なんか違和感たっぷりですね。 某大学のアメフト部の危険タックルの映像（腰にタックルをされた選手がタックルした選手が腰に乗ったまま、膝がグランドに突き刺さるように落ち、前方に転がりました） をご覧になったかと思いますが、皆さん一番に何をお考えになりましたか？ 　私は思わず膝を押さえました、プロテクターをしていたとはいえ、普通の人なら並々ならぬことになっていたのはと思いました。 やはり、鍛えた体というのは物凄い事で、何物にも代えがたいものだと改めて実感しました。そこで、ご参考まで、トレーニングが楽しくなるキーワードをこのページの上段に紹介させて頂きました。 「筋肉は形状記憶合金」「二の腕を細くするとスマートに見える」「ヒップトップを１センチ上げると足が 10 センチ長く見える」信じるも信じないもあなた次第です。 　ここまで、トレーニングの話、学生スポーツ（大学の運動部＝体育会）はスポコンだけでは持たないという話をさせて頂きました。５ページに体育会について私の経験を紹介させて頂きます。 大学の運動部いわゆる「体育会」は、１年は奴隷、２年は平民、３年は天皇、４年は神様になります。漏れなく４年で奴隷から頂点に上りつめます。なんと漏れなくですよ。 　だからこそ、競技人としての「フェアな精神」「謙虚な姿勢」そしてそれに対する「プライド」が求められると思うのです。いやこのように教育されるものだと思います。 　そして、学生スポーツ（大学の運動部＝体育会）は「経験の場」「訓練の場」そして「かけがえのない青春の４年間」だと思っています。 　某大学アメフト部の危険タックルの映像はいろいろな立場の方がそれぞれの視点から分析されておりますが、大学の運動部 OB の私が一番重要として見たところは、スポーツ競技もルールが 絶対ですので、このタックルはルール上どうであったのか、一般的な相場感から見ると即退場となるべきプレーであったと思います。 　この件をきっかけに改めて学生スポーツ（大学の運動部＝体育会）について様々な考えや印象をお持ちになった方も少くなかったと思います。 　とても人に偉そうなこと言える人間ではありませんが、体育会と某大学アメフト部員の名誉と今後の栄光を尊重し、学生スポーツ（大学の運動部＝体育会）の原点について私の経験をもとに、 ６ページ紹介させて頂きます。競技の勝敗は「０」「１００」です。 １００－１＝９９でではありません。１００－１＝「０」です。（この数式は尊敬する某自動車メーカーの元エンジニアの方の 品質のお話から引用させて頂きました） 　そして、挑戦し、失敗したときの－１は １００－１＝「１０１」（にしなければなりません）挑戦しなければ成功も失敗もありません、失敗が人間力をまた一回り大きくします。 　そして、いろいろな経験が人間力を向上し、魂を磨くことだと思います。 　最後に尊敬する先輩から頂いた言葉で、学生スポーツ原点を表せて頂きたいと思います。 「・・・No.１」（から）をめざし「Only１・・・」（へ）になること。 　本日は貴重な機会を頂戴しましたこと、誠に有難く心より御礼申し上げます。最後までお聞き頂きありがとうございました。」 　続いて第 3 部に入り柴田龍副支部長（昭和 56 年・理工・(株) 北洋銀行取締役副会長）が壇上に立ち「本日は総会という事で改めまして多くの皆さんにご参加いただきました事を先ずは お礼申し上げます。今日は約 100 名の方が参加という事でございますが、先ほど収支決算を見ておりますと 262 名の会員が会費を払っておりますけれども、262 分の 100 という参加率という事 ですけれども、実は会費ベースではそうなのですが、先程幹事長に聞いたところ札幌支部の会員は表面・グロス 750 名という数字だそうです。なかなか管理しきれていないようですけれども、 もしかしたらその中には先程亡くなられた方もいらっしゃるかもしれませんが。一応 750 名の方いらっしゃって歴史を刻んで来ているという事だと思います。 　それとここ数年顕著なのは札幌支部も非常に若返って来ているのではないかと思います。私もご挨拶させて頂くと風景がどんどん髪の色が黒くなってきているような風景を感じております。 正直言って非常に良い事だと思っております。若い方もどんどん入って来ておりますし、それから多様性じゃないですけれども、中大というのは印象としてちょっと偏見がありますけれども 公務員の方とか、弁護士先生とか、公認会計士の先生とか、どちらかというと硬い職業の方が多いなという印象が、これは札幌だけではなくて大学としてもあったのではないかと過去においては、 最近は非常に多様性に富んでいるというか、民間の血が入っているというか非常にそういう様な傾向があって、非常にこれも良い事かなと思っております。 　いろんな人が混じってこういう会が出来ているのかなあと思っておりますし、こうやって大きく言うと年 2 回お会い出来るチャンス、これも何かのご縁かなあと思っておりますので今日は限られた 時間ですけれども非常に有意義な交流を図って頂きたいと思っております。

					先程稲岡先生の講義有難うございました。私も大学にいた時は体育系では勿論ないのですけれども反体育系のテニス同好会に入っておりましたけれども、この同好会はやわなクラブでありまして 一応学校の公認で部屋も多摩にありまして非常に懐かしく思っております。 多分稲岡さんに言わせるとそんなのは体育系じゃないぞ、やわなクラブでしたけれども遊んでばかりいましたけれども。でも今思うと非常に先日も未だに卒業してもう 40 年近いですけれども クラブから案内が来ます。やはり同窓会があるのですね。 これは体育系でなくても文科系でもいいのですけれどもそういう集いで人間の付き合いが出来ているという事は非常に有難いなと思っております。そういう会も含めて今日もそういう事で 皆さんと交流を深めさせていただければと思っております。それで皆様方今日東京からお越し頂きましたご来賓の方も併せて白門、中央大学の発展のためそして皆様方のご健勝をご祈念申し上げて 高らかに乾杯をさせて頂きます。」 しばらく歓談の後、司会者より新規入会者の紹介に移りました。今回新たに会員となった学員は総 9 名で壇上に立ち自己紹介を兼ねご挨拶を頂きました。 ・石黒　栄治氏　（昭和 63 年・理工）ブルデンシャル生命保険（株）札幌第二支社 ・板倉　大氏　（平成 7 年・法）（株）ホテルオークラ札幌 ・佐伯　勇介氏　（平成 18 年・総政）アフラック札幌総合支社 ・冨塚　弘弥氏　（昭和 63 年・商）アサヒビール（株）北海道総括本部札幌支店 ・鳥井　啓介氏　（平成 23 年・法）弁護士法人赤渕・秋山法律事務所 ・永久保　宅哉氏（平成 19 年・法）杉村萬国特許法律事務所 ・古川　純也氏　（平成 28 年・理工）オリックス（株）札幌支店 ・松岡　秀憲氏　（平成 30 年・商）（株）帝国データバンク札幌支店 ・宮脇　啓介氏　（平成 13 年・経済）（株）ＮＩＰＰＯ北海道支店 続いて橋本基夫常任理事から「私はあまり札幌とは縁がなくて父母連絡会とかいろいろお邪魔する事はあるのすが滞在時間 17 時間という事がかつてございまして、今回ゆっくりと 札幌で過ごせるのかと思いましたら、台風が来まして明日東京で用務が出来まして急きょ今晩失礼する事になりました。札幌支部の大変な隆盛を見て心強く思うところがございました。 今日参ります時に札幌支部のホームベージを拝見して参りました。先程 750 名の会員がいらっしゃるという話を伺っておりましたが、中央大学は 1885 年に創立で 13 年後の 1898 年に札幌支部が 設立されたと書いておりました。従って 120 年の歴史があるという事ですね。 同じ大学を出たという事だけで一つのところにこうして縁が出来るという事は大変素敵な事だなあと改めて思った次第であります。最初の支部の創立総会には初代の学長菊池武夫先生が いらっしゃったという事が書いておりました。菊池武夫先生がここにお見えになりました。中央大学は 18 人の法律家が創った大学でございますけれども、その 18 人がともした松明というのが 今 53 万人まで広がっているという大変歴史のある大学である事を改めてここで感じました。53 万人の卒業生がいるというのは全国の大きな大学の中でも非常に数が多い力のある大学だという事を 改めて感じた次第でございます。ここで本学の近況を少しお話しさせて頂きます。 中央大学は過去何回か大きな歴史の区分があったと思います。1885 年に設立をされてこれが第一の創学というのでしょうか、第一の建学というふうにいってもいいと思います。 第二の建学は駿河台に校舎を構えた事。第三の建学は多摩にキャンパスを移転した時、今第四の建学の時期であろうかと思っております。 おそらくこれから秋にかけて中央大学は大きな動きがあると思います。キャンパスの問題、新学部の設立、スポーツも含めてでありますが、新たな動きがあるだろうと思います。 是非中央大学の秋以降の動きに注目をして頂ければ有難いなあと思っております。 スポーツ振興という点でもおそらく箱根駅伝を中心として中央大学のプレゼンスを明らかにするような事も起きてくるだろうと思います。また東京オリンピック 2020 年に向けて学員卒業生を含めて でありますけれども 20 名を送り込みたいという計画で今スポーツ振興を進めております。現段階でおそらく十数名までは東京オリンピックに送り込めるのではないかというところを計算している ところでございます。今後数名上乗せする事で是非この東京オリンピックに 20 名の学員を送り込むという計画も実現したいと思っているところでございます。 そして箱根駅伝、残念ながら全日本大学駅伝につきましては一人棄権者が出ましたので残念ながら本選出場は出来ませんでしたが、箱根駅伝につきましても今あたらしいコーチとか大変有力な 選手を迎えて何とか本選に出場する多分かなり可能性は高いと思っておりますのでこれも 10 月以降を是非注目して頂ければ大変有難いと思っております。 菊池武夫先生が第一回の創立の総会にここにお見えになってからもう既に 120 年が経っておりますけれども、その中で中央大学は元気に力のある大学である事を示したいと思っております。 繰り返しになりますけれども、これから秋にかけて新しい動きがあるだろうと思いますので是非先輩方のお力添えを賜りまして私も一教員として尽力を尽くして参りたいと思いますのでお力添えを 賜れましたらと思います。大変あわただしい中でご挨拶する大変非礼をお詫びしたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。」

					続いて学員会の山本卓副会長から「本日は本来であれば会長の久野がこの札幌支部まで訪ねて参る予定でありましたがどうしても日程があわないという事で山本若いんだけれども、札幌支部は 最近非常に若い学員の方々が多く集っているのでお前ちょっと行って一言挨拶してこいという事で本日札幌まで参った次第でございます。 先ほど橋本先生からもご挨拶ございました通り中央大学もいよいよと申しますか、ようやくと申しますか、満を持して国際化という事で学部もこれから世界に飛び立とうとしております。 今年の事業計画は世界に存在感のある大学を目指すという事だったと思いますけれども、この北海道はそれこそ 150 年前に北海道と命名されましてそれこそこの日本という国を世界に存在感のある国に 導いたのが実はこの札幌であるわけでございます。 先程橋本先生からのお話で 120 年前にこの札幌支部の設立総会に初代の菊池武夫先生が出ておられたという事ですけれども実はその来賓の一人に佐藤昌介さんという札幌農学校の校長先生も お見えだったと聞いております。この人は農学校の一期生である事は皆様方ご承知の事だと存じますがこの学校の二期生に新渡戸稲造先生と内村鑑三先生がおられました。 これはそれこそ日本の国を世界に知らしめた二人であってこの札幌の地で勉強された方々ですからこれから中央大学が世界に冠たる存在感のある大学として目指していくのであるのならやはり 北海道、札幌を真似て真摯の気性を学んで大学も学員会もそのようにこの札幌を学ぶ必要があろうかと思っております。私は学生の頃弁論部におりましていろいろ本を読んでおりました 新渡戸稲造先生の「武士道」読みましたし、内村鑑三先生の「代表的日本人」これも読みました。 その中に中江藤樹という人が出て来ます、この方がなかなか良い事を言っているのです。「谷の窪みにも、山間にもこの国には聖賢（理想的な人間像としての聖人と賢人）がいる。 ただこの立派な人というのは、なかなか自分を現さないからなかなか日の目を見ない、でもこういう人が一番大事なのだ。さらに言いますと世に出てくる人というのは、たいしたことはない。 私は東京の本部でいろいろ偉い人、名のある人と一緒にこの学員会活動について頑張ろうとやっておりますが、やはりこのような支部に来て初めて全国津々浦々に中央大学を愛している方々が 沢山いるという事を感じる訳であります。だから私は本当に支部総会に出席することが大好きで、今年も多分七か所～八か所目になりますけれども、今日は本当にこの札幌の地で中央大学を本当に 愛してそして応援しているそういう先輩方と一緒に楽しんで行きたいと思います。 新渡戸稲造が創った学校に遠友夜学校があります。これは論語の「友、遠方より来るまた楽しからずや」からきていると云われておりますが、実は友という字友人の友、遠友夜学校の友は友人の 友なのです。友人の友とは志を同じくする友という事なのですが、でも本当の論語の言葉は朋という意味で所謂先生を同じくする、師を同じくする、つまり中央大学を卒業した我々というのは、 友であってこの友が今日東京から遥々来たわけですから皆さん先輩方もまた楽しからずやという事で、楽しんで頂いてしっかり今晩楽しんでこの札幌の地の中央大学の愛校の思いをしっかりと感じて 今日帰っていきたいと思います。そういう事で支部が出来て 120 周年ですから、それもお祝い致しまして私のご挨拶にさせていただきます。本日はおめでとうございます。」 懇親会は終始和やかな雰囲気の中で進み会員同志名刺交換をし、杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や久しぶりの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。 会の最後は校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入り全員が輪になり、肩を組みあってそれぞれ 3 番までフルコーラスで熱唱し、会場は最高潮に盛り上がり出席者各位は過ぎし学生時代へ思いを 馳せている様子でした。 結びは長谷川雅英副支部長（昭和 58 年・札幌市貴養育委員会　教育長）が壇上に立ち「今日は本当に大勢の方が支部総会に駆けつけていただき本当に感謝しております。 「最近幹事長から参加人数が少ない」というお嘆きの声を聞いていたものですから本日はどうなるものか思っておりましたらこれほど沢山の方に来て頂き感謝する次第であります。 またご来賓の方々もいらっしゃって頂きまして本当に有難うございます。先程卓話で還暦のお話しがございましたが、私も私事ではございますけれども今月の末で還暦を迎えます。 この支部総会といいますかこの学員会に出席をさせて頂いて 30 年以上になるのだなあと思っております。 ただこういう若い方がたくさん来て頂けると本当に我々有難く思いますし、また私もこの会に参加させて頂いていろんな事をお勉強させてもらいましたし、いろんな方にお助け頂きました。 本当に感謝している次第でございますのでこの輪をもっともっと広げていければいいなあと思いますので、皆様方にもご支援・ご協力をお願いしたいと思っております。 今日は北海道らしく乾杯で締めたいと思いますけれども、以前にも私締めの時に一言へんな事を云って終った覚えがあります。それは私の趣味としております掛け言葉でございます。 それで以前にも同じ事を言ったと思いますので、聞いたなあと思う人は落ちは言わないようにして頂きたいと思うもいます。それでは日本の大学と掛けましてＡＫＢ４８の総選挙と掛けます、 その心はセンターが一番でしょう。お後がよろしいようで。ではここで乾杯をしたいと思います。中央大学のますますの発展とここにお集まりの皆様のご健康、ご活躍を祈念いたしまして 乾杯をいたします、ご唱和をお願い致します。」参加者一同声高らかに「乾杯」の掛け声で締め盛会の内和やかに終了し散会しました。 尚、札幌市役所白門会より懇親会へ飲み物の寄贈がありました。

		8	31	第 5 回中央大学員会全道支部交流会議の開催	毎年持ち回りで開催している本交流会議は、今年は札幌が当番で京王プラザホテル札幌 2 階「ラベンダールーム」において午後 4 時より当支部より 檜森支部長、柴田龍・渡辺明彦副支部長、西原幹事長、函館より平沼冠三支部長、小樽より関口正雄支部長、松田亙幹事長、旭川より八重樫和裕支部長、上村有史幹事長、帯広より後藤裕弘支部長、 石川政彦事務局長出席のもと開催しました。 檜森支部長から「お忙しいところお集まり頂きありがとうございます。本日の会議はここで何かを決めるというよりも支部の連携を図るために懇親する事も大事だという事で開かせて 頂きました。」と挨拶、続いて西原幹事長の司会で議事に入りました。 議案第 1 号「平成 29 年度支部活動報告について」 各支部から以下の通りそれぞれご報告を頂きました。 「帯広支部」 石川事務局長から ①現在本支部の会員は 77 名おります。昨年は支部総会を 6 月 30 日（金）に後藤支部長以下会員 19 名出席のもと開催。・平成 28 年度事業報告・収支決算報告に続いて 29 年度事業計画・収支予算（案）の承認。・大塚徹副支部長、讃岐武史幹事より活動報告。・新入会員 1 名の紹介。・出席学員の近況報告等が行われた。 ②第 4 回学員会全道支部交流会議へ石川が出席。 ③支部新年会を平成３０年 1 月 4 日（木）に後藤支部長以下 17 名出席のもと開催。 ④本部より助成の「支部活動支援費」を活用して昨年会報 2 号に続いて、今年 3 号をカラーA4 判で総会等の写真を中心に制作し学員に配布。 「旭川支部」 八重樫支部長から ①中央大学父母連絡会道北支部総会（6 月 17 日）へ参加（支部より 2 名出席） ②旭川在住の各大学卒業生との親睦・交流を図る第 29 回大学対抗親睦ゴルフ大会へ参加（支部より 4 名出席） ③第 4 回学員会全道支部交流会議へ参加（支部より八重樫支部長、上村幹事長出席） ④支部総会（12 月 18 日）の開催。（参加人員 21 名） ⑤会員は現在 200 名。支部年会費は徴収していない。 「函館支部」 平沼支部長より ①中央大学父母連絡会函館支部総会（7 月 15 日）へ参加。（平沼支部長出席） ②支部総会（8 月 22 日）の開催（参加人数 19 名） ③第 4 回学員会全道支部交流会議への参加。（平沼支部長出席） ④中央大学父母連絡会函館支部新年会（平成 30 年 2 月 19 日）へ参加。（平沼支部長出席） ⑤支部新年会（平成 30 年 2 月 19 日）の開催（参加人数 20 名）。 ⑥函館東都リーグ新年会（平成 30 年 2 月 24 日）へ参加（支部より 6 名出席） 「小樽支部」 関口支部長より ①第 12 回日大・中大・北大対抗ゴルフ大会（6 月 25 日（日））へ参加。（支部より 6 名出席） ②支部総会（9 月 15 日（金））の開催（参加人数 16 名） ③第 13 回日大・中大・北大対抗ゴルフ大会（6 月 25 日（日））への参加。（支部より 4 名出席） ④東都 21 の集い（11 月 4 日（土））へ参加。（支部より 8 名出席） 「札幌支部」 西原幹事長より別添の平成 29 年度事業活動について報告を行い終了 引き続き同会場において懇親会を行い当支部より新たに長谷川雅英副支部長が出席され、柴田副支部長の乾杯で始まり、会は終始和やかな雰囲気の中で行われ各支部との 情報交換・交流を深める事が出来ました。尚、次回は釧路市で開催する事で全員了承しました。

		12	1	2018 年度道内企業就職説明会の開催	本学主催で北海道の企業に就職を希望する本学の在校生（２年～３年生）の父母を対象に「道内企業就職説明会」を午後 2 時より 北海道経済センター8 階Ａホールにおいて開催しました。 実施に当たっては当支部と父母連絡会札幌支部が共催で行い父母連の道内各支部（道北支部、函館支部、道東支部）にも呼びかけた結果、地方支部から 22 名、当支部から 90 名、 在校生 3 名合わせて 115 名が出席されました。 尚、参加企業の選定は支部役員からの希望も含め道内に本社を有する企業 5 社（(株）ダイナックス、(株）ＨＢＡ、(株）北海道新聞社、(株）北洋銀行、(株）北海道銀行）に 札幌市、北海道、北海道警察、東京本社の（株）大塚商会と合計 9 社のご参加を頂きました。その他に道内企業 14 社の会社案内の資料を取り寄せ配布しました。 当日は各社の人事採用担当者から会社概要、求人情報、職種、福利厚生、給与体系、ここ数年の中大生の採用状況等についてプロジェクターを使い 15 分程度の説明を受け その後それぞれのブースにおいて担当者から個別相談にも応じて頂きました。短い時間でしたが所期の目的を達成し出席の父母各位もそれぞれ各社の現況をご理解されたようでした。
		12	11	支部年末懇親会の開催	師走に入っても市内は雪が少ない日が続いている最中恒例の年末懇親会が定刻より 15 分分遅れの午後 6 時 15 分より京王プラザホテル札幌 3 階「扇の間」において、 檜森聖一支部長以下 90 名の会員と、ご来賓に本学父母連絡会札幌支部長の平沢知輝氏をお迎えし開催されました。司会進行は昨年好評だった大野真奈さん（(有)ミュージック企画）にお願いしました。 開会に先立ち檜森支部長から「足下の悪い中、また年末のお忙しい中多くの会員の皆様にお集まり頂きました事に先ず感謝申し上げたいと思います。当支部も元気で、明るく、仲良くという非常に単純なスローガンを掲げていろんな交流を進めて参りました。 今年は 7 月には「学術講演会の開催」、5 月、7 月には「ゴルフ大会の開催」、8 月には「支部総会の開催」に続いて札幌で「第 5 回中大学員会全道支部交流会議の開催」などいろんな交流を進めて参りましたが、 お陰様で皆様の大変なご協力もありまして何とかどの行事も活発に人が集まったり、あるいは交流の輪が広がって来る事が出来ました。本当に有難うございました。 本日は日頃大変お世話になっております中央大学父母連絡会札幌支部長の平石様にもお越し頂いております。有難うございました。」と挨拶がありました。 続いて西原幹事長から本学の近況について「 ① 第 95 回箱根駅伝競走の予選会が去る 10 月 13（土）に行われ本学陸上競技部は出場大学 39 校中第 8 位となり本選に出場する事になった。 ② 平成 30 年度の司法試験最終合格者数が 9 月 11 日に法務省から発表され法科大学院別合格者数で本学は 101 名で全国第 5 位となった。 ③ 2019 年 4 月に 1993 年の総合政策部の設置以来 26 年振りに「国際経営学部」、「国際情報学部」を開設する事になり「国際経営学部」は多摩キャンパスに「国際情報学部」は市ヶ谷田町キヤンパスに決まった。 ④ 2015 年に策定の中長期事業計画「?ｈｕｏ Ｖｉｓｉｏｎ 2025」の事業資金的な面から支える事を目的とした「白門飛躍募金」への当支部の 11 月末現在の寄付の総額は 130 万円となっております。 つきましては本事業を実現するために一口 5.000 円以上の寄付のご協力をお願いしたい。」旨報告し、次いでご来賓の平石父母連絡会札幌支部長からは日頃の父母連絡会に対する協力のお礼と、 去る 12 月 1 日（土）に行われた「中央大学道内就職企業説明会」開催に対するお礼の挨拶がありました。 続いて司会者より新規入会者のご紹介に移りました。今回新たに会員となった学員は総勢 6 名で壇上に立ち自己紹介を兼ねご挨拶を頂きました。 ・池田大地（平成 25 年・法）(株）北海道新聞社千歳支局 ・小林優一郎（平成 30 年・法）(株）みずほ証券札幌支店 ・斎藤文弘（平成 16 年・経済）衆議院議員池田真紀事務所 ・下道康平（平成 13 年・経済）北海道総務部人事局人事課 ・三上尋恵（平成 19 年・法）北海道経済部食関連産業室 ・山田圭佑（平成 20 年・法）北海道総合政策部総務課 続いて卓話「今年を振り返って・バイオマス発電所について」に入りました。講師は深瀬聡氏（昭和 58 年・商・(株）北洋銀行取締役）にお願いしました。講演内容は以下の通りです。 「ご紹介いただきました北洋銀行の深瀬でございます。よろしくお願いいたします。 簡単に、自己紹介させていただきますと、昭和５８年商学部卒です。 在学中の４年間は、フルに多摩キャンパスで学びました。 在学時代の想い出の一つとして印象に残っていますのは、学食棟の４階のレストランのチキンカツ定食が３００円代くらいの料金で、多分在学中に数百食は食べたのでは ないかなと思います。 住んでおりましたのは、当時地方出身者の多摩キャンパス通学生にありがちなパターンだったと思いますが、府中に２年と、調布に２年住んでおりました。４０年近くも前ですので、 今の府中や調布の町並みは相当変わっていると思います。 調布に住んでいた時の最寄り駅は京王線の西調布だったのですが、何かの理由で徹夜明けで渋谷でビル清掃のバイトをして、バイトを終えて調布まで快速で帰ってきて、各駅停車に乗換えて１駅なのですが、 この１駅で眠ってしまって乗越したことがありました。 バイトをしていた渋谷では、牛丼チェーンと、スタンド式のカレー屋さん、アルミの皿に盛りつけられる

カレー屋さんですが、これをほぼ交互に食べていた記憶がございます。

余談が長くなりましたが、本日、私のようなものが卓話を仰せつかることになったのかと申しますと、事務局の西原さんから「今年を振返って何か話してください」とご依頼されたことによるのですが、 おそらく西原さんからは、札幌支部の副支部長をしている、北洋銀行副会長の柴田に当初お話があったのではないかと思われるのですが、柴田は公職を沢山持っていて、本日の年末懇親会にも出席が難しかったので、 私にパスしたということではないかと思います。殆ど勤務先の業務命令でお引受けしたような次第です。

勤務先では、時折、お客さまの親睦会組織の宴席にお招きいただき、ご挨拶申しあげることがありますが、今年を振返ってとなりますと、金融マーケット～株式市場ですとか、 為替とか金利について触れさせていただき、景況感にも少し言及するということが多いのですが、今年は２月以降マーケットが軟調に推移しておりまして、話題に事欠かない面もありますが、今年に関しましては、 振返りさせていただきますと、やはり北海道胆振東部地震に触れないわけにはいかないと思います。

被災された方々に謹んでお見舞い申しあげます。

胆振東部地震では、地震の規模や、土砂崩れ、液状化現象といった被害も、もちろん衝撃的でしたが、この広い北海道全域が停電になってしまったブラックアウトの衝撃ですね、こういうこともあるんだと、 あらためて思いしらされた次第です。

２０１１年の東日本大震災後に原発が稼動停止となり、職場でも自宅でも節電に取組んだ際は、それまで当たり前のように使っていた電力が決して使い放題ではないということを認識しましたけれども、 今回のブラックアウトはそれとはまた別の意味で、電気・電力についてきちんと認識しろよと突詰められた気がいたしました。

決して、電力会社さんとか電力を所管されるお役所の批判をするわけではなく、あまりにも自分が電気・電力について認識がなかったなと思った次第です。

そして、電気・電力に思いを馳せる際に、偶然にもひとつの学習体験が印象付けることになりました。実は、胆振東部地震のちょうど一週間前に、道東オホーツクの紋別市に出張しておりまして、 そこで紋別バイオマス発電所を見学させていただく機会がありました。

バイオマス発電と申しますと、主に森林資源を使った発電方法や、生物由来のものを発酵させてメタンガスを抽出する方法等があるそうですが、紋別バイオマス発電所は森林資源を使ったものです。 こののち動画でご覧いただきますが、紋別バイオマス発電所は、山林事業により発生します未利用材等の森林資源を木質チップにして燃やすことで発電しているのですが、木は生長過程で CO2 を吸収することから、 木を燃やしてエネルギーを得るときに発生する CO２とは、カーボンニュートラルの関係にあり、伐採後は植林が行われることから、大気中の二酸化炭素の濃度上昇を抑制していると言えます。

また、紋別バイオマス発電所は、住友林業と住友共同電力の共同出資による発電事業で、発電所の収益の一部は親会社への配当を通じ、山林事業に再利用されるということで、 発電所事業と山林事業の両面で地域振興に貢献するという側面もあります。発電所事業、林業ともに雇用を生みますので、雇用の面からも地域貢献するという、社会貢献度の高い、 いいとこ尽くめの発電所だと思います。

ちなみに、紋別バイオマス発電所は国産木質チップを使った発電所としては最大規模のものです。発電出力は５万キロワットで、おおよそ一般家庭１０万世帯を賄う電力量に相当するそうで、 全量を北海道電力に供給しています。

本日ご臨席のみなさまの中には、紋別バイオマス発電所についてなら良く知っているよという方もいらっしゃるかもしれませんが、そうではない方にはぜひ知って頂きたいと考えた次第です。

ただし、私の拙い説明では、みなさまにお伝えできないのではと考え、紋別バイオマス発電所の社長さんにお願いして、みなさまに見ていただける動画を特別に作っていただきました。

それでは、ここからは動画をご覧いただきたいと思います。

・・・・・・・・・・(動画上映)・・・・・・・・・・

ありがとうございます。

実は、毎日昼過ぎに、日経新聞の Web サイトでニュースをチェックしているのですが、本日の正午前にバイオマス発電について次のようなニュースが配信されていました。 国内のバイオマス発電で、政府の固定価格買取制度の認定を受けた案件の８割以上が稼動していないそうです。理由は、人手不足もあって国内の森林資源を活かしきれず、燃料の輸入頼みに拍車がかかっていて、 燃料確保の目処が立たず、大幅に遅れているのだそうです。

政府の２０３０年度の電源計画では、バイオマス発電は全体の４％程度を占めており、７％の太陽光より低いものの、１．７％の風力を上回っており、安定的なエネルギー源として期待されているものの、 足もとは認定の２割未満しか稼動していないのだそうです。認定容量が７４０万キロワットのうち、稼動したのが１３０万キロワットということだそうです。この件は、明日の日経新聞の紙面に載るのではと思います。

以上のことからも、紋別バイオマス発電所は、エリア内の森林資源を、親会社の山林事業を通じてうまく循環させている優良事例だと思います。　私事になりますが、高校時代を苫小牧市で過ごしまして、製紙工場の高い煙突の見える風景が原風景のように残っています。紋別バイオマス発電所は丁度２年前の２０１６年１２月から営業運転を開始しております。 青い海の脇に建てられた白い建物と、高い煙突と、煙突から出る白い煙、青い空と白い雲、こういった風景が紋別市を象徴する風景のひとつとなり、 市民の方々が敬意と親しみを寄せるような風景になるのではと思っています。ちなみに、動画の中でも説明がありましたが、 紋別バイオマス発電所では発電までのプロセスで発生する有害な物質は徹底的に処理されており、高

					い煙突から吐出される煙は、 外気温との差で寒い時期ほど白くもくもくと吐出されるように見えますが、水蒸気であり、無害です。 　以上でございます。私の拙い説明をご清聴いただきましたみなさまと、私の拙い説明を補っていただく動画をご提供いただきました紋別バイオマス発電所さまに、お礼申しあげます。ありがとうございます。」 　続いて渡辺明彦副支部長（昭和 58 年・法・北海道環境生活部長）の乾杯の音頭で第 2 部の懇親会に入りました。 　会は終始和やかな雰囲気の中で進み会員同士名刺交換を行ったり、日頃ご無沙汰している先輩への挨拶回り、 杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿がテーブルのあちこちで見受けられました。 　本会の目的は会員同士がより一層親睦を深めるのが目的であり、アルコールが入ったところで恒例のビンゴゲームに入りました。 　最初はなかなかビンゴが出ませんでしたが時間が経つにつれて次々とビンゴが出、 最初の表ビンゴ、最後の裏ビンゴで会場は一気に盛り上がりました。 　ゲームの景品は参加者全員に当たるよう支部で用意した景品のほか、会員からのご寄贈もありました。最初の表ビンゴは下道康平氏（平成 13 年・経済・経済・北海道総務部人事局人事課）、最後の裏ビンゴは後呂道徳氏（昭和 46 年・法・石狩市選挙管理委員会）の両氏が獲得しました。 因みに賞品は 5,000 円相当の京王プラザホテル札幌の食事券でした。 　懇親会の最後は恒例となっている校歌・応援歌・惜別の歌の合唱に入りました。檜森支部長、舟橋副支部長、新規入会者の 6 名が壇上で、その他学員はその場に立ち 3 番までフルコーラスで熱唱しました。 　最後の惜別の歌に至っては全員が輪になり肩を組むなど誰もが過ぎ去りし青春時代への思いに浸っているようでした。 　結びは舟橋副支部長が壇上に立ち参加者全員の「よーい」の掛け声により一本締めで盛会の内和やかに終了し散会しました。 尚、飲み物・ビンゴゲームの景品の寄贈者は下記の通りです。 （飲み物） ・札幌市役所白門会 ・富塚弘弥（昭和 63 年・商・アサヒビール（株）北海道統括本部札幌支店 （景品） ・大峠栄治氏（昭和 58 年・法・ヤマサ醤油（株）営業本部札幌支店 ・工津輝雄氏（昭和 39 年・商・（株）エミック） ・紫藤正行氏（昭和 49 年・商・（株）大黒自工（株）） ・柴田龍副支部長 ・田代信一氏（昭和 56 年・文・京王プラザホテル札幌） ・檜森聖一支部長
2019 年	31	1	29	札幌市役所白門会新年会への参加	厳冬の最中、平成 31 年度札幌市役所白門会（会長：長谷川雅英＝札幌市教育委員会教育長、会員 70 名）の新年会がＯＢと現役職員合わせて 17 名の出席のもと、ホテルオークラ札幌地下 2 階「トライベカ」において開催され当支部から舟橋副支部長、西原幹事長が出席しました。 　会の進行は星田幹事長が行い、長谷川会長の挨拶に続き、舟橋副支部長の乾杯の音頭で懇親会に入りました、暫くして当支部の西原幹事長から「白門飛躍募金」への協力のお願い、また本年 4 月に採用された山本明香梨さん（平成 29 年・商・財政局西部市税事務所固定資産税課家屋二係）の挨拶に続いて、本年度の係長職試験に合格された皆上透氏（平成 19 年・法・総務局広報部広報課広報調整係）の挨拶がありました。会は終始和やかな雰囲気の中で進み会員同士が杯を交わしながら笑顔で語り合う姿や、久し振りの再会を喜ぶ姿があちこちで見受けられました。 　最後は全員で輪になり肩を組んで校歌・応援歌・惜別の歌を３番まで唄いあげ、結びは水野雅人氏（昭和 63 年・法・厚別区保健福祉部介護障がい担当課長）の乾杯の音頭で盛会のうち終了し散会しました。その後恒例となっている二次会では、一次会での盛り上がりがそのまま盛況の内に終了しました。 平成最終